

授業計画

平成 27 年度

Syllabus 2015

健康科学部 健康システム学科

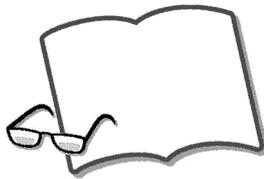
健康科学部

健康システム学科

兵庫大学の教育

兵庫大学の教育は、聖徳太子の「十七条憲法」に示された「和」の精神に基づいています。「和」の精神が含む「感謝・寛容・互譲」の心を持つとともに、自ら学び、自ら考える力を身につけ、共生社会の形成に主体的に貢献できる人間を育てます。

兵庫大学の3つの方針（ポリシー）について



アドミッションポリシー (AP)

入学者受け入れ方針

兵庫大学では、ディプロマポリシーで示された「3つの力」を理解する、次のような学生を受け入れます。

1. 自ら学ぼうとする意欲のある人
2. 自己を見つめ、自己をふり返る努力ができる人
3. 多様な考えを受け入れ理解しようとする人

カリキュラムポリシー (CP)

教育課程編成方針

兵庫大学では、学生が、ディプロマポリシーで示された「3つの力」を身につけることができるよう、次の方針に沿ってカリキュラムを編成します。

1. 大学において学ぶために基本的学習技術を習得し、自ら考える態度を身につける
2. 幅広い学問分野の知識や技術を習得し、多面的なものの見方を身につける
3. 実践的専門家になるために必要な専門的知識や技術を習得し、運用することができる力を身につける
4. 社会生活・職業生活についての理解を深め、卒業後も自律的に学習を継続することができる力を身につける
5. 社会や地域社会について体験的に学び、その一員として知識や能力を運用し行動する力を身につける

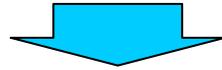
ディプロマポリシー (DP)

学位授与方針

兵庫大学では、学習者が「学士」の学位を取得するために、卒業までに次の能力を備えていることを求めます。

1. 自己を認識し、物事に進んで取り組む力
2. まわりに働きかけ、共に行動する力
3. 学んだ知識や身につけた技術を運用し、生涯にわたって活用できる力

兵庫大 建学の精神・教育理念

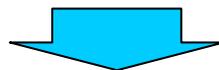


兵庫大

アドミッション
ポリシー
(AP)

カリキュラム
ポリシー
(CP)

ディプロマ
ポリシー
(DP)

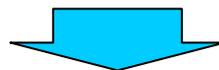


健康科学部

アドミッション
ポリシー
(AP)

カリキュラム
ポリシー
(CP)

ディプロマ
ポリシー
(DP)



健康システム学科

アドミッション
ポリシー
(AP)

カリキュラム
ポリシー
(CP)

ディプロマ
ポリシー
(DP)

みなさんは、

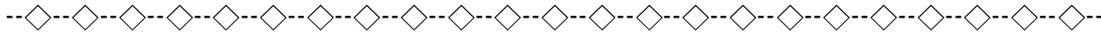
AP に基づいて入学し、

CP に沿って学び

DP に定められた能力を身につけて卒業します。

健康科学部ポリシー

アドミッション ポリシー	カリキュラム ポリシー	ディプロマ ポリシー
<p>・健康科学部のディプロマポリシーを理解し、学ぶ意欲や学問に対する熱意をもち、自らを省みて努力を惜しまず、向上心を忘れない、柔軟な姿勢をもつ学生を受け入れます。</p>	<p>・健康科学部では、専門知識と技術の習得に向けて、基礎となる知識と社会人としての基礎学力を培います。また、学科の専門性に基づいて、健康課題を科学的に解明していく力を養うと共に、実践力を身につけることを目指して、カリキュラムを編成します。</p>	<p>・健康科学部では、生涯を通じて健康の維持と増進に関わる高い専門性を備え、健康で活力に満ちた地域社会の実現に貢献しようとする志をもつ人に、学士の学位を授与します。</p>



3つの方針（ポリシー）について



・本学に入学して学ぶために必要な能力や意欲についての考え方を示しています。



・本学で学ぶ内容や科目を、教育目標に合わせて組み立てるための方針を示しています。



・本学において必要な単位を履修し、学位を取得するために卒業するまでに身につけることが必要な能力を示しています。

健康システム学科ポリシー

健康システム学科は、学部ポリシーに基づき、学生の心と体の健康な発達を支援するとともに、学生が健康を科学的に捉えるための基礎的学力と、健康づくりに関する実践的指導力を身につけ、社会に貢献できる人となることを目指します。

アドミッション ポリシー

- 健康科学部のアドミッションポリシーに基づき、次のような学生を受け入れます。
 - 健康の保持増進に関心を持ち、健康な生活を科学的に探究しようとする強い熱意のある人
 - 健康づくりの実践者として、あらゆる人々の健康と生活の質の向上に貢献しようとする人
 - 自主的に勉学に取り組む強い意志や学業に対する強い意欲のある人

カリキュラム ポリシー

- 健康システム学科のディプロマポリシーに示された3つの力を身につけるために、次の方針に沿ってカリキュラムを編成します。
 - 高校までの教育から大学での教育に円滑に移行できるよう、大学教育における学習の方法を身につける
 - 幅広い学問分野の基礎的知識を習得し、運動やスポーツ、養護や保健に関する高度の知識やすぐれた技術を身につける
 - 健康に関する課題の発見や情報収集の力を付け、科学的な根拠に基づく実践力と応用力を身につける
 - 健康教育の指導者として、課題解決力や情報発信力を養うとともに、総合的に判断する力を身につける
 - 学内外における体験的学習を通して実践力を養うとともに、社会とのかかわりの中で学習を継続していく力を身につける

ディプロマ ポリシー

- 健康科学部のポリシーに基づき、卒業までに、次の力を身につけた人に学士(健康科学)の学位を授与します。
 - 社会における健康課題を的確にとらえ、健康な社会の推進に取り組む力
 - 運動やスポーツ、あるいは養護や保健の専門家として、生涯にわたって、その知識と技術を研鑽し、健康科学の発展に貢献できる力
 - 幼児から高齢者まで、発達段階に応じた健康のあり方に関心を持ち、自らの社会的役割を自覚してリーダー性を磨くとともに、協働して人々の健康増進に役立てる力

「カリキュラムマップ」には

「ディプロマポリシーに基づいて身につけるべき能力」を具体化したものが上部に記載されています。

各科目において、「特に重要」及び「重要」と思われる能力には「◎」や「○」が記載されます。

健康システム学科カリキュラムマップ【基礎・教養科目】(平成27、26、25、24年度入学者)

		ディプロマポリシー達成のため:特に重要=◎ 重要=○						
		兵庫大学ディプロマポリシー						
		1) 自己を認識し、物事に進んで取り組む力 2) まわりに働きかけ、共に行動する力 3) 学んだ知識や身につけた技術を運用し、生涯にわたって活用できる力						
授業科目の区分	授業科目名	A	B	C	D	E	F	G
		コミュニケーション力	情報リテラシー(情報処理能力、情報収集・発信力)	多様なものの見方、考え方ができる力	自己を認識し、他者を理解する力	社会・文化について理解する力	自然・健康について理解する力	論理的思考力
基礎科目	日本語(読解と表現)	◎				○		○
	英語	◎		○		○		
	コンピュータ演習	○	◎					○
	化学基礎			○			◎	○
	生物基礎			○			◎	○
教養科目	宗教と人生			○	◎	○		
	生命倫理学			○			◎	
	哲学			◎	○			○
	文学			◎	○	○		
	芸術			◎		○		
	心理学			◎	○			○
	仏教と現代社会			◎	○	○		
	国際理解と宗教Ⅰ(キリスト教)			◎	○	○		
	国際理解と宗教Ⅱ(イスラム教)			◎	○	○		
	色彩とデザイン		○	○		◎		○
	法と社会			○		◎		○
	日本国憲法			○		◎		○
	人権の歴史			○	◎	○		
	政治学			◎		○		○
	社会学			○		◎		○
	経済学			◎		○		○
	科目	化学			○			◎
生物学				○			◎	
食と健康		○				○	◎	
実用英語(初級)		◎				○		
実用英語(中級)		◎				○		
中国語(初級)		◎				○		
中国語(中級)		◎				○		
韓国語(初級)		◎				○		
韓国語(中級)		◎				○		
健康・スポーツ科学Ⅰ(講義)				○			◎	○
目	健康・スポーツ科学Ⅱ(演習)	○			○		◎	
	健康・スポーツ科学Ⅲ(演習)	○			○		◎	
	私のためのキャリア設計	○		○	◎			○

健康システム学科カリキュラムマップ(平成27年度入学者)

【健康科学部ディプロマポリシー】 生涯を通じて健康の維持と増進に関わる高い専門性を備え、健康で活力に満ちた地域社会の実現に貢献しようとする志をもつ人に、学士の学位を授与します。

		ディプロマポリシー達成のため:特に重要=◎ 重要=○												
		健康システム学科ディプロマポリシー												
授業科目区分	授業科目名	1			2					3				
		社会における健康課題を的確にとらえ、健康な社会の推進に取り組む力												
		1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	3-4	
		社会・文化・自然・健康を理解する(知識・理解)	科学的根拠となるデータ・情報を収集する(情報収集力)	問題解決に向けて効果的な情報提供ができる(情報発信力)	健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する(専門的技術力)	複合的に絡み合う問題に気づく(知識の統合)	構築された理論に基づき判断し、行動する(総合的判断力・実践力)	自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う(応用力)	新しい情報の把握と状況の変化に敏感に反応し、学び続ける態度(生涯学習力)	人間を理解し、適切な指導ができる(専門的知識)	効果的な意思疎通ができる(コミュニケーション力)	人とつながり、責任をもって仕事を成し遂げる(リーダーシップ)	課題解決のためのプログラムを構築する(統合的技術力)	
専門基礎科目群	基礎ゼミⅠ	◎	○		○						○	○		
	基礎ゼミⅡ	○	○	◎					○					
	健康科学序論	◎	○		○	○	○							
	健康科学	◎	○		○	○	○							
	健康統計の基礎		◎		○						○			
	解剖学	◎	○	○	○	○								
	生理学	◎	○	○	○	○								
	微生物学	◎		○						○				○
	生化学	◎	○			○				○				
	栄養学			○		◎				○				
	食品学	◎			○									
	栄養指導論	○	○		◎					○				
	衛生学	◎								○				
	公衆衛生学	◎			○	○					○			
	医学概論	◎				○				○	○			
	生活習慣病(成人病)	◎	○			○				○				
	健康心理学	◎	○		○		○							
	臨床心理学						○	○			◎	○		○
	教育特論Ⅰ	○						◎		○		○		
	教育特論Ⅱ	○					○			○		◎	○	
	教育特論Ⅲ			○			○	◎				○	○	
	地域活動演習Ⅰ							◎	○		○	○	○	
	地域活動演習Ⅱ							◎	○		○	○	○	
	I群(運動・体育に関連する科目)	体育原理		◎		○	○		○					
運動の基礎		◎	○		○	○			○					
運動生理学					◎	○	○	○	○					
運動生理学演習			○		○		◎	○	○					
運動栄養学					◎	○	○	○	○					
幼児運動実践演習		○	◎		○	○								
ジュニアスポーツⅠ		○		◎	○	○							○	
ジュニアスポーツⅡ		○					◎		○				○	○
スポーツ指導法				○			○	◎						○
スポーツ医学概論				○			◎	○	○					
スポーツ心理学			○		◎	○					○	○		
障害者スポーツ論					◎		○				○		○	
スポーツ史(体育史を含む)			○		○	◎			○					
スポーツ科学Ⅰ					◎	○	○		○					○
スポーツ科学Ⅱ					◎	○	○		○					○
トレーニング科学Ⅰ					○	○	○		○					◎
トレーニング科学Ⅱ					○	○	○		○					◎
体力測定と評価			◎	○		○	○							
スポーツ実践演習Ⅰ		○	◎		○	○						○		
スポーツ実践演習Ⅱ		○		◎	○	○					○			
健康・体力づくり実践演習Ⅰ		○		◎	○	○					○			
健康・体力づくり実践演習Ⅱ			○	◎		○	○					○	○	
陸上競技Ⅰ		○	◎		○	○			○		○			
球技Ⅰ		○	◎		○	○			○		○			
陸上競技Ⅱ			○	◎		○			○		○			
球技Ⅱ			○	◎		○			○		○			
武道Ⅰ		○	◎		○	○			○		○			
器械運動Ⅰ		○	◎		○	○			○		○			
武道Ⅱ			○	◎		○			○		○			
ダンス/水泳Ⅰ		○	◎		○	○			○		○			
器械運動Ⅱ			○	◎		○			○		○			
ダンス/水泳Ⅱ			○	◎		○			○		○			
体育実技指導法Ⅰ		○				○	○	○				○	◎	
体育実技指導法Ⅱ			○			○	○	○				○	◎	
健康・体力づくり指導法Ⅰ						○	○	○			○		◎	
健康・体力づくり指導法Ⅱ						○	○	○				○	◎	
運動処方論					○	◎	○	○					○	
運動処方演習		◎	○			○		○						
運動負荷試験実習					◎	○	○	○		○				
レクリエーション(野外活動を含む)						○		◎		○	○	○		

		ディプロマポリシー達成のため:特に重要=◎ 重要=○											
		健康システム学科ディプロマポリシー											
		1			2					3			
授業科目区分	授業科目名	社会における健康課題を的確にとらえ、健康な社会の推進に取り組む力			運動やスポーツ、あるいは養護や保健の専門家として、生涯にわたって、その知識と技術を研鑽し、健康科学の発展に貢献できる力					幼児から高齢者まで、発達段階に応じた健康のあり方に関心を持ち、自らの社会的役割を自覚してリーダー性を磨くとともに、協働して人々の健康増進に役立てる力			
		1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	3-4
		社会・文化・自然・健康を理解する(知識・理解)	科学的根拠となるデータ・情報を収集する(情報収集力)	問題解決に向けて効果的な情報提供ができる(情報発信力)	健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する(専門的技術力)	複合的に絡み合う問題に気づく(知識の統合)	構築された理論に基づき判断し、行動する(総合的判断力・実践力)	自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う(応用力)	新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度(生涯学習力)	人間を理解し、適切な指導ができる(専門的知識)	効果的な意思疎通ができる(コミュニケーション力)	人とつながり、責任をもって仕事を成し遂げる(リーダーシップ)	課題解決のためのプログラムを構築する(統合的技術力)
II群(養護・保健に関連する科目)	病理学概論		○		○	◎	○						
	薬理学	○				○	◎		○	○			
	養護概説 I		○		○	○		◎		○			
	養護概説 II			○	○	○		○		◎			
	発育発達概論	○				○	○			◎			
	養護活動演習		○		○	◎				○	○		
	養護活動実習			○				◎	○			○	○
	学校保健 I (小児保健・学校安全を含む)	◎	○						○	○			
	学校保健 II				○	○		◎		○	○		
	学校保健 III				○			○		◎		○	○
	精神保健		○			○				○	◎		
	健康行動論				○			◎	○		○		
	健康統計学		◎		○			○			○		
	健康相談活動の理論と実践							○		◎		○	○
	基礎看護学	○	◎		○	○					○		
	看護学 I			○		○	○				◎	○	
	看護学 II			○		○	○				◎	○	
	臨床看護実習	○						○		○	◎		○
	救急看護(救急処置を含む)		○	○	○				◎		○		
	卒業研究	卒業研究 I		◎			○				○		
卒業研究 II				◎			○			○			○

健康システム学科カリキュラムマップ(平成26年度入学者)

【健康科学部ディプロマポリシー】 生涯を通じて健康の維持と増進に関わる高い専門性を備え、健康で活力に満ちた地域社会の実現に貢献しようとする志をもつ人に、学士の学位を授与します。

授業科目区分	授業科目名	ディプロマポリシー達成のため、特に重要=◎ 重要=○												
		健康システム学科ディプロマポリシー												
		1			2					3				
		1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	3-4	
		社会における健康課題を的確にとらえ、健康な社会の推進に取り組む力			運動やスポーツ、あるいは養護や保健の専門家として、生涯にわたって、その知識と技術を研鑽し、健康科学の発展に貢献できる力					幼児から高齢者まで、発達段階に応じた健康のあり方に関心を持ち、自らの社会的役割を自覚してリーダー性を磨くとともに、協働して人々の健康増進に役立てる力				
		社会・文化・自然・健康を理解する(知識・理解)	科学的根拠となるデータ・情報を収集する(情報収集力)	問題解決に向けて効果的な情報提供ができる(情報発信力)	健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する(専門的技術力)	複合的に絡み合う問題に気づく(知識の統合)	構築された理論に基づき判断し、行動する(総合的判断力・実践力)	自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う(応用力)	新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度(生涯学習力)	人間を理解し、適切な指導ができる(専門的知識)	効果的な意思疎通ができる(コミュニケーション力)	人とつながり、責任をもって仕事を成し遂げる(リーダーシップ)	課題解決のためのプログラムを構築する(統合的技術力)	
専門基礎科目群	基礎ゼミⅠ	◎	○		○					○	○			
	基礎ゼミⅡ	○	○	◎				○						
	健康科学序論	◎	○		○	○	○							
	健康科学	◎	○		○	○	○							
	健康統計の基礎		◎		○					○				
	解剖学	◎	○	○	○	○								
	生理学	◎	○	○	○	○								
	微生物学	◎		○						○			○	
	生化学	◎	○							○				
	栄養学			○		◎				○				
	食品学	◎			○									
	栄養指導論	○	○		◎				○					
	衛生学	◎							○					
	公衆衛生学	◎			○					○				
	医学概論	◎			○				○	○				
	生活習慣病(成人病)	◎	○						○					
	健康心理学	◎	○		○									
	臨床心理学							○	○	◎	○		○	
	教育特論Ⅰ	○							◎	○				
	教育特論Ⅱ	○							○		◎	○		
	教育特論Ⅲ			○					◎		○	○		
	地域活動演習Ⅰ								◎	○	○	○		
	地域活動演習Ⅱ								◎	○	○	○		
	I群(運動・体育に関連する科目)	体育原理		◎		○	○		○					
		運動の基礎	◎	○		○	○			○				
		運動生理学				◎	○	○	○	○				
		運動生理学演習		○		○		◎	○	○				
		運動栄養学				◎	○	○	○	○				
		ジュニアスポーツⅠ	○	◎		○	○						○	
		ジュニアスポーツⅡ	○						◎		○		○	○
		スポーツ医学概論			○		◎	○	○	○				
		スポーツ心理学		○		◎	○				○	○		
		障害者スポーツ論				◎		○			○		○	
		スポーツ史(体育史を含む)		○		○		◎		○				
		スポーツ科学Ⅰ				◎	○	○		○				○
		スポーツ科学Ⅱ				◎	○	○		○				○
トレーニング科学Ⅰ					○	○	○		○				◎	
トレーニング科学Ⅱ					○	○	○		○				◎	
体力測定と評価			◎	○	○					○				
スポーツ実践Ⅰ		○			◎	○	○			○				
スポーツ実践Ⅱ		○			○		◎	○			○			
健康・体力づくり実践Ⅰ		○				○			◎	○		○		
健康・体力づくり実践Ⅱ		○	○						◎	○			○	
スポーツ指導法Ⅰ				○		○				○			◎	
スポーツ指導法Ⅱ				○		○				○			◎	
健康・体力づくり指導法Ⅰ							○	○	○		○		◎	
健康・体力づくり指導法Ⅱ							○	○	○			○	◎	
運動処方論				○	◎	○		○				○		
運動処方演習		◎	○		○			○	○					
運動負荷試験実習				◎				○						
レクリエーション(野外活動を含む)								◎	○	○	○			
II群(養護・保健に関連する科目)	病理学概論		○		○	◎	○							
	薬理学	○					○	◎		○				
	養護概説Ⅰ		○		○	○		◎		○				
	養護概説Ⅱ			○	○	○		○		◎				
	養護活動演習		○		○	◎				○	○			
	養護活動実習			○			◎	○				○	○	
	学校保健Ⅰ(小児保健・学校安全を含む)	◎	○						○	○				
	学校保健Ⅱ				○	○	◎			○	○			
	学校保健Ⅲ				○				○		◎		○	
	精神保健		○			○			○	◎				
	健康行動論				○			◎	○					
	健康統計学		◎		○			○		○				
	健康相談活動の理論と実践						○	◎		○	○		○	
	基礎看護学	○	◎		○	○					○			
	看護学Ⅰ			○		○	○			◎		○		
	看護学Ⅱ			○		○	○			◎		○		
臨床看護実習	○						○		○	◎		○		
救急看護(救急処置を含む)		○	○	○		◎			○			○		
卒業研究	卒業研究Ⅰ		◎				○			○			○	
	卒業研究Ⅱ			◎			○			○			○	

健康システム学科カリキュラムマップ(平成25年度入学者)

【健康科学部ディプロマポリシー】 生涯を通じて健康の維持と増進に関わる高い専門性を備え、健康で活かに満ちた地域社会の実現に貢献しようとする志をもつ人に、学士の学位を授与します。

授業科目区分	授業科目名	ディプロマポリシー達成のため、特に重要=◎ 重要=○											
		健康システム学科ディプロマポリシー											
		1			2					3			
		社会における健康課題を的確にとらえ、健康な社会の推進に取り組む力 運動やスポーツ、あるいは養護や保健の専門家として、生涯にわたって、その知識と技術を研鑽し、健康科学の発展に貢献できる力 幼児から高齢者まで、発達段階に応じた健康のあり方に関心を持ち、自らの社会的役割を自覚してリーダー性を磨くとともに、協働して人々の健康増進に役立てる力											
	1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	3-4	
	社会・文化・自然・健康を理解する(知識・理解)	科学的根拠となるデータ・情報を収集する(情報収集力)	問題解決に向けて効果的な情報提供ができる(情報発信力)	健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する(専門的技術力)	複合的に絡み合う問題に気づく(知識の統合)	構築された理論に基づき判断し、行動する(総合的判断力・実践力)	自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う(応用力)	新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度(生涯学習力)	人間を理解し、適切な指導ができる(専門的知識)	効果的な意思疎通ができる(コミュニケーション力)	人とつながり、責任をもって仕事を成し遂げる(リーダーシップ)	課題解決のためのプログラムを構築する(総合的技術力)	
専門基礎科目群	基礎ゼミⅠ	◎	○		○					○	○		
	基礎ゼミⅡ	○	○	◎				○					
	健康科学序論	◎	○		○	○	○						
	健康科学	◎	○		○	○	○						
	情報科学	○		◎					○				
	解剖学	◎	○	○	○	○							
	生理学	◎	○	○	○	○							
	微生物学	◎		○					○				○
	生化学	◎	○			○			○				
	栄養学			○		◎			○				
	食品学	◎			○								
	栄養指導論	○	○		◎				○				
	衛生学	◎							○				
	公衆衛生学	◎			○	○				○			
	医学概論	◎				○			○	○			
	生活習慣病(成人病)	◎	○			○			○				
	認知心理学	◎	○			○							
	健康心理学	◎	○		○		○						
	生涯発達心理学	○							○	◎			
	臨床心理学						○	○		◎	○		○
	人間関係論					○		○			○	◎	
	外書購読Ⅰ	◎	○							○			
	外書購読Ⅱ	◎	○							○			
	教育特論Ⅰ	○						◎	○		○		
	教育特論Ⅱ	○				○		○			◎	○	
	教育特論Ⅲ			○		○	◎				○	○	
地域活動演習Ⅰ						◎	○		○	○	○		
地域活動演習Ⅱ						◎	○		○	○	○		
I群(運動・体育に関する科目)	体育原理		◎		○	○		○					
	運動の基礎	◎	○		○	○				○			
	運動生理学				◎	○	○		○				
	運動生理学演習		○		○		◎	○	○				
	運動栄養学				◎	○	○	○	○				
	子ども運動学	○	◎		○	○						○	
	子ども運動学演習	○					◎		○			○	○
	スポーツ医学概論			○		◎	○	○	○				
	スポーツ心理学		○		◎	○				○	○		
	障害者スポーツ論				◎		○			○		○	
	スポーツ史(体育史を含む)		○		○	◎		○					
	スポーツ科学Ⅰ				◎	○	○		○				○
	スポーツ科学Ⅱ				◎	○	○		○				○
	トレーニング科学Ⅰ				○	○	○		○				◎
	トレーニング科学Ⅱ				○	○	○		○				◎
	体力測定と評価		◎	○	○					○			
	スポーツ実践Ⅰ	○			◎	○	○			○			
	スポーツ実践Ⅱ	○			○		◎	○			○		
	健康・体力づくり実践Ⅰ	○				○		◎	○			○	
	健康・体力づくり実践Ⅱ	○	○					○	◎				○
	スポーツ指導法Ⅰ			○		○			○	○			◎
	スポーツ指導法Ⅱ			○					○	○			◎
	健康・体力づくり指導法Ⅰ						○	○	○		○		◎
	健康・体力づくり指導法Ⅱ						○	○	○			○	◎
	運動処方論				○	◎	○		○				○
	運動処方演習		◎	○		○			○				
運動負荷試験実習				◎		○	○		○				
レクリエーション(野外活動を含む)						○		◎	○	○	○		
II群(養護・保健に関する科目)	病理学概論		○		○	◎	○						
	薬理学	○				○	◎		○	○			
	養護概説Ⅰ		○		○	○		◎		○			
	養護概説Ⅱ			○	○	○		○		◎			
	養護活動演習		○		○	◎			○	○			
	養護活動実習			○			◎	○				○	○
	学校保健Ⅰ(小児保健・学校安全を含む)	◎	○						○	○			
	学校保健Ⅱ				○	○	◎			○	○		
	学校保健Ⅲ				○			○		◎		○	○
	精神保健		○			○			○	◎			
	健康行動論				○			◎	○		○		
	健康統計学		◎		○			○		○			
	健康相談活動の理論と実践					○	◎			○	○		○
	基礎看護学	○	◎		○	○					○		
	看護学Ⅰ			○		○	○			◎		○	
	看護学Ⅱ			○		○	○			◎		○	
臨床看護実習	○						○		○	◎		○	
救急看護(救急処置を含む)		○	○	○	○	◎			○				
卒業研究	卒業研究Ⅰ		◎			○				○			○
	卒業研究Ⅱ			◎		○				○			○

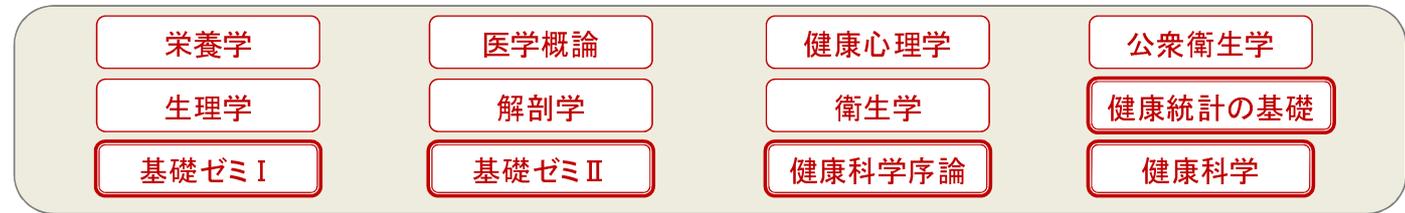
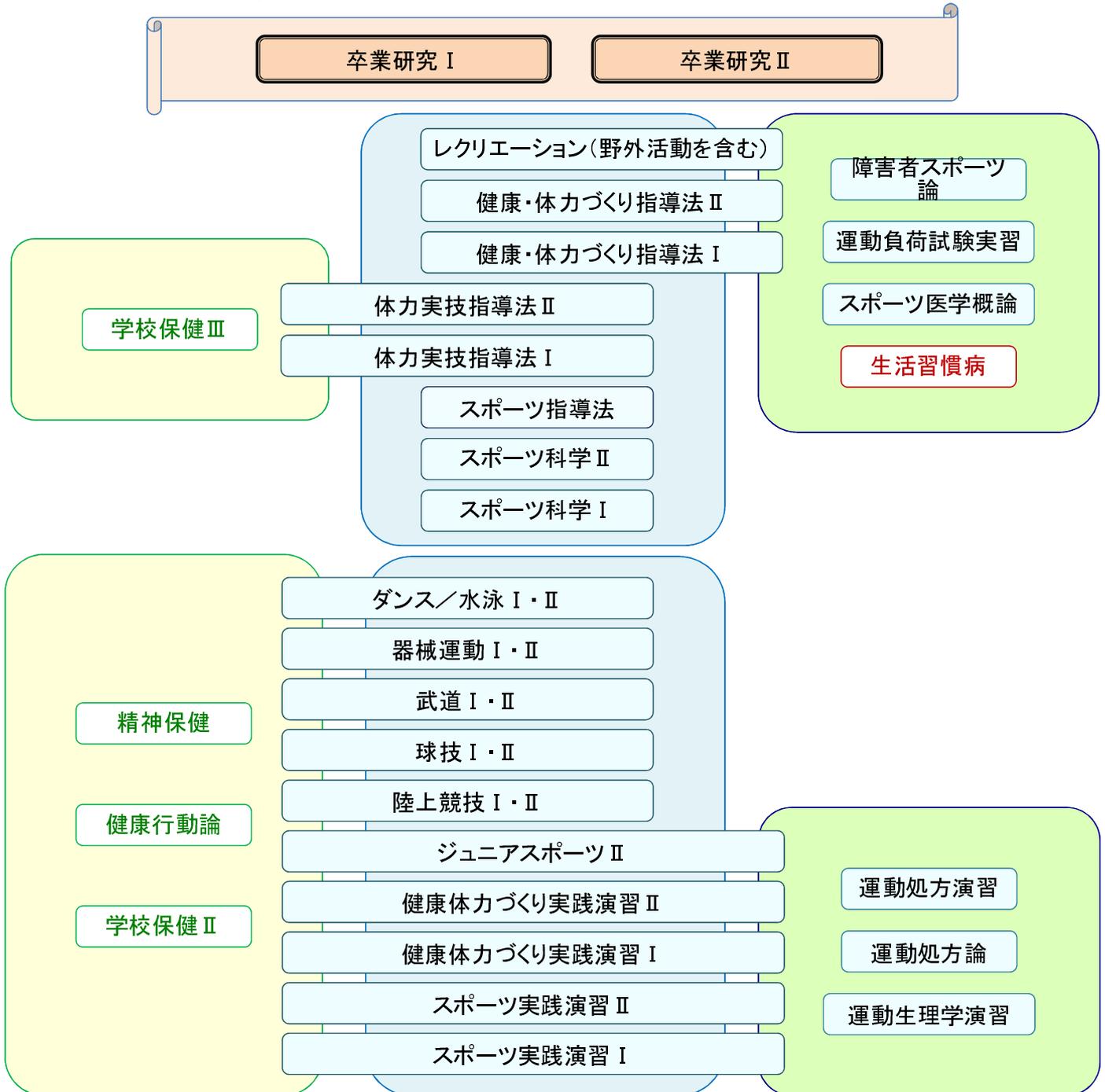
健康システム学科カリキュラムマップ(平成24年度入学者)

【健康科学部ディプロマポリシー】 生涯を通じて健康の維持と増進に関わる高い専門性を備え、健康で活かに満ちた地域社会の実現に貢献しようとする志をもつ人に、学士の学位を授与します。

授業科目区分	授業科目名	ディプロマポリシー達成のため、特に重要=◎ 重要=○											
		1			2					3			
		健康システム学科ディプロマポリシー											
		社会における健康課題を的確にとらえ、健康な社会の推進に取り組む力			運動やスポーツ、あるいは養護や保健の専門家として、生涯にわたって、その知識と技術を研鑽し、健康科学の発展に貢献できる力					幼児から高齢者まで、発達段階に応じた健康のあり方に関心を持ち、自らの社会的役割を自覚してリーダー性を磨くとともに、協働して人々の健康増進に役立てる力			
1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	3-4		
社会・文化・自然・健康を理解する(知識・理解)	科学的根拠となるデータ・情報を収集する(情報収集力)	問題解決に向けて効果的な情報提供ができる(情報発信力)	健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する(専門的技術力)	複合的に絡み合う問題に気づく(知識の統合)	構築された理論に基づき判断し、行動する(総合的判断力・実践力)	自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う(応用力)	新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度(生涯学習力)	人間を理解し、適切な指導ができる(専門的知識)	効果的な意思疎通ができる(コミュニケーション力)	人とつながり、責任をもって仕事を成し遂げる(リーダーシップ)	課題解決のためのプログラムを構築する(総合的技術力)		
専門基礎科目群	基礎ゼミⅠ	◎	○		○					○	○		
	基礎ゼミⅡ	○	○	◎				○					
	健康科学序論	◎	○		○	○	○						
	健康科学	◎	○		○	○	○						
	情報科学	○		◎					○				
	基礎生物学	○				◎				○			
	解剖学	◎	○	○	○	○							
	生理学	◎	○	○	○	○							
	微生物学	◎		○					○			○	
	生化学	◎	○			○			○				
	栄養学			○		◎			○				
	食品学	◎			○								
	栄養指導論	○	○		◎			○					
	衛生学	◎						○					
	公衆衛生学	◎			○	○			○				
	医学概論	◎				○			○				
	生活習慣病(成人病)	◎	○			○		○					
	認知心理学	◎	○			○							
	健康心理学	◎	○		○		○						
	生涯発達心理学	○							○	◎			
	臨床心理学						○	○		◎	○	○	
	人間関係論					○		○			○	◎	
	外書購読Ⅰ	◎	○							○			
	外書購読Ⅱ	◎	○							○			
	教育特論Ⅰ	○						◎	○		○		
	教育特論Ⅱ	○				○		○			◎	○	
教育特論Ⅲ			○		○	◎				○	○		
地域活動演習Ⅰ						◎	○		○	○	○		
地域活動演習Ⅱ						◎	○		○	○	○		
I群(運動・体育に関連する科目)	体育原理		◎		○	○		○					
	運動の基礎	◎	○		○	○			○				
	運動生理学				◎	○	○	○	○				
	運動生理学演習		○		○		◎	○	○				
	運動栄養学				◎	○	○	○	○				
	子ども運動学	○	◎		○	○					○		
	子ども運動学演習	○					◎		○		○	○	
	スポーツ医学概論			○		◎	○	○	○				
	スポーツ心理学		○		◎	○			○	○			
	障害者スポーツ論				◎		○			○		○	
	スポーツ史(体育史を含む)		○		○	◎		○					
	スポーツ科学Ⅰ				◎	○	○		○			○	
	スポーツ科学Ⅱ				◎	○	○		○			○	
	トレーニング科学Ⅰ				○	○	○		○			◎	
	トレーニング科学Ⅱ				○	○	○		○			◎	
	体力測定と評価		◎	○	○				○				
	スポーツ実践Ⅰ	○			◎	○	○			○			
	スポーツ実践Ⅱ	○			○		◎	○			○		
	健康・体力づくり実践Ⅰ	○				○		◎	○		○		
	健康・体力づくり実践Ⅱ	○	○					○	◎			○	
	スポーツ指導法Ⅰ			○		○			○	○		◎	
	スポーツ指導法Ⅱ			○			○		○	○		◎	
	健康・体力づくり指導法Ⅰ						○	○	○		○	◎	
	健康・体力づくり指導法Ⅱ						○	○	○		○	◎	
	運動処方論				○	◎	○		○			○	
	運動処方演習		◎	○		○		○	○				
運動負荷試験実習				◎		○	○		○				
レクリエーション(野外活動を含む)						○		◎	○	○	○		
II群(養護・保健に関連する科目)	病理学概論		○		○	◎	○						
	薬理学	○				○	◎		○				
	養護概説Ⅰ		○		○	○		◎	○				
	養護概説Ⅱ			○	○	○		○	◎				
	養護活動演習		○		○	◎			○	○			
	養護活動実習			○			◎	○			○	○	
	学校保健Ⅰ(小児保健・学校安全を含む)	◎	○						○	○			
	学校保健Ⅱ				○	○	◎			○	○		
	学校保健Ⅲ				○			○		◎		○	
	精神保健		○			○			○	◎			
	健康行動論				○			◎	○				
	健康統計学		◎		○		○		○				
	健康相談活動の理論と実践						○	◎		○	○	○	
	基礎看護学	○	◎		○	○				○			
	看護学Ⅰ			○		○	○			◎		○	
看護学Ⅱ			○		○	○			◎		○		
臨床看護実習	○						○		○	◎	○		
救急看護(救急処置を含む)		○	○			◎			○				
卒業研究	卒業研究Ⅰ		◎				○			○		○	
	卒業研究Ⅱ			◎			○			○		○	

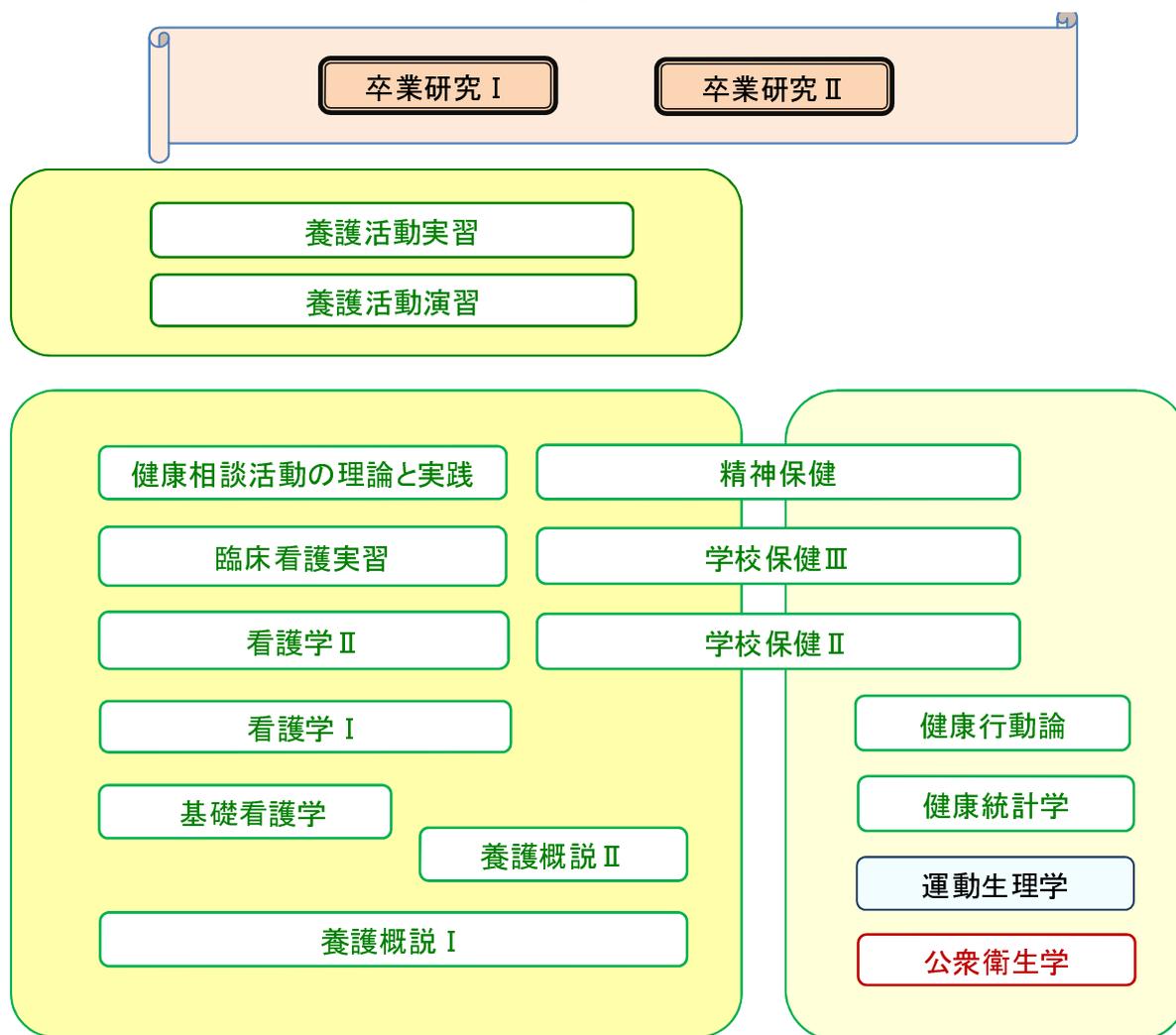
健康システム学科 体育・運動系 科目関係図

H27年度入学者用



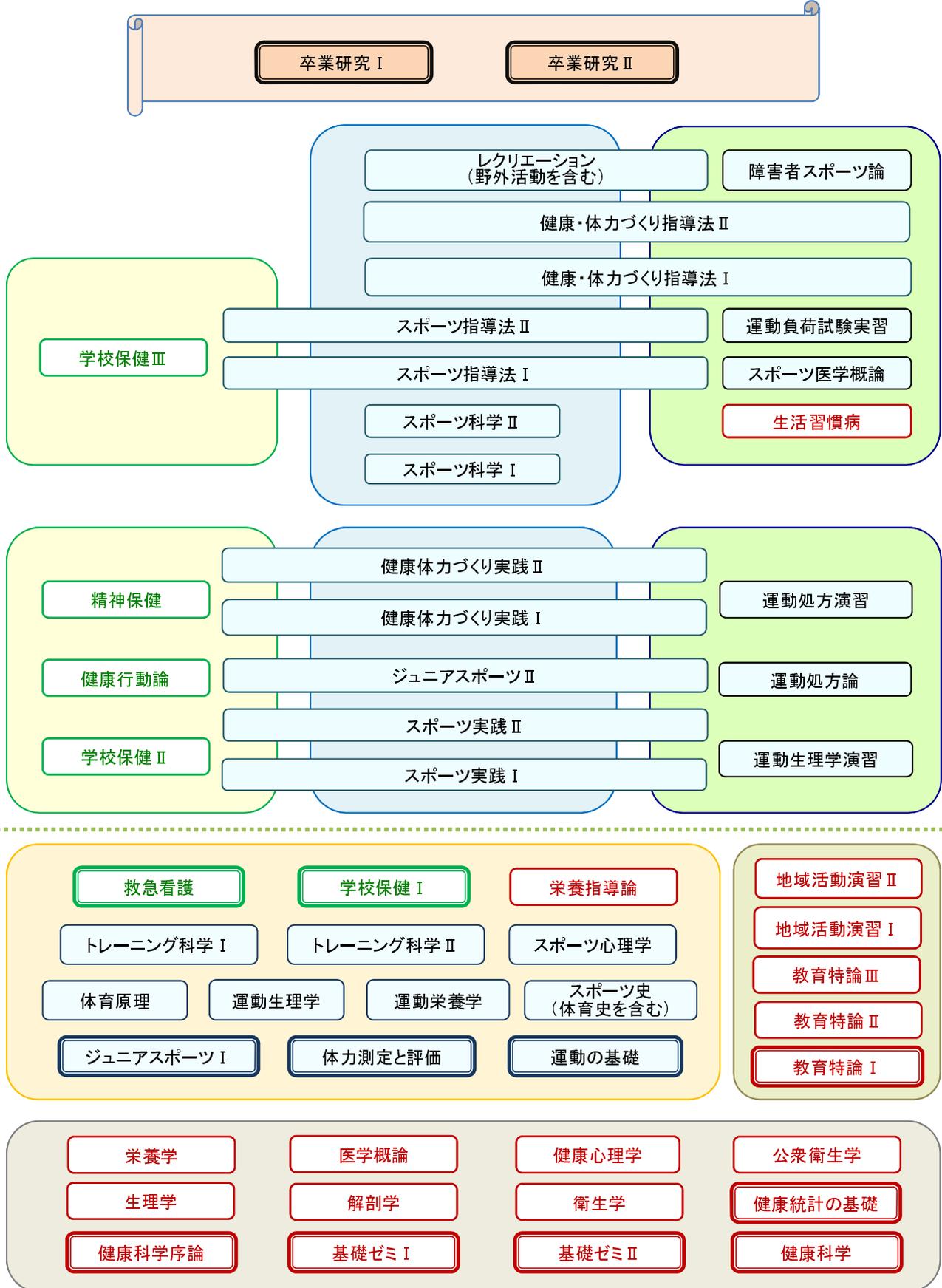
健康システム学科 養護・保健系 科目関係図

H27年度入学者用



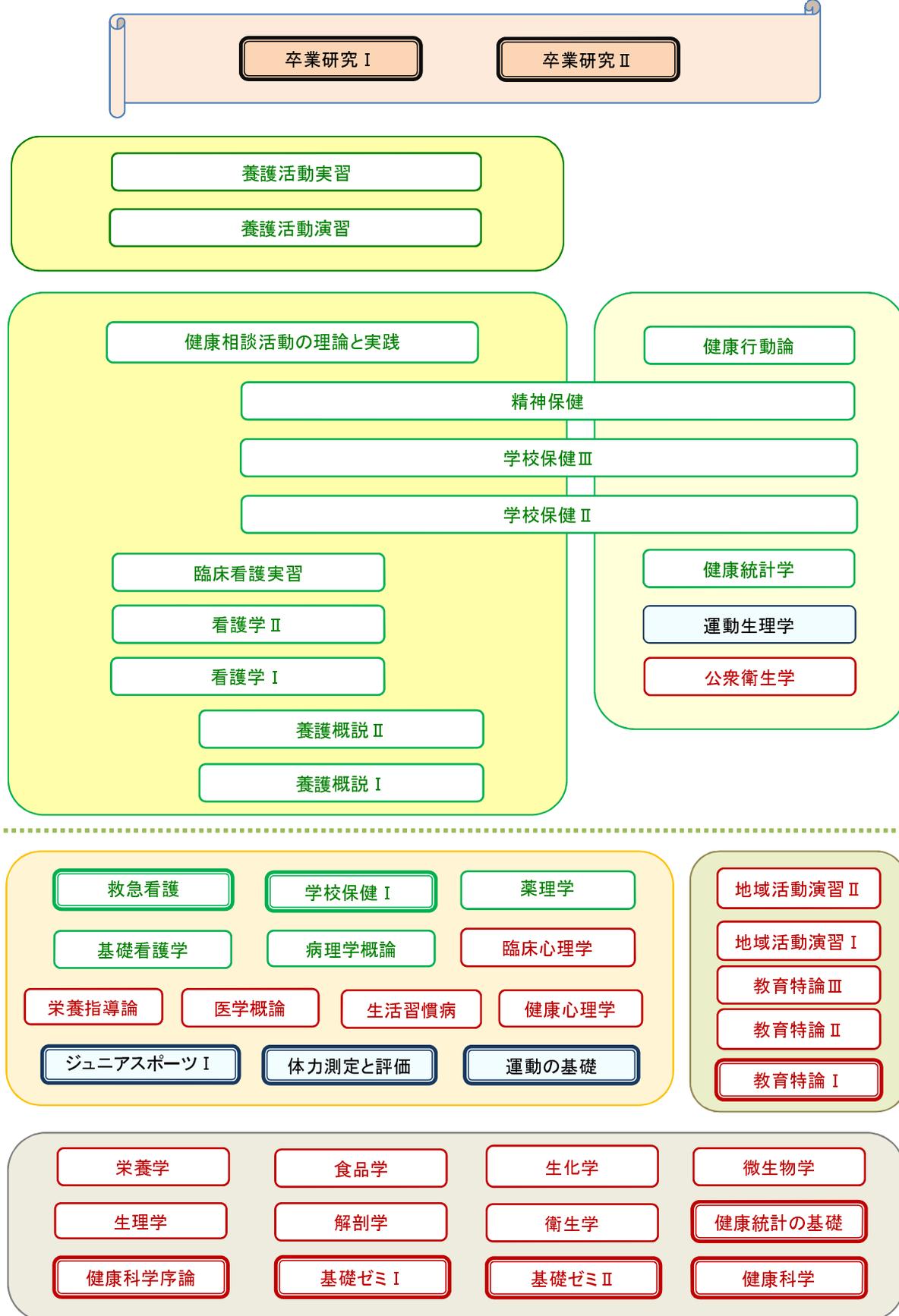
健康システム学科 体育・運動系 科目関係図

H26年度以前入学者用



健康システム学科 養護・保健系 科目関係図

H26年度以前入学者用



シラバスの見方

「ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力」について

「重点的に身につける能力」は、学部学科のディプロマポリシーに基づいて、さらに細かく設定された「能力」（下表 1-1…、2-2…など）の中から、授業を通して特に身につけてほしいものを選び出したものです。

なお、シラバスには5つまで記載されていますが、カリキュラムマップでは5つ以上記載されている科目もあります。

経済情報学科ディプロマポリシー														
1				2					3					
自己を認識し、他者を理解し思いやる心と志をもって社会で生きていく力				経済と情報の諸問題について関心をもち、まわりに働きかけ、ともに行動する力					学んだ知識や習得した技術を生涯にわたって活用し、社会に貢献できる力					
1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5
主体的に学ぶ力	コミュニケーション力	プレゼンテーション力	情報活用能力	問題発見力	経済学的思考力	システム的思考力	ビジネス基礎力	キャリア形成力	経営学の知識の応用力	キャリア形成力	社会の働き方	経営学の知識	経営学の知識	情報活用能力

科目名、担当者名、授業方法、単位・必修、開講年次・開講期：履修する科目が「必修」なのか「選択」についてチェックしましょう。

《シラバス例》

授業の概要：科目の全体的な内容とともに、その科目を学ぶ意義や必要性について解説されています。

授業の到達目標：科目の目的にそって、学習者が身につけることをめざす能力・知識・態度などについて、具体的な目標が示されています。

成績評価の方法：学習の目標がどの程度達成できたかについて、評価方法や評価の基準、評価方法ごとの配点などが示されています。

授業計画：授業で学習するテーマと学習内容・学習目標などが示されています。15回の授業の流れやキーワードにも目を通しましょう。

テキスト：授業で使用する図書が示されています。図書の他に、プリント教材や視聴覚教材などが示される場合があります。
参考図書：テキスト以外に授業や授業時間外学習の参考となる図書や教材等が示されています。

授業時間外学習：履修している科目の単位は、授業時間以外の学習時間も合わせて認定します。予習復習について、担当教員の指示や考え方をよく読んでおきましょう。

備考：担当教員の授業運営の方針や授業参加に関する考え方、指示・要望等が示されています。必ず目を通しましょう。

「カリキュラムマップ」とは、ディプロマポリシーに基づいて細かく設定された「能力」（マップ上部 1-1…、2-1…など）をどの授業によって身につけるのかについて一覧にしたものです。

単位を積み上げるだけでなく、入学から卒業までにどんな能力を身につける必要があるのかを意識しながら履修していきましょう。

授業科目のナンバリングについて

＜ナンバリングとは？＞

科目ごとに数字とアルファベットを用いて「ナンバー」を割り振ることを指します。これにより、科目の学修内容の順番や科目間のつながりなどがわかりやすくなります。また、学生が自分に合った科目のレベル（難易度）や専門内容を考えて履修計画を立てることができます。

＜ナンバリングの見方＞

各授業科目には、9桁のナンバーが付与されています。
そのナンバーは次の基準等により設定しています。

詳細	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
ナンバー	学科	科目の位置づけ			履修区分	学年 (レベル)	通し番号 (001～)

詳細①：学科

H	健康システム学科
---	----------

詳細②③④：科目の位置づけ（専門教育科目）

②	
0	専門基礎科目群
1	I群
2	II群
3	卒業研究

③運動系	
X	該当なし
A	入門
B	基礎
C	発展
D	応用

④養護系	
X	該当なし
A	入門
B	基礎
C	発展
D	応用

詳細②③④：科目の位置づけ（基礎・教養科目）

② ③		
B	A	基礎科目
H	U	教養科目（人文）
S	O	教養科目（社会）
N	A	教養科目（自然）
L	A	教養科目（語学）
P	H	教養科目（体育）
C	A	教養科目（キャリア）

④	
L	講義
S	演習
P	実技

詳細⑤：履修区分

1	必修
2	選択
3	選択必修

詳細⑥：学年（レベル）

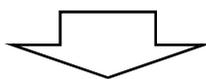
1	1年
2	2年
3	3年
4	4年

詳細⑦：通し番号

001～

例えば、「健康科学序論」という科目には、＜H0AA11003＞というナンバーが付与されています。このナンバーは、次の組み合わせにより付与されたものです。

詳細①：学科 → 健康システム学科「H」 詳細②：科目の位置づけ → 専門基礎科目群「0」 詳細③：科目の位置づけ → 運動系入門「A」 詳細④：科目の位置づけ → 養護系入門「A」 詳細⑤：履修区分 → 必修科目「1」 詳細⑥：学年レベル → 1年生相当「1」 詳細⑦：通し番号 → 通し番号「003」
--



	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
詳細	健康システム学科	専門基礎科目群	運動系入門	養護系入門	必修科目	1年生相当	通し番号
ナンバー	H	0	A	A	1	1	003

健康科学部健康システム学科

【卒業要件単位数】

■平成 27 (2015) 年度入学生

科目区分		卒業必要単位	内必修単位と科目数	
基礎・教養科目		26 単位	10 単位	5 科目
専門教育科目	専門基礎科目群	20 単位	12 単位	6 科目
	I 群 (運動・体育に関連する科目)	6 単位	6 単位	3 科目
	II 群 (養護・保健に関連する科目)	6 単位	4 単位	2 科目
	卒業研究	6 単位	6 単位	2 科目
その他上記の科目区分のいずれかから		60 単位	—	—
合計		124 単位	38 単位	18 科目

■平成 26 (2014) 年度入学生

科目区分		卒業必要単位	内必修単位と科目数	
基礎・教養科目		26 単位	10 単位	5 科目
専門教育科目	専門基礎科目群	20 単位	12 単位	6 科目
	I 群 (運動・体育に関連する科目)	6 単位	6 単位	3 科目
	II 群 (養護・保健に関連する科目)	6 単位	4 単位	2 科目
	卒業研究	6 単位	6 単位	2 科目
その他上記の科目区分のいずれかから		60 単位	—	—
合計		124 単位	38 単位	18 科目

■平成 25 (2013) 年度入学生

科目区分		卒業必要単位	内必修単位と科目数	
基礎・教養科目		26 単位	10 単位	5 科目
専門教育科目	専門基礎科目群	20 単位	10 単位	5 科目
	I 群 (運動・体育に関連する科目)	6 単位	6 単位	3 科目
	II 群 (養護・保健に関連する科目)	6 単位	4 単位	2 科目
	卒業研究	6 単位	6 単位	2 科目
その他上記の科目区分のいずれかから		60 単位	—	—
合計		124 単位	36 単位	17 科目

■平成 24 (2012) 年度入学生

科目区分		卒業必要単位	内必修単位と科目数	
基礎・教養科目		26 単位	10 単位	5 科目
専門教育科目	専門基礎科目群	20 単位	8 単位	4 科目
	I 群 (運動・体育に関連する科目)	6 単位	—	—
	II 群 (養護・保健に関連する科目)	6 単位	—	—
	卒業研究	6 単位	6 単位	2 科目
その他上記の科目区分のいずれかから		60 単位	—	—
合計		124 単位	24 単位	11 科目

平成 27～24（2015～2012）年度入学者

基礎科目・教養科目

カリキュラム年次配当表

健康システム学科 平成27年度（2015年度）入学者対象
 （ ）は兼任、[]は兼任講師

授業科目区分	授業科目の名称	ナンバリング	授業方法	単位数		健康運動指導士	健康運動実践指導者	教員免許関係			学年配当 (数字は週当り授業時間)								平成27年度の担当者	ページ
				必修	選択			養護	保健体育	保健	1年		2年		3年		4年			
											I	II	I	II	I	II	I	II		
基礎科目	日本語（読解と表現）	HBAS11001	演習	2							2								[安井重雄]	26
	英語	HBAS11002	演習	2				○	△	□	2								平本幸治	27
	英語	HBAS11002	演習	2							2								[Michael. H. FOX]	28
	コンピュータ演習	HBAS11003	演習	2				○	△	□	2								河野稔	29
	化学基礎	HBAL31004	講義		※2						2								[谷口]・[大藤]	30
	生物基礎	HBAL31005	講義							2								[南村]・[立谷]・[田中]・[田村]	31	
教養科目	宗教と人生	HHUL11001	講義	2								2							(本多彩)	32
	生命倫理学	HHUL11002	講義	2								②		②					[古荘匡義]	33
	哲学	HHUL11003	講義	2								②		②					[三浦摩美]	34
	文学	HHUL11004	講義	2								②		②					(安井重雄)	35
	芸術	HHUL11005	講義	2								②		②					[柳楽節子]	36
	芸術	HHUL11005	講義	2								②		②					岩見健二	37
	心理学	HHUL11006	講義	2								②		②					(北島律之)	38
	仏教と現代社会	HHUL11007	講義	2								②		②					(本多彩)	39
	国際理解と宗教Ⅰ（キリスト教）	HHUL11008	講義	2								②		②					[根川幸男]	40
	国際理解と宗教Ⅱ（イスラム教）	HHUL11009	講義	2								②		②					[重親知左子]	41
	色彩とデザイン	HHUL11010	講義	2								②		②					浜島・(稲富)	42
	法と社会	HSOL21011	講義	2								②		②					[豊福一]	43
	日本国憲法	HSOL21012	講義	2				○	△	□	②		②		②				[笹田哲男]	44
	人権の歴史	HSOL21013	講義	2							②		②		②				[岩本智依]	45
	政治学	HSOL21014	講義	2							②		②		②				(斎藤正寿)	46
	社会学	HSOL21015	講義	2							②		②		②				(吉原恵子)	47
	経済学	HSOL21016	講義	2							②		②		②				(石原敬子)	48
	化学	HNAL21017	講義	2							②		②		②				[阿部真幸]	49
	生物学	HNAL21018	講義	2								②		②					(佐藤隆)	50
	食と健康	HNAL21019	講義	2								②		②					(嶋津裕子)	51
実用英語（初級）	HLAS21020	演習	2								②		②					[松盛美紀子]	52	
実用英語（中級）	HLAS22021	演習	2									②		②						
科目	中国語（初級）	HLAS21022	演習	2							②		②		②				[佟曉寧]	54
	中国語（中級）	HLAS21023	演習	2								②		②		②			[佟曉寧]	55
	韓国語（初級）	HLAS21024	演習	2							②		②		②				[高秀美]	56
	韓国語（中級）	HLAS21025	演習	2								②		②		②			[高秀美]	57
	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	HPHL21026	講義	2								②		②					三宅一郎	58
	健康・スポーツ科学Ⅰ（演習）	HPHL21026	講義	2								②		②					矢野琢也	59
	健康・スポーツ科学Ⅱ（演習）	HPHS21027	演習	2				○	△	□	②		②		②				三宅・徳田	60
	健康・スポーツ科学Ⅲ（演習）	HPHS21028	演習	2								②		②		②			三宅・徳田・樽本	61
	私のためのキャリア設計	HCAL21029	講義	2							②		②		②				[三上嘉代子]	62

▽は健康運動指導士養成科目

◇は健康運動実践指導者養成科目

○は養護教諭免許必修科目

△は保健体育免許必修科目

□は保健免許必修科目

※ 基礎科目のうち、「生物基礎」又は「化学基礎」を1科目選択必修（卒業要件）

※ 学年配当欄において○囲みで表示している科目については、○囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて履修できる科目である。

カリキュラム年次配当表

健康システム学科 平成26年度（2014年度）入学者対象
（ ）は兼任、[]は兼任講師

授業科目区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		健康運動指導士	健康運動実践指導者	教員免許関係			学年配当(数字は週当たり授業時間)								平成27年度の担当者	ページ		
			必修	選択			養護	保健体育	保健	1年		2年		3年		4年					
										I	II	I	II	I	II	I	II				
基礎科目	日本語（読解と表現）	演習	2							2											
	英語	演習	2							2											
	コンピュータ演習	演習	2							2											
	化学基礎	講義		※2						2											
教養科目	宗教と人生	講義	2							2											
	生命倫理学	講義	2							②		②		②		②			[古荘匡義]	33	
	哲学	講義	2							②		②		②		②			[三浦摩美]	34	
	文学	講義	2							②		②		②		②			(安井重雄)	35	
	芸術	講義	2							②		②		②		②			[柳楽節子]	36	
	芸術	講義	2							②		②		②		②			[岩見健二]	37	
	心理学	講義	2							②		②		②		②			(北島律之)	38	
	仏教と現代社会	講義	2							②		②		②		②			(本多彩)	39	
	国際理解と宗教Ⅰ（キリスト教）	講義	2							②		②		②		②			[根川幸男]	40	
	国際理解と宗教Ⅱ（イスラム教）	講義	2							②		②		②		②			[重親知左子]	41	
	色彩とデザイン	講義	2							②		②		②		②			[浜島]・(稲富)	42	
	法と社会	講義	2							②		②		②		②			[豊福]	43	
	日本国憲法	講義	2							②		②		②		②			[笹田哲男]	44	
	人権の歴史	講義	2							②		②		②		②			[岩本智依]	45	
	政治学	講義	2							②		②		②		②			(斎藤正寿)	46	
	社会学	講義	2							②		②		②		②			(吉原恵子)	47	
	経済学	講義	2							②		②		②		②			(石原敬子)	48	
	化学	講義	2							②		②		②		②			[阿部真幸]	49	
	生物学	講義	2								②		②		②		②		(佐藤隆)	50	
	食と健康	講義	2								②		②		②		②		(嶋津裕子)	51	
	実用英語（初級）	演習	2								②		②		②		②			[松盛美紀子]	52
	実用英語（中級）	演習	2									②		②		②			[松盛美紀子]	53	
	中国語（初級）	演習	2								②		②		②		②			[佟曉寧]	54
	中国語（中級）	演習	2								②		②		②		②			[佟曉寧]	55
	韓国語（初級）	演習	2								②		②		②		②			[高秀美]	56
	韓国語（中級）	演習	2								②		②		②		②			[高秀美]	57
	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義	2								②		②		②		②			三宅一郎	58
	健康・スポーツ科学Ⅰ（演習）	演習	2								②		②		②		②			矢野琢也	59
	健康・スポーツ科学Ⅱ（演習）	演習	2								②		②		②		②			三宅一徳田	60
	健康・スポーツ科学Ⅲ（演習）	演習	2								②		②		②		②			三宅一徳田・樽本	61
	私のためのキャリア設計	講義	2								②		②		②		②			[三上嘉代子]	62

▽は健康運動指導士養成科目

◇は健康運動実践指導者養成科目

○は養護教諭免許必修科目

△は保健体育免許必修科目

□は保健免許必修科目

※ 基礎科目のうち、「生物基礎」又は「化学基礎」を1科目選択必修（卒業要件）

※ 学年配当欄において○囲みで表示している科目については、○囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて履修できる科目である。

カリキュラム年次配当表

健康システム学科 平成25年度（2013年度）入学者対象
（ ）は兼任、[]は兼任講師

授業科目区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		健康運動指導士	健康運動実践指導者	教員免許関係			学年配当(数字は週当たり授業時間)								平成27年度の担当者	ページ	
			必修	選択			養護	保健体育	保健	1年		2年		3年		4年				
										I	II	I	II	I	II	I	II			
基礎科目	日本語（読解と表現）	演習	2							2										
	英語	演習	2							2										
	コンピュータ演習	演習	2							2										
	化学基礎	講義		※2						2										
基礎科目	生物基礎	講義								2										
	宗教と人生	講義	2								2									
教養	生命倫理学	講義	2								②		②		②		②		[古荘匡義]	33
	哲学	講義	2								②		②		②		②		[三浦摩美]	34
教養	文学	講義	2								②		②		②		②		(安井重雄)	35
	芸術	講義	2								②		②		②		②		[柳楽節子]	36
教養	芸術	講義	2								②		②		②		②		[岩見健二]	37
	心理学	講義	2								②		②		②		②		(北島律之)	38
教養	仏教と現代社会	講義	2								②		②		②		②		(本多彩)	39
	国際理解と宗教Ⅰ（キリスト教）	講義	2								②		②		②		②		[根川幸男]	40
教養	国際理解と宗教Ⅱ（イスラム教）	講義	2								②		②		②		②		[重親知左子]	41
	色彩とデザイン	講義	2								②		②		②		②		[浜島・(稲富)	42
教養	法と社会	講義	2								②		②		②		②		[豊福]	43
	日本国憲法	講義	2								②		②		②		②		[笹田哲男]	44
教養	人権の歴史	講義	2								②		②		②		②		[岩本智依]	45
	政治学	講義	2								②		②		②		②		(斎藤正寿)	46
教養	社会学	講義	2								②		②		②		②		(吉原恵子)	47
	経済学	講義	2								②		②		②		②		(石原敬子)	48
教養	化学	講義	2								②		②		②		②		[阿部真幸]	49
	生物学	講義	2								②		②		②		②		(佐藤隆)	50
教養	食と健康	講義	2								②		②		②		②		(嶋津裕子)	51
	実用英語（初級）	演習	2								②		②		②		②		[松盛美紀子]	52
教養	実用英語（中級）	演習	2									②		②		②		[松盛美紀子]	53	
	中国語（初級）	演習	2								②		②		②		②		[佟曉寧]	54
教養	中国語（中級）	演習	2								②		②		②		②		[佟曉寧]	55
	韓国語（初級）	演習	2								②		②		②		②		[高秀美]	56
教養	韓国語（中級）	演習	2								②		②		②		②		[高秀美]	57
	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義	2								②		②		②		②		三宅一郎	58
教養	健康・スポーツ科学Ⅰ（演習）	演習	2								②		②		②		②		矢野琢也	59
	健康・スポーツ科学Ⅱ（演習）	演習	2								②		②		②		②		三宅一徳田	60
教養	健康・スポーツ科学Ⅲ（演習）	演習	2								②		②		②		②		三宅一徳田・樽本	61
	私のためのキャリア設計	講義	2								②		②		②		②		[三上嘉代子]	62

▽は健康運動指導士養成科目

◇は健康運動実践指導者養成科目

○は養護教諭免許必修科目

△は保健体育免許必修科目

□は保健免許必修科目

※ 基礎科目のうち、「生物基礎」又は「化学基礎」を1科目選択必修（卒業要件）

※ 学年配当欄において○囲みで表示している科目については、○囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて履修できる科目である。

カリキュラム年次配当表

健康システム学科 平成24年度（2012年度）入学者対象
（ ）は兼任、[]は兼任講師

授業科目区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		健康運動指導士	健康運動実践指導者	教員免許関係			学年配当(数字は週当たり授業時間)								平成27年度の担当者	ページ		
			必修	選択			養護	保健体育	保健	1年		2年		3年		4年					
										I	II	I	II	I	II	I	II				
基礎科目	日本語（読解と表現）	演習	2							2											
	英語	演習	2							2											
	コンピュータ演習	演習	2							2											
	化学基礎	講義								2											
	生物基礎	講義		※2						2											
教養科目	宗教と人生	講義	2								2										
	生命倫理学	講義	2								②		②		②		②		[古荘匡義]	33	
	哲学	講義	2								②		②		②		②		[三浦摩美]	34	
	文学	講義	2								②		②		②		②		(安井重雄)	35	
	芸術	講義	2								②		②		②		②		[柳楽節子]	36	
	芸術	講義	2								②		②		②		②		[岩見健二]	37	
	心理学	講義	2								②		②		②		②		(北島律之)	38	
	仏教と現代社会	講義	2								②		②		②		②		(本多彩)	39	
	国際理解と宗教Ⅰ（キリスト教）	講義	2								②		②		②		②		[根川幸男]	40	
	国際理解と宗教Ⅱ（イスラム教）	講義	2								②		②		②		②		[重親知左子]	41	
	色彩とデザイン	講義	2								②		②		②		②		[浜島]・(稲富)	42	
	法と社会	講義	2								②		②		②		②		[豊福]	43	
	日本国憲法	講義	2								②		②		②		②		[笹田哲男]	44	
	人権の歴史	講義	2								②		②		②		②		[岩本智依]	45	
	政治学	講義	2								②		②		②		②		(斎藤正寿)	46	
	社会学	講義	2								②		②		②		②		(吉原恵子)	47	
	経済学	講義	2								②		②		②		②		(石原敬子)	48	
	化学	講義	2								②		②		②		②		[阿部真幸]	49	
	生物学	講義	2									②		②		②		②	(佐藤隆)	50	
	食と健康	講義	2									②		②		②		②	(嶋津裕子)	51	
	実用英語（初級）	演習	2									②		②		②		②		[松盛美紀子]	52
	実用英語（中級）	演習	2										②		②		②		[松盛美紀子]	53	
	中国語（初級）	演習	2								②		②		②		②		[佟曉寧]	54	
	中国語（中級）	演習	2									②		②		②		②	[佟曉寧]	55	
	韓国語（初級）	演習	2								②		②		②		②		[高秀美]	56	
	韓国語（中級）	演習	2									②		②		②		②	[高秀美]	57	
	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義	2								②		②		②		②		三宅一郎	58	
	健康・スポーツ科学Ⅰ（演習）	演習	2								②		②		②		②		矢野琢也	59	
	健康・スポーツ科学Ⅱ（演習）	演習	2								②		②		②		②		三宅一徳田	60	
	健康・スポーツ科学Ⅲ（演習）	演習	2								②		②		②		②		三宅一徳田・樽本	61	
	私のためのキャリア設計	講義	2								②		②		②		②		[三上嘉代子]	62	

▽は健康運動指導士養成科目

◇は健康運動実践指導者養成科目

○は養護教諭免許必修科目

△は保健体育免許必修科目

□は保健免許必修科目

※ 基礎科目のうち、「生物基礎」又は「化学基礎」を1科目選択必修（卒業要件）

※ 学年配当欄において○囲みで表示している科目については、○囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて履修できる科目である。

《基礎・教養科目 基礎科目》

科目名	日本語(読解と表現)	科目ナンバリング	HBAS11001
担当者氏名	安井 重雄		
授業方法	演習	単位・必修	2・必修
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-A コミュニケーション力 基教-E 社会・文化について理解する力 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

大学での学習、就職活動、および日常生活、社会生活などにおいて必要な、漢字・慣用表現・主語と述語・助詞・敬語の用法などの日本語の基礎的知識と表現のあり方を学ぶ。毎回、配布プリントの問題を解いていく演習形式で行い、教員の説明のあと、実際に辞書などを引きながら問題を解いていく。

《テキスト》

授業時に、設問形式のプリントを配布する。

《参考図書》

授業時に、指示する。

《授業の到達目標》

漢字・慣用表現、主語と述語の呼応、適切な助詞の使い方、敬語を適切な用法など、日本語の基本的な表現方法を身につける。それによって、日本語の教養とコミュニケーション能力を高める。

《授業時間外学習》

当日の授業で不明であった点を辞書で調べ、あるいは先生に質問して不審箇所を明らかにしておく。また、次回の授業のプリントを読み、内容を確認しておく。

《成績評価の方法》

10回以上出席しないと単位を与えない。授業時に複数回実施する課題の提出(50%)と定期試験(50%)によって評価する。

《備考》

毎回、設問を解くなどの課題を行うので、国語辞典(電子辞書も可)を必ず持参すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の流れの説明・漢字の書き取り	15回の授業の進行と学習する内容の説明をする。
2	漢字の書き取り・四字熟語	漢字の音読み・訓読みを理解し、同音異義語・同訓異義語を書き分ける。
3	漢字の書き取り・四字熟語	四字熟語には日本文化のエッセンスが凝縮されている。多くの四字熟語を知り、それらを理解する。
4	ことわざ・故事成語	ことわざ・故事成語には、古くから伝わる生活の知恵や社会生活を送る上での教訓が詰まっている。現代にも生きているそれらの表現を学ぶ。
5	慣用句	現代でも、「気がおけない」「悪びれないで」など、よく使われるけれど、間違いやすい慣用句がある。それらの意味と使い方を学ぶ。
6	主語と述語	主語と述語を関係づけて文を理解することにより、正確に文章を読解する。
7	主語と述語	述語には、動詞・形容詞・形容動詞・～ある(ない)などの型があることを学ぶ。
8	修飾語と被修飾語、接続詞と副詞の用法	修飾語を被修飾語に近づけてわかりやすく書くことを学ぶ。文と文、語と語との接続や、副詞による用言の修飾について学ぶ。
9	助詞の用法	「は」と「が」の意味の違い、「に」と「へ」の意味の違いなど、助詞を正しく使い分けることを学ぶ。
10	助詞の用法	「は」と「が」の意味の違い、「に」と「へ」の意味の違いなど、助詞を正しく使い分けることを学ぶ。
11	敬語	尊敬語、謙譲語・、丁寧語、美化語という敬語の5分類について学ぶ。
12	敬語	尊敬語と謙譲語の動詞について学ぶ。
13	敬語	現代では通用しているが、本当は誤った敬語である過剰敬語について学ぶ。
14	敬語	社会的な場における敬語の使い方について学ぶ。
15	授業のまとめ	授業全体について振り返り、授業内容をまとめる。

《基礎・教養科目 基礎科目》

科目名	英語	科目ナンバリング	HBAS11002
担当者氏名	平本 幸治		
授業方法	演習	単位・必修	2・必修
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-A コミュニケーション力 基教-E 社会・文化について理解する力 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

学生生活に密着した英語表現とTOEIC Test形式の練習問題を中心に編集されたテキストを利用して、実際的なコミュニケーション能力を養成します。テキストを着実に読み進み、内容、語義、文法事項、発音などを確認します。CDを用いて音声面の練成を試みます。小テストにより基本的な知識が定着するように努めます。

《テキスト》

『TOEIC Test Fundamentals』クリストファー・ブルスマス他（南雲堂）

《参考図書》

適宜参考となる文献や資料を紹介します。

《授業の到達目標》

日常生活や職場で遭遇する英語による情報を理解でき、実際のコミュニケーションに必要な表現を使いこなせる、実用的な英語を身につけることを目標とします。

《授業時間外学習》

次回の学習範囲の単語や慣用句などの意味を調べ、テキストを精読しておいて下さい。

《成績評価の方法》

期末レポート（50％）、授業中に実施する小テスト（50％）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Unit 1 Campus Life	学生生活を始めるにあたって、友人達との日常会話表現を学ぶ。
2	Unit 2 Homestay	外国のホームステイ先での日常会話表現を学ぶ。
3	Unit 3 Making Friends	学生生活での新しい友人との出会いの日常会話表現を学ぶ。
4	Unit 4 At a Party	パーティーでの日常会話表現を学ぶ。
5	Unit 5 In the Cafeteria	大学内のカフェテリアでの日常会話表現を学ぶ。
6	Unit 6 In the Library	大学内の図書館での日常会話表現を学ぶ。
7	Unit 7 Talking about the Weather	天候に関する日常会話表現を学ぶ。
8	Unit 8 Making Telephone Calls	電話における日常会話表現を学ぶ。
9	Unit 9 Weekend Activities	学生生活の週末の過ごし方に関する日常会話表現を学ぶ。
10	Unit 10 Driving	自動車の運転に関する日常会話表現を学ぶ。
11	Unit 11 At a Bank	銀行の窓口での日常会話表現を学ぶ。
12	Unit 12 Shopping	買い物に関連する日常会話表現を学ぶ。
13	Unit 13 Internet Shopping	インターネットに関連する日常会話表現を学ぶ。
14	Unit 14 At a Photo Shop	写真屋さんでの日常会話表現を学ぶ。
15	Unit 15 At a Campus Bookstore	大学内の本屋さんでの日常会話表現を学ぶ。

《基礎・教養科目 基礎科目》

科目名	英語	科目ナンバリング	HBAS11002
担当者氏名	Michael.H.FOX		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-A コミュニケーション力 基教-E 社会・文化について理解する力 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

日本の英語教育制度の目標は、受験合格に他ならない。大学受験英語は非常に難しく、英語が嫌いと言う学生も多い。しかしながら、受験英語の成績と英会話の能力は一切関係なく、受験英語がどうしてもできないと言う人でも、英会話を修得することができる。このコースの主な特徴は、外国人講師からゆっくりと親切な指導を受け、国際理解と英会話の上達を目指すものである。

《授業の到達目標》

国際理解を深めて、コミュニケーションを重視する。生きている英語を楽しみながら身につける。

《成績評価の方法》

成績評価は、毎回の講義における参加意欲・学力伸張を80パーセント、学期末に行う試験を20パーセントとする。外国語を修得するためには、できるだけその言語を集中して勉強する必要がある。そこで出席を重視する。試験なしの評価もあるのでぜひ精一杯に努力すること。

《テキスト》

教科書『Talk Time Student Book 1』を購買部で購入。先輩から古本を受けることは禁止。

《参考図書》

毎週、英語の曲を聴取し、プリントを配布。

《授業時間外学習》

宿題以外、テレビの広告・電車内のポスター・T-シャツ等の英語をよく注目せよ。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Introduction & Orientation	自己紹介をする
2	Describing People	人を述べる事
3	Everyday Activities	毎日の活動・習慣を喋る
4	Food and Drinks	食べ物と飲み物の話
5	Snacks	スナックの世界
6	Housing	家・住宅をデザインし、話す事
7	Free Time Activities	暇と活動
8	Popular Sports	人気なスポーツは？
9	Life Events	一生の一大事な行事
10	Weekend Plans	週末を過ごす
11	Movies	映画が好きですか？
12	TV Programs	テレビとその番組
13	Health Problems	健康と病気
14	On the telephone	電話の言葉
15	まとめ or 自己評価	まとめ or 自己評価

《基礎・教養科目 基礎科目》

科目名	コンピュータ演習		科目ナンバリング	HBAS11003
担当者氏名	河野 稔			
授業方法	演習	単位・必修	2・必修	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-A コミュニケーション力 基教-B 情報リテラシー（情報処理能力、情報収集・発信力） 基教-G 論理的思考力			

《授業の概要》

大学・短大での学習活動に必要となる「情報リテラシー」、つまりICT（情報通信技術）による情報を活用する能力の修得を目指します。ネットワーク上の情報の活用、文書作成、データ処理、プレゼンテーションなど、ソフトウェアやサービスを利用するための技能を学習します。また、システムの仕組みや機能、情報倫理など、情報社会を生きる上で欠かせない知識も学習します。

《授業の到達目標》

パソコンやインターネットを学生生活の道具として適切に利用できる。
 目的にあわせてソフトウェアやシステムを選択して情報の収集・編集・発表に活用できる。
 ICTを活用して、日々生み出される膨大な情報を判断し、取捨選択できる。

《成績評価の方法》

実習での提出課題（70%）と情報倫理および総合的な演習での提出物（30%）で評価します。

《テキスト》

毎回の授業で、授業内容を説明したプリントを配布します。配布したプリントやその他の資料などは、eラーニングのシステムや授業用のWebサイトで公開します。

《参考図書》

矢野文彦監修(2013)『情報リテラシー教科書 Windows 8/Office 2013対応版』オーム社。
 情報教育学研究会・情報倫理研究グループ編(2013)『（新課程）インターネット社会を生きるための情報倫理』実教出版。その他の文献や資料は、適宜、授業で紹介いたします。

《授業時間外学習》

この科目では復習が重要です。操作や利用方法を次の授業で生かせるように、日ごろからパソコンを利用して練習しておきましょう。とくに、「文書作成」「データ処理」「プレゼンテーション」の実習では『まとめ課題』と『総合的な演習』があります。学習した成果を実践できるように準備しておいてください。

《備考》

学習環境として、2号館のコンピュータ実習室を利用します。また、小テストや課題提出にはeラーニングのシステムを利用します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業全体の説明 / コンピュータ実習室の利用手続き / コンピュータ実習室の利用
2	学内ネットワークシステムの利用	学内システムの利用 / Webメールの利用 / eラーニングの利用
3	インターネット(1)	電子メールによるコミュニケーション
4	インターネット(2)	インターネット上の情報の検索
5	インターネット(3)	ウェブの最新トピック、情報倫理
6	文書作成(1)	レポート形式の文書の作成
7	文書作成(2)	文書のデザインとレイアウト / 文書作成のまとめ課題
8	プレゼンテーション(1)	文字による基本的なプレゼンテーションの作成
9	プレゼンテーション(2)	図やアニメーションを利用したスライドの作成
10	データ処理(1)	表形式データの簡単な処理とグラフ作成
11	データ処理(2)	関数を利用した処理とグラフの活用 / データ処理のまとめ課題
12	総合的な演習(1)	情報倫理を啓発するプレゼンテーションの作成
13	総合的な演習(2)	情報倫理を啓発するプレゼンテーションの作成および提出・公開
14	総合的な演習(3)	プレゼンテーションの相互評価、演習問題の作成
15	総合的な演習(4) / まとめ	相互評価の結果の集計 / 授業全体のふり返り

《基礎・教養科目 基礎科目》

科目名	化学基礎	科目ナンバリング	HBAS31004
担当者氏名	谷口 武、大藤 隆彦		
授業方法	講義	単位・必修	2・選択必修
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-F 自然・健康について理解する力 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

授業期間の2/3を用いて、原子の構造や化学結合、化学反応や分子の状態などについて学び、物質への理解を深めます。その後の1/3の期間で、生命に関連の深い有機化学の基礎について学び、健康・医療・栄養科学を学ぶための導入となる講義を行います。

《授業の到達目標》

大学で健康・医療・栄養の関連分野を学ぶためには、化学の基礎知識が必要となります。化学的な知識があつてこそ、これらの学問の理解を速やかに進め、応用することができると考えます。本講義では、高校で履修する化学と同程度の基本的な知識を、生体成分や栄養成分の知識と密に関連して授業を進めることによって、健康・医療・栄養という各専門分野での勉強が確かな土台の上でおこなえるようにします。

《成績評価の方法》

アチーブメントテストの成績を主とし、この他に授業中に行う小テスト及び受講態度を含めた平常点を加味して総合的に評価します。(アチーブメントテスト70%、平常点30%)

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	原子の構造	物質を構成する原子と、原子を構成する陽子・電子・中性子
2	原子の結合	いろいろな結合 イオン・共有・配位・水素結合
3	溶液の濃度	重量百分率(%)、モル、モル濃度
4	化学反応式	$CH_4 + 2O_2 \rightarrow CO_2 + 2H_2O$ の意味
5	熱化学反応式	ガスコンロ・・・都市ガスを燃やすと熱が出るのは?
6	酸と塩基	酸味の原因、PH
7	酸化・還元	物質が電子を得ること・失うこと
8	水の三態	氷・水・水蒸気、違いはなにか? アチーブメントテスト
9	溶解・浸透圧・コロイド	ナメクジに塩をかけると・・・ コロイドとはなにか?
10	有機化学 有機化合物	炭素を中心とする化学
11	有機化学 官能基の働き	良い匂い・悪い臭い
12	有機化学 糖質・脂質	人間の活動をもたらすエネルギー源
13	有機化学 タンパク質	酵素の働き
14	ビタミン・ミネラル	化学と栄養 この講義全体のポイント再チェック
15	まとめ	学習の総括とアチーブメントテスト

《テキスト》

「化学図録」(数研出版)

《参考図書》

上記のテキストで十分ですが、さらに進んだ化学の学習を望む者には次の書籍を推薦します。
「化学の基礎 化学入門コース1」竹内敬人著(岩波書店)

《授業時間外学習》

授業中に指摘したポイントをしっかり復習し、次回の授業で行う確認テストで満点を目指してください。

《備考》

食品や健康について専門的に学ぶためには化学の基礎知識は不可欠です。この化学基礎講義で、専門分野の勉強の基礎をしっかり築きましょう。化学の予備知識は不要です。

《基礎・教養科目 基礎科目》

科目名	生物基礎	科目ナンバリング	HBAS31005
担当者氏名	市村 豊、立谷 正樹、田中 貞之、田村 淳		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択必修
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-F 自然・健康について理解する力 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

本講義では、毎回の授業ごとに異なるテーマを設けています。特に生体・生命のしくみに関する知識に重点を置いて、まず生物の基本単位である細胞の機能と構造から学習を進め、最後の免疫系の学習に至るまで、全体の授業で生体・生命のしくみの概要を幅広く網羅した内容となっています。

《授業の到達目標》

健康・医療・栄養の専門家を目指す学生に必須となる生物の基礎知識を身につけることを目標としています。今後履修する専門科目の受講に先立って、幅広く生命・生体についての理解を深めるガイダンス的な講義です。

《成績評価の方法》

アチーブメントテストの成績を主とし、この他に授業中に行う小テスト及び平常点を加味して総合的に評価します。
(アチーブメントテスト70%、平常点30%)

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	細胞の構造と機能 細胞膜の性質	細胞は生物の基本単位。 細胞膜は半透膜・・・半透膜はどんな膜？
2	細胞をつくる物質	主役はタンパク質。 生体元素と生体を構成する化合物
3	酵素の機能と性質 体細胞分裂	酵素は働き者。生命現象と化学反応。 遺伝情報の分配。
4	小テスト 呼吸と光合成	生きるにはエネルギーがいる。 細胞がエネルギーを得る仕組み。
5	多様な生殖法 減数分裂	生物は寿命があるが、子孫を残す。生物はどのように増えるのか？ 染色体と遺伝子。遺伝的なバラエティーはどのようにして生まれるか？
6	発生	たった一つの細胞から、複雑な生物体ができるまで。
7	遺伝 メンデルの遺伝の法則	遺伝の基本的なしくみ。
8	遺伝 様々な遺伝・ヒトの遺伝	親の形質の伝わり方。 あなたの耳あかは乾いていますか、湿っていますか？
9	小テスト 核酸の構造と複製	遺伝情報の複製のしくみ。
10	タンパク質の合成	遺伝子からタンパク質へ。転写と翻訳。
11	神経細胞と伝導・伝達のしくみ	体の中の情報ネットワーク。
12	小テスト 血液・肝臓・腎臓の働き	体内の物質の移動・循環。 ものを作り、貯え、分解する化学工場（肝臓）、そして排出する浄化装置（腎臓）。
13	自律神経系と内分泌系	自律神経系はアクセルとブレーキ。内分泌系で持続的な調節。 自律神経とホルモンの連携で体内環境を調節。
14	免疫系	体を外敵から守るしくみ。
15	アチーブメントテスト	学習の総括。評価。

《テキスト》

「新課程版 フォトサイエンス生物図録」
数研出版編集部編（数研出版）

《参考図書》

「タンパク質の一生 生命活動の舞台裏」
永田和宏（岩波新書）
「細胞のはたらきがわかる本」伊藤明夫（岩波ジュニア新書）
「DNAがわかる本」中内光昭（岩波ジュニア新書）
「カラー図説アメリカ版大学生物の教科書」全5巻
グレイグ・H・ヘラー他著（ブルーバックス）

《授業時間外学習》

授業中に指摘したポイントをしっかり復習し、3回行う小テストで満点を目指してください。

《備考》

生物だからこそ必要な栄養と健康。今後履修する栄養や健康の専門分野に関連する生物学上の話題を取り入れながら、広く生物全般にわたる基礎的な知識を習得します。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	宗教と人生	科目ナンバリング	HHUL11001
担当者氏名	本多 彩		
授業方法	講義	単位・必修	2・必修
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

この講義は、まず宗教へ多角的にアプローチすることによって、宗教に対する理解を深めることから始める。この場合の宗教とは、制度化された体系だけを指すのではない。宗教心や宗教性も含んだ広義の宗教である。さらに、いくつかの宗教（とくに仏教）の体系を知ることによって、“価値”や“意味”といった計量化できない問題に取り組む力を養う。兵庫大学の建学の精神と仏教の理念についての学びを深める。

《授業の到達目標》

われわれの日常生活領域に潜むさまざまな宗教のあり方を通して、人間や世界や生や死を考える。自分自身を見つめなおす手掛かりや、異文化や他者理解へのきっかけとしてほしい。さらに現在、社会で起こっている様々な課題を宗教という視点からとらえなおしていく視点を養う。

《成績評価の方法》

受講態度 約30%
 小テスト・レポート 約20%
 定期テスト 約50%
 この3項目で評価する。講義中に質問するのである程度程度の予習・復習が必要となるが、それも「受講態度」として評価する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	宗教とは何か	誤解されがちな宗教について、正の面や負の面、その機能についての理解を目指す
2	宗教の種類	分布や性格によって分けられる宗教の種類を理解することを目指す
3	世界の宗教：諸宗教の価値体系と意味体系	世界の諸宗教がもつ価値観を学び、その多様性の理解を目指す
4	建学の精神	建学の精神である「和」や「睦」の精神を理解し、兵庫大学生としての誇りが持てるよう仏教思想の理解を目指す
5	建学の精神：学内宗教ツアー	学内にある宗教施設をまわり、体験を通して建学の精神についての学びを深めることを目指す
6	キリスト教を知る	キリスト教の歴史や教えの理解を目指す
7	キリスト教を知る	キリスト教が現代社会に与えた影響とユダヤ教について学ぶ
8	イスラームを知る	イスラームの歴史や教えの理解を目指す
9	イスラームを知る	イスラームの広がりやムスリムの生活についての理解を目指す
10	仏教を知る	建学の精神の基盤でもある仏教について、釈尊の生涯とその教えを理解することを目指す
11	仏教を知る	仏教の伝播と仏教が人間や社会とのかかわりをどのように考えてきたのかを学ぶ
12	仏教を知る	日本に伝来した仏教とその展開について学ぶ
13	日本の仏教を知る	身近にある日本仏教の特性を理解することを目指す 建学の精神と関連の深い仏教の教えについて理解を目指す
14	日本の仏教を知る	仏教を中心に、日本宗教の特性を理解することを目指す
15	建学の精神	建学の精神と仏教について理解を深め自ら考える

《テキスト》

特定のテキストは使わない。講義時に配布するプリントを中心に進める。

《参考図書》

講義内で適宜紹介する。

《授業時間外学習》

学内で行われる宗教行事への積極的な参加
 定例礼拝 毎週水曜日 12時15分～
 宗教セミナー
 宗教ツアー
 花まつり法要 など

《備考》

身の回りの「宗教的なもの」をさがしてみよう。
 仏教の本を読んでみよう。

科目名	生命倫理学	科目ナンバリング	HHUL11002
担当者氏名	古庄 匡義		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-F 自然・健康について理解する力		

《授業の概要》

近年格段に進歩した生命科学や医療技術は、一方で私たちの生命の質を大幅に向上させましたが、他方で生や死、人間、家族などに関するこれまでの考え方を根底から揺るがしています。今後、科学技術の一層の進歩が見込まれる中で、私たち自身の生命についてどのように考えていけばよいかを、生命倫理学の立場から検討していきます。

《授業の到達目標》

- (1)生命倫理学の主要概念を説明できる。
- (2)倫理学の考え方をを用いて、生命倫理の具体的な問題を分析することができる。

《成績評価の方法》

- (1)授業中に作成するミニ・レポート(50%)
 - (2)学期末の試験(持ち込み不可、50%)
- ただし、授業の出席回数が授業実施回数の2/3を満たしていない場合は、定期試験の受験資格はありません。

《テキスト》

毎回配布するレジユメや資料を用いて授業を行います。

《参考図書》

田上孝一『本当にわかる倫理学』日本実業出版社、2010年；三井美奈『安楽死のできる国』新潮新書、2003年；E・キューブラー・ロス『死ぬ瞬間』中公文庫、2001年；村上喜良『基礎から学ぶ生命倫理学』勁草書房、2008年；F・ブルジェール『ケアの倫理』白水社、2014年；赤林朗『入門・医療倫理』勁草書房、2005・2007年。

《授業時間外学習》

授業に関連する小説や映画などの紹介も行いますので、気になった作品を鑑賞し、授業内容を参考にしつつ、その作品に関する自分の考えをまとめておいてください。学期中に、参考図書を少なくとも1冊読み通してください。

《備考》

受講者の関心に合わせて、講義で取り扱う学習内容や順序を適宜変更することがあります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	この授業の進め方を説明する。倫理学がどのような学問なのかを理解する。
2	生命倫理学とは何か	医療資源の配分の問題を取り上げながら、生命倫理学がどのような考え方に基づいて、何を考察しているのかを理解する。
3	医療倫理の4原則	臓器移植などを例に、医療現場における倫理問題を考えるときの指針となる「医療倫理の4原則」を理解する。
4	自己決定権	現代の生命倫理学において重視されている「自律の尊重」と、それに対立する「パターナリズム」について理解する。
5	インフォームドコンセント	過去の事例を分析しながら、インフォームドコンセントの重要性と課題を理解する。
6	安楽死・尊厳死(1)	さまざまな事例をもとに、安楽死と尊厳死を2つの視点から分類して理解する。
7	安楽死・尊厳死(2)	海外と日本の安楽死の実情を把握し、各国が安楽死をめぐる抱えている問題を理解する。
8	人工妊娠中絶と出生前診断(1)	日本における人工妊娠中絶をめぐる状況や歴史的経緯を把握し、生命の尊厳や女性の自己決定権について理解する。
9	人工妊娠中絶と出生前診断(2)	出生前診断の発達によって生じてきた選択的人工妊娠中絶の問題を把握し、パーソン論の議論を理解する。
10	人工生殖技術(1)	人工生殖技術や生殖ビジネスの発展がもたらした現実を把握する。
11	人工生殖技術(2)	人工生殖技術が人間の生や家族について再考を迫っていることを理解し、これからの人間や家族のあり方を考える。
12	脳死と臓器移植	脳死や臓器移植に関するこれまでの議論を把握し、死を定義することの困難さを理解する。
13	ターミナルケア(1)	終末期におけるターミナルケアの方法や現状を把握し、終末期ケアの課題を理解する。
14	ターミナルケア(2)	終末期医療を例として、ケアの倫理の立場から生命倫理の考え方を再考する。
15	まとめ	これまでの授業内容を振り返りつつ、理解不十分な箇所がないか確認する。

科目名	哲学	科目ナンバリング	HHUL11003
担当者氏名	三浦 摩美		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

哲学は、言語活動を通して概念的に把握しようとする知的営みである。講義では、原因や根拠の探求として開かれた古代ギリシャの哲学から近代哲学までの間に提出された哲学上のいくつかの問題について概観しつつ、哲学とは何かについて理解できるようにする。また、哲学的真理の探究者である人間の認識の働きと言語の関係について、さらに、行為と言語の関係について、現代哲学のテーマをもとに考察したい。

《授業の到達目標》

- ・「哲学」とはどのような知的営みであるかについて理解できるようにする。
- ・人間が持ち得る「知識」の成り立ちについて、分析的に把握できるようにするとともに、心身問題や思考と言語の関係といった哲学的問題について理解できるようにする。
- ・粘り強く考察できるようにする。

《成績評価の方法》

平常の課題レポート（60%）および学期末のレポート（40%）で評価する。

《テキスト》

板書を中心とした講義を行う。

《参考図書》

適宜紹介する。

《授業時間外学習》

- ・授業で紹介する哲学者の思想について復習するとともに、参考図書や各哲学者の著作に触れてみることでさらに理解を深めるように努める。
- ・レポートをまとめる。

《備考》

- ・提出するレポートは必ずホッチキス止めをすること。
- ・その他受講上必要な注意事項については、最初の授業およびその都度授業内で伝達する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	～哲学への誘い～ 哲学とは何か	ガイダンス 「哲学」の創始および定義
2	哲学とは何か	古代自然哲学から近代の知識論へ
3	「知識」に関する自然主義と反自然主義	人間が何かについて「知る」ということについての2つの異なる態度
4	「知識」とは何か	「知識」とは何であり、どのようにして成立するのか
5	「知識」の二つのあり方について	ア・プリオリな知識とア・ポステリオリな知識
6	ア・プリオリな知識の問題	知識論におけるプラトニズムおよび心理主義の問題
7	ア・プリオリな知識の問題	知識論における規約主義の問題
8	ア・ポステリオリな知識の問題	知識論における素朴实在論の問題
9	ア・ポステリオリな知識の問題	知識論における表象主義的实在論の問題
10	ア・ポステリオリな知識の問題	知識論における観念論と科学的实在論の問題
11	ア・ポステリオリな知識の問題	知識論における基礎付け主義の問題
12	ア・ポステリオリな知識の問題	知識論と整合説の問題
13	心身問題における自然主義と反自然主義	心の現象と志向性の問題
14	心身問題における異なる立場	心身問題における随伴現象説、同一説および機能主義の問題
15	まとめ	これまでの議論の特徴について

科目名	文学	科目ナンバリング	HHUL11004
担当者氏名	安井 重雄		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

古典文学について講義し、「古典」とは何かを考える。日本の古典文学作品は数百年、あるいは千年以上もの間読み継がれてきている。なぜその作品が現代まで残り、「古典」となるのか。「古典」とはただ古い作品ということではない。授業では、いくつかの作品を取り上げて少しずつ読みながら、テーマや構想、文章、また作者と制作された時代について説明し、如上の問題を考える。

《授業の到達目標》

文学作品の言葉を読み解き、作品のテーマについて考え、また作者と時代について考えること。および、そのことによって文学および「古典」について深く理解することを目指す。

《成績評価の方法》

10回以上出席しないと単位を与えない。その上で、授業時に提出する課題やレポートによる平常点(40%)、及び、定期試験(60%)によって評価する。

《テキスト》

毎回、プリントを配布する。

《参考図書》

授業中に指示する。

《授業時間外学習》

配布したプリントを熟読しておくこと。分からない言葉は辞書を引いて確認しておくこと。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	全体の授業の流れの説明	15回の授業でどのような作品を扱うか、どのように授業を進めるかを説明する。
2	『万葉集』を読む	最古の歌集である『万葉集』は8世紀半ばに成立した。内容は、宮廷を中心としたもの、防人や東歌など労働に関するものなどさまざまである。その歌を考える。
3	『古今和歌集』を読む	905年に成立し、和歌を春夏秋冬に分類して日本の四季の認識を確立するなど以降の文学や人間生活に大きな影響を及ぼした作品である。その歌を考える。
4	『伊勢物語』を読む	主人公在原業平が東国に下ったり、高貴な女性を盗んだりなど、当時としては驚かされる行動をとる。すべての章段に和歌がある物語であり、歌をめぐる面白さを読む。
5	『源氏物語』を読む	『源氏物語』第一部・第二部の、主人公光源氏の女性たちとの恋愛、またさまざまな困難を乗り越えて栄華に至り、さらに死を迎えるまでの物語を読む。
6	『源氏物語』を読む	『源氏物語』第三部の、光源氏死後、その子薫と孫匂宮が宇治を舞台として浮舟など女性たちをめぐる争い、恋のはかなさを認識するに至る物語を読む。
7	『新古今和歌集』を読む	最高権力者後鳥羽院が自ら撰集した勅撰和歌集である。藤原定家らの歌は、古典和歌との関係によって制作され、古典とは何かを考えさせる。
8	『方丈記』を読む	鴨長明作『方丈記』は無常をテーマとして災害の記述で有名である。災害は住居の破壊に繋がる。住居とはどうあるべきかを語る長明の思考について考える。
9	『愚管抄』を読む	著者慈円は撰家出身である。時代は鎌倉幕府を無視できない歴史の転換期にきている。そのとき貴族は歴史をどのように捉えるのか、考える。
10	『宇治拾遺物語』を読む	文学の担い手は貴族層から、武士や庶民に広がっていく。優雅さだけが価値ではなく、時代は俗を取り込み変化する。貴族文学とは異なる美意識や価値観について考える。
11	『奥の細道』を読む	江戸時代に入り、平和が訪れ、安全な旅が可能になる。松尾芭蕉の旅を追いながら、誹諧と紀行について考える。
12	『五輪書』『葉隠』を読む	『五輪書』は宮本武蔵が兵法の極意について語ったもの、『葉隠』は鍋島藩士山本常朝が、理想的武士像について説いたものである。江戸時代の武士について考える。
13	『雨月物語』を読む	江戸時代に書かれた上田秋成作の怪異小説を二回に分けて読む。恐怖の中にも人間を見つめたテーマ設定がなされている。この回は「白峯」「菊花の契り」を読む。
14	『雨月物語』を読む	女性や異類を主人公とした怪異譚である、「吉備津の釜」「蛇性の姪」を読む。
15	授業のまとめ	授業で取り上げた古典文学についてふりかえり、「古典」とは何かについて考える。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	芸術	科目ナンバリング	HHUL11005
担当者氏名	柳楽 節子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

日本の美術を知ることは、日本について考えることでもあります。この講義では、現代美術作家の紹介とともに日本美術の歴史をたどりながら、日本美術の特質とは何か、過去に存在したものと現在あるものがどのような関連性をもっているか、について探ります。実物の資料をはじめ、視聴覚資料を多く提示し、受講生が日本美術の面白さを発見する手がかりとなる授業をめざします。

《授業の到達目標》

日常生活にある行事や習慣のなかに日本の美を見出すことができる。日本の文化について広く関心を持ち、自ら学ぶことができる。芸術全般を楽しむことができる。

《成績評価の方法》

日本美術及びそれに関連する内容をテーマとしたレポートの提出（100%）により評価します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	担当教員自己紹介 授業内容説明	教員の版画制作の経験と日本美術との関連性について聞くとともに、授業のこれからのありかたと計画の説明を理解する。
2	現代の美術作家紹介-1	現代の美術作家を知り、作品を鑑賞しながら、過去の日本美術及び西洋美術との関連性を理解する。
3	現代の美術作家紹介-2	現代の美術作家を知り、作品を鑑賞しながら、過去の日本美術及び西洋美術との関連性を理解する。
4	現代の美術作家紹介-3	現代の美術作家を知り、作品を鑑賞しながら、過去の日本美術及び西洋美術との関連性を理解する。
5	現代の美術作家紹介-4	現代の美術作家を知り、作品を鑑賞しながら、過去の日本美術及び西洋美術との関連性を理解する。
6	現代の美術作家紹介-5	現代の美術作家を知り、作品を鑑賞しながら、過去の日本美術及び西洋美術との関連性を理解する。
7	日本人の信仰	自然崇拜 神道 仏教が美術に及ぼした影響を知り、日常生活にあるしきたりや習慣のなかにある日本の美を発見することができる。
8	仏教美術-1	仏教伝来から天平時代までの仏像を中心に鑑賞し、中国から朝鮮を経て日本に伝えられた仏像が、日本に定着していく過程の変化と魅力を感じ取ることができる。
9	仏教美術-2	平安時代の密教と鎌倉時代の禅宗について知り、それぞれに大きく異なる仏教信仰のありかたと、美術への表れを、鑑賞から感じ取ることができる。
10	日本の美術-1	日本の絵画を中心に鑑賞し、社会状況との関連性を把握するとともに、時代ごとに異なる美を感じ取ることができる。倭絵 水墨画
11	日本の美術-2	日本の絵画を中心に鑑賞し、社会状況との関連性を把握するとともに、時代ごとに異なる美を感じ取ることができる。狩野派 等伯
12	日本の美術-3	日本の絵画を中心に鑑賞し、社会状況との関連性を把握するとともに、時代ごとに異なる美を感じ取ることができる。琳派
13	日本の美術-4	日本の絵画を中心に鑑賞し、社会状況との関連性を把握するとともに、時代ごとに異なる美を感じ取ることができる。奇想の絵師
14	日本の美術-5	日本の絵画を中心に鑑賞し、社会状況との関連性を把握するとともに、時代ごとに異なる美を感じ取ることができる。浮世絵
15	日本の美術-6	日本美術の特質について、そのいくつかをイメージすることができる。

《テキスト》

なし。

《参考図書》

『日本美術の特質』矢代幸雄（岩波書店）他

《授業時間外学習》

各授業時に所定の内容を指示します。

《備考》

レポートの作成と提出の要領については、12月中旬の授業時に連絡する予定です。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	芸術	科目ナンバリング	HHUL11005
担当者氏名	岩見 健二		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

人は何故創作活動をするのか[芸術]とは何なのかを、画家一人一人に焦点をあてその創作の過程・時代との係わりなどを探りながら、解き明かしていく

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する

《参考図書》

授業中に随時紹介

《授業の到達目標》

1. 画家それぞれの内面を探ることにより創造のすばらしさや厳しさを知り、芸術の存在意義を理解する事が出来る。
2. 芸術的感性を養う

《授業時間外学習》

毎回学習した作家について、各自でより深く調べておく事。

《成績評価の方法》

- ・ 課題レポート (100%)

《備考》

特になし

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	学習の内容・目的を理解する。
2	佐伯祐三とブラマンク	大正時代末期パリで制作し、死した佐伯祐三の人生を辿る事により、絵を描く意味を理解することができる。
3	古代 ルネッサンス	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
4	ルネッサンス 印象派	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
5	印象派 現代	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
6	ジョット	中世の象徴主義を打破したジョットの制作意図について理解することができる。
7	ヴェロネーゼ	宗教と画家との関係及び相克について理解することができる。
8	カラヴァッジョ	リアルとは何かを理解することができる。
9	ハルスとレンブラント	市民と画家との関係について理解することができる。
10	ゴヤ	ゴヤの人間洞察の深さについて理解することができる。
11	ダヴィッド・アングル・ドラクロア	政治と画家との関係について理解することができる。
12	クールベとマネ	ロマン主義・写実主義など、印象派以前の画家の絵画的主張について理解することができる
13	モネとセザンヌ	印象派の絵画理論について理解することができる。
14	エゴン・シーレ	人間存在の核心に触れるシーレの絵画を理解することができる。
15	岩見健二	自信と責任を持って表現する事の大切さを理解することができる

科目名	心理学	科目ナンバリング	HHUL11006
担当者氏名	北島 律之		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

人間を理解すること、とりわけ「心」について理解することは、社会において適応的な生活を行う上でとても重要です。本授業では、心の学問である心理学の科学的な考え方に基づき、これまでにわかっている知見を整理し、人間の心の多様性を理解します。プロジェクトにより図や映像を多く示すとともに、簡単にできる実験的観察を取り入れながら説明を行い、視覚的、体験的理解を重視します。

《授業の到達目標》

「心理学」にはどのような領域があるか類別できる。
 種々のデータを基に、心を科学的な視点から説明できる。
 心に関する共通的な性質と個人差を説明できる。

《成績評価の方法》

ペーパーテスト80%，レポート・小テストなど10%，受講態度10%

《テキスト》

『図説心理学入門 第2版』齋藤勇(編)/誠信書房

《参考図書》

『心理学』無藤隆, 森敏昭, 遠藤由美, 玉瀬耕治/有斐閣
 (より深く勉強したい人向き)

『イラストレート心理学入門』齋藤勇/誠信書房
 (内容が難しすぎると感じる人向き)

《授業時間外学習》

・予習の方法：下の授業計画にはテキストの該当する箇所を記載しています。読んでおくようにしてください。この段階では必ずしも内容を理解できている必要はありません。前もって内容を意識することが大切です。
 ・復習の方法：授業中に整理するプリントを中心に復習してください。

《備考》

・心理学を学ぶには、日頃から自分の心や他人の行動について関心をもつことが大切です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	心理学とはどんな学問なの？	心の科学的な考え方や心理学の各分野について《序章 §1~9》
2	情報、入ります(知覚)	情報の入り口である知覚が成立するまでの流れ《第1章 §1~2, §6~7》
3	覚えているって、どういつこと？(記憶)	記憶過程と記憶の分類 各記憶の特徴《第3章 §4》
4	どうやって、学んでいくのだろう？(学習)	学習についての基本的な考え方 条件づけやモデリング《第3章 §1》
5	笑ったり怒ったり(感情)	喜怒哀楽に関する科学的な見方《第2章 §5~9》
6	いつも何かを望む(欲求とフラストレーション)	欲求の分類 各欲求の性質《第2章 §1~3》
7	いつも何かを望む(欲求とフラストレーション)	欲求の階層 思うようにいかないときの行動《第2章 §2~4》
8	君って、どんな人？(性格)	性格の基本的考え方 類型論と特性論
9	君って、どんな人？(性格)	性格テストの体験 生得説と経験説《第4章 §1, 第5章》
10	私たちは大人になってきた(発達)	生涯にわたる心の発達 エリクソンの発達段階《第4章 §2~3》
11	あの人が、きつこうなんだ(社会的認知)	ステレオタイプ 原因帰属 印象形成《第6章 §1~2》
12	人が周りにいるから(社会的影響)	説得や無言の圧力に関する効果《第6章 §4》
13	無意識って何だろう？(無意識と深層の心理)	無意識に関するいくつかの理論・心理療法《第5章 §4, 第8章》
14	心理学アラカルト	身近にある心理学の様々なテーマ
15	心理学はどんな学問か？(まとめ)	「心の共通性」と「心の多様性」を基にした心理学の理解。

科目名	仏教と現代社会		科目ナンバリング	HHUL11007	
担当者氏名	本多 彩				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 基教-E 社会・文化について理解する力				

《授業の概要》

宗教研究は民俗学や人類学や社会学など多くの領域とも関連する学際的性格をもつ。我々の周りを観察すると、いかに仏教が生活や思想に関わっているかに気付くだろう。講義では幅広く仏教文化を解説する。そして仏教と人間、グローバル社会、生と死、医療、環境についての理解を深める。現代社会や文化を通して仏教を学び、他者理解、異文化理解につなげるとともに自分自身を見つめるきっかけとしてほしい。

《授業の到達目標》

比較文化の視点を学んだうえで身近な宗教について考える
 現代仏教についての理解をめざす
 仏教と社会の関係から仏教が社会問題などにどう向き合ってきたかについての理解をめざす
 浄土系仏教と環境問題、社会問題についての理解をめざす

《成績評価の方法》

受講態度 約30%
 小テスト・レポート 約25%
 期末プロジェクト 約45%
 この3項目で評価する。講義中に質問するのである程度の手習・復習が必要となるが、それも「受講態度」として評価する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	宗教文化と社会の多様性	宗教と文化の関係について学び多様な宗教文化についての理解をめざす
2	宗教の理念とその影響	基本となる教えについての理解をめざし社会や文化への影響について学ぶ
3	仏教・仏教文化の概説	仏教の基礎と仏教が育んできた文化についての理解をめざす
4	仏教・仏教文化の概説	仏教の基礎と仏教が育んできた文化についての理解をめざす
5	現代日本の仏教文化	現代の日本文化を取りあげて仏教の与えた影響を理解することをめざす
6	現代社会における仏教	社会を読み解くカギとして仏教を学び両者の関係を理解することをめざす
7	現代社会における仏教	社会で起きている問題について仏教からのアプローチを学ぶ
8	仏教と社会	現代日本社会における仏教や仏教施設と人々との関わりについて学ぶ
9	浄土仏教の展開と日本浄土仏教	浄土仏教の教えの源泉とその展開について学ぶ
10	現代社会と浄土仏教	社会で起きている問題について浄土仏教の理解を学ぶ
11	宗教多元世界と仏教	海外でみられる仏教の広がりについて学ぶ
12	宗教多元世界と仏教	海外で展開される仏教と日本仏教について理解する
13	宗教多元世界と仏教	グローバル社会における日本仏教と教えについて学ぶ
14	仏教の生命観	仏教の死生観についての理解をめざす
15	仏教の生命観	仏教の死生観についての理解をめざす

《テキスト》

特定のテキストは使わない。講義時に配布するプリントを中心に進める。

《参考図書》

講義内で適宜紹介する。

《授業時間外学習》

学内で行われる宗教行事への積極的な参加
 定例礼拝 毎週水曜日 12時15分～
 宗教セミナー
 宗教ツアー
 花まつり法要 など

《備考》

科目名	国際理解と宗教 (キリスト教)		科目ナンバリング	HHUL11008
担当者氏名	根川 幸男			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 基教-E 社会・文化について理解する力			

《授業の概要》

本講義では、キリスト教の教義、歴史、現在、キリスト者などについて学ぶとともに、それを通じて国際理解を深める。キリスト教をめぐるさまざまな事柄を手がかりに、教師と学生がコミュニケーションを深めながら、自分たちの人生や将来、それを取りまく世界や社会、文化、人間関係などについて考える。

《授業の到達目標》

- *キリスト教について学ぶことによって、世界の歴史や国際関係、人間関係について理解できるようになる。
- *キリスト教について学ぶことによって、自分たちと異なる地域や集団の人々の文化や生き方が理解できるようになる。
- *復習シートやレポート作成を通じて、自覚的にテーマを選び、資料を探し、考え、発信する能力を獲得する。

《成績評価の方法》

- *毎回の講義後に提出する復習シート(40%)と期末レポート(40%)、授業参加態度(20%)を合算して評価する。
- *授業の性格上、講義を聞き、教師とコミュニケーションすることが大切です。

《テキスト》

講義の際に適宜資料を配布する。

《参考図書》

- 『よくわかるキリスト教』土井かおる著(PHP研究所)2004、
- 『ふしぎなキリスト教』橋爪大三郎X大澤真幸(講談社現代新書)2011、
- 『岩波キリスト教辞典』大貫隆他編(岩波書店)2002

《授業時間外学習》

- *その日の復習シートと質問(400字程度)をまとめ、次回の授業に提出する。用紙は授業ごとに配布する。
- *キリスト教の正典である聖書にふれておく。
- *配布資料が散在しないように整理しておく。
- *新聞・雑誌等でキリスト教に関する記事があれば目を通し、できればコメント付きのコピーを提出

《備考》

- *授業進行は概ね授業計画に拠るが、学生の理解度やニーズに応じて変更していく。
- *携帯電話・メール使用、食事の禁止

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	何のためにキリスト教について学ぶのか? 講義の目的とシラバスの説明。履修学生のキリスト教との関わり、イメージについて問う。
2	国際問題と宗教1	宗教対立や民族対立、環境問題、人口問題など国際問題を取り上げつつ、人間社会とキリスト教をはじめとする宗教との関係を読み解いていく。
3	国際問題と宗教2	宗教対立や民族対立、環境問題、人口問題など国際問題を取り上げつつ、人間社会とキリスト教をはじめとする宗教との関係を読み解いていく。
4	聖書の世界観・人間観1	旧約聖書の物語を追いながら、ユダヤ・キリスト教の世界観・人間観を読み解いていく。
5	聖書の世界観・人間観2	新約聖書、特に福音書に書かれた物語を追いながら、イエスの生涯と教えを読み解いていく。
6	聖書の世界観・人間観3	新約聖書、特に福音書に書かれた物語を追いながら、イエスの生涯と教えを読み解いていく。
7	キリスト教の歴史1	イエスと彼の弟子たちによるキリスト教の成立からローマ帝国での国教化、東西教会の分裂とイスラム教との接触を概観する。
8	キリスト教の歴史2	宗教改革による旧教と新教の分裂、キリスト教会の変容・再編成、日本への伝道を世界的視野で概観する。
9	キリスト教の歴史3	近現代におけるキリスト教の歴史と変遷、位置づけについて学び、その影響について考える。レポートのテーマ中間発表。
10	キリスト教と文化・芸術	キリスト教と西洋の文化・芸術について概観し、それが非西洋、特に日本の文化・芸術とどのように交渉をもったのかについて学ぶ。レポートのテーマ中間発表。
11	キリスト教と国際人口移動1	大航海時代以降の歴史を、宗教改革とキリスト教伝道の観点から読み解き、自分たちの生活との関係を考えてみる。レポートのテーマ中間発表。
12	キリスト教と国際人口移動2	19~20世紀の人口移動をキリスト教の観点から読み解き、日本人の海外移民も含めて、自分たちの生活との関係を考えてみる。レポートのアウトライン発表。
13	キリスト教と日本	日本に伝わったキリスト教がどのような影響を与えたのかを時系列的に概観し、自分たちの生活とどう関係しているのかを考える。レポートのアウトライン発表。
14	キリスト教の現在	生命、ジェンダー、中絶、同性愛、戦争、環境問題など、現代社会が抱えている問題を取り上げ、キリスト教との関係で読み解き、考える。
15	まとめとふりかえり	今まで学習してきたことをふりかえり、キリスト教がどのような宗教であり、自分たちとどう関わっているか、また国際理解をどのように深めていけばよいのかを整理する。

科目名	国際理解と宗教 (イスラム教)		科目ナンバリング	HHUL11009
担当者氏名	重親 知左子			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
				1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 基教-E 社会・文化について理解する力			

《授業の概要》

世界におけるムスリム（イスラム教徒）の数は約16億人、総人口の1/5以上を占める。ムスリム訪日人数や国内のモスク（イスラムの礼拝所）も増加している。この授業を通してイスラムに関心を持ち、激動期に入ったイスラムをめぐる内外の情勢への理解を深めることを目的とする。日本とイスラムの関係史にも触れる。授業においては毎回VTRを視聴し、新聞記事等も利用して、具体的なイメージの把握に役立てたい。

《授業の到達目標》

- ・イスラムの基本的な信仰内容と信仰行為を説明できる。
- ・イスラムにおける日常生活の規範について説明できる。
- ・政治経済面からイスラムに関わる国際問題を把握できる。
- ・日本におけるイスラムをめぐる歴史と現状を把握できる。
- ・イスラムに関わるニュースについて主体的に考えることができる。

《成績評価の方法》

- ・全授業終了後に課すレポート(60%)と、VTR視聴ごとに課すレポート(40%)で評価する。
- ・レポートの提出遅れについては減点する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	世界と日本のイスラム	今日のイスラムをめぐる世界情勢を概観するとともに、日本におけるイスラムの現状を把握する。
2	イスラムの成立と発展	イスラムの成立した状況とその後の発展、また「スンナ派とシーア派」について学ぶ。
3	イスラムの基本的信仰内容(1)	イスラムの根本原理とともに、基本的信仰内容である「アッラー」「預言者」「天使」について学ぶ。
4	イスラムの基本的信仰内容(2)	基本的信仰内容である「啓典」「来世」「運命」について学ぶ。
5	イスラムの信仰行為(1)	信仰行為である「信仰告白」「礼拝」「喜捨」について学ぶ。
6	イスラムの信仰行為(2)	信仰行為である「断食」「巡礼」について学ぶ。
7	日常生活の中のイスラム(1)	飲食におけるイスラムの規範について学ぶ。
8	日常生活の中のイスラム(2)	服装におけるイスラムの規範について学ぶと同時に、イスラム社会における女性をめぐる状況について考察する。
9	日常生活の中のイスラム(3)	結婚、葬礼におけるイスラムの規範について学ぶ。
10	日常生活の中のイスラム(4)	離婚、遺産相続、血縁関係におけるイスラムの規範について学ぶ。
11	イスラム圏の映画鑑賞	イスラム圏の映画を鑑賞し、その生活様式や価値観に触れる機会を持つ。
12	国際理解とイスラム(1)	経済面からイスラム金融について、社会面からイスラム暦について学ぶ。
13	国際理解とイスラム(2)	政治面から近現代史を中心に、帝国主義によるイスラム世界の衰退とその影響について考察する。
14	日本とイスラム(1)	奈良時代から江戸時代における日本とイスラム圏の関係を、歴史的に検証する。
15	日本とイスラム(2)	明治時代から現在に至る日本とイスラム圏の関係を、歴史的に検証する。

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配付する。

《参考図書》

白杵陽『世界史の中のパレスチナ問題』講談社、2013/小杉泰・長岡慎介『イスラムを知る12 イスラム銀行』山川出版社、2010/ 杉田英明『日本人の中東発見 逆遠近法のなかの比較文化史』東京大学出版会、1995/辻上奈美江『イスラム世界のジェンダー秩序』明石書店、2014/樋口真人他『国境を越える 滞日ムスリム移民の社会学』青弓社、2007

《授業時間外学習》

- ・授業計画を参照し、次回の授業範囲を参考文献等により予習する。
- ・授業内容を復習し、不明な点は質問もしくは自分で調べる。
- ・イスラムに関する内外のニュースをチェック、考察する。
- ・可能な範囲でイスラムと接点を持つ（例：モスク見学）。

《備考》

- ・私語をはじめ、他の受講者の迷惑になる行為は慎むこと。
- ・第一回講義にて、連絡用のメールアドレスを知らせます。

科目名	色彩とデザイン	科目ナンバリング	HHUL11010
担当者氏名	浜島 成嘉、稲富 恭		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

「デザイン」とは技術、芸術、経済にまたがる複合的な生産物、生産行動を表す。文化的な成熟期に入った現代社会において、デザインに関する知識は分野を問わず非常に重要性を増している。本講義においては、まずデザインを色彩、かたち、素材の側面から考察し、さらにデザインの様々な分野について理解する。

《授業の到達目標》

- ・一般教養としてのデザインに関する知識を身につける。
- ・色、かたち、素材に関する基礎的な知識を身につける。
- ・社会とデザインの関わりについて理解する。
- ・デザインを分析的に理解する能力を身につける。

《成績評価の方法》

毎回の授業で示されるレポート、課題(70%)、及び、学期末レポート(30%)によって評価する。授業ノートの提出が必要である。

《テキスト》

テキストは使用しないが、「新配色カード129a」日本色研事業(株)(<参考>¥500程度)の購入が必要である。

《参考図書》

- ・『生活と色彩』(朝倉書店)
- ・『カラーコーディネーター入門・色彩』(日本色研事業)
- ・『世界デザイン史』(美術出版社)

《授業時間外学習》

- ・予習の方法:シラバスに従い、事前に文献、雑誌、インターネット等を利用して基礎的な用語、知識を調査する。
- ・復習の方法:授業中に指示された課題を行う。授業後は授業内容に従い、授業ノートを制作する。
- ・学期末レポート:「学期末レポート」の執筆を行う。課題は第11週(予定)に提示する。

《備考》

出欠規準については「栄養マネジメント学科」の申し合わせを用いる。出欠管理端末を利用するため、学生証の持参が必要である。授業態度によって出席確認を取り消す場合がある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス、デザインの基礎(1):色 色の知覚	色彩は光が眼球に入り、それが網膜の視細胞により生じた刺激が、大脳に伝達され最終的には脳で感じているという色知覚について学ぶ。(担当:浜島)
2	デザインの基礎(2):色色の表示	色彩学の基礎である色の三属性を基に、各国のカラースステムの違いについて説明する。(担当:浜島)
3	デザインの基礎(3):色配色調和	色の調和の歴史、配色調和の基本原則を学び、それによって配色を考える。イメージを基に色相、トーンで美しく調和を得る方法を解説する。(担当:浜島)
4	デザインの基礎(4):かたち	「かたち」について、比例、プロポーション、シンメトリーといった幾何学的側面から解説する。(担当:稲富)
5	デザインの基礎(5):素材	「素材」について椅子を分析対象として、材料、質感、科学技術の発展、機能といった点から多面的に解説する。(担当:稲富)
6	デザインの基礎(6):デザインの歴史	19世紀以降のデザインの歴史(アーツ・アンド・クラフツ~モダニズム)について概観し、近代国家の成立と工業化の影響について考察する。(担当:稲富)
7	デザインの各分野(1):グラフィック	ポスター、広告、パッケージのデザインについて解説する。(担当:浜島)
8	デザインの各分野(2):映像デザイン	映画・ドラマを対象に、映像作品の内容・形式・撮影技法について分析的に理解する。(担当:稲富)
9	デザインの各分野(3):建築	建築・インテリアを取り上げ、「実用的価値」、「美的価値」、「社会的価値」の表現について考察する。(担当:稲富)
10	デザインの各分野(4):ファッション	19世紀後半以降のファッションを取り上げ、デザインと色彩の関わりを中心に解説する。(担当:浜島)
11	デザインの各分野(5):ファッション	20世紀のファッション(ポール・ポワレ~コムデギャルソン)を取り上げ、社会の大衆化に伴うデザインの変遷について考察する。(担当:稲富)
12	デザインの各分野(6):都市	造形物としての都市に注目し、その発生要因と社会の状況について解説する。サステイナブルな都市のあり方について考察する。(担当:稲富)
13	デザインと社会(1):社会体制とデザイン	アメリカ、南欧、北欧のプロダクトデザインを例に、国家の社会体制とデザインの関係について考察する。(担当:稲富)
14	デザインと社会(2):和風のデザイン	建築、茶、生け花、書画等における真行草の概念について考察し、和風デザインの歴史的な系譜について理解する。(担当:稲富)
15	課題の発表と講評	学期末レポートのプレゼンテーション、および講評を実施する。(担当:浜島、稲富)

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	法と社会	科目ナンバリング	HSOL21011
担当者氏名	豊福 一		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-E 社会・文化について理解する力 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

現在の日本社会において生活するうえで、法との関わりは避けて通ることのできないものである。そこで、日常生活と密接に関係すると思われる法制度について、その概略を紹介し、基礎的な法律知識への理解を深める。

《テキスト》

特に指定しない。

《参考図書》

授業中、適宜紹介する。

《授業の到達目標》

日常生活において目にしたり、耳にしたりする法律用語、あるいは遭遇した法律问题やトラブルにおいて、その最低限の意味を理解できるようになること。

《授業時間外学習》

予習は不要であるが、授業内容の性質上、講義を聞くことによって初めて知識を得ることができるので、積極的に出席するように。

《成績評価の方法》

レポート課題の提出 (100%)

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	法と社会の関わり	日本の法制度の概略について理解し、今後の授業の流れも理解する。
2	土地・建物の賃貸借契約	賃貸借契約の内容、土地や建物を賃貸借する際に決めておくべきことやその注意点について理解する。
3	クレジット・キャッシング	クレジットカードやキャッシュカードを利用した金銭のやり取りに関する法律関係について理解する。
4	住宅・自動車ローン	住宅や自動車を購入する際に締結される売買契約とそれに関する法律関係、さらには不動産や自動車の登記・登録制度等について理解する。
5	住宅・自動車ローン	住宅や自動車を購入する際に金融機関からお金を借りる場合の法律関係とその注意点等について理解する。
6	債務の整理・清算	負担した債務（ローン）の返済が困難になった場合のその清算方法について、私的整理・公的整理に分けてその制度について理解する。
7	刑事事件	犯罪が発生し、その被疑者（容疑者）が逮捕された場合の刑事手続きの流れについて理解する。
8	刑事事件	逮捕された被疑者（容疑者）が起訴された場合の刑事裁判手続きについて理解する。
9	婚姻・離婚	結婚・離婚する場合の法律関係、注意点、さらに養子縁組や離縁についても理解する。
10	相続	相続人の範囲や順位、相続割合、遺言の書き方等相続に関する一般的知識を理解する。
11	成年後見制度	自らの財産を自らの意思で管理することが困難になった場合の主として高齢者保護のための成年後見の制度の概略を理解する。
12	交通事故	交通事故に遭遇した場合、どのような損害が発生し、それをどの程度賠償する必要があるのか、交通事故に関する一般的知識を理解する。
13	各種保険制度	日常生活に馴染みの深い自動車保険・生命保険・傷害保険・火災保険等の一般的知識を理解する。
14	民事訴訟制度	刑事訴訟とは別に日常生活で市民が利用できる民事訴訟制度についてその概略を理解する。
15	知的財産権	著作権・特許権・意匠権・商標権等知的財産権の種類とその内容について、概略を理解する。

科目名	日本国憲法	科目ナンバリング	HSOL21012
担当者氏名	笹田 哲男		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-E 社会・文化について理解する力 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

日本国憲法の基本項目（「国民主権」「平和主義」「基本的人権の保障」など）について講義する。大学生として知っておくべき事項をできるだけ多く解説することに留意するが、「男女の平等」「子どもの学習権」及び「日本の防衛と国際貢献」については、とくに時間をとって、皆さんとともに検討したいと考えている。

《テキスト》

『改訂 現代の法学—法学・憲法—』野口寛編著、建帛社、2009

《参考図書》

『憲法学教室 全訂第2版』浦部法穂、日本評論社、2006
 『憲法 第4版』辻村みよ子、日本評論社、2012

《授業の到達目標》

1. 「憲法（国家の基本法）とは何か」「日本の憲法のおいたち」について理解する。
2. 日本国憲法の主要な内容についての知識を獲得する。
3. 日本国憲法と現代社会とのかわりについて、裁判例の研究を通じ具体的に理解する。

《授業時間外学習》

授業中、その都度、指示する。

《成績評価の方法》

定期試験期間中に実施する筆記試験（テキスト持込可）の結果で100%評価する。

《備考》

法的思考を培い、現代社会を見る眼を養ってください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	憲法とは何か	社会の規範、法の種類、法システム、国家と法、憲法の意味・分類などについて説明することができる。
2	日本の憲法のおいたち	明治憲法の成立過程と特質、日本国憲法の成立過程と特質について説明することができる。
3	平和主義(1)	前文の「平和主義」関係部分、第9条の内容について説明することができる。第9条関係の主要な裁判例について説明することができる。
4	平和主義(2)	「日本の防衛と国際貢献」のあり方を巡る議論について説明することができる。
5	人権の性格と歴史(1)	人権の特色・種類、「消極的国家と自由権保障」「積極的国家と社会権保障」、「人権の制約」などについて説明することができる。
6	人権の性格と歴史(2)	日本国憲法下で、近代私法の3原則（「契約の自由」「所有権の絶対的保障」「過失責任主義」）に修正が加えられる例について説明することができる。
7	基本的人権の保障(1)	「法の下での平等」原則について、また、「雇用労働と男女の平等」「家族生活と男女の平等」などの現状と課題について、説明することができる。
8	基本的人権の保障(2)	精神的自由権（「思想・良心の自由」「信教の自由」「表現の自由」「学問の自由」）の意義・内容などについて説明することができる。
9	基本的人権の保障(3)	経済的自由権、身体的自由権の意義・内容、また、国務請求権の意義・内容などについて説明することができる。
10	基本的人権の保障(4)	社会権（「生存権」「教育を受ける権利」「労働権」）の意義・内容などについて説明することができる。国民の義務について説明することができる。
11	基本的人権の保障(5)	「子どもの学習権と『教育内容を決定する権能』」、「子どもの学習権と『教育の中立性』」を巡る議論、裁判例について説明することができる。
12	国民主権(1)	「象徴天皇制」の意義・内容、選挙制度の内容、「地方自治」の意義・内容について説明することができる。
13	国民主権(2)	国会の組織・権能、内閣の組織・権能、議院内閣制の内容などについて説明することができる。
14	国民主権(3)	司法権独立の意義、裁判所の組織・権能、司法の民主的統制、また、「憲法の保障と改正」について説明することができる。
15	まとめ	これまでの学修内容を再確認するとともに、その学修成果を具体的に説明することができる。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	人権の歴史	科目ナンバリング	HSOL21013
担当者氏名	岩本 智依		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

人権とは歴史の中で培われ、広がり深まってきた。「人権の世紀」といわれるが現代社会の人権の現状を理解し、今後人権がどのように発展していくのかを考える。

《授業の到達目標》

多様な視点をもって自己と他者との人権をとらえられるようになる。
現代社会に生きる上で、身の回りの差別を見抜く力をつける。

《成績評価の方法》

定期試験80% 課題提出20%

《テキスト》

レジメを配布し、レジメによって授業を行う。また適時に必要な資料を配布する。

《参考図書》

毎日新聞「境界を生きる」取材班 『境界を生きる 性と生のはざままで』毎日新聞社
 長野ひろ子・姫岡とし子『歴史教育とジェンダー 教科書からサブカルチャーまで』青弓社
 岩本孝樹『「いのち」の保育 一人ひとりの人権をまもる』京都阿吽社

《授業時間外学習》

レジメや資料、また参考図書などで学習し、不明な点は質問するように。

《備考》

今日的な課題を取り上げるため、普段から社会問題について関心を持っておくように。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	差別とは何か	現代社会における人権を通して「差別とは何か」を考える。
2	ライフタイムと人権	自分自身の生涯に人権がどのように関わっているかを考える。
3	部落差別と現代社会	「部落差別とは何か」を学ぶ。
4	部落差別と現代社会	部落差別と部落解放運動の歴史を学ぶ。
5	部落差別と現代社会	「身元調査」を通じて部落差別の現代的な課題を学ぶ。
6	教育と差別	いじめや体罰等、教育現場における差別の現実と反差別の教育としての「同和教育」を学ぶ。
7	いのちと人権	ハンセン病やHIV等、医療における差別の歴史と現実の課題を学ぶ。
8	いのちと人権	障がい者差別について学ぶ。
9	いのちと人権	戦争やヘイト・クライムなど差別によっていのちを奪われた歴史を学び、人権といのちについて考える。
10	宗教と差別	主に仏教と差別について学ぶ。
11	宗教と差別	主に仏教と差別について学ぶ。
12	性差別と現代社会	性差別の歴史とジェンダーについて学ぶ。
13	性差別と現代社会	セクシャル・ハラスメントを中心に現代の性差別の現実を学ぶ。
14	性差別と現代社会	セクシャル・マイノリティの差別の現実を学ぶ。
15	まとめ	現代社会の中に生きる人間として人権とはなにか、を考える。

科目名	政治学	科目ナンバリング	HSOL21014
担当者氏名	斎藤 正寿		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-E 社会・文化について理解する力 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

この講義では、私達の身近にある小さな政治現象から出発して、少しずつ政治学的なボキャブラリーを身に付けてもらいながら、次第にプロの大きな政治の世界の理解へと進んでいくこととしたい。政治学的な考え方の修得を主たる目標とするが、プロの政治の理解には業界特有の事情を知る必要もあるので、それらの知識の獲得も同時並行して行うことにしたい。

《授業の到達目標》

政治学のボキャブラリーを使用して、現実には起こっている、小さな、あるいは大きな政治現象を分析し説明できるようになる。

現代の日本政治について鳥瞰図を手にすることができる。

《成績評価の方法》

学期末の定期試験期間に筆記試験（100%）を実施する。

《テキスト》

テキストは使用しない。講義中に必要な資料を配布する。

《参考図書》

『現代政治学・新版』加茂利男他、有斐閣、2003年
 『政治学』久米郁男他、有斐閣、2003年
 他の参考文献は講義をすすめながら、紹介をしていく。

《授業時間外学習》

- (1) 予習の方法：毎日の政治に関するニュースに関心をもって接すること。
- (2) 復習の方法：授業内容を再確認し、講義で配布された参考資料を熟読しておくこと。

《備考》

・政治現象を解剖し、その生理（病理）を明らかにしたいと考えています。私達がよりよく生きるためには、現実の「現実的」理解から出発すべきというのが私のスタンスです。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	A. 素人の政治 小さな政治と大きな政治	政治のイメージ、大きな政治と小さな政治、政治の定義、政治と政治学
2	制度・原理・状況	人間思考の3側面、制度・状況・原理の発想法、官僚、ジャーナリスト、知識人
3	ノモス・コスモス・カオス	社会生活の3局面、ノモス・コスモス・カオス
4	権力と正統性	権力の定義、実体的見方、関係的見方、伝統・カリスマ・合法的正統性
5	リーダーとフォロワー	権威の発生、服従の調達、強制・買収・説得
6	B. 玄人の政治 様々なアクター・利益	アクター、役割、葛藤、利益集団、鉄の三角同盟
7	職業政治家	地盤・看板・鞆、族議員、派閥、政党
8	官僚	国家公務員試験、キャリア、昇進、天下り、官高政低、政高官低
9	マスコミ	世論、マスメディア、アナウンスメント効果
10	C. 政治の制度 政党と選挙	衆議院、参議院、小選挙区、中選挙区、比例代表
11	政治体制と政権	保守・革新、右・左、
12	政策・イデオロギー	イデオロギー、1955年体制、小さい政府・大きな政府
13	政治と文化	体制の変動、政権の交代
14	国家と国民	ナショナリズム、民族
15	まとめ	日本政治の鳥瞰図

科目名	社会学	科目ナンバリング	HSOL21015
担当者氏名	吉原 恵子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-E 社会・文化について理解する力 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

本講義は、社会学をはじめて学ぶ人に、社会学のものの見方のおもしろさや有効性について理解してもらうことを目的とする。目の前の現実について、いろいろな見方ができること、裏を返せば、自分からみた社会は一つの見え方にすぎないという感覚を身につけてほしい。授業では、社会学の専門用語を解説しながら、現代社会における個人と社会の関係やしぐみについて見抜く理論的道具を使えるようになることをめざす。

《授業の到達目標》

- (1) 社会学のものの見方ができるようになる
- (2) 社会を理解するために、社会学の道具を使うことができるようになる
- (3) みんなで共に生きていくために、人間がどんな工夫をしているのか説明できるようになる

《成績評価の方法》

授業内レポート1-2回およびミニ・テストを数回実施する。
 (配点：文章作成能力および知識の定着度45点)
 定期試験(持ち込み不可)により学習達成度を評価する。
 (配点：理論体系の理解度、データを読む力、社会問題に取り組みようとする意欲、批判的視点等の獲得度：55点)

《テキスト》

『社会学のエッセンス』友枝敏雄・竹沢尚一郎・正村俊之・坂本佳鶴恵(2013, 有斐閣アルマ)

《参考図書》

『社会学がわかる事典』森下伸也(2000, 日本実業出版社)、厚生労働白書その他、適宜提示します。

《授業時間外学習》

- (1) 毎回、該当する章を読んでから授業に臨んでください。
- (2) 毎回、授業内容の概要を説明したレジメを配布します。授業のふり返りに活かしてください。
- (3) 毎回のレジメには学習内容に関するキーワードを提示します。これについて、授業後に復習して説明できるようにしておいてください。

《備考》

この授業では、講義内容を確実に修得することを重視しているが、ただ知識を暗記するのではなく考えながら「聴く」ことがポイントである。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会学のものの見方	社会学の成立、個人と社会
2	行為の分析 (1)意味と相互主観性	意味、慣習的行為、役割行為、役割取得、ステレオタイプ、相互主観性、自己と他者
3	行為の分析 (2)アイデンティティ	アイデンティティ、役割、アイデンティティの確立、重要な他者、近代社会
4	行為の分析 (3)スティグマ	スティグマ、レイベリング、パッシング
5	行為の分析 (4)正常と異常	正常、異常、コンテキスト、分類(社会的カテゴリー)
6	行為の分析 (5)予言の自己成就	予言の自己成就、ポジティブ・フィードバック、ネガティブ・フィードバック、社会的世界
7	行為の分析 (6)社会構築主義	社会構築主義、社会構成主義、社会問題の構築、クレイム申し立て活動、対抗クレイム
8	学習の総まとめ(1)	「行為の分析」についてふりかえる
9	学習の総まとめ(2)	「秩序の解読」「社会の構想」についてふりかえる
10	秩序の解読 (1)ジェンダー	性別認知、らしさの役割、性別役割分業、フェミニズム、メンズリブ
11	秩序の解読 (2)規範と制度	規範、文化の恣意性、慣習・道徳・法、価値と制度、社会形成と維持
12	秩序の解読 (3)社会のなかの権力	姿を見せる権力、姿を見せない権力、情報の受容を促すメディア、強制力としての権力、伝統的支配、カリスマの支配、合理的支配、官僚制組織
13	秩序の解読 (4)不平等と正義	社会構造、社会階層、属性主義、業績主義、機会の平等、結果の平等、集団的平等、格差、格差社会、不平等、階級社会
14	社会の構想 (1)共同体	近代家族、核家族、親密性、国民、国家、家父長制、家事労働、主婦の誕生、ゲマインシャフト、ゲゼルシャフト、コミュニティ、アソシエーション
15	社会の構想 (2)国家と市民社会	個人と社会、自由と連帯、市民社会、共同体、私的領域と公的領域、福祉国家論、アナーキズム

科目名	経済学	科目ナンバリング	HSOL21016
担当者氏名	石原 敬子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-E 社会・文化について理解する力 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

「経済学」というと、「企業」「お金儲け」などの言葉を連想し、ビジネスに携わらなければあまり関係がないと思う人もあるかもしれませんが、たしかに、ビジネスの世界と密接にかかわる分野であることに違いありませんが、皆さんが日ごろ行っているモノを買う行動（消費）も重要な経済活動です。この授業では、経済学とはどのような学問か、私たちに身近な経済の仕組みについてわかりやすく解説します。

《授業の到達目標》

- ・私たちが暮らしている市場経済の仕組みについて理解する。
- ・身近な問題を通して「経済学的考え方」を学ぶ。
- ・需要と供給、交換の利益、貨幣の役割など、経済学入門レベルの基礎知識を身につける。

《成績評価の方法》

平常点（授業時に取り組む課題についての評価）と学習のまとめとして学期末に行う筆記試験をもって評価します。評価の割合は、平常点40%、学期末の試験60%とします。

《テキスト》

特に指定しません。毎時間プリントを配布します。

《参考図書》

授業時に適宜紹介します。

《授業時間外学習》

- ・毎回1つのテーマについて解説する予定です。授業ごとにしっかりと内容を復習してください。わかりにくいこと、疑問に思うことがあるときには、そのままにせず、質問して理解を深めるように努めてください。
- ・第11週目を終わった頃に復習用教材(自習用)を配布する予定です。授業内容を理解できているか、振り返ってみましょう。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の概要 「経済学」とは	「経済学」とはどのような学問かを説明します。 授業の概要と受講上の注意事項についても説明します。
2	市場のはたらきについて考えよう	経済の基本問題（資源配分問題）を解決するうえで、市場は重要な役割を演じています。そのメカニズムについてわかりやすく解説します。
3	交換の利益・分業の利益・協業の利益	私たちの暮らしを支える基本的な経済の仕組みについて解説します。 「比較優位の理論」をとりあげ、貿易の利益についても考察します。
4	貨幣の歴史と役割	貨幣がどのような役割を演じているかをわかりやすく解説します。 IT革命が生み出した「電子マネー」の特徴と可能性についても考察します。
5	IT革命がもたらしたもの	情報技術革命により、私たちの暮らしやビジネスの世界にどのような変化が生じたか、最近注目されている「ビッグデータ」の活用などについて考察します。
6	企業戦略について考えよう(1)	「需要曲線」を用いて、企業の価格戦略について考察します。
7	企業戦略について考えよう(2)	身近な販売戦略の1つである「セット販売」がなぜ行われるのか、経済学の基礎理論を用いて分析します。
8	市場経済での競争の役割(1)	競争的市場と独占市場を比較し、経済の領域での競争の意味について考察します。
9	市場経済での競争の役割(2)	市場経済で根本的に重要な経済政策の1つである競争政策の役割について解説します。
10	「市場の失敗」について考えよう(1)	市場のはたらきでは解決できない問題にはどのようなものがあるのかを解説します。 その1つである「格差問題」について考察します。
11	「市場の失敗」について考えよう(2)	地球温暖化にかかわる問題、その解決策にはどのようなものがあるかを経済学の考え方を 用いて考察します。
12	「市場の失敗」について考えよう(3)	食の安全を守るにはどのような制度が必要か、子どもから高齢者まで安心して消費活動 を行える社会にするためにどのような制度が求められるかを経済学的に考察します。
13	景気の問題について考えよう	マクロ経済学の基礎的概念について解説しながら、景気に関する問題、景気対策について 考察します。
14	少子高齢化問題について考えよう	少子高齢化社会が抱える問題、少子高齢化社会での政府の役割について考察します。
15	学習のまとめ	これまでの授業内容を振り返り、理解度を確認してみましょう。

科目名	化学	科目ナンバリング	HNAL21017
担当者氏名	阿部 真幸		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-F 自然・健康について理解する力		

《授業の概要》

化学は個々の化合物の性質や構造、反応の様子を明らかにする学問であり、食品や健康、医療や看護に関わりの深い学問です。専門領域に関連する学問を本格的に学ぶ前に、その基礎となる化学的知識を、一年次における導入として解説します。私たちの身の回りの物質と化学知識のつながりを通して、物質を科学的に見る眼を養って欲しいと考えます。

《テキスト》

『コ・メディカル化学』
齋藤勝裕、荒井貞夫、久保助二 共著（裳華房）

《参考図書》

特に指定しません（授業時に適宜紹介します）。

《授業の到達目標》

溶液の濃度の表し方を理解し、これらの濃度を互に変換できる。
 代表的なアルキル基と官能基について構造と特徴（性質）を理解している。
 有機化学反応の生成物を構造式で示し、反応を説明できる。
 生体に関わりのある代表的化合物の種類および働きを説明できる。

《授業時間外学習》

授業前に、テキストの学習する範囲を読んでおくこと。
 各自で演習問題を解くなど、授業の復習を行い、理解に努めること。

《成績評価の方法》

定期試験（80%）および授業中に行う小テスト（20%）を加味して総合的に判断します。

《備考》

授業中分からないところが有れば、その都度、挙手をして質問してください。
 他の履修者に迷惑になる行動はしないこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	化学で扱う数値	授業方針の説明 指数・有効数字、物理量と単位
2	化学結合と分子	イオン結合、金属結合、共有結合、配位結合、結合の極性、水素結合と分子間力
3	物質の量と状態	原子量と分子量、モル、濃度
4	酸・塩基	酸と塩基の定義、価数と強弱、中和反応と塩の生成、水素イオン濃度とpH、緩衝液
5	酸化・還元	酸化と還元、酸化・還元反応、電池の原理
6	有機化合物の構造（1）	有機化合物の結合、炭化水素の種類、構造式の表示法
7	有機化合物の構造（2）	置換基の種類、有機化合物の種類と性質
8	異性体と立体構造	構造異性体、立体異性体、光学異性体、シス・トランス異性体
9	有機化学反応（1）	化学反応とエネルギー、反応速度、律速段階、酸化・還元反応
10	有機化学反応（2）	置換反応、脱離反応と付加反応
11	糖類	単糖類、二糖類、多糖類
12	脂質類	単純脂質、複合脂質、生体膜、石けん（両親媒性分子）
13	アミノ酸とタンパク質	アミノ酸の種類、（ポリ）ペプチド、タンパク質の立体構造、酵素
14	核酸（DNAとRNA）	核酸の構造、DNAの機能と複製、遺伝子とRNA合成、RNAの機能、ATP・ADP・AMP・リン酸
15	高分子化合物	高分子の種類、高分子化合物の分子構造、イオン交換樹脂

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	生物学	科目ナンバリング	HNAL21018
担当者氏名	佐藤 隆		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-F 自然・健康について理解する力		

《授業の概要》

生物の構造と機能および環境との関わりについてプリントやスライドを使用して解説する。また、質問時間を設けるとともに、理解を深めるために試問を行う。

《テキスト》

やさしい基礎生物学 第2版（南雲保編、羊土社）

《参考図書》

カラー図解 アメリカ版 大学生物学の教科書 第1巻～第5巻（デイビッド・サダヴァ 他：著、石崎泰樹 他：監訳）

《授業の到達目標》

生物や環境についての知識を深めるとともに、自然の中におけるヒトの位置づけについて理解することを目標とする。

《授業時間外学習》

授業内容の予習と復習

《成績評価の方法》

定期試験（100%）により評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	細胞	細胞の構造と機能
2	生命体を構成する物質	アミノ酸、タンパク質、糖質
3	生命体を構成する物質	脂質、核酸、ビタミン
4	遺伝子の構造と機能	DNA・RNAの構造、DNA複製・転写、翻訳
5	生体とエネルギー	解糖系、トリカルボン酸回路、電子伝達系
6	光合成	光合成の機構
7	細胞分裂と細胞の分化	体細胞分裂、減数分裂、細胞の分化、がん化
8	生命体の受精と成長	生殖の仕組み、初期発生、アポトーシス、老化
9	多細胞生物の自己維持機構	細胞間情報伝達システム
10	多細胞生物の自己維持機構	恒常性（ホメオスタシス）、生体防衛機構
11	遺伝のしくみ	メンデルの法則、遺伝病
12	生態系	生物と環境
13	生態系	環境問題、動物の行動
14	生物の進化と多様性	生物の誕生と進化、系統分類
15	生命科学技術と社会	生命倫理、遺伝子組み換え技術、クローン技術、再生医療

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	食と健康	科目ナンバリング	HNAL21019		
担当者氏名	嶋津 裕子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-A コミュニケーション力 基教-E 社会・文化について理解する力 基教-F 自然・健康について理解する力				

《授業の概要》

本授業では、食と健康をキーワードに 食を中心に消費生活全般における消費者力の向上を目指す。

《テキスト》

進行にあわせて適宜プリントを配布する。

《参考図書》

「くらしの豆知識2015年版」 国民生活センター
 「ハンドブック消費者2015」 消費者庁

《授業の到達目標》

基礎的な暮らしの知識、食品の機能性や食文化、食の安全・安心に関する知識、ライフサイクルに応じた消費生活のあり方について理解し、説明できる。

現在の日本の消費者問題を理解し、健全な消費生活のあり方について情報発信することができる。

自らの消費生活を見つめ直し、改善する能力を身につけることができる。

《授業時間外学習》

ニュース、新聞などにより、健康や栄養、消費生活に関する施策、制度変更や時事問題などに注目しておくこと。

《成績評価の方法》

課題レポート・提出物（50%）、定期試験（50%）

《備考》

授業初回に授業内容や成績評価について詳しく説明する。できるだけ出席すること。

課題レポートは指定した書式や内容のものを作成すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	授業内容や成績評価について説明する。食に関する法律や資格について理解する。
2	消費者問題と歴史	消費者被害と事例、消費者の権利を理解する。
3	消費者政策と行政	消費者行政と行政の対応、消費生活センターの業務等を理解する。
4	消費者教育とコンプライアンス経営	消費者教育の意義・必要性を理解し、教育企画（案）を作成できる。
5	食品表示	食品の表示（法律による表示、保健機能食品、マークによる表示等）を理解し、選食力を修得する。
6	食品表示	食品の表示（法律による表示、保健機能食品、マークによる表示等）を理解し、選食力を修得する。
7	食の安全・安心	脅かされる食の安全（BSE、鳥インフルエンザ、農薬、食品添加物、寄生虫、食物アレルギー）について理解する。
8	食の安全・安心	脅かされる食の安全（BSE、鳥インフルエンザ、農薬、食品添加物、寄生虫、食物アレルギー）について理解する。
9	食の安全・安心	食中毒の予防（細菌性食中毒、ウイルス性食中毒、自然毒食中毒、化学性食中毒、寄生虫）について理解する。
10	食の安全・安心	食中毒の予防（細菌性食中毒、ウイルス性食中毒、自然毒食中毒、化学性食中毒、寄生虫）について理解する。
11	食の安全・安心	食品の流通・製造での安全安心（コールドチェーン、HACCP、トレーサビリティシステム）について理解する。景品表示法について理解する。
12	日本と世界の食料事情	食料自給率や食品ロス（食品廃棄）を通して、日本および世界の食料事情を理解する。
13	日本と世界の食料事情	フードマイレージ、食とエコ等食と環境について理解する。
14	消費者教育とコンプライアンス経営	消費者教育の意義・必要性を理解し、教育企画（案）を修正し、情報発信ができる。
15	まとめ	消費者教育の意義・必要性を理解し、教育企画（案）を修正し、情報発信ができる。情報交換ができる。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	実用英語（初級）	科目ナンバリング	HLAS21020
担当者氏名	松盛 美紀子		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-A コミュニケーション力 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

テキストの各ユニットの学習を通して、実際のTOEICテストの問題形式に慣れるとともに、TOEICでよく用いられる語いや表現を身につけ、文法事項を再確認する。

《テキスト》

水本篤、Mark D. Stafford 『Successful Keys to the TOEIC TEST Intro レベル別TOEICテスト総合トレーニングINTRO』
（桐原書店、2015年）

《参考図書》

必要に応じて授業で紹介する。

《授業の到達目標》

TOEICテストの問題形式に慣れ、スコア400点以上の取得を目標にする。

《授業時間外学習》

授業で取り上げる内容について予習復習をすること。リスニング問題の音声は専用ウェブサイトからダウンロードできるので、予習復習の際に活用すること。

《成績評価の方法》

小テスト 30%、発表・課題 30%、定期試験 40%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	学習内容全体の説明。TOEIC Pre-Test。
2	Unit 1 Daily Life	日常生活で使われる単語や表現を身につける。文法事項：品詞を区別しそれぞれの働きを学ぶ。
3	Unit 2 Places	場所を表す単語や表現を身につける。文法事項：日常的によく使われるフレーズを身につける。
4	Unit 3 People	職業を表す単語やそれに関連する表現を身につける。文法事項：代名詞を正しく使う。
5	Unit 4 Travel	出勤・出張・休暇など旅行関連の単語や表現を身につける。文法事項：再帰代名詞を正しく使う。
6	Unit 5 Business	ビジネスシーンで使われる用語やフレーズを身につける。文法事項：文脈に応じた動詞を選ぶ。
7	Unit 6 Office	オフィスで使われる単語や表現を身につける。文法事項：時制について理解を深める。
8	Unit 7 Technology	テクノロジー関連の単語や表現を身につける。文法事項：類語を整理する。
9	Unit 8 Personnel	雇用、昇進、異動、退職など人事に関する単語や表現を身につける。
10	Unit 9 Management	経営に関する単語や表現を身につける。文法事項：接続詞について理解を深める。
11	Unit 10 Purchasing	商品の生産、請求、支払いなど売買に関する表現を身につける。文法事項：接続詞について理解を深める。
12	Unit 11 Finances	金融に関する単語や表現を身につける。文法：不定詞（to do）や動名詞（～ing）について理解を深める。
13	Unit 12 Media	メディアに関する単語や表現を身につける。文法事項：助動詞について理解を深める。
14	Unit 13 Entertainment	娯楽に関する単語や表現を身につける。文法事項：前置詞について理解を深める。
15	Review	Review Test

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	実用英語（中級）	科目ナンバリング	HLAS22021
担当者氏名	松盛 美紀子		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-A コミュニケーション力 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

TOEICに必要な語いを強化し、文法事項を再確認する。リスニングでは、応答問題や会話問題の聞き取りを重点的に行う。各テーマに沿った練習問題を繰り返し学習することで、必要な情報を的確に捉える力をつける。

《テキスト》

水本篤、Mark D. Stafford 『Successful Keys to the TOEIC TEST 1(3rd Edition) レベル別TOEICテスト総合トレーニング1（第3版）』（桐原書店、2015年）

《参考図書》

必要に応じて授業で紹介する。

《授業の到達目標》

TOEICテストの問題形式に慣れ、スコア500点以上の取得を目標にする。

《授業時間外学習》

授業で取り上げる内容について予習復習をすること。リスニング問題の音声は専用ウェブサイトからダウンロードできるので、予習復習の際に活用すること。

《成績評価の方法》

小テスト 30%、発表・課題 30%、定期試験 40%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	学習内容全体の説明、TOEIC Pre-Test
2	Unit 1 Daily Life	品詞の違い 広告を読む
3	Unit 2 Places	カードを読む
4	Unit 3 People	代名詞 図表と手紙を読む（1）
5	Unit 4 Travel	案内を読む
6	Unit 5 Business	動詞の形 通知・メモを読む
7	Unit 6 Office	手紙を読む
8	Unit 7 Technology	語い関連 図表と手紙を読む（2）
9	Unit 8 Personnel	記事を読む（1）
10	Unit 9 Management	接続詞 通知を読む
11	Unit 10 Purchasing	手紙とレシートを読む
12	Unit 11 Finances	時制 レシピを読む
13	Unit 12 Media	記事を読む（2）
14	Unit 13 Entertainment	前置詞 Eメールを読む
15	Review	Review Test

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	中国語（初級）	科目ナンバリング	HLAS21022
担当者氏名	佟 曉寧		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-A コミュニケーション力 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

この講義は中国語の入門クラスで、発音、基礎文法、挨拶の言葉、会話文を勉強します。発音段階にDVD（発音要領）などを見ながら勉強し、同時にあいさつも勉強します。その後、日本人留学生中西くんの話を中心に、自己紹介から、ホテルの宿泊、買い物など中国への旅行に役立つ会話文を勉強します。この勉強を通して中国語の基礎文法、挨拶、簡単な会話をマスターすることを目指します。

《授業の到達目標》

- 発音 中国語式のローマ字（ピンイン）をマスターする。
- 挨拶 文法にこだわらず、簡単な日常挨拶ができる。
- 文法 基礎文法の勉強により、簡単な文章が作れる。
- 会話 簡単な日常会話ができる。

《成績評価の方法》

- ・ 授業態度30%
- ・ 課題などの提出物20%（発音、ヒヤリングの実施を含む）
- ・ 期末試験50%（テキストなどの「持ち込み不可」にて実施）

《テキスト》

『しゃべってもいいとも 中国語』
陳 淑梅・劉 光赤、朝日出版社、2010

《参考図書》

特に使いません。
ポイントにあわせてDVD視聴します。

《授業時間外学習》

- ・ 予習の方法
CDを聞くこと
新出単語をチェックすること
- ・ 復習の方法
CDを聞くこと
会話文を暗誦すること

《備考》

- ・ 「中国語（初級）」と「中国語（中級）」をペアでとるのがお勧めです
- ・ 毎回出席をとる、授業中の私語を禁じる

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	第1課 こんにちは 発音1	挨拶の言葉1 中国語の音節 声調 ドリル（発音のDVD視聴）
2	第2課 また明日 発音2	挨拶の言葉2 単母音 複母音 ドリル（発音のDVD視聴）
3	第3課 ありがとう 発音3	挨拶の言葉3 子音1 ドリル（発音のDVD 視聴）
4	第4課 お久しぶり 発音4	挨拶の言葉4 子音2 鼻音 ドリル（発音のDVD 視聴）
5	発音のまとめ	発音についての総復習
6	第5課 名前の言い方とたずね方	ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
7	第6課 動詞、助詞	ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
8	第5課・第6課の復習	第5・6課についてのまとめと練習
9	第7課 中国語語順	基本語順・連動文 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
10	第8課 助動詞、動詞、指示代名詞	助動詞の位置・動詞「有」 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
11	第7課・第8課の復習	第7・8課についてのまとめと練習
12	第9課 動詞、方位詞	動詞「在」・方位詞 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
13	第9課 前置詞、場所代名詞	前置詞・場所代名詞 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
14	まとめ	発音・文法についての総復習
15	まとめ	会話・作文についての総復習

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	中国語（中級）	科目ナンバリング	HLAS21023
担当者氏名	佟 曉寧		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-A コミュニケーション力 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

この講義は「中国語（初級）」の続きで基礎文法、会話文を勉強します。日本人留学生中西くんの話を軸に、買い物、料理の注文など中国への旅行に役立つ会話文を勉強します。一年間の勉強を通して中国語の基礎文法、挨拶、簡単な会話をマスターすることを目指します。中国語の検定試験準4級を受けるレベルをも目指します。

《テキスト》

『しゃべってもいいとも 中国語』
陳 淑梅・劉 光赤、朝日出版社、2010

《参考図書》

特に使いません。
ポイントにあわせてDVD視聴します。

《授業の到達目標》

発音 中国語式のローマ字（ピンイン）をマスターする。
挨拶 文法にこだわらず、簡単な日常挨拶ができる。
文法 基礎文法の勉強により、簡単な文章が作れる。
会話 簡単な日常会話ができる。
中国語検定試験準4級を受けるレベルに達することができる。

《授業時間外学習》

- ・予習の方法
CDを聞くこと
新出単語をチェックすること
- ・復習の方法
CDを聞くこと
会話文を暗誦すること

《成績評価の方法》

- ・授業態度30%
- ・課題などの提出物20%（発音、ヒヤリングの実施を含む）
- ・期末試験50%（テキストなどの「持ち込み不可」にて実施）

《備考》

- ・「中国語（初級）」と「中国語（中級）」をペアでとるのがお勧めです
- ・毎回出席をとる、授業中の私語を禁じる

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	第10課 文法	数の言い方 ・ お金の言い方 形容詞の文
2	第10課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
3	第11課 文法	年月日、曜日の言い方 年齢の言い方
4	第11課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
5	第12課 文法	量詞（ものの数え方） 動詞の重ね方
6	第12課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
7	第13課 文法	時刻の言い方 状態の変化の「了」（～になる）
8	第13課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
9	第14課 文法	時間量の言い方 完了の「了」の使い方
10	第14課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
11	第15課 文法	前置詞「給」 助動詞「可以」「能」
12	第15課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
13	第16課 文法	現在進行形の言い方 助動詞「会」
14	第16課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
15	まとめ	総復習

科目名	韓国語（初級）	科目ナンバリング	HLAS21024
担当者氏名	高 秀美		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-A コミュニケーション力 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

韓国語(ハングル)の文字の仕組みを理解しながら単語と文章の読み書きや聞き取りの練習をしながら学習する。文法事項を理解しながら挨拶や自己紹介などの基礎的な会話表現を学習する。韓国の社会や生活文化などが理解できる映画やドラマを選定し、語学能力を含む文化の理解を深める。

《授業の到達目標》

- 1.ハングル文字構成を理解し、日常生活で最も良く使われる基礎的な短文表現を身につける。
- 2.簡単な挨拶や自己紹介からはじめ、学習内容を基礎にして場面別の会話表現を習得する。
- 3.韓国・朝鮮の文化の理解を深め、コミュニケーション能力及び国際感覚を身につける。

《成績評価の方法》

授業への取り組み姿勢30%、レポート20%、小テスト10%、期末テスト40%

《テキスト》

『みんなで学ぶ韓国語（文法編）』
 金眞・柳圭相・芦田麻樹子 朝日出版社

《参考図書》

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』
 油谷幸利 他編著 小学館、2004年
 『パスポート朝鮮語小事典』
 塚本勲 監修・熊谷明泰編集 白水社、2011年
 『基礎から学ぶ韓国語講座 初級』
 木内 明著、国書刊行会、2004年

《授業時間外学習》

テキストの基礎学習内容を中心に学習し、話せる語学授業を目指すのが大事ですので声を出して発音の練習をしてください。自作のプリントなど様々な資料を配るので自ら学習することをお願いします。

《備考》

テキストに付いているCDを良く聞きながら発音の練習をすることが必要です。又は出席及び積極的授業参加、復習・予習が求められます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業ガイダンス・文字と発音 基本母音	授業のガイダンスを始め、簡単に韓国文化、韓国語の歴史や文字について説明する。そして、韓国語の基本母音(10個)について説明する。
2	文字と発音 子音(平音)	韓国語の基本母音を復習後、基本子音(10個)を学ぶ。
3	文字と発音 子音(激音・濃音)	韓国語の基本子音を復習後、激音と濃音を学ぶ。
4	文字と発音 二重母音	韓国語の子音を復習後、基本母音字の組み合わせで作られた複合母音を勉強する。
5	文字と発音 子音(終声子音)・読み方の法則	子音と母音の組み合わせを単語を使って練習後、パッチム(子音+母音の後に来る子音、支えると意味)について勉強する。
6	文化項目(1):韓国の映画感想	韓国文化や韓国人の生活を映像を通じて学ぶ
7	第1課 私は吉田ひかるです。	~です・ですか(합니체)、~は(助詞)について学習する。
8	第2課 お名前は何か。	~です・ですかの(해요체)、~が(助詞)について学習する。
9	第3課 ここは出口ではありません。	~ではありません(名詞文の否定)、~も(助詞)について学習する。
10	Review 1	第1課から第3課まで復習、練習問題を通じて確認する。 自己紹介の練習を行う。
11	第4課 近くに地下鉄の駅ありますか。	~います・~あります又は~いません・ありません、~に(助詞)について学習する。
12	第5課 学校の図書館でアルバイトをします。	~をします又は~で(場所+에서)を学習する。
13	第6課 私の誕生日は10月9日です。	漢数字:日本語のいち、に、さんに相当する年、月、日、値段、電話番号、何人前、学年、階、回、号室などに使う。漢数字を学習する。
14	Review 2	第5課と第6課を復習、練習問題を通じて確認する。
15	まとめ	これまで学習内容を再確認し、質疑応答

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	韓国語（中級）	科目ナンバリング	HLAS21025
担当者氏名	高 秀美		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-A コミュニケーション力 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

韓国語(ハングル)の文字の仕組みを理解しながら単語と文章の読み書きや聞き取りの練習をしながら学習する。
 文法事項を理解しながら挨拶や自己紹介などの基礎的な会話表現を学習する。
 韓国の社会や生活文化などが理解できる映画やドラマを選定し、語学能力を含む文化の理解を深める。

《授業の到達目標》

1. ハングル文字構成を理解し、日常生活で最も良く使われる基礎的な短文表現を身につける。
2. 簡単な挨拶や自己紹介からはじめ、学習内容を基礎にして場面別の会話表現を習得する。
3. 韓国・朝鮮の文化の理解を深め、コミュニケーション能力及び国際感覚を身につける。

《成績評価の方法》

授業への取り組み姿勢30%、レポート20%、小テスト10%、期末テスト40%

《テキスト》

『みんなで学ぶ韓国語（文法編）』
 金眞・柳圭相・芦田麻樹子 朝日出版社

《参考図書》

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』
 油谷幸利 他編著 小学館、2004年
 『パスポート朝鮮語小事典』
 塚本勲 監修・熊谷明泰編集 白水社、2011年
 『基礎から学ぶ韓国語講座 初級』
 木内 明著、国書刊行会、2004年

《授業時間外学習》

テキストの基礎学習内容を中心に学習し、話せる語学授業を目指すのが大事ですので声を出して発音の練習をしてください。自作のプリントなど様々な資料を配るので自ら学習することを願います。

《備考》

発音の練習やペアで応用会話の練習をしながら楽しく話せる語学授業を考えています。特に、「韓国語（初級）」を必ず受講してから「韓国語（中級）」を受講するのをおすすめします。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	復習及び数字の活用	「韓国語（初級）」の学習内容を再確認し、質疑応答
2	第7課 友達とランチを食べます。	用言の『です・ます形』 『～합니다体』、～と(助詞)について学習する。
3	第8課 日本の冬はあまり寒くありません。	動詞や形容詞の否定表現と覚えておきたい動詞を文章を作りながら学習する。
4	第9課 キムチは辛いけどおいしいです。	接続語尾～して、～くて、～であり、～が、～けれどについて学習する。
5	Review 3	第7課から第9課まで復習、練習問題を通じて確認する。
6	文化項目(2)：韓国の映画を通しての文化理解	韓国文化や韓国人の生活を映像を通じて学ぶ
7	第10課 今日は天気がとても良いです。	用言の『です・ます形』、『～해요体』～と不可能の表現について学習する。
8	第11課 公園で友達を待ちます。	用言の『です・ます形』、『～해요体』を復習し、縮約形の『～해요体』を学習する。
9	第12課 合コンは今日の夕方6時です。	固有数字：日本語の一つ、二つに当たる数字、～歳、時間、個、名、枚、台などに使う、固有数字を学習
10	Review 4	第10課から第12課まで復習、練習問題を通じて確認する。
11	第13課 KTXで3時間かかりました。	動詞の過去形を学習する。又は～から～までと手段を表す助詞を学ぶ。
12	第14課 韓国の映画は好きですか。	様々な尊敬の表現を学習する。
13	第15課 道を教えてください。	お願い表現、丁寧な命令形について学習する。
14	Review 5	第14課と第15課を復習、練習問題を通じて確認する。
15	まとめ	これまで学習内容を再確認し、質疑応答

科目名	健康・スポーツ科学（講義）		科目ナンバリング	HPHL21026
担当者氏名	三宅 一郎			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-F 自然・健康について理解する力 基教-G 論理的思考力			

《授業の概要》

体力科学・運動科学・健康科学の三つの柱で進める。体力とは？運動の必要性は？健康とは？それぞれの側面から健康づくり・体力づくりを考える。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料を配付する。

《授業の到達目標》

健康とスポーツの関わりについて理解を深める。健康については、生活習慣病の予防や日常生活における健康管理等について探る。スポーツも見る楽しさやスポーツを实践する際の効果的な方法を学ぶ。健康とスポーツ関連の事項を学ぶことにより、“生涯を通して積極的に健康づくりができる力” “自己の健康管理ができる力”を身につける事をめざす。

《参考図書》

『健康・スポーツ科学入門』出村真一・村瀬智彦（大修館書店）、『体力を考える～その定義・測定と応用～』宮下充正著（杏林書院）、『からだの‘仕組み’のサイエンス』運動生理学の最前線 加賀谷淳子他（杏林書院）、『生涯スポーツ実践論』川西正志・野川春夫（市村出版）、『運動発達科学』～幼児の運動発達を考える～三宅一郎（大阪教育図書）

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。毎時間与えるテーマに対するミニレポート（50%）、受講に取り組む姿勢等の平常点（20%）、学期末に課題に対するレポート（30%）の総合で評価する。

《授業時間外学習》

<予習方法>
下記の授業計画における次時の授業内容をあらかじめ参考文献等で確認しておくことでより理解が深まる。
<復習方法>
学んだ内容を配付資料等で再確認することによって今後の自己の健康管理に生かして欲しい。

《備考》

この授業を受講することによって、自分自身の健康づくりや体力づくりを再確認して欲しい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の進め方や方法・評価方法・その他注意事項等について
2	体力の考え方と構造	体力とは何か？体力の分類等の考え方とその構造について学ぶ
3	体力の測定と評価	体力の測定方法と評価の意義について学ぶ。さらに測定結果の活用方法についても併せて学ぶ。
4	体力の加齢変化と性差	発育発達と体力。また加齢による体力の変化について学ぶ。
5	運動生理学の基礎	運動生理学の基礎知識を学ぶ。
6	バイオメカニクスの基礎	バイオメカニクスの基礎意識を学ぶ。
7	運動栄養学の基礎	運動栄養学の基礎知識を学ぶ。
8	トレーニング論の基礎	トレーニングの種類と実施方法等を学ぶ。
9	健康の考え方	様々な健康の捉え方や考え方について学ぶ。
10	健康づくりと運動処方	健康づくりに必要な運動処方の考え方について学ぶ。
11	健康づくりと運動実践	健康づくりの為の運動実践を考えると共に実践の仕方を学ぶ。
12	健康と体力の関係	健康と体力の関係について学び、必要な体力づくり等を学ぶ。
13	今後の健康づくりについて考える	学んだ知識を基にしたこれからの健康づくりを考え実践方法を構築する（その1）。
14	今後の健康づくりについて考える	学んだ知識を基にしたこれからの健康づくりを考え実践方法を構築する（その2）。
15	まとめ	学んだ内容の確認と評価

科目名	健康・スポーツ科学（講義）	科目ナンバリング	HPHL21026
担当者氏名	矢野 琢也		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-F 自然・健康について理解する力 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

健康で生き生きとした生活を送るためやスポーツにおける競技力向上には科学的な事実に基づく知識が必要条件です。健康運動科学の入門にあたって、1.運動（トレーニング）、2.栄養、3.休養の3つの科学的根拠に基づいた適切な知識を身につけ、適切に組み合わせる事で、より効果的な健康・スポーツ活動が行えるようにします。そうした基礎知識の習得を行います。

《授業の到達目標》

健康運動科学の入門として、1.運動（トレーニング）、2.栄養、3.休養の3つの基礎知識を身につけます。健康や運動に関する興味関心の向上や運動実施の動機付けも目標とします。

《成績評価の方法》

ほぼ毎回の「授業のまとめ」の提出60%、期末の課題レポート20%、小テスト20%で評価します。出席回数が授業回数の2/3未満は評価対象外とします。

《テキスト》

指定しません。必要に応じて資料を配布します。

《参考図書》

「健康づくりのための運動科学」化学同人、「スポーツ生理学」化学同人、「エクササイズ科学」文光堂

《授業時間外学習》

事前に関連の箇所を参考図書等で学ぶこと。新聞、雑誌、テレビ等から関連の情報を入手し、基礎知識を増やす事。

《備考》

受講態度に問題がある場合は、注意、警告の上、退出等の指導を行います。時間厳守で授業に望むことを強く希望します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の展開方法や評価等について説明します。受講者希望者は必ず出席する事。
2	健康科学の現状について	健康運動科学の現状を最新の情報も交えながら解説する。
3	健康づくりと運動について1	健康づくりのためのレジスタンストレーニング（筋トレ）の必要性や効果を理解する。
4	健康づくりと運動について2	高齢者における、健康づくりのためのレジスタンストレーニング（筋トレ）の必要性や効果を理解する。
5	健康づくりと運動について3	中高年者における、健康づくりのためのレジスタンストレーニング（筋トレ）の必要性や効果を理解する。
6	健康づくりと運動について4	若者、特に女性における、健康づくりのためのレジスタンストレーニング（筋トレ）の必要性や効果を理解する（減量など）。
7	健康づくりと運動について5	年少者における、健康づくりのためのレジスタンストレーニング（筋トレ）の必要性や効果を理解する。
8	健康づくりと運動について6	有酸素系運動の効果と重要性について理解する。
9	健康づくりと栄養について1	栄養素の働きと重要性について理解する。
10	健康づくりと栄養について2	栄養素の働きと重要性について。特にサプリメントの活用方法とその意義について理解する。
11	健康づくりと栄養について3	運動と栄養の関係について。効果的な運動処方について理解する。
12	休養について1	コンディショニングとしての積極的休養について理解する。
13	休養について2	休養における睡眠の意義と重要性について理解する。
14	休養について3	スポーツにおける休養（リカバリー）の方法とそのメカニズムの基礎について理解する。
15	まとめ	まとめを行い、小テストでその理解度を確認する。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	健康・スポーツ科学 (演習)	科目ナンバリング	HPHS21027
担当者氏名	三宅 一郎、徳田 泰伸		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-A コミュニケーション力 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 基教-F 自然・健康について理解する力		

《授業の概要》

授業の最初に身体組成の計測と体力テストを実施し、自分の体力の現状を把握する。次に、各自が取り組むスポーツ種目を選択し、その間の積極的な行動が授業の最終日に行う体力テストに反映できるようなプログラムを構築していく。さらには、ルールに基づいた各種のスポーツ活動を行っていくなかで、技術、体力、戦術などについて理解を深めるとともに、生涯スポーツ実践の能力を身につける事を目的とする。

《授業の到達目標》

自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツ活動を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成するための能力を身につける。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。毎時間の受講成果をノートにまとめて提出(50%)随時テーマに対するレポート提出(20%)学期末にまとめのレポート提出(30%)

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の実施方法や注意事項や評価方法等を知る。
2	体力テスト(1回目)	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。
3	屋内種目(体育館)	バレーボール・バスケットボール・バドミントン・インディアカ・卓球 等の中から1種目実施。
4	屋外種目(テニスコート・周辺)	テニス・ターゲットパードゴルフ・ベタンク 等の中から1種目実施。
5	屋外種目(グラウンド)	ウォーキング・ジョギング・サッカー・ソフトボール 等の中から1種目実施。
6	屋内種目(体育館)	前週 実施グループ 屋内種目(体育館)を実施
7	屋外種目(テニスコート・周辺)	前週 実施グループ 屋外種目(テニスコート・周辺)
8	屋外種目(グラウンド)	前週 実施グループ 屋外種目(グラウンド)
9	屋内種目(体育館)	前週 実施グループ 屋内種目(体育館)を実施
10	屋外種目(テニスコート・周辺)	前週 実施グループ 屋外種目(テニスコート・周辺)
11	屋外種目(グラウンド)	前週 実施グループ 屋外種目(グラウンド)
12	屋内種目(体育館)	前週 実施グループ 屋内種目(体育館)を実施
13	屋外種目(テニスコート・周辺)	前週 実施グループ 屋外種目(テニスコート・周辺)
14	屋外種目(グラウンド)	前週 実施グループ 屋外種目(グラウンド)
15	体力テスト(2回目)	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考図書》

『スポーツスキルの科学』宮下充正(大修館)
『からだロジック入門』宮下充正(大修館)

《授業時間外学習》

<予習方法> シラバスの授業計画を確認し、次時に実施する種目特性やルールを確認しておくこと。
<復習方法> 実施した運動特性やルールを確認し、生涯スポーツの実施種目に付け加えて欲しい。

《備考》

服装は、運動に適したものとする(平服は不可)。シューズは屋内用と屋外用を準備し、実施場所に応じて使用すること。天候の都合により実施種目の変更はその都度連絡する。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	健康・スポーツ科学 (演習)	科目ナンバリング	HPHS21028
担当者氏名	三宅 一郎、徳田 泰伸、樽本 つぐみ		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-A コミュニケーション力 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 基教-F 自然・健康について理解する力		

《授業の概要》

屋内と屋外スポーツを同時に進行する。時間単位で種目を選択し、毎時間ゲームを取り入れて各種目の応用技能を習得する。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考図書》

『スポーツスキルの科学』宮下充正（大修館）
 『からだロジック入門』宮下充正（大修館）

《授業の到達目標》

自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツ活動を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成するための能力を身につける。また、各スポーツの基礎技能とルールを学習し、スポーツそのものを楽しむことを目的とする。

《授業時間外学習》

<予習方法>
 シラバスの授業計画を確認し、次時に実施する種目特性やルールを確認しておくこと。
 <復習方法>
 実施した運動特性やルールを確認し、生涯スポーツの実施種目に付け加えて欲しい。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。
 毎時間の受講成果をノートにまとめて提出(50%)
 随時テーマに対するレポート提出(20%)
 学期末にまとめのレポート提出(30%)

《備考》

服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。シューズは屋内用と屋外用を準備し、実施場所に応じて使用すること。天候の都合により実施種目の変更はその都度連絡する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の実施方法や注意事項や評価方法等を知る。
2	体力テスト（1回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。
3	屋内種目（体育館）	バレーボール・バスケットボール・バドミントン・インディアカ・卓球等の中から1種目実施。
4	屋外種目（テニスコート・周辺）	テニス・ターゲットパードゴルフ・ベタンク等の中から1種目実施。
5	屋外種目（グラウンド）	ウォーキング・ジョギング・サッカー・ソフトボール等の中から1種目実施。
6	屋内種目（体育館）	前週 実施グループ 屋内種目（体育館）を実施
7	屋外種目（テニスコート・周辺）	前週 実施グループ 屋外種目（テニスコート・周辺）
8	屋外種目（グラウンド）	前週 実施グループ 屋外種目（グラウンド）
9	屋内種目（体育館）	前週 実施グループ 屋内種目（体育館）を実施
10	屋外種目（テニスコート・周辺）	前週 実施グループ 屋外種目（テニスコート・周辺）
11	屋外種目（グラウンド）	前週 実施グループ 屋外種目（グラウンド）
12	屋内種目（体育館）	前週 実施グループ 屋内種目（体育館）を実施
13	屋外種目（テニスコート・周辺）	前週 実施グループ 屋外種目（テニスコート・周辺）
14	屋外種目（グラウンド）	前週 実施グループ 屋外種目（グラウンド）
15	体力テスト（2回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	私のためのキャリア設計		科目ナンバリング	HCAL21029	
担当者氏名	三上 嘉代子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-A コミュニケーション力 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力				

《授業の概要》

この講義では、みなさん自身が学生生活の目的や目標を明確にし、それを実現するための考え方を学びます。さらに社会で求められる、マナーやコミュニケーション能力、課題解決能力等の養成にも取り組みます。

《授業の到達目標》

キャリアについて理論や演習を通じて学び、有意義な大学生活を過ごすための力や将来の自分自身について主体的に考え、行動することができる。

《成績評価の方法》

平常点(授業への取組姿勢) 50%、各分野の学習後に課するレポート 50%

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

《参考図書》

平木典子『自分の気持ちをきちんと伝える技術』PHP研究所(2011年)、小樽商科大学キャリア教育開発チーム+キャリアバンク編『大学ノムコウ』日本経済評論社(2008年)、寿山泰二『社会人基礎力が身につくキャリアデザインブック~自己理解編~』金子書房2012年

《授業時間外学習》

シラバスの進行に合わせて予習する内容を伝えます。毎回の授業の課題等を整理し、まとめて復習することが必要です。

《備考》

コミュニケーションの基本は「あいさつ」です。授業は「あいさつ」から始め「あいさつ」で終わります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の狙い、授業の進め方、現在の自己全体を考える
2	マナー	基本編：挨拶の重要性・言葉づかい
3	マナー	実践編：面接時のマナー
4	コミュニケーションについて	聴く力、傾聴について考える
5	コミュニケーションについて	伝える力、アサーショントレーニングについて考える
6	自分自身を理解する	自我状態や対人関係の基本的な姿勢を知り自己理解を深める
7	自分自身を理解する	自他評価を分析する
8	自分自身を理解する	相互理解を深める
9	人を選ぶ・選ばれる	学生時代に力をいれたこと
10	自分の将来設計	これから就きたい仕事
11	社会が求める力を考える	採用会議～自律性・自立性を高める
12	社会が求める力を考える	考える力を身につける～適正を知る～
13	社会が求める力を考える	総合力を身につける
14	行動計画：プレゼンテーション	準備(自分を語るシート記入)、発表
15	行動計画：プレゼンテーション	発表

平成 27（2015）年度入学者

専門教育科目

カリキュラム年次配当表

健康システム学科 平成27年度（2015年度）入学者対象

（ ）は兼担、[]は兼任講師

授業 科目 区分	授業科目の名称	ナンバリング	授業 方法	単位数		健康 運動 指導士	運動 実践 指導者	教員免許関係			学年配当(数字は週当たり授業時間)								平成27年度 の 担当者	ページ
				必修	選択			養護	保健 体育	保健	1年		2年		3年		4年			
											I	II	I	II	I	II	I	II		
専 門 基 礎 育 科 目 群	基礎ゼミⅠ	H0AA11001	演習	2							2								※1	67
	基礎ゼミⅡ	H0AA11002	演習	2							2								平本 幸治	68
	基礎ゼミⅡ	H0AA11002	演習	2							2								大平 曜子	69
	基礎ゼミⅡ	H0AA11002	演習	3							2								古田 薫	70
	基礎ゼミⅡ	H0AA11002	演習	2							2								加藤 和代	71
	基礎ゼミⅡ	H0AA11002	演習	2							2								矢野 琢也	72
	基礎ゼミⅡ	H0AA11002	演習	2							2								樽本 つぐみ	73
	健康科学序論	H0AA11003	講義	2							2								多田 章夫	74
	健康科学	H0AA12004	講義	2		▽	◇					2								
	健康統計の基礎	H0AA12005	演習	2								2								
	解剖学	H0AA21006	講義	2		▽	◇	○		□	2								多田 章夫	75
	生理学	H0AA21007	講義	2				○	△	□	2								多田 章夫	76
	微生物学	H0XA22008	講義	2				○		□		2								
	生化学	H0XA22009	講義	2						□		2								
	栄養学	H0AA21010	講義	2				○		□	2								(真鍋 祐之)	77
	食品学	H0XA21011	講義	2				○		□	2								[島田 邦夫]	78
	栄養指導論	H0BB22012	演習	2		▽						2								
	衛生学	H0AA21013	講義	2				○	△	□	2								[島田 邦夫]	79
	公衆衛生学	H0AC22014	講義	2					△	□		2								
	医学概論	H0AB23015	講義	2		▽	◇	○					2							
	生活習慣病(成人病)	H0DB23016	講義	2		▽								2						
	健康心理学	H0AB22017	講義	2		▽	◇					2								
	臨床心理学	H0XB23018	講義	2									2							
教育特論Ⅰ	H0CC12019	講義	2									2								
教育特論Ⅱ	H0CC23020	講義	2										2							
教育特論Ⅲ	H0CC23021	講義	2											2						
地域活動演習Ⅰ	H0CC23022	演習	2											2						
地域活動演習Ⅱ	H0CC24023	演習	2		▽										2					

▽は健康運動指導士養成科目

◇は健康運動実践指導者養成科目

○は養護教諭免許必修科目、●は養護教諭免許選択科目

△は保健体育免許必修科目、▲は保健体育免許選択科目

□は保健免許必修科目、■は保健免許選択科目

※ 「地域活動演習Ⅰ」「地域活動演習Ⅱ」「スポーツ実践演習Ⅰ」「スポーツ実践演習Ⅱ」「健康・体力づくり実践演習Ⅰ」「健康・体力づくり実践演習Ⅱ」「ダンス/水泳Ⅰ」「ダンス/水泳Ⅱ」は、定期授業の他に学外実習を行う。

※ 「レクリエーション(野外活動を含む)」は、4時間のうち3時間を学外実習にあてる。

※ 健康運動実践指導者養成講座科目として、表中の科目以外に集中講義として「運動障害と予防」を2年Ⅰ期に、「水中運動」を3年Ⅰ期に履修する。

※ 公認ジュニアスポーツ指導員養成科目として、「幼児運動実践演習」「ジュニアスポーツⅠ」「ジュニアスポーツⅡ」「スポーツ指導法」「スポーツ実践演習Ⅰ」「スポーツ実践演習Ⅱ」を履修する。

※1 平本、三宅、大平、多田、古田、木下、河野、加藤、矢野、樽本、米野

カリキュラム年次配当表

健康システム学科 平成27年度（2015年度）入学者対象

（ ）は兼担、[]は兼任講師

授業区	業目分	授業科目の名称	ナバリング	授業方法	単位数		健康 運動 指導士	運動 実践 指導者	教員免許関係			学年配当 (数字は週当たり授業時間)								平成27年度 の 担当者	ページ									
					必修	選択			養護	保健 体育	保健	1年		2年		3年		4年												
												I	II	I	II	I	II	I	II											
専 門 に 関 連 す る 育 目	運 動 ・ 体 育	体育原理	H1BX21001	講義	2				△			2														徳田 泰伸	80			
		運動の基礎	H1BB11002	演習	2		◇			△			2														木下 幸文	81		
		運動生理学	H1BC22003	講義	2		▽	◇		△	□		2																	
		運動生理学演習	H1CX22004	演習	2									2																
		運動栄養学	H1BX22005	講義	2		▽	◇		△			2																	
		幼児運動実践演習	H1BX11039	演習	2					△			2															三宅 一郎	82	
		ジュニアスポーツⅠ	H1BB12006	演習	2		▽	◇		▲			2																	
		ジュニアスポーツⅡ	H1CX22007	演習	2					▲				2																
		スポーツ指導法	H1DX23040	演習	2										2															
		スポーツ医学概論	H1DX23008	講義	2		▽									2														
		スポーツ心理学	H1BX22009	講義	2		▽			▲					2															
		障害者スポーツ論	H1DX23010	講義	2		▽										2													
		スポーツ史 (体育史を含む)	H1BX21011	講義	2						△			2														徳田 泰伸	83	
		スポーツ科学Ⅰ	H1DX23012	演習	2											2														
		スポーツ科学Ⅱ	H1DX23013	演習	2												2													
		トレーニング科学Ⅰ	H1BX22014	演習	2		▽	◇						2																
		トレーニング科学Ⅱ	H1BX22015	演習	2		▽	◇							2															
		体力測定と評価	H1BB11016	演習	2		▽	◇		▲			2															木下 幸文	84	
		スポーツ実践演習Ⅰ	H1CX21041	演習	2		▽	◇		△			2															三宅・樽本	85	
		スポーツ実践演習Ⅱ	H1CX21042	演習	2		▽	◇		△			2															三宅・樽本	86	
		健康・体力づくり実践演習Ⅰ	H1CX21043	演習	2		▽	◇		△				2																
		健康・体力づくり実践演習Ⅱ	H1CX21045	演習	2		▽	◇		▲					2															
		陸上競技Ⅰ	H1CX21046	実技	1						△			2														樽本 つぐみ	87	
		球技Ⅰ	H1CX21047	実技	1						△			2														徳田 泰伸	88	
		陸上競技Ⅱ	H1CX21048	実技	1						△				2													樽本 つぐみ	89	
		球技Ⅱ	H1CX21049	実技	1						△					2												徳田 泰伸	90	
		武道Ⅰ	H1CX21050	実技	1						△					2												徳田 泰伸	91	
		器械運動Ⅰ	H1CX22051	実技	1						△				2															
武道Ⅱ	H1CX22052	実技	1						△					2																
ダンス/水泳Ⅰ	H1CX22053	実技	1						△				2																	
器械運動Ⅱ	H1CX22054	実技	1						△					2																
ダンス/水泳Ⅱ	H1CX22055	実技	1						△					2																
体育実技指導法Ⅰ	H1DX23056	演習	2						△						2															
体育実技指導法Ⅱ	H1DX23057	演習	2						△							2														
健康・体力づくり指導法Ⅰ	H1DX23023	演習	2		▽	◇									2															
健康・体力づくり指導法Ⅱ	H1DX23024	演習	2		▽	◇										2														
運動処方論	H1CX23025	講義	2													2														
運動処方演習	H1CX23026	演習	2		▽												2													
運動負荷試験実習	H1DX23027	実習	1		▽												2													
レクリエーション (野外活動を含む)	H1DX23028	実習	2						△								4													
科 目	養 護 ・ 保 健 に 関 連 す る 科 目	病理学概論	H2XB22001	講義	2								2																	
		薬理学	H2XB23002	講義	2					○								2												
		養護概説Ⅰ	H2XC21003	講義	2					○				2														加藤 和代	92	
		養護概説Ⅱ	H2XC21004	講義	2					●				2														大平 曜子	93	
		発育発達概論	H2BB12019	講義	2		▽	◇		○	△	□		2																
		養護活動演習	H2XD23005	演習	2					○						2														
		養護活動実習	H2XD23006	実習	2					○									2											
		学校保健Ⅰ (小児保健・学校安全を含む)	H2BB11007	講義	2					●	△	□		2														[岩本 正和]	94	
		学校保健Ⅱ	H2BC22008	講義	2					○	△	□			2															
		学校保健Ⅲ	H2DC22009	講義	2					○	△	□				2														
		精神保健	H2BC23010	講義	2					○	△	□					2													
		健康行動論	H2BC22011	講義	2						△	□				2														
		健康統計学	H2XC22012	演習	2						●	■					2													
		健康相談活動の理論と実践	H2XC23013	講義	2					○								2												
		基礎看護学	H2XB21014	演習	2					○				2														大平・[細井]	95	
		看護学Ⅰ	H2XC22015	演習	3					○					3															
		看護学Ⅱ	H2XC22016	演習	3					○						3														
		臨床看護実習	H2XC22017	実習	2					○							4													
		救急看護 (救急処置を含む)	H2BB13018	演習	2		▽	◇		○	△	□						2												
卒業研究		卒業研究Ⅰ	H3DD14001	演習	3																									
		卒業研究Ⅱ	H3DD14002	演習	3																									

カリキュラム年次配当表

健康システム学科 平成27年度（2015年度）入学者対象

（ ）は兼担、[]は兼任講師

授業 科目の 区分	授業科目の名称	ナンバリング	授業 方法	単位数		健康 運動 指導士	運動 実践 指導者	教員免許関係			学年配当 (数字は週当たり授業時間)								平成27年度 の 担当 者	ページ
				必修	選択			養護	保健 体育	保健	1年		2年		3年		4年			
											I	II	I	II	I	II	I	II		
教	教職概論	HTAL41001	講義	2				○	△	□	2								[砂子 滋美]	96
	教育原理	HTAL41002	講義	2				○	△	□	2								古田 薫	97
職	教育史	HTAL53003	講義	2				●	▲	■					2					
	教育心理学	HTAL42004	講義	2				○	△	□			2							
に	教育制度論	HTAL42005	講義	2				○	△	□	2								古田 薫	98
	教育課程論	HTAL42006	講義	2				○	△	□			2							
関	保健・保健体育科教育法Ⅰ (保健教育内容研究)	HTHH42001	講義	2					△	□			2							
	保健・保健体育科教育法Ⅱ (保健教育法研究)	HTHH43002	講義	2					△	□				2						
る	保健科教育法Ⅰ (保健科教育教材研究)	HTHH42003	講義	2						□				2						
	保健科教育法Ⅱ (保健科教育法演習)	HTHH43004	講義	2						□					2					
す	保健体育科教育法Ⅰ (保健体育科教育研究)	HTHH42005	講義	2					△					2						
	保健体育科教育法Ⅱ (保健体育科教育法研究)	HTHH43006	講義	2					△						2					
科	道徳教育論	HTAL43007	講義	2				○	△	□				2						
	特別活動論	HTAL42008	講義	2				○	△	□				2						
目	教育方法・技術論	HTAL42009	講義	2				○	△	□				2						
	生徒指導論	HTAL42010	講義	2				○	△	□			2							
目	進路指導論	HTHH43007	講義	2					△	□					2					
	教育相談 (カウンセリングを含む)	HTAL41011	講義	2				○	△	□	2								(原 志津)	99
目	中学校教育実習 (事前事後指導)	HTHH43008	演習	2					△	□				2						
	中学校教育実習	HTHH44011	実習	3					△	□					3					
目	高等学校教育実習 (事前事後指導)	HTHH43009	演習	1					△	□				1						
	高等学校教育実習	HTHH44010	実習	2					△	□					2					
目	養護実習 (事前事後指導)	HTY043001	演習	1				○							1					
	養護実習	HTY044002	実習	4				○								4				
目	教職実践演習 (中・高)	HTHH44012	演習	2					△	□						2				
	教職実践演習 (養護教諭)	HTY044003	演習	2				○								2				

▽は健康運動指導士養成科目

◇は健康運動実践指導者養成科目

○は養護教諭免許必修科目、●は養護教諭免許選択科目

△は保健体育免許必修科目、▲は保健体育免許選択科目

□は保健免許必修科目、■は保健免許選択科目

※ 教職に関する科目を修得しても、卒業要件単位には含まれない。

※ 教育職員免許状を取得するためには、上記科目のほか、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目として、日本国憲法 (2単位)、体育 (2単位)、外国語コミュニケーション (2単位)、情報機器の操作 (2単位) について、指定の科目を修得すること。

《専門教育科目 専門基礎科目群》

科目名	基礎ゼミ I		科目ナンバリング	HOAA11001	
担当者氏名	平本 幸治、三宅 一郎、大平 曜子、多田 章夫、古田 薫、徳田 泰伸、木下 幸文、河野 稔、加藤 和代、樽本 つぐみ、矢野 琢也、米野 吉則				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・1期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）				

《授業の概要》

知的活動への動機づけを高め、科学研究のためのオリエンテーション機能を果たします。均等に担当された学生（10名程度）を1人の教員が担当し、大学教養の範囲を超えない共通基礎領域の教材を用い、担当教員の専門性を通して学習へのモチベーションを高めます。ゼミナール形式の授業の利点を活かし、学生と担当教員がコミュニケーションを取り合い、相互に尊重し合い、高め合う効果も期待されます。

《授業の到達目標》

①ノートテーク、②文章表現・レポートの書き方、③情報収集・文献検索（図書館の利用方法）、④口頭での報告・プレゼンテーション、など専門領域の枠を超えて大学での学習方法の基礎的知識とスキルの習得を目標とします。

《成績評価の方法》

レポートの提出や学習成果の発表など（60%）、授業時の提出物など（40%）

《テキスト》

適宜プリントを配布します。

《参考図書》

『知へのステップ』学習技術研究会（くろしお出版）その他

《授業時間外学習》

自らの学習課題を明確にし、授業に主体的に臨めるように、またその課題を克服するように努力して下さい。

《備考》

授業計画は目安です。進捗状況によって進行が異なる場合があります。図書館の利用法は時間に変更される場合があります。学習支援センターとの連携の授業が入る場合があります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	ゼミの進め方などを説明し、メンバーの紹介を行います。
2	学習のスキル	学習活動における基本的な知識と学習のスキルに関して説明します。
3	資料の収集	図書館の利用方法や文献の検索の方法を説明します。
4	ノートテーク①	ノートテークの技術を指導します。
5	ノートテーク②	ノートテークの技術を習得します。
6	レポートの書き方Ⅰ①	基本的な文書の書き方を指導します。
7	レポートの書き方Ⅰ②	文書による学習成果の報告の方法を指導します。
8	レポートの書き方Ⅰ③	実際に文書を作成し添削します。
9	レポートの書き方Ⅱ①	「レポートの書き方Ⅰ」で明らかになる課題をふまえて改善を目指します。基本的な文書の書き方を習得します。
10	レポートの書き方Ⅱ②	文書による学習成果の報告の方法を習得します。
11	レポートの書き方Ⅱ③	実際に文書を作成し添削します。
12	成果の発表①	学習成果の発表方法を具体例を用いて説明します。
13	成果の発表②	口頭による学習成果のプレゼンテーションの方法を指導します。
14	成果の発表③	口頭による学習成果のプレゼンテーションを行い改善方法を指導します。
15	まとめ	これまでの学習内容と得られた知識を再確認し総括します。

科目名	基礎ゼミⅡ	科目ナンバリング	HOAA11002
担当者氏名	平本 幸治		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ◎ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） 		

《授業の概要》

最新の健康科学に関する基本的な英語論説文を用いて情報を収集し、知識として活用する練習を行います。テキストを着実に読み進み、内容、語義、文法事項、慣用句、発音などを確認します。CDを利用して音声面の練成を行います。小テストにより基本的な知識が定着するように努めます。

《テキスト》

適宜プリントを配布します。

《参考図書》

適宜参考となる文献や資料を紹介します。

《授業の到達目標》

将来の研究や職場で遭遇する英語による情報を理解でき、健康や科学に関するコミュニケーションに必要な実用的な英語を身につけることを目標とします。

《授業時間外学習》

プリントの次回の学習範囲の単語や慣用句などの意味を調べ、精読しておいて下さい。

《成績評価の方法》

期末レポート（50%）、授業中に実施する小テスト（50%）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Potassium and Strokes	カリウムと脳卒中に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
2	AIDS	エイズに関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
3	Moon's Influence	月の影響に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
4	Hypnosis	催眠術に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
5	Sleep	睡眠に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
6	Environment	環境問題に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
7	Artists and Sickness	芸術家と病気に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
8	Hiccups	しゃっくりに関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
9	Water and Health	水と健康に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
10	Life Expectancy	平均寿命に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
11	Dyslexia	失読症に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
12	CPR	心肺機能回復法に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
13	Age and Memory	年齢と記憶に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
14	Dental Care	歯の治療に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
15	まとめ	これまでの学習内容と得られた知識を再確認し、その具体的な成果を説明することができるように総括します。

科目名	基礎ゼミⅡ	科目ナンバリング	HOAA11002
担当者氏名	大平 曜子		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ◎ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力）		

《授業の概要》

人々の健康を守る営みを医療者や専門家に任せておくという時代は終わり、自分の体に責任をもった大人であることが求められています。現代社会を日常の生活者の観点で見直し、自分の周りの健康課題を取り上げて、情報収集から考察、まとめとすすめていきます。自己の考えを伝えるためのスキルを学んでいきます。

《テキスト》

指定しません。

《参考図書》

『生き方としての健康科学』第5版 山崎喜比古・朝倉隆司編 有信堂高文社

《授業の到達目標》

- ・情報収集と検索した結果を整理することができる
- ・レポートにまとめ、発表することができる
- ・自己評価や他者評価を生かし、修正していくことができる

《授業時間外学習》

取り組むべき課題に応じた文献検索や収集した資料を基に、自分の意見をまとめ、論理的な組み立てをし、発表に備える

《成績評価の方法》

最終レポート(40%)、口頭発表(50%)、授業時間内の提出物(10%)

《備考》

一度完成した原稿を他人の意見を取り入れて修正していく、柔軟かい頭と心と面倒がらない姿勢が大事です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方や評価の方法を説明する
2	健康な社会	健やかに生きるとは何か
3	「課題と研究方法」①	課題への接近方法を考えます。情報収集とデータ分析など、研究成果を報告することについて考えます。
4	現代社会と病①	身体・社会・こころ
5	現代社会と病②	食事・睡眠・運動
6	「課題と研究方法」②	データの集め方と考察
7	生き方の選択①	生と死の健康性
8	生き方の選択②	生き方と愛すること
9	生き方の選択③	生き方と働くこと
10	健康のリスク①	感染症と人間社会
11	健康のリスク②	生活習慣病と人間生活
12	「課題と研究方法」③	まとめ方とプレゼンテーションの仕方
13	発表	プレゼンテーション
14	発表	プレゼンテーション
15	発表・まとめ	プレゼンテーション、レポート確認

科目名	基礎ゼミⅡ	科目ナンバリング	HOAA11002
担当者氏名	古田 薫		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ◎ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） 		

《授業の概要》

新聞記事を用いて、教育の現代的課題を考察することを通じて、批判的読解力、情報収集力、情報分析力、表現力、課題発見力の向上を目指す。

《テキスト》

必要に応じて資料を配布する。

《参考図書》

山里 亮太、三田村 昌樹『ニュースの読み方教えます!』ヨシモトブックス、2013年。

《授業の到達目標》

- 情報の概要をまとめ、伝えることができる。
- 必要な情報を収集し、関連性を理解して解釈することができる。
- 他の人の意見に耳を傾け、自分の意見を発表できる。
- 情報を批判的に読み解き、自分の考えをレポートにまとめることができる。
- 情報を総合的に判断し、新たな課題を発見できる。

《授業時間外学習》

テーマに沿った情報収集・調査を行い、自分の考えをまとめたレポートを作成すること。
授業での発表用のレジュメを作成すること。

《成績評価の方法》

受講態度（ディスカッションへの参加度等） 30%
発表 30%
提出物 40%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方、新聞記事の構造と読み方
2	テーマⅠ： 部活の外部委託	新聞記事の読解と要約
3	テーマⅠ： 部活の外部委託	関連する情報の分析と発表
4	テーマⅠ： 部活の外部委託	テーマについての意見交換とまとめ
5	テーマⅡ：児童虐待	新聞記事の読解と要約
6	テーマⅡ：児童虐待	関連する情報の分析と発表
7	テーマⅡ：児童虐待	テーマについての意見交換とまとめ
8	テーマⅢ： 問題児童生徒への対応	新聞記事の読解と要約
9	テーマⅢ： 問題児童生徒への対応	関連する情報の分析と発表
10	テーマⅢ： 問題児童生徒への対応	テーマについての意見交換とまとめ
11	テーマⅣ： モンスターペアレント	新聞記事の読解と要約
12	テーマⅣ： モンスターペアレント	関連する情報の分析と発表
13	テーマⅣ： モンスターペアレント	テーマについての意見交換とまとめ
14	レポートの発表1	各自で選択した新聞記事についてのレポートの提出と発表
15	レポートの発表2 まとめ	各自で選択した新聞記事についてのレポートの提出と発表 まとめと振り返り

科目名	基礎ゼミⅡ	科目ナンバリング	HOAA11002
担当者氏名	加藤 和代		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ◎ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） 		

《授業の概要》

深刻化しているいじめ・不登校・虐待などのメンタルヘルスの問題、飲酒・喫煙・薬物乱用、10代に広がる性感染症など身近な健康問題をテーマに、情報を収集し、課題に対する自分の意見や提言をまとめていくことで心と体の健康への関心を高め、適切な行動化へつなげることをねらいとする。また意見交換の方法、提言を伝えるプレゼンテーションの方法等も身につける。

《授業の到達目標》

- 資料検索方法ならびに適切な資料を丁寧に読み取ることができる。
- レポート作成、発表、意見交換により健康をより科学的に捉える。
- 「自らの健康上の問題や課題」も明らかにし改善することができる。

《成績評価の方法》

発表（50%）レポート（50%）で総合的に判断する。

《テキスト》

指定しない。必要に応じて資料を配布する。

《参考図書》

「学校保健の動向」平成26年度版
 (財団法人日本学校保健会)
 その他随時紹介する。

《授業時間外学習》

示されたテーマについて、文献や資料をもとに自分の意見や提言をまとめ、意見交換の場に活かす。

《備考》

発表時の質疑・意見、指導講評をもとに修正した最終レポートを提出する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方を説明する
2	現代的健康課題	青少年の現代的健康課題、ヘルスプロモーション
3	情報収集 レポートの書き方	情報収集 リーディング 情報整理、レポートの構成
4	健康課題の予備知識 (1)	性感染症 10代に広がるクラミジア 性のネットワーク
5	健康課題の予備知識 (2)	AIDS HIV感染症 エイズ教育 エイズと社会
6	健康課題の予備知識 (3)	薬物乱用 危険ドラッグ 薬物依存 幻覚 禁断症状
7	健康課題の予備知識 (4)	喫煙 肺がん 副流煙 たばこ人形実験
8	健康課題の予備知識 (5)	飲酒、急性アルコール中毒、アルコールパッチテスト
9	健康課題の予備知識 (6)	虐待 ネグレクト マルトリートメント
10	健康課題の予備知識 (7)	不登校 引きこもり 登校支援
11	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションとは 発表の構成 発表原稿（ノート） リハーサル
12	発表（1）	プレゼンテーションの実際、質疑応答、意見交換、プレゼンテーション評価シート
13	発表（2）	プレゼンテーションの実際、質疑応答、意見交換、プレゼンテーション評価シート
14	発表（3）	プレゼンテーションの実際、質疑応答、意見交換、プレゼンテーション評価シート
15	まとめ	学修内容の確認 レポート修正

《専門教育科目 専門基礎科目》

科目名	基礎ゼミⅡ	科目ナンバリング	HOAA11002
担当者氏名	矢野 琢也		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ◎ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） 		

《授業の概要》

基礎ゼミⅠで学んだこと、身につけたことを土台に、スポーツに関する専門的なテーマでそれらの能力をより向上させることを目的として展開します。新聞、雑誌、TVなどあらゆる情報からスポーツに関するトピックスを選出し、その内容を理解すると共にそれらをより深く理解するために必要な事項について学びます。その上でプレゼンテーションやレポート等でそれらの理解度を確認します。

《授業の到達目標》

指導者として必要なプレゼンテーション能力（聞く、理解する、ポイントを見つける、まとめる、書く、発表する）とそのための情報収集の力を身につけることを目標とします。運動生理学やトレーニング論等の基礎知識を学びながら、それらの重要性や学ぶことの重要性を理解することも目標とします。

《成績評価の方法》

レポートと授業における発表で評価します(100%)。レポートの提出は期日厳守です。原則遅れは受け取りません。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方や評価方法を説明する。
2	指導論	スポーツ指導者としてのあるべき姿について討論する。
3	コンディショニング	コンディショニングについてその構成要素等を考える。
4	トレーニング計画	トレーニング計画についてその内容や重要性等を考える。
5	スポーツ障害	スポーツ障害、特にオーバーユースに関して考える。
6	成長期のトレーニング	成長期におけるトレーニングの在り方を考える。
7	スポーツイベント	オリンピックやW杯などからトレーニング計画等について考える。
8	運動生理学（筋）	筋組成（速筋、遅筋）の特性を理解する。
9	運動生理学（パワー）	パワーについてその概念を理解する。
10	運動生理学（筋持久力）	筋持久力に関する基礎知識を理解する。
11	運動生理学（全身持久力）	全身持久力に関する基礎知識を理解する。
12	運動生理学（エネルギー）	エネルギーに関する基礎知識を理解する。
13	運動生理学（性別、エイジング）	女性、高齢者に対するトレーニング効果について理解する。
14	運動生理学（ディ・トレーニング）	ディ・トレーニングに関する基礎知識を理解する。
15	まとめ	これまでの内容をまとめる。必要に応じて情報等を補足する。

《テキスト》

特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

《参考図書》

「入門運動生理学第3版」杏林書院、「競技力向上のトレーニング戦略」大修館書店、「ストレンクス&コンディショニング」ブックハウスHD、「スポーツ・健康科学」放送大学

《授業時間外学習》

新聞や雑誌等で積極的に情報を収集するようにしてください。また、実際にスポーツをしたり、観戦するなどスポーツに関わる行動を積極的に行ってください。

《備考》

トレーニング指導者を目指す人のための授業を行います。真剣に学びたい人が、より多く学べるように積極的に展開しますので、皆さんの積極的な姿勢を望みます。

科目名	基礎ゼミⅡ	科目ナンバリング	HOAA11002
担当者氏名	樽本 つぐみ		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ◎ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） 		

《授業の概要》

近年、健康志向の高まりによりジョギングやマラソンは人気のスポーツであるが学校体育では苦手なスポーツでもある。本講義では長距離を走るための生理的特性を理解するとともに、トレーニングの効果を自分の身体で体得する。それら長距離走の必要性をレポート作成および発表、表現する(加古川マラソン大会出場)ことが目標である。基礎ゼミⅠで学んだ内容をより深めていくことが必要である。

《授業の到達目標》

(1)長距離走に必要なテーマを挙げ、それぞれについて情報を収集できる。(2)調べた内容を発表し、自分の考えを表現できる。(3)協力して実験を行い、レポートを作成できる。(4)その成果をマラソン大会において発揮する。(5)本講義で学んだ内容を自らの生活に振り返ることで、競技力(パフォーマンス)の向上や生活習慣病改善のための知識を身につけることができる。

《成績評価の方法》

(1)(3)(4)についてはレポート提出、(2)(3)(5)は発表の内容で評価する。評価の割合は、レポート50%、発表50%とし100点満点で60点以上を合格とする。

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じて資料を配付する。

《参考図書》

「長距離走者の生理科学」平木場浩二(杏林書院) 「スポーツトレーニング理論」伊藤マモル(日本文芸社) 「ランニング解剖学」ジョー・プレオ著(ベースボール・マガジン社)

《授業時間外学習》

①授業終了時に次回のプリントを配付するので読んでおくこと。②長距離走に関する新聞や雑誌の記事を切り抜き要点をまとめて提出し発表する。③12/23に開催される加古川マラソン大会に出場するとともに、大会を支えているボランティア活動を体験する。そこで「走る、支える、見る」側面からマラソンについて理解し発表する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業担当者を決定し、授業の流れを説明する
2	長距離走とは	長距離を走るための身体の構造を理解する(体組成、脳、肉、骨、ホルモンなど) 自分の身体を理解する(体組成測定)
3	トレーニング計画作成	トレーニングの効果を理解し、トレーニング計画を作成する(①ジョギング・ペース走 ②インターバル練習 ③全力走)
4	ジョギング、ペース走の効果	個人にあったペースを算出し、ジョギング、ペース走の効果を理解し実践しレポートを作成する
5	栄養・水分補給の効果	長距離走のための栄養や水分補給の効果について理解する
6	インターバルトレーニングの効果	個人にあったペースを算出し、インターバルトレーニングの効果を理解し実践しレポートを作成する
7	筋力トレーニングの効果	長距離走のための筋力トレーニングの効果について理解する
8	スプリントトレーニングの効果	スプリントトレーニングの効果を理解し実践しレポートを作成する
9	休養の効果	長距離走のための休養の取り方や心理的な効果を理解する
10	全力走の効果	全力走の効果について理解し実践しレポートを作成する
11	環境への適応	環境に適応するためウェアの効果等について理解するとともに大会にピークを合わせるピーキングについて理解しレポートを作成する
12	マラソン大会出場	大会に出場する、ボランティア活動を経験する、応援するこれら3つの側面(する、見る、支える)から調査しまとめる
13	発表(1)	研究および調査した内容を発表する
14	発表(2)	研究および調査した内容を発表する
15	長距離走についてまとめ	長距離走について理解したことをまとめる

科目名	健康科学序論		科目ナンバリング	HOAA11003	
担当者氏名	多田 章夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合）				

《授業の概要》

健康と疾病は連続性を持っている。普段は当たり前のように考えがちな「健康状態」は、実は壮大かつ精巧な生体メカニズムによって維持されている。健康科学序論の授業においては、健康状態およびその維持についてのメカニズムを理解することで「健康であること」の大切さを再認識し、疾病予防や健康づくりに役立てる。

《テキスト》

指定しない。

《参考図書》

各単元毎に必要なに応じて紹介する。

《授業の到達目標》

- 1 生体が健康を維持するためのメカニズム（恒常性の維持、調節機構等）を理解する
- 2 生体の健康維持機能の破綻によって疾患が発生するメカニズムを理解する

《授業時間外学習》

- 1 次回の授業範囲を予習し、概要を把握すること
- 2 毎回授業後、ノートを整理し、重要なポイントを理解すること
- 3 日頃から、健康状態について関心を持つよう心掛けること

《成績評価の方法》

- 1 定期試験80%、小テスト20%の割合で評価する
- 2 遅刻2回は欠席1回にカウントし、欠席が6回に達した者は定期試験の受験資格を失う
- 3 私語等講義の妨害となる行為や風紀を乱す行為を行った者は、欠席もしくは減点の対象となる

《備考》

講義中は、他人の迷惑にならないよう最低限のマナーを守ること

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	健康の科学的な解明	健康状態とは科学的に解明するためのポイント（ホメオスタシス、生体防御、再生と分化、遺伝子発現等）の概略。
2	個体の調節機構	生体の内部環境の恒常性を保つホメオスタシスの概念、血圧、体温、血糖値の恒常性について。
3	体温の調節機構	自律神経系や内分泌系による体温の調節（発汗、ふるえ、血管収縮、代謝亢進）。
4	血糖値の調節	生体内において血糖値を調節するホルモンの種類や、自律神経によるホルモン分泌調節機構。
5	細胞と細胞周期	生体における細胞の種類（上皮細胞、骨細胞、神経細胞等）や細胞周期におけるそれぞれの時期（M期、G0-2期、S期）の意味合い。
6	組織の再生	組織・臓器の再生及び医学において用いられる幹細胞（胚性幹細胞や体性幹細胞）の利点・欠点、iPS細胞の利点、意義。
7	骨の形成	骨の成分や形成経路、成長期の骨の形成、成長期の女性ホルモンと骨代謝、成熟期や高齢期の骨の変化。
8	遺伝子発現	遺伝の概念、遺伝子（特にDNA）の構造、遺伝情報の概念、遺伝子の転写機構、mRNAから蛋白質への翻訳機構。
9	タンパク質	アミノ酸、生体における蛋白質の構造や種類（構造蛋白質、酵素、輸送タンパク質等）とそれらの機能。
10	酵素と健康	酵素の持つ性質や機能を説明でき、さらに、日常生活において酵素が活用されている例。
11	生体防御（自然免疫）	免疫の概念、自然免疫の概念、主な自然免疫機構について。
12	生体防御（獲得免疫）	自然免疫との相違、獲得免疫の樹立のメカニズム、獲得免疫を担う細胞について。
13	生体防御（常在菌）	常在菌の概念、腸内や口腔内における常在菌叢の年齢的な変化、常在菌の持つ意義（特に病原菌感染予防）。
14	生体リズム	生体リズム（概日リズム）の概念を理解し、人間のもつ体内時計や生体リズムを調節するメカニズム。
15	記憶	スクワイアの記憶分類、長記憶の分類、長期記憶の忘却、原因、記憶の過程、学習について。

《専門教育科目 専門基礎科目》

科目名	解剖学	科目ナンバリング	H0AA21006
担当者氏名	多田 章夫		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・1期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） ○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力）		

《授業の概要》

ヒトが正常な機能を営み、生きていくために、からだの中では極めて多くの精密な構造・機能が複雑に絡み合っており、からだ全体としての調和をとっている。その基準となる正常な構造・機能を十分理解しなければその変化である種々の異常を知ることが不可能である。生涯にわたる人間の健康の維持増進に寄与・貢献していくために不可欠な知識を学んでいく。

《テキスト》

イラストで学ぶ解剖学 松村譲児 医学書院

《参考図書》

各単元毎に必要なに応じて紹介する。

《授業の到達目標》

- 1 主要な臓器・筋肉・骨格・神経・血管の位置・構造を理解する
- 2 呼吸、循環、消化・吸収など生理現象がどの臓器を用いて行われるかを説明できる

《授業時間外学習》

- 1 次回の授業範囲を予習し概要を把握しておくこと
- 2 毎回授業後、ノートを整理し重要なポイントを理解すること

《成績評価の方法》

- 1 定期試験80%、小テスト20%の割合で評価する
- 2 6回以上欠席した者は定期試験の受験資格を失う
- 3 私語等講義の妨害となる行為や風紀を乱す行為を行った者は、出席取り消しもしくは減点の対象となる

《備考》

講義中は、他人の迷惑にならないよう最低限のマナーを守る。本科目は教員免許必須科目であるため、上記の件を遵守でき、可能な限り欠席のない学生の履修登録が望ましい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	細胞・組織	人間の組織・臓器を構成する細胞の基本的な構造やそれぞれの構成要素の機能について説明できる。
2	骨と筋	骨や筋肉の基本的な構造が説明でき、身体における主要な骨や筋肉の名称を挙げる事ができる。
3	上肢の骨格や筋肉	肩関節の構成、肩甲骨・鎖骨・上腕骨の解剖学的な位置、肩甲挙筋・僧帽筋・大胸筋の起始・停止部や機能について説明できる。
4	下肢の骨格や筋肉	股関節や膝関節を構成する骨、主要な腸腰筋の起始・停止部や神経支配や運動、大腿四頭筋の起始・停止部や神経支配や運動を説明できる。
5	背中の骨と筋肉	背骨の構成、脊椎の構造、広背筋・上後鋸筋・下鋸筋・回旋筋・腸筋の起始・停止部や神経支配や主な機能を説明できる。
6	頭部の骨と筋肉	咀嚼筋の起始・停止部、神経支配、機能、頭蓋を構成する骨、顔面を構成する骨について説明できる。
7	呼吸器系	胸郭を構成する骨、呼吸運動に働く筋肉（横隔膜、肋間筋）の機能、各呼吸器の解剖学的な関係について
8	心臓	心臓の解剖学的な位置、構造、機能、心筋の特徴、体循環、肺循環、栄養動脈、刺激伝導系、神経支配について説明できる。
9	動脈・静脈系	動・静脈の構造・機能に関する相違、主な動脈の走行部位、栄養を与える臓器、脈拍を触れやすい動脈、主な静脈の走行について説明できる。
10	消化器系（1）	消化管、口腔、咽頭、食道、胃、小腸（十二指腸、空腸、回腸）、大腸（盲腸、結腸、直腸）についてそれぞれの解剖学的な位置、構造、機能について説明できる。
11	消化器系（2）	消化管、口腔、咽頭、食道、胃、小腸（十二指腸、空腸、回腸）、大腸（盲腸、結腸、直腸）についてそれぞれの解剖学的な位置、構造、機能について説明できる。
12	腹部臓器	肝臓、胆嚢、膵臓の解剖学的な位置、形態、構造、栄養動脈、機能、腎臓の形態、構造、解剖学的な位置、腎小体、糸球体、ボウマン嚢、尿の生成過程について理解する。
13	中枢神経系（1）	髄膜、脳室、脳に分布する動脈の走行、大脳皮質の各部位（前頭葉、頭頂葉、後頭葉、側頭葉）それぞれの機能について説明できる。
14	中枢神経系（2）	間脳、脳幹（中脳、橋、延髄）、脊髄、小脳の解剖学的な位置やそれぞれの機能について説明できる。
15	末梢神経系・感覚器	中枢神経と脳神経・脊髄神経および感覚神経・運動神経との関連について説明できる。感覚器の構造について説明できる。

科目名	生理学	科目ナンバリング	H0AA21007
担当者氏名	多田 章夫		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） ○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力）		

《授業の概要》

生理学は、生命維持に必要な人体の仕組み、あるいは、身体運動を含む生命活動を維持している人体の基本的な機能を追及する学問領域である。これらの仕組みと機能について体系的な知識を習得するとともに、運動、呼吸、循環などの生命維持に不可欠な機能の統合的な制御を学習する。

《テキスト》

「人体生理学ノート」松根幹朗、岡田隆史 金芳堂

《参考図書》

各単元毎に必要なに応じて紹介する。

《授業の到達目標》

- 1 神経興奮メカニズム、中枢神経による運動制御機構を説明できる
- 2 呼吸、循環、消化・吸収、体温調節、内分泌など生体のホメオスタシスの維持に必須の機能を説明できる

《授業時間外学習》

- 1 次回の授業範囲を予習し概要を把握しておく
- 2 毎回授業後、ノートを整理し重要なポイントを理解する
- 3 人体の生理現象を身近な問題として捉えるよう日頃から心がける

《成績評価の方法》

- 1 定期試験80%、小テスト20%の割合で評価する
- 2 私語等講義の妨害となる行為や風紀を乱す行為を行った者は、出席取り消しもしくは減点の対象となる。

《備考》

他人の迷惑にならないよう最低限のマナーを守る。
 本科目は教員免許必須科目であるため、上記の件を遵守でき、可能な限り欠席のない学生の履修登録が望ましい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	生命現象	生物が生命を維持する上で必要な生理現象として循環、呼吸、代謝、神経伝達、消化・吸収等の概念を理解する。
2	細胞膜の興奮	静止状態にある細胞の膜電位及びそれを形成する細胞内外のNa ⁺ 、K ⁺ 濃度及び、刺激を受けた細胞膜に流れるイオン電流と電位変化を説明できる。
3	神経の伝達	細胞、特に神経細胞に発生した細胞膜の興奮が隣接する細胞や筋肉にどのような機序で伝達するかを説明できる。さらに、興奮伝達の三原則を説明できる。
4	骨格筋の収縮	神経細胞から伝達された興奮は神経・筋接合部でどのように伝達されるか、筋細胞に伝達された興奮により筋肉が収縮する仕組みを説明できる。
5	末梢神経	末梢神経には体性神経（運動神経、感覚神経）と自律神経があることを理解し、自律神経の特徴や自律神経における興奮伝達物質について説明できる。
6	中枢神経（脊髄、下部脳幹、視床下部、小脳）	脊髄反射、中脳、延髄それぞれが司る生命維持に重要な機能、視床下部が調節するホメオスタシス機構、小脳の司る知覚・運動統合機能を説明できる。
7	中枢神経（大脳）	大脳皮質の古皮質・新皮質が司る高次脳機能（知覚、随意運動、思考、記憶等）や一次運動野の分布、そして錐体路と錐体外路との相違について説明できる。
8	血液	それぞれの血球（赤血球、白血球、血小板）の有する機能について説明できる。
9	心臓	心臓の有する機能、体循環、肺循環経路、刺激伝導系、心筋の活動電位、心臓のポンプ作用、心拍出量について説明できる。
10	血液循環	最大（収縮期）血圧、最小（拡張期）血圧の概念、血管神経による血圧の調節機構及び体循環量による血圧調節機構について説明できる。
11	呼吸	呼吸の概念（外呼吸と内呼吸）、呼吸運動に関与する臓器・組織、呼吸器量、呼吸の化学的調節や神経性調節について説明できる。
12	消化・吸収（口腔、食道、胃）	口腔内消化における咀嚼筋、3大唾液腺、唾液の役割、嚥下運動、胃内消化における胃液の性状、胃液中に分泌されるホルモンや消化酵素について説明できる。
13	消化・吸収（小腸、大腸）	小腸での消化において分泌される膵液、胆汁、腸液に含まれるホルモンや消化酵素やそれらの生理活性、小腸における栄養素吸収、大腸内消化について説明できる。
14	内分泌	体内に分泌される調節性ホルモン及び機能性ホルモンの概念を理解し、主要なホルモンの生理作用を説明できる。
15	尿排泄	尿が生成・排泄されるまでの機構及び、尿排泄を調節するホルモンについて説明できる。

科目名	栄養学	科目ナンバリング	HOAA21010
担当者氏名	真鍋 祐之		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる (情報発信力) ◎ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく (知識の統合) ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度 (生涯学習力)		

《授業の概要》

人が食物を摂取し、生命を維持し、成長・発達する一連の営みが「栄養」であり、食物に含まれる成分が「栄養素」である。我々がより健康で豊かな充実した生活をおくるためには、栄養が不可欠であり、日常の活動や運動にも大きく影響する。そこで本講義では、日常的に摂取する栄養素に関する基本的事項を理解し、さらに体内での働きや健康の維持・増進、あるいは疾病との関わりについても理解を深めることを目指す。

《授業の到達目標》

- 栄養素の消化・吸収、体内での機能を知り、健康の維持・増進に栄養が深く関わっていることを説明できる。
- 「不適切な栄養状態」と「人生(ライフステージ)の各段階で起こる疾病」の関係を関連づけて説明できる。
- より良い人生をおくるためのツールである健康を効果的に向上させる食生活について、適切な情報を提起できる。

《成績評価の方法》

定期試験 (100%)

《テキスト》

『コンパクト栄養学』脊山洋右・廣野治子編、南江堂

《参考図書》

『日本人の食事摂取基準(2015年版)』厚生労働省、第一出版、その他、必要に応じて紹介する。

《授業時間外学習》

- (1) 予習の方法：次回講義の該当部分に目を通し、全体的な学習内容の把握をしておくこと。
- (2) 復習の方法：その日の講義内容を見直し、ノートの不十分な箇所は教科書を参考に追記するなど、内容を再確認すること。忘れることを恐れず、一度は理解しておくことが重要です。

《備考》

健康を考える上で、栄養学に関心を持つことは大切です。日常の食生活の中で「?」と感じてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	栄養素と栄養	栄養はどのような概念であるかを理解し、栄養素と栄養の意味の違いを説明することができる。
2	上部消化器における消化・吸収	口腔・食道・胃が摂取した食物の消化・吸収のために果たす機能と、その基になる構造を関連づけて理解する。
3	下部消化器における消化・吸収	十二指腸・空腸・回腸・大腸・膵臓・肝臓等が消化・吸収で果たす機能と、その構造を関連づけて理解する。
4	炭水化物(糖質)の代謝と機能	糖質の構造と機能、消化・吸収、エネルギー源としての体内代謝の流れや調節機構について理解する。
5	脂質の代謝と機能	脂質の種類・分類、消化・吸収を理解し、体内での役割やその代謝の重要性を説明することができる。
6	たんぱく質の代謝と機能	たんぱく質及びアミノ酸の構造と機能、消化・吸収の流れを学び、体全体の中でたんぱく質が果たす役割を説明することができる。
7	ビタミン・ミネラル・食物繊維の機能	糖質、脂質、たんぱく質の消化・吸収、代謝に種々のビタミンやミネラルが関わっているかを理解する。
8	妊娠・授乳期の栄養	妊娠期あるいは授乳期における母体の栄養状態が胎児や乳児の発育に及ぼす影響について理解する。
9	新生児・乳児期の栄養	新生児期を含む乳児期の栄養素摂取、とくに離乳食の重要性と進め方、さらにその役割について理解する。
10	幼児・学童・思春期の栄養	幼児・学童・思春期の発育のために必要な栄養管理の基本と不適切な栄養状態が発育に及ぼす影響について理解する。
11	成人・高齢期の栄養	加齢にともない成人・高齢期の生理的機能は低下し、これにともなって栄養素の代謝も変化することを理解する。
12	栄養状態の評価	ライフステージごとの適切な栄養状態とその評価基準の関係について学び、これら指標から栄養状態の概要を把握することができる。
13	栄養と治療食	疾病治療に用いられる治療食の意義や種類・形態、さらに効果について学び、その概要を説明することができる。
14	消化器系疾患と食事治療	消化器系疾患のうち、胃腸疾患・肝疾患等の原因と治療のための食事療法の基本的内容を正確に理解する。
15	生活習慣病と食事治療	肥満・糖尿病・メタボリックシンドローム等の生活習慣病の改善・治療のための食事療法の原則について理解する。

科目名	食品学	科目ナンバリング	HOAA21011		
担当者氏名	島田 邦夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・1期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力）			

《授業の概要》

食生活という言葉は、食が健康にとって重要であることを意味する。生命を維持し、活動していくためには、食品や水などを必要とする。本科目では食品に含まれる主要な成分の化学的性質と特徴について解説する。また加工・貯蔵などによる変化及び成分間の反応、食品の安全と衛生に関する知識を身につけ、併せて豊かな食品を育むための地球環境やグローバルな食料事情について理解を深める。

《授業の到達目標》

- 食品に含まれる成分について理解・説明できる。
- 食品の安全性確保のためのシステムを理解・説明できる。

《テキスト》

『イラスト 食品学総論』 種村安子、江藤義春、他 5名 著（東京教学社）

《参考図書》

『食べ物と健康：食品の安全性と衛生管理』、川井英雄 編著（医歯薬出版）

《授業時間外学習》

予習： テキストに目を通しておく。 復習： 授業内容を再確認、質問事項を列記しておき授業時に質問する。または自分で調べ、整理してまとめる。

《成績評価の方法》

- (1) 受講態度、学習意欲 20%（小試験、またはレポート提出により評価、レポート提出期限を守らない場合は減点とする）
- (2) 定期試験 80%

《備考》

本科目履修上の留意点： 化学的知識が必要なため、有機化学の基礎を学習しておくことが望ましい。積極的な受講態度を望む。質問大歓迎！

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション：食品学への誘い	「食品学」を学ぶ意義、ヒトと食物史、食べることはヒトを含め動物の本能的な行為である。食べると喰らうではどう違う？
2	食品から食物へ	米は食品、ご飯は食物、プロジェクター（映像）を使い「食品学」の全体像を把握・理解する
3	食品の分類	食品の成分、食品の働き、食品成分表
4	食品中の主要成分 I	① 炭水化物の化学的性質と特徴、② 脂質の化学的性質と特徴
5	食品中の主要成分 II	③ タンパク質の化学的性質と特徴、④ ビタミンの化学的性質と特徴、⑤ ミネラルの化学的性質と特徴
6	食品中の微量成分の役割 I	① 色素成分の化学的性質と特徴、② 香気成分の化学的性質と特徴（自然の恵み：色彩豊かな食品、巧みな香りに誘われて）
7	食品中の微量成分の役割 II	③ 呈味成分の化学的性質と特徴
8	食品中の機能性成分	体の調節を整える機能食品
9	食品の理化学的特性	食品の菌触り、舌触りはどこから？喉越しとは？食品の物性・テクスチャー、レオロジー
10	食品の美味しさを評価	官能検査とその応用（食品の味・感性は機械では困難、ヒトの感覚器はすぐれもの！）
11	食品の貯蔵・加工	① 食品の変質とその要因、② 食品の貯蔵・加工法（食品は環境要因によって変わる）
12	食品の安全と衛生 I	① 細菌・ウイルス性食中毒、② 自然毒食中毒（動物、植物）、③ カビ毒
13	食品の安全と衛生 II	④ 化学性物質食中毒、⑤ 寄生虫、⑥消費期限と賞味期限の違いは？
14	食品衛生行政と関連衛生法規	食品の安全性確保、総合衛生管理製造過程（HACCP）、食品衛生法や食品安全基本法、健康増進法など関連の法律
15	まとめ	食生活と健康、これまでの学習成果をまとめる。

科目名	衛生学	科目ナンバリング	HOAA21013
担当者氏名	島田 邦夫		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力）		

《授業の概要》

なぜ手を洗うの？衛生とは「生命」を衛（まもる）ことに基づいている。健康をまもることであり、健康の増進をも意味している。19世紀の住環境の悪化などにより生まれた言葉、健康の神“ハイジーン”に基づく。水は生物にとって必要なもの、空気は当たり前の存在で意識することがない。我々ヒトにとっては重要である。衛生学を衣食住の科学ととらえ、生活環境の変遷を科学的な観点から学習し理解を深める。

《授業の到達目標》

① ゴミの分別排出の理由が理解でき、説明できる。 ② 地球環境を考える力を養い、地球温暖化現象の理解とその防止対策を提言できる。 ③ 持続可能な循環型社会形成の意義が理解できる。

《成績評価の方法》

(1) 受講態度、学習意欲 20%（小試験、またはレポート提出により評価する。レポート提出期限を守らない場合は減点とする） (2) 定期試験 80%

《テキスト》

『はじめて学ぶ健康・スポーツ科学シリーズ10—衛生学』近藤雄二編：奥野久美子・久保博子・坂手誠治 著、（化学同人）

《参考図書》

生活環境論—生活支援の視点と方法：安梅勅江・木村哲彦 著（医歯薬出版）

《授業時間外学習》

(1) 予習：授業に参加する前にあらかじめテキストに目を通しておく。不明点は質問する。(2) 復習：授業内容を再確認する。不明な点は授業時に質問する。または自分で調べ、整理してまとめる。

《備考》

最近の局地型洪水などの異常気象は地球温暖化現象のあらわれではないかと考えられている。日々の出来事に目を向け、私達の地球環境について考えてみよう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション：衛生学への誘い	衛生学で何を学ぶの・・・？ 生活に密着した衣食住の科学を考える。最近、話題となった感染症、デング・エボラ出血熱や環境汚染物質、PM 2.5とは？
2	日常生活の衛生学	プロジェクター（映像）を用いて、視覚的に衛生学の全体像を把握・理解する。
3	個人の集まり、集団から見えるもの：疫学方法論	健康事象を集団で見る。疫学で解明された疾病の原因。環境とは・・・？ 生物と環境（生態系の物質循環）、人間活動と環境、環境汚染
4	健康実態：研究、調査の勧め	人口統計から健康を考える。健康の指標、平均寿命と健康寿命。乳児死亡率が意味するもの？
5	生活環境と危害	ダニによる危害：ダニと生活環境（プロジェクター使用）
6	環境適応能：環境条件にあわせる力	ホメオスタシス：酸素と呼吸（高山病、潜水病）：アジア人は欧米人と比べると体が小さいのはなぜか？
7	環境生理心理学：放射線・電磁波と健康	体温の恒常性：暑さ寒さの限界と健康リスク、放射能汚染、太陽エネルギーが意味するもの・・・！
8	住居環境による衛生：生活環境・睡眠環境	住居の役割：休息としての睡眠：日中の生活行動の影響：睡眠環境を整えるには・・・？
9	快適環境と人間の生活	カビ・アレルギーいやね！住居環境とカビ（プロジェクター使用）
10	労働衛生：働く環境	労働と健康リスク、安全衛生、衛生管理者の役割
11	運動、スポーツの環境：安全と健康	スポーツと障害、学校安全の仕組み、スポーツ事故に対する指導者の役割
12	アスリートの衛生	運動性貧血、高山病と運動選手の高地トレーニング、エコノミッククラス症候群、熱中症、サーカディアン・リズム
13	心や加齢を考慮した環境	社会生活とストレス、ストレス対処法、健康保持能力：高齢化社会の現状と加齢に伴う心身機能の変化、整備環境
14	技術と健康問題	技術の役割、生産系と環境、テクノストレスとテクノ依存症、パソコンの視覚表示端末（VDT）装置作業の健康問題
15	災害と衛生、まとめ	地震・津波・竜巻・洪水・火山活動など自然災害と精神障害、総括

《専門教育科目 I群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	体育原理	科目ナンバリング	H1BX21001
担当者氏名	徳田 泰伸		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・1期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力）		

《授業の概要》

体育原理という言葉は、PrincipleまたはFoundationに由来するものである。Principleには原理、原則。Foundationには、基礎、土台、根拠、出発点などの意味がある。体育原理は、体育はどのような原理・原則に基づいて、えられ、実践されなければならないか、正しい体育のあり方を学習する。

《テキスト》

資料配布および授業において紹介する。

《参考図書》

授業において適宜紹介する。

《授業の到達目標》

体育原理という講義を通じて体育（教育）の目標内容・方法の一貫性を原理として学んでいき、現代の健康スポーツに関する問題点を、察し説明ができる。

《授業時間外学習》

毎時間授業内容の復習と予習を必要とする。

《成績評価の方法》

小テスト、授業内課題の提出、レポート課題小テスト（20%）、各分野の学習後に課すレポート課題（60%）、平常点（20%）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	1 5週の授業内容について説明する
2	身体の哲学的. 察	身体の哲学的. 察、身体の構造的把握、社会的身体
3	身体と体育	身体と体育、現代教育における身体的問題
4	体育の定義	体育の定義、体育という語の由来、体育とは身体活動の意義、体育の分野
5	体育の分野別課題	体育の分野別課題、幼児期の体育、少年期の体育、青年期の体育、壮年期の体育、老年期の体育
6	体育の必要性	体育の必要性（科学的原理の根拠）、社会学的側面、運動生活的側面（生物学的）、社会の中のスポーツについて学ぶ
7	体育の成立	体育の成立、体育の成立事情、体育の成立事例、体育の成立の発展、体育の成立条件、体育の指導者、体育の可能性と限界、我が国のスポーツ振興政策についても学ぶ
8	体育の目標	体育の目標、発達の目標、生活的目標、民主的人間：我が国のスポーツ振興政策に関連して学ぶ
9	学校体育の内容	学校体育の内容、学校における教育活動、学校体育の内容：スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任
10	体育の内容と学習活動	体育の内容と学習活動、体育内容の編成（カリキュラム）：スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任
11	体育の方法	体育の方法、教育方法の原理、生理学的原理、トレーニングの生理学的原理、具体的トレーニング
12	スポーツと人権	心理学的原理、社会的な原理、内容に即した方法原理、体育の実践形態、スポーツと人権
13	学習の指導段階	学習の指導段階（週2～12までのまとめと課題）
14	スポーツの大衆化	スポーツの大衆化、子供の運動遊び、スポーツと人権について、える
15	学習	学習のまとめ

《専門教育科目 I 群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	運動の基礎	科目ナンバリング	H1BB11002
担当者氏名	木下 幸文		
授業方法	演習	単位・必修	2・必修
		開講年次・開講期	1年・1期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合）		

《授業の概要》

これから運動やスポーツに関する事項を多く学んでいくことになるが、「運動の基礎」はその始めとなる科目の1つである。そのことから、本演習では「身体を動かす意味」について考えていきたいと思う。具体的には、呼吸循環器や運動器が身体活動時にどのように作用（機能）しているのかを考えていく。すなわち本科目は、実際に身体を動かして体験しながら、じっくりと観察し、分析していく体験学習型の演習科目である。

《授業の到達目標》

この演習では実習とそれに関する講義を交えながら進めていく中で、身体を動かすことの意義を理解し、考えることができるようになる。また、これから運動に携わる者として、身体活動の重要性を説明することができるようになる。

《成績評価の方法》

定期試験（50%）、課題提出（40%）、演習への取り組み（10%）とし、100点満点で60点以上を合格とする。

《テキスト》

健康運動実践指導者養成用テキスト（公益財団法人健康体づくり事業財団）

《参考図書》

演習内で適宜紹介する。

《授業時間外学習》

課題作成にあたっては資料などを参考にしながら、自分なりの意見がまとめられる様に意識的訓練を行うこと。

《備考》

出席状況は毎回確認するとともに、課題の提出も頻繁に求めます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	運動とは何か？	みんなで運動（身体活動）の必要性について考えてみよう（グループ学習）
2	運動の在り方について考える	身体を動かすことの意義について考えることができる
3	身体活動に伴う生理的な変化を調べる	身体を動かすによって変化する生理的な変化（脈拍数の測定）について考えることができる
4	行動を継続する能力について（1）	運動における全身持久力の役割について理解する（循環器の機能と運動）
5	行動を継続する能力について（2）	運動における全身持久力の役割について理解する（呼吸器の機能と運動）
6	骨格筋を効率よく使う方法について考える	バネのような機械的なエネルギーをもつ骨格筋について考えることができる
7	行動を起こす能力について（1）	運動における骨格筋の構造とその機能について理解する
8	速く走るための方法を考える	勢いよく走りきるための骨格筋と腱の役割について考えることができる
9	行動を起こす能力について（2）	運動における骨格筋の構造とその機能について理解する
10	身体を継続して動かす方法について調べる	身体を動かしている時に使われている栄養素について考えることができる
11	運動を行う際の栄養素の役割について	糖質、脂質やタンパク質といった栄養素と運動の関係について理解する
12	意欲的に運動を行うための方法を調べる	選手の実力を発揮させる方法について考えることができる（スポーツ指導者の役割について理解する）
13	運動指導における心理学の役割	運動を指導する上で必要となるスキル（コミュニケーションスキル）について考えることができる（指導者の心構え・視点について理解する）
14	競技力を向上させるための手段について考える	一貫した理念のもとに個人の特性や発達段階に応じて最適な指導を行うための方法について考えることができる（競技者育成プログラムの理念について）
15	身体を動かすことの意味について考える	健康を保つために必要な運動について説明することができる（グループ学習）

科目名	幼児運動実践演習		科目ナンバリング	H1BX11039	
担当者氏名	三宅 一郎				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ◎ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） ○ 3-2 効果的な意思疎通ができる（コミュニケーション力） 				

《授業の概要》

演習科目である為、理論と実践を交えながら進める。子どもの理解を深める意味で附属幼稚園の子どもの観察をしたり子ども達と接する機会を持つ。この授業を通して得た知識を、今後の運動・スポーツ指導に有効に活用できる事を望む。

《授業の到達目標》

幼児期の運動遊びを適切に援助できる能力を養うことを目標とする。その為に、子どもの発育発達特徴を理解し幼児期における運動の正しい実践方法の知識を身につける。様々な運動遊びの考え方や実践方法を理解する事によって、幼児期に適した運動実践の在り方や援助方法を学ぶ。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。
 毎時間の授業のまとめ、感想、質問等をまとめたノート提出する（50%）。随時課題に対するレポート（30%）。学期末に理解度を確認するテスト（20%）。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の進め方、評価方法、授業ノートのまとめ方等を説明する。
2	発育発達期の特徴	子ども達を取り巻く問題点と運動遊びの必要性、援助における問題点の対策について
3	発育発達期の障害と予防	発育発達期に応じた運動遊びと留意点の理解
4	精神面の発達特徴	各年代別における精神面の発達特徴の理解とコミュニケーション方法
5	体力と運動機能の発達	体力と運動機能（関節運動を含む）発達過程と特徴
6	心拍数の運動生理学	心拍数からみた運動発達の特徴と運動遊び
7	呼吸循環機能の発達	各年代における呼吸循環機能の発達と運動遊び
8	移動系運動の発達	移動系運動の発達特徴と運動遊びの実際
9	操作系・非移動系（平衡系）運動の発達	操作系・非移動系＜平衡系＞運動の発達と運動遊びの実際
10	体力測定及び運動能力測定	体力測定及び運動能力測定の実施方法と測定結果の活用方法
11	運動指導プログラム	各年代における発育発達特徴を踏まえた運動遊びプログラムの実際と援助方法
12	移動系運動指導のプログラム	移動系運動の考え方をと運動遊びプログラム
13	操作系運動指導のプログラム	操作系運動の考え方と運動遊びプログラム
14	非移動系（平衡系）運動の指導プログラム	非移動系（平衡系）運動の考え方と運動遊びプログラム
15	まとめ	各年代における運動発達特徴の確認。場面に応じた運動実践方法。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考図書》

「運動発達の科学」～幼児の運動発達を考える～三宅一郎（大阪教育図書）
 「幼児の運動発達学」小林寛道（ミネルヴァ書房）
 「幼児の有酸素性能力の発達」吉澤茂弘著（杏林書院）
 “Motor Development and Movement Experiences for Young Children” DAVID L. GALLAHUE, John Wiley&Sons, ink

《授業時間外学習》

＜予習方法＞下記授業計画における次時の授業内容を参考文献等であらかじめ確認しておくことでより理解が深まる。
 ＜復習方法＞学んだ内容を配付資料等により再確認にノートにまとめる。疑問点等があればノートの感想欄に記載すること（後日必ず返答する）。これらの活動を通して効果的な理解が得られると考える。

《備考》

幼児期の運動遊びの指導者として必要な知識や援助方法を身につけて欲しい。

《専門教育科目 I 群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	スポーツ史（体育史を含む）	科目ナンバリング	H1BX21011
担当者氏名	徳田 泰伸		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ◎ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） 		

《授業の概要》

古代から現代にいたるスポーツと教育の関係を、社会的・文化的・技術的・理論的視点から学習する。

《テキスト》

特に指定はしない。講義中に参考資料の配布および参考図書の紹介をする。

《参考図書》

必要に応じて参考資料を配布する。

《授業の到達目標》

運動・スポーツの歴史的研究の意義と方法を通じて、体育・スポーツの成り立ちや歩みを理解することができる。

《授業時間外学習》

スポーツ史に登場する遺跡や人物等の展示会があれば見学することまたテレビ等で取り上げられる番組があれば視聴するようにする

《成績評価の方法》

小テスト、授業内課題の提出物、レポート課題小テスト（20%）各分野の学習後に課すレポート課題（60%）平常点（20%）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	1 5 週の授業内容について説明する
2	人類文明と身体的技能職の成立	資料・文献を通じて学習していく、文化としてのスポーツについて学ぶ
3	古代文明のスポーツ	資料・文献を通じて学習していく
4	中世におけるスポーツ	資料・文献を通じて学習していく
5	近世におけるスポーツ	資料・文献を通じて学習していく
6	近代体育理論の成立と展開	資料・文献を通じて学習していく
7	近代スポーツの展開	資料・文献を通じて学習していく
8	近代オリンピックの成立過程	資料・文献を通じて学習していく
9	学校体育の制度化とスポーツ	資料・文献を通じて学習していく
10	体育の科学的発展	資料・文献を通じて学習していく
11	生涯スポーツの歴史的展望	資料・文献を通じて学習していく
12	スポーツの概念	スポーツの概念と歴史について学ぶ
13	ディスカッション	各グループ別によるディスカッション（課題提供）
14	レポート	レポートによる小テスト
15	学習	学習のまとめ

《専門教育科目 I 群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	体力測定と評価		科目ナンバリング	H1BB11016
担当者氏名	木下 幸文			
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期 1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） ○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力）			

《授業の概要》

近年、体力と健康の関係が重要視されようになった。体力測定は様々な項目を計測することによって、自分自身の現時点における体力の状態を把握することが目的となっている。また、児童・生徒のみならず中高年者の体力の実態を正確に把握することは、発育発達や年齢に応じた運動プログラムを提供していく上で重要となる。本演習では自身の体力測定を行うだけでなく、体力測定の実際とその評価方法について学んでいく。

《授業の到達目標》

児童・生徒から高齢者まで、さらにはトップアスリートの体力を正確に測定することが出来る。また、体力を測定することの意義を考えながら、得られた測定結果をもとにして適切な体力評価が行えるようになる。

《成績評価の方法》

定期試験（50%）、課題提出（40%）、演習への取り組み（10%）とし、100点満点で60点以上を合格とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	体力測定の意義について	体力が健康に及ぼす影響について理解する
2	体力とは	行動体力と防衛体力について理解する
3	体力測定の指標について	体力の測定に用いられている様々な指標について理解する（新体力テスト、ADLテスト、健康づくりのための身体活動基準ほか）
4	身体組成の測定法とその実際	体密度と体脂肪量の測定法とその評価方法について理解する
5	体力の測定方法とその実際について（1）	骨格筋の力（筋力）を評価する（筋力と握力、背筋力について） ※中年期も含む
6	体力の測定方法とその実際について（2）	骨格筋の有する力（筋持久力・筋パワー）について評価する（上体起こし、垂直跳び、立ち幅跳びなど） ※中年期も含む
7	体力の測定方法とその実際について（3）	骨格筋の有する力（筋パワー）について評価する（50m走、ソフトボール投げなど） ※中年期も含む
8	体力の評価方法について	各自の測定データを処理（平均値、標準偏差など）し、体力の判定基準などと照らし合わせて分析することが出来る
9	体力の測定方法とその実際について（4）	心肺の機能（全身持久力）を評価する（20mシャトルラン、6分間歩行など） ※中年期も含む
10	体力の測定法とその実際について（5）	バランス能力や調整力（柔軟性、敏捷性、平衡性）を評価する（長座体前屈、反復横跳びなど） ※中年期も含む
11	年代別（高齢者）の体力評価について（1）	高齢者のフィールドテスト（10m障害物歩行など）により体力を評価することが出来る
12	年代別（高齢者）の体力評価について（2）	高齢者のフィールドテスト（開眼片足立ち、ファンクショナルリーチなど）により体力を評価することが出来る
13	介護予防に関する体力測定法について	介護予防における体力測定の意義について理解する
14	介護予防に関する体力測定の実際	体力の測定法を用いて、介護予防における体力について評価することが出来る
15	体力評価について（まとめ）	演習全体のまとめ

《テキスト》

健康運動実践指導者養成用テキスト（公益財団法人健康体力づくり事業財団）、「新体力テスト実施要領（6～79歳）」（文部科学省）

《参考図書》

演習内で適宜紹介する。

《授業時間外学習》

様々な測定指標について、正確に測定するための方法について測定開始時までに事前学習をしておくこと。

《備考》

出席状況は毎回確認するとともに、課題の提出も頻繁に求めます。

科目名	スポーツ実践演習 I	科目ナンバリング	H1CX21041
担当者氏名	三宅 一郎、樽本 つぐみ		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・1期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ◎ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力）		

《授業の概要》

授業計画に示す内容のスポーツ種目や学校体育種目を実施する。個人・グループ毎に実施種目のルール確認と正しい実践方法の理解。実施種目は、個人・グループ毎に授業計画に示す全種目を体験する。この授業を通して体得したものが、Ⅱ期開講のスポーツ実践Ⅱに有効に活用されることを期待する。さらに、水泳（水中運動）とエアロビクスダンスに関しては定期時間外の集中講義にて実施する。

《授業の到達目標》

主として体育指導者としての能力を養うことを目標とする。その為に、スポーツ・体育における様々な種目の正しい実践方法を身につける。具体的には、様々なスポーツのルールの理解及び審判方法を体得すると共に、学校体育における実施種目の実戦を通して段階的な指導方法を学ぶ。以上に示したスポーツ・体育指導者として必要と思われる内容を実施する。

《成績評価の方法》

毎時間の授業のまとめ、感想、質問等をまとめたノートを提出する（50％）。随時課題に対するレポート（30％）。学期末に理解度を確認するテスト（20％）。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考図書》

『運動適応の科学～トレーニングの科学的アプローチ～』竹宮隆・石河利寛著（杏林書院）『体力を考える～その定義・測定と応用～』宮下充正著（杏林書院）『選手とコーチのトレーニングマニュアル』ブルーノ・ボーレット著『中学校学習指導要領解説（保健体育編）』

《授業時間外学習》

<予習方法> 下記授業計画における次時の授業内容を参考文献等であらかじめ確認しておくことでより理解が深まる。<復習方法> 学んだ内容を配付資料等により再確認にノートにまとめる。疑問点等があればノートの感想欄に記載すること（後日必ず返答する）。これらの活動を通して効果的な理解が得られると考える。

《備考》

健康システム学科の学生として、スポーツ・学校体育の理論と実践を積極的に体得しよう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の概要を説明する
2	体づくり運動の考え方と実践（1）	青少年期における動きの発達とスキルの獲得のための方法青少年期の静的レジスタンストレーニング
3	体づくり運動の考え方と実践（2）	青少年期における専門スポーツのスキル獲得のための方法青少年期の動的レジスタンストレーニング
4	器械運動の考え方と実践（1）	マット運動における特性の理解と実践（その1）
5	器械運動の考え方と実践（2）	マット運動における特性の理解と実践（その2）
6	球技の考え方と実践（1）	バスケットボールにおける特性・ルールの理解と実践（その1）
7	球技の考え方と実践（2）	バスケットボールにおける特性・ルールの理解と実践（その2）
8	球技の考え方と実践（3）	バレーボールにおける特性・ルールの理解と実践（その1）
9	球技の考え方と実践（4）	バレーボールにおける特性・ルールの理解と実践（その2）
10	水泳の考え方と実践	水泳及び水中運動における種目特性の理解と実践（青少年期における専門スポーツのスキル獲得のための方法）
11	陸上競技の考え方と実践（1）	短距離における種目特性の理解と実践
12	陸上競技の考え方と実践（2）	リレーにおける種目特性の理解と実践
13	格技の考え方と実践（1）	剣道における特性の理解と実践（その1）
14	格技の考え方と実践（2）	剣道における特性の理解と実践（その2）
15	まとめ	授業のまとめをする

科目名	スポーツ実践演習Ⅱ	科目ナンバリング	H1CX21042
担当者氏名	三宅 一郎、樽本 つぐみ		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ◎ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） 		

《授業の概要》

授業計画に示す内容のスポーツ種目や学校体育種目を実施する。個人・グループ毎に実施種目のルール確認と正しい実践方法の理解。実施種目は、個人・グループ毎に授業計画に示す全種目を経験する。各自がこの授業を通して体得したものが、2年次以降のスポーツ関連科目で有効に活用されることを期待する。さらに、水泳（水中運動）とエアロビクスダンスに関しては定期時間外の集中講義にて実施する。

《授業の到達目標》

主として体育指導者としての能力を養うことを目標とする。その為に、スポーツ・体育における様々な種目の正しい実践方法を身につける。具体的には、様々なスポーツのルールの理解及び審判方法を体得すると共に、学校体育における実施種目の実戦を通して段階的な指導方法を学ぶ。以上に示したスポーツ・体育指導者として必要と思われる内容を実施する。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間の授業のまとめ、感想、質問等をまとめたノート提出する（50%）。随時課題に対するレポート（30%）。学期末に理解度を確認するテスト（20%）。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の概要を説明する
2	器械運動（1）	跳び箱運動における特性の理解と実践（その1）
3	器械運動（2）	跳び箱運動における特性の理解と実践（その2）
4	器械運動（3）	鉄棒運動における特性の理解と実践（その1）
5	器械運動（4）	鉄棒運動における特性の理解と実践（その2）
6	球技（1）	テニス・バドミントンにおける特性・ルールの理解と実践（その1）スポーツスキルの獲得（コーディネーショントレーニングを含む）
7	球技（2）	テニス・バドミントンにおける特性・ルールの理解と実践（その2）スポーツスキルの獲得（コーディネーショントレーニングを含む）
8	水泳	水泳・水中運動における種目特性の理解と実践
9	陸上競技（1）	走り幅跳び・走り高跳びにおける種目特性の理解と実践
10	陸上競技（2）	正しいウォーキング・ジョギング長距離走における種目特性の理解と実践
11	球技（1）	サッカーにおける特性・ルールの理解と実践（その1）スポーツスキルの獲得
12	球技（2）	サッカーにおける特性・ルールの理解と実践（その2）スポーツスキルの獲得
13	格技（1）	柔道における特性の理解と実践（その1）スポーツスキルの獲得
14	格技（2）	柔道における特性の理解と実践（その2）スポーツスキルの獲得
15	まとめ	まとめを行う

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考図書》

『運動適応の科学～トレーニングの科学的アプローチ～』竹宮隆・石河利寛著（杏林書院）『体力を考える～その定義・測定と応用～』宮下充正著（杏林書院）『選手とコーチのトレーニングマニュアル』ブルーノ・ポーレット著『中学校学習指導要領解説（保健体育編）』

《授業時間外学習》

<予習方法> 下記授業計画における次時の授業内容を参考文献等であらかじめ確認しておくことでより理解が深まる。<復習方法> 学んだ内容を配付資料等により再確認にノートにまとめる。疑問点等があればノートの感想欄に記載すること（後日必ず返答する）。これらの活動を通して効果的な理解が得られると考える。

《備考》

健康システム学科の学生として、スポーツ・学校体育の理論と実践を積極的に体得しよう。

《専門教育科目 I群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	陸上競技 I	科目ナンバリング	H1CX21046
担当者氏名	樽本 つぐみ		
授業方法	実技	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ○ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） ◎ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） 		

《授業の概要》

陸上競技は走・跳・投の運動で、より速くより遠くより高くといった自己の記録を高めたり、定められた条件やルールの中で他人と競争するところに楽しさや喜びを味わえる競技である。この授業では、陸上競技に必要な基礎体力の向上と技術を高めるための指導法について学び実践する。

《テキスト》

特に指定はしません。必要に応じて資料を配付する。

《参考図書》

《授業の到達目標》

この授業では、走・跳・投の特性を理解し、技術の修得および設定記録に到達できることを目標とする。

《授業時間外学習》

到達目標に達するために個人でトレーニングを行うこと。

《成績評価の方法》

授業の内容等をまとめたノートおよびレポートの提出（50%）
基本的な体力、技術、設定タイムの到達度（50%）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の流れを説明する。
2	短距離走	短距離の特性理解（スタート技術、加速走、中間走、フィニッシュ）
3	短距離走	練習方法と指導法、タイムトライアル
4	リレー	リレーの特性理解（バトンパス等）
5	リレー	練習方法と指導法、タイムトライアル
6	ハードル走	ハードルの特性理解（ハードリング、インターバル等）
7	ハードル走	ハードルの実践練習
8	ハードル走	練習方法と指導法
9	ハードル走	練習方法と指導法、タイムトライアル
10	走り幅跳び	幅跳びの特性理解（助走、踏切、空中動作、着地）
11	走り幅跳び	練習方法と指導法
12	走り幅跳び	練習方法と指導法、タイムトライアル
13	走り高跳び	高跳びの特性理解
14	走り高跳び	練習方法と指導法
15	走り高跳び	練習方法と指導法、タイムトライアル

《専門教育科目 I群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	球技 I	科目ナンバリング	H1CX21047
担当者氏名	徳田 泰伸		
授業方法	実技	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	1年・1期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） ◎ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） 		

《授業の概要》

学習指導要領解説 保健体育編 を理解すること。特に教育内容を把握し、保健体育授業の指導者として種目特有の指導的、確かな行動力と判断力の修得を目指す。

《テキスト》

文部科学省「中学校学習指導要領解説 保健体育編」

《参考図書》

適宜、参考となる文献や資料を紹介する

《授業の到達目標》

武道を通して技能や伝統的な行動の仕方を理解し、課題に応じた取り組み方を段階的に修得することができるようにする。

《授業時間外学習》

毎授業で実践したことを復習し、反復練習をして身につける。ノートにまとめておくことも今後の指導にとって重要である。

《成績評価の方法》

毎時間の授業のまとめ（ノート提出）20%
実技テスト（達成度）80%

《備考》

健康システム学科の学生として、身体運動文化の追求とスポーツを通して自己を高めていこう。集中講義形式で4種目を4日間で学修の予定。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション バスケットボール①	バスケットボールの特性とルールを理解 ボールの操作と攻撃と守備の実践（1）シュート練習、パス、ドリブルの練習
2	バスケットボール②	ボールの操作と攻撃と守備の実践（2）シュート練習、パス、ドリブルの練習
3	バスケットボール③	ボールの操作と攻撃と守備の実践（3）シュート練習、パス、ドリブルの練習
4	バスケットボール④	バスケットボール試合 班別試合 授業のまとめ
5	バレーボール①	バレーボールの特性とルールを理解 ボールや用具の操作、個人技能の修得、サービス、オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、準備態勢～返球～動きづくり
6	バレーボール②	個人技能の修得 連係プレイの習得、パス～トス～レシーブ、ネット上のプレイ、フォーメーションの動きの修得
7	バレーボール③	個人技能の修得と連携プレイの修得
8	バレーボール④	バレーボールの試合 授業のまとめ
9	バドミントン①	バドミントンの特性とルールを理解 基本的な技能の修得、シャトルやラケットの操作の練習、ラケットの握り方、振り方、ラケットの中心でシャトルをとらえる
10	バドミントン②	①と同じ反復練習、相手側コートにシャトルを返す練習、グループ編成をして練習方法、内容を工夫し展開していく
11	バドミントン③	②と同じ反復練習 ゲームで各自の技能を確かめ展開する
12	バドミントン④	グループで試合構成をする バドミントンのまとめ
13	テニスまたは卓球①	テニスまたは卓球の特性とルールを理解 基本的な技能の修得、ラケットの握り方（グリップ）、振り方、打点の操作練習
14	テニスまたは卓球②	個人的技能の練習、ラケットの構え方、身体の移動、基本的なステップの練習
15	テニスまたは卓球③ まとめ	グループ編成をしてコートにボールを返し、ゲームをして個人技能の練習をする 試合、ストロークゲーム、グループでの対抗、

《専門教育科目 I群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	陸上競技Ⅱ	科目ナンバリング	H1CX21048
担当者氏名	樽本 つぐみ		
授業方法	実技	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ○ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） ◎ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） 		

《授業の概要》

陸上競技は走・跳・投の運動で、より速くより遠くより高くといった自己の記録を高めたり、定められた条件やルールの中で他人と競争するところに楽しさや喜びを味わえる競技である。この授業では、陸上競技に必要な基礎体力の向上と技術を高めるための指導法について学び実践する。

《テキスト》

特に指定はしません。必要に応じて資料を配付する。

《参考図書》

《授業の到達目標》

この授業では、走・跳・投の特性を理解し、技術の修得および設定記録に到達できることを目標とする。

《授業時間外学習》

到達目標に達するために個人でトレーニングを行うこと。

《成績評価の方法》

授業の内容等をまとめたノートおよびレポートの提出（50%）
基本的な体力、技術、設定タイムの到達度（50%）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の流れを説明する。
2	短距離走とハードル	200mや400m、400mハードルの特性理解
3	短距離走とハードル	練習方法と指導法、タイムトライアル
4	リレーとハードル	マイルリレーやスウェーデンリレー等の特性理解
5	リレーとハードル	練習方法と指導法、タイムトライアル
6	中距離走	800mや1500mの特性理解
7	中距離走	練習方法と指導法
8	中距離走	タイムトライアル
9	長距離走	5000mや10000m、マラソンの特性理解
10	長距離走	練習方法と指導法
11	長距離走	タイムトライアル
12	砲丸投げ	砲丸投げの特性理解
13	砲丸投げ	練習方法と指導法、測定
14	ジャベリックスロー	ジャベリックスローの特性理解
15	ジャベリックスロー	練習方法と指導法、測定

《専門教育科目 I群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	球技Ⅱ	科目ナンバリング	H1CX21049
担当者氏名	徳田 泰伸		
授業方法	実技	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） ◎ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） 		

《授業の概要》

学習指導要領解説 保健体育編 を理解すること。特に教育内容を把握し、保健体育授業の指導者として種目特有の指導的・確かな行動力と判断力の修得を目指す。

《テキスト》

文部科学省「中学校学習指導要領解説 保健体育編」

《参考図書》

適宜、参考となる文献や資料を紹介する

《授業の到達目標》

武道を通して技能や伝統的な行動の仕方を理解し、課題に応じた取り組み方を段階的に修得することができるようにする。

《授業時間外学習》

毎授業で実践したことを復習し、反復練習をして身につける。ノートにまとめておくことも今後の指導にとって重要である。

《成績評価の方法》

毎時間の授業のまとめ（ノート提出）20%
実技テスト（達成度）80%

《備考》

健康システム学科の学生として、身体運動文化の追求とスポーツを通して自己を高めていこう。集中講義形式で4種目を4日間で学修の予定。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション バレーボール①	バレーボールの特性の理解 ボールの操作と攻撃と守備の実践 関係練習
2	バレーボール②	1年Ⅰ期に学修した、ボールの操作と攻撃と守備の実践、 チーム連携を踏まえゲーム展開、ポジションに応じた基本技の習得
3	バレーボール③	ゲーム展開を通じて連携プレイの動作の習得
4	バレーボール④	ゲーム展開 授業のまとめ
5	オリエンテーション ソフトボール①	ソフトボールの特性とルールを理解 ボール操作、バット操作の修得、 ポジションごとの基本的な動きの練習と課題練習
6	ソフトボール②	走塁の練習、試合を通してチームの作戦や戦術を立てる
7	ソフトボール③	試合を通してバット操作の練習、捕球から送球の練習、ベースカバー、中継プレイ、ダブルプレイへなど連携プレイと動きの練習
8	ソフトボール④	ソフトボールの試合 授業のまとめ
9	オリエンテーション サッカー①	サッカーの特性とルールの理解 基本的な技能の修得、ボール操作と攻撃と守備の実践練習（1）
10	サッカー②	基本的な技能の修得、ボール操作と攻撃と守備の実践練習（2）
11	サッカー③	ゲームで各自の技能を確かめ展開する
12	サッカー④	試合 まとめ
13	オリエンテーション バスケットボール①	バスケットボールの特性とルールの理解 基本的な技能の確認
14	バスケットボール②	試合形式で技術の向上とルールの確認
15	バスケットボール③ まとめ	試合を重ねて技術の向上とゲーム展開を学修 まとめ

《専門教育科目 I群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	武道 I	科目ナンバリング	H1CX21050
担当者氏名	徳田 泰伸		
授業方法	実技	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） ◎ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） 		

《授業の概要》

学習指導要領解説 保健体育編 を理解すること。特に教育内容を把握し、保健体育授業の指導者として種目特有の指導と的確な行動力と判断力の修得を目指す。

《テキスト》

文部科学省「中学校学習指導要領解説 保健体育編」

《参考図書》

適宜、参考となる文献や資料を紹介する

《授業の到達目標》

武道を通して技能や伝統的な行動の仕方を理解し、課題に応じた取り組み方を段階的に修得することができるようにする。

《授業時間外学習》

毎授業で実践したことを復習し、反復練習をして身につける。ノートにまとめておくことも今後の指導にとって重要である。

《成績評価の方法》

毎時間の授業のまとめ（ノート提出）20%
実技テスト（達成度）80%

《備考》

健康システム学科の学生として、身体運動文化の追求とスポーツを通して自己を高めていこう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 柔道 基本動作①	すり足、歩み足、継ぎ足 ～体の移動
2	基本動作②	受け身、前回り受け身、横受け身、後ろ受け身
3	基本動作③	反復練習
4	基本となる技①	投げ技（膝車→支え釣り込み足、大外刈り→小内刈り、体落とし→大腰）
5	基本となる技②	固め技（けさ固め、横四方固め、上四方固め）
6	基本となる技③	反復練習、投げ技、固め技
7	まとめ	練習試合
8	オリエンテーション 剣道 基本動作①	竹刀の持ち方、構え方、体さばき
9	基本動作②	①の反復練習、基本打突の仕方、受け方
10	基本となる技①	①しかけ技 二段の技（面－胴、小手－面、二段の技）引き技（引き面、引き胴） ②応じ技（抜き技）
11	基本となる技②	両抜き胴、小手抜き面
12	基本となる技③	かかり練習、約束練習
13	基本となる技④	しかけ技、応じ技、自由練習、試合
14	自由練習・試合	技を確かめる 総合的な技の出し合い
15	まとめ	まとめ

《専門教育科目 II 群（養護・保健に関連する科目）》

科目名	養護概説 I	科目ナンバリング	H2XC21003
担当者氏名	加藤 和代		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・1期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ◎ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） 		

《授業の概要》

「学校教育とは」を問いながら、これまで児童生徒側からとらえてきた養護教諭像、保健室のイメージを、教師性と専門性の視点から再構築することを目指す。また、日々の健康情報の中から教育課題や児童生徒の健康課題に関心を持ち、解決策を考えることで健康観、教育観、児童生徒観を育てることができるようグループワークを取り入れ授業理解を図る

《授業の到達目標》

- 学校教育の視点に立って、養護教諭の職務、保健室の機能の概観を説明することができる
- 児童生徒を取りまく健康課題に関心を持ち、現状や対応策を主体的に考えることができる
- 授業をとおして再構築した養護教諭の職務や保健室の機能を具体的に表現できる

《成績評価の方法》

レポート（50%）定期試験（50%）で総合的に判断する

《テキスト》

「新養護概説（第7版）」采女智津江編集代表
少年写真新聞社

《参考図書》

「新版養護教諭の執務の手引き」第6版 植田誠治監修 石川県養護教育研究会編 東山書房
「養護教諭の専門性と保健室の機能を生かした保健室経営の進め方」財団法人日本学校保健会
「児童生徒の健康診断マニュアル」財団法人日本学校保健会

《授業時間外学習》

授業のはじめに小テストを実施するので、前回のポイントを整理、理解しておく

《備考》

養護教諭免許の取得を目指す人の積極的な受講を望む

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	講義の進め方、学習方法
2	学校教育と学校保健 学校保健と養護教諭	教育基本法、学校教育法など教育関係法令から学校教育、学校保健の理解 学校保健安全法をとおして学校教育で求められている養護教諭の役割の理解
3	養護教諭制度の変遷 養護教諭に関する法律等	学校看護婦、養護訓導、中央教育審議会答申、教育職員免許法 養護教諭複数配置
4	養護教諭の専門性とその職務	教育職員としての職務、養護教諭の専門領域における職務、養護教諭の職業倫理
5	学校保健関係職員とその役割	保健主事制度、学校医・学校歯科医・学校薬剤師、栄養教諭、スクールカウンセラー
6	子どもの発育発達とその現状	児童期・青年前期・青年後期、子どもの健康問題の推移、子どもの現代的健康課題
7	保健室の機能	保健室の法的根拠、保健室の役割、保健室の機能、保健室経営
8	保健管理（1）	健康実態の把握、健康観察、保健調査、健康診断①
9	保健管理（2）	健康診断②、保健管理としての健康診断、保健教育としての健康診断、
10	保健管理（3）	救急処置、疾病管理、学校保健組織活動
11	保健管理（4）	健康相談、メンタルヘルス、児童生徒の多様な健康課題、心のケア、PTSD
12	保健教育（1）	教科保健（保健学習） 小学校「体育」保健領域、中学校「保健体育」保健分野
13	保健教育（2）	保健指導 特別活動における学級活動、総合的な学習の時間
14	特別支援教育と養護教諭	特別支援教育のシステム、障害の理解とその指導・支援、保護者や関係機関との連携
15	まとめ	養護教諭の職務、保健室の機能

《専門教育科目 II 群（養護・保健に関連する科目）》

科目名	養護概説II	科目ナンバリング	H2XC21004
担当者氏名	大平 曜子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・II期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） ○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） 		

《授業の概要》

養護概説Iで学んだ内容をさらに発展させ、養護教諭の役割と活動に対する認識を深め、養護の専門性を形成する人間観と科学性を再確認し、実践の学問としての位置づけを明確にする。教育職員としての養護教諭が捉えておくべき学校教育の基本的項目と養護教諭として培ってきた専門性を整理し、養護教諭の職務とその役割を明確にしていく。

《テキスト》

『新養護概説』 采女智津江編 少年写真新聞社

《参考図書》

『新版・養護教諭執務のてびき』 第9版 植田誠治監修 石川県養護教育研究会編 東山書房
その他、適宜紹介する

《授業の到達目標》

○養護教諭の役割と活動に対する理解を深め、自らの描く養護教諭像を表現できる。○保健教育について整理し、養護教諭の役割や内容を説明できる。○課題研究に取り組み、その成果をプレゼンテーションできる。○科学的根拠をもって理解し、レポートにまとめることができる。

《授業時間外学習》

健康問題、教育問題の情報を収集するため、新聞には必ず目を通しておく。テキストを通読し、関係の図書に目を通す。科学的レポートの書き方について学び、レポート課題に利用する。

《成績評価の方法》

レポート課題の提出と発表 20%、定期試験 60%、小テスト 20%

《備考》

免許選択科目です。養護教諭免許の取得を目指す人の意欲的・積極的受講を望みます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方、養護教諭の職務とは
2	養護教諭の活動の展開 (1)	法的根拠、包括的全体像と個別性
3	養護教諭の活動の展開 (2)	活動の指針、方法、評価について
4	研究とプレゼンテーション	養護教諭の実践的研究の方法、研究の進め方とプレゼンテーションの仕方
5	養護教諭の職務 (1)	知識と技能の確認グループワーク (12回目に続く取り組み)
6	養護教諭の職務 (2)	実践の計画グループワーク
7	養護教諭の職務 (3)	実践グループワーク
8	養護教諭の職務の評価について	実践の評価、再び、養護教諭の職務とはを考える。レポート課題
9	学校保健と組織活動	組織活動の実際、連携、学校保健委員会
10	安全管理と危機管理	安全管理と教育、危機管理の進め方、養護教諭の役割
11	養成と研修	免許と法的根拠、現職研修
12	具体的養護活動の展開	グループワーク、養護教諭の職務からの継続 (分析)
13	展開	グループワーク (分析、まとめ)
14	発表	グループワーク、プレゼンテーション、相互評価
15	授業のまとめ	これまでの学習と得られた知見を再確認し、具体的な成果を説明することができる。

《専門教育科目 II 群（養護・保健に関連する科目）》

科目名	学校保健 I（小児保健・学校安全を含む）		科目ナンバリング	H2BB11007
担当者氏名	岩本 正和			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）			

《授業の概要》

「学校保健」は、こども達の健康の保持増進や安全を確保するとともに、将来にわたっての健全な心身の健康を保持増進させるための能力を形成することを目的とする。近年、児童生徒を取り巻く様々な健康問題が多発し、健康な心身を脅かす等、大きな社会問題ともなっている。学校においては、その指導の中心となる保健体育科教諭・養護教諭の果たす役割は重要であり、学校保健の基礎知識・技能を習得する必要がある。

《授業の到達目標》

- ①学校保健の意義や概要について理解できる。
- ②学校保健・学校安全を支える「学校保健安全法」の概要が理解できる。
- ③学校保健に関する問題に興味・関心を持ち、自ら、情報を収集し、まとめることができる。

《成績評価の方法》

- ①定期試験 70%（中間試験を含む）
- ②レポート 20%
- ③授業参加態度 10%

《テキスト》

「改訂 学校保健」 東山書房

《参考図書》

《授業時間外学習》

- ①新聞等で学校保健に関する記事に注視し、情報を収集するとともに、整理する。
- ②レポートの作成方法について学び、習得する。

《備考》

「学校保健 I」は、卒業必修科目である。教員採用試験に向けての情報や学校現場での事象等を紹介する等、教員を目指す人のサポートをする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション「学校保健」の概要と重要性	・授業概要、成績評価等の説明について ・学校保健の目的と内容について
2	学校保健の歴史 ヘルスプロモーション	・学校保健の歴史的変遷について ・新しい健康観について
3	これからの学校保健	・学校保健関係者の職務と責任について ・学校保健の組織活動について
4	学校経営と学校保健	・学校経営と学校保健の関係について
5	学校保健経営と人権	・児童生徒を取り巻く人権環境について
6	「学校保健計画」と「学校安全計画」	・「学校保健計画」と「学校安全計画」の意義と内容について
7	こどもの発育と学校保健	・現代のこどもの心身と体力等の発育発達状況について
8	学校保健活動	・健康観察 健康診断 健康相談と健康相談活動について
9	課題を有する子どもへの支援	・こどもに発症しやすい疾病とその対策について
10	感染症予防	・近年の感染症について その予防について
11	学校安全と学校の危機管理①	・学校事故災害の発生要因と実態及びその防止について
12	学校安全と学校の危機管理②	・安全教育及び安全管理について
13	学校環境衛生	・学校を取り巻く環境について
14	食育と学校給食	・望ましい食習慣の形成と定着について
15	まとめ	・「ヘルスプロモーションの視点と教職員の役割の明確化」について

科目名	基礎看護学	科目ナンバリング	H2XB21014
担当者氏名	大平 曜子、細井 八千代		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・II期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ◎ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合）		

《授業の概要》

看護の理念を確認しつつ、看護の対象、歴史、機能と役割、看護過程等について学びます。受講者は、基礎看護技術に触れながら、看護実践の基本を習得します。幅広い人間理解と科学的思考、健康生活の理解など、確固たる人間観や基礎的学習能力を養い、看護学への理解を深めます。看護の「人間と健康に対するまなざし」「相手の立場」の理解などを通して、看護の心を考えていきます。

《授業の到達目標》

- 看護の概念を理解し、説明できる。
- 健康レベルからみた看護について説明ができる。
- 基礎技術を理解し、説明できる。
- 看護行為の基本を理解し、実践し、評価することができる。
- 看護過程を理解し、科学的・論理的に展開することができる。

《成績評価の方法》

最終試験(60%)、演習の課題(40%)

《テキスト》

『養護教諭のための看護学』（三訂版）藤井寿美子、山口昭子、佐藤紀久榮、采女智津江 編（大修館書店）

《参考図書》

- ①『最新看護学』中桐・天野・岡田 編著（東山書房）
 - ②『実践基礎看護学』中西監修（建帛社）
 - ③『基礎看護技術Ⅰ』（医学書院）
- その他適宜紹介する

《授業時間外学習》

課題レポートのため、関係図書に目を通しておく。復習をしっかりおこない、正確な知識の習得に努める。医療的側面理解のため、人体の構造と機能について繰り返し復習しておく。技術の確認や科学的理解のために、実習室を利用して、積極的に練習をおこなう。

《備考》

教員免許取得希望者の必須科目であり、演習科目として出席状況（参加状況）を重視する。主体的取り組みを期待している。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方や評価方法について
2	看護の概念	看護とは、健康とは
3	看護の対象	看護の対象（疾病の成り立ちと回復）
4	看護の歴史	看護の概念とその歴史
5	看護の機能と養護教諭	学校で必要とする看護能力、養護教諭の専門性と看護
6	看護の基本となるもの	看護理論
7	看護の基礎技術 1. 環境整備	ベッドの整備、ベッドの条件
8	看護技術の基礎 2. 姿勢と体位	姿勢の保持、基本的な体位、
9	看護技術の基礎 3. バイタル測定	バイタルサインの意味、測定方法
10	看護技術の基礎 4. バイタル測定その2	バイタルサインの測定
11	看護技術の基礎 5. コミュニケーション	コミュニケーションの概念、構成要素、方法
12	看護技術の基礎 6. 観察	観察の目的、視点
13	看護過程 1	看護理論と看護過程、構成要素、情報、アセスメント、判断、計画立案、実施と評価
14	看護過程 2	看護活動、記録
15	授業のまとめ	これまでの学習と得られた知見を再確認し、具体的な成果を説明することができる。

《教職に関する科目》

科目名	教職概論	科目ナンバリング	HTAL41001
担当者氏名	砂子 滋美		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・1期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

教員になりたい人、教職課程を歩むことを考えている人、教員になることを迷っている人にとって、最終的に教員になることを決意するための動機づけがこの授業である。その時々教育という営みがいかに大きな影響力を子どもたちに与えているか考える必要がある。教員になるための基礎的なものを身につける。また、教職課程履修の意思を再確認し、教師以外の進路についても考察する。

《授業の到達目標》

教員に必要な資質、知識、能力を身につけ、教師としてそれらを幅広く活用する人間を育成する。また、あわせて教師以外の職種に関する進路選択についても、受講生各自の資質との関係で考える機会を提供する。

《成績評価の方法》

積極的な授業参加40%、定期試験50%、課題10%、これらの評価を総合して評価する。

《テキスト》

広岡義之編著 『新しい教職概論・教育原理』
関西学院大学出版会 2008年

《参考図書》

「小・中・高等学校学習指導要領」（文部科学省）
『解説教育六法』（三省堂）
『教職論』（宮崎和夫編著）ミネルヴァ書房
『現代教職論』（土屋基規編著）学文社
『教育基礎論・教職論』（唐澤勇編著）学事出版

《授業時間外学習》

多くの質的体験をすることを心がける必要がある。具体的には、教育関係のボランティア活動を遂行するよう常日頃から心がけておく必要がある。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	教職概論オリエンテーション	本講義の概要や目標を示し、授業の進め方について解説する。進路選択に資する各種の機会の提供等。
2	教職観と理想の教師像	さまざまな観点から理想の教師像を探っていく。
3	教職の意義と教員の役割	教職の意義、教員の適性と社会的使命について考察し、教師の使命を理解する。
4	教員の資質・能力	教員として求められる基本的な資質・能力について理解するとともに、教員を希望する自己の適正について考察する。
5	進路指導の意義と課題	教員組織を理解し、キャリア教育の指導における教師力とは何かを理解する。
6	教員養成と免許制度	師範学校制度と戦後の開放性教員養成との比較を試み、現代日本において求められる教員養成とは何かを吟味し、求めるべき教員像について考えてみる。
7	教育職員の服務	教育職員の服務の根本基準、職務上の義務、身分上の義務、身分保障と分限、懲戒等について理解する。
8	教師の仕事と役割Ⅰ	教員の種類と階層、カリキュラムと教師の役割、学習指導について考察する。
9	教師の仕事と役割Ⅱ	生徒指導と生活指導、教育相談、カウンセリング、学校・学級経営について考察する。
10	初等・中等教育と教員	初等教育と中等教育の連続一貫性が強調される時代・社会の特徴を十分に理解して、それぞれの教員の役割分担を明確にする。
11	管理職・主任の役割	学校組織の改革後多くの種類の教員が設けられた。それらの役割について理解する。
12	教員の採用と研修について	教員採用に至るまでの就職活動と教員採用試験の制度について探究するとともに教員研修にはどのようなものがあるのか理解する。
13	現代の教員養成の課題と今後の発展について	教員養成の資質・能力の向上が常に望まれるが、今後取り組むべき課題について考える。
14	教育の今日的課題	道徳教育、特別活動、キャリア教育、開かれた学校づくり、家庭、地域との連携、幼・小・中間の接続等を考察する。
15	講義全体のまとめをする	教師に求められる適性と資質について再度考察すると共に、自己の教職への意欲と適性について再度、省察・確認する。講義全体のまとめをする。

《教職に関する科目》

科目名	教育原理	科目ナンバリング	HTAL41002
担当者氏名	古田 薫		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・1期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

教育をさまざまな視点から検討し、教育と社会との関連や現代社会状況の中で直面する諸問題を考察することにより、教育の本質や基本原理に対する理解を深める。

《テキスト》

プリント（資料）を適宜配布

《参考図書》

中村弘行『人物で学ぶ教育原理』三恵社、2010年。
 広岡義之（編著）『新しい教育原理』ミネルヴァ書房、2011年。

《授業の到達目標》

- 教育の概念と本質を理解し、これらに基づいて現代の教育問題を分析できる。
- 主な教育思想、教育観を理解し、さまざまな教育方法や教育課程のありかたと関連づけることができる。
- 児童の権利と福祉について理解している。
- 生涯学習の理念について理解している。

《授業時間外学習》

参考図書・資料の関連する部分を読んで講義の予習をすること。わからない用語は、事前に調べて授業に臨むこと。

《成績評価の方法》

- ①受講態度（ディスカッションへの参加度、発表回数等）30%
- ②課題の提出と完成度 30%
- ③授業中のミニテスト 40%

《備考》

授業中の私語や携帯電話の使用を禁止します。ルール違反に対しては厳格に対処します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	・本講義の進め方について理解し、主体的に学習に取り組む意欲を持つ。 ・教育とは何か、人間の特性と教育
2	教育の概念と本質	・教育の概念と本質 ・教育の必要性と可能性・限界
3	子どもの発達と教育	・発達とは何か ・発達における教育の役割
4	教育の目的、形態と機能	・教育の目的、形態と機能 ・教育における教師の役割
5	主な西洋教育思想とその系譜①	・子ども観の変遷 ・主な教育思想、教育哲学の系譜：代表的思想家とその教育思想の内容
6	主な西洋教育思想とその系譜②	・主な教育思想、教育哲学の系譜：代表的思想家とその教育思想の内容 ・教育思想、教育哲学が現代の教育に与えている影響
7	公教育制度の成立と発展①	・学校の起源と歴史 ・近代公教育の誕生
8	公教育制度の成立と発展②	・日本における明治期以前の教育 ・日本における近代学校制度の成立と発展
9	教育の内容と方法	・教授と学習の理論 ・さまざまな教育方法
10	日本における教育思想と教育方法の発展	・学校制度の発展と教育思想、教育方法（戦前まで）
11	日本における教育思想と教育方法の発展	・学校制度の発展と教育思想、教育方法（戦後）
12	教育における「ケア」	・「ケア」の定義、「ケア」の要素 ・教育における「ケア」、教育における公正と「ケア」
13	児童の福祉と保護	・児童の権利と福祉 ・児童虐待の防止と早期発見、早期対応
14	生涯学習	・生涯学習社会の成立とその背景 ・生涯学習の重要性、自分のライフコースのデザイン
15	まとめと振り返り	・学習マップの完成と発表による、学習のまとめと振り返り

《教職に関する科目》

科目名	教育制度論	科目ナンバリング	HTAL42005
担当者氏名	古田 薫		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

教育行政の組織と機能および学校教育に必要な法令や制度の基本、キーワードについての理解を深め、教育制度や学校経営についての体系的な知識を獲得することを目的とする。教育制度の意義や概要を学習するとともに、最近の教育問題や教育改革の動向を、学校制度・学校経営の視点から考察する。

《授業の到達目標》

○教育法規の体系を理解し、主な教育関係法規名とその概要を説明できる。○教育の理念や目的・目標について理解し、義務教育の意義および特別支援教育の特質を説明できる。○教育行政の仕組みや学校制度について理解している。○学校運営について理解している。○今日の教育の課題と教育改革の動向を理解し、自分自身の考えを述べるができる。

《成績評価の方法》

- ①受講態度（ディスカッションへの参加度、発表回数等）20%
- ②課題の提出と完成度 20%
- ③定期試験 60%（持ち込み不可）

《テキスト》

授業中に指示します。

《参考図書》

- 1) 『解説教育六法 2013年度版』三省堂。
- 2) 坂田 仰、黒川 雅子、河内 祥子『図解・表解 教育法規―“確かにわかる”法規・制度の総合テキスト』教育開発研究所、2012年。
- 3) 高見茂・宮村裕子・開沼太郎（編）『教育法規スタートアップ 教育行政・政策入門 ver.2』昭和堂、2012年。

《授業時間外学習》

授業で配布したプリントに基づいてまとめノートを作り復習すること。授業でわからなかった点について調べたり、質問を用意したりすること。

《備考》

授業中の私語や携帯電話の使用を禁止します。ルール違反に対しては厳格に対処します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 教育行政と教育制度	・本講義の進め方について理解し、主体的に学習に取り組む意欲を持つ。 ・教育行政の基本原理
2	法体系と教育関係法規の概要	・法規の体系 ・教育制度の中心的な法規とその内容
3	憲法教育基本法制：憲法、教育基本法①	・憲法における教育に関する規定、教育制度の法的基盤 ・教育基本法の性質
4	憲法教育基本法制：教育基本法②	・教育基本法改正のポイント ・教育基本法の意義と内容
5	学校制度①：学校に関する法規	・法規上の学校の定義 ・日本と諸外国の学校体系の特徴
6	学校制度②：学校の設置と管理	・学校とその公共性 ・学校の設置と管理に関する原則
7	教育行政の仕組み①：文部科学省	・文部科学省と地方の教育委員会の関係と役割分担 ・中央教育審議会やその他の諮問機関の役割と影響
8	教育行政の仕組み②：教育委員会制度	・教育委員会制度の歴史 ・教育委員会制度の概要
9	教育を受ける権利の保障①：義務教育1	・教育を受ける権利、教育を受けさせる義務と義務教育制度 ・義務教育の意義と義務の内容
10	教育を受ける権利の保障②：義務教育2	・教育を受ける権利を保障するための制度 ・就学援助、教育扶助の概要
11	教育を受ける権利の保障③：特別支援教育1	・特別支援教育の理念および特殊教育との違い ・特殊教育から特別支援教育に移行した背景
12	教育を受ける権利の保障④：特別支援教育2	・特別支援教育に関する諸制度
13	学校運営①：開かれた学校	・開かれた学校の意義 ・地域との連携とコミュニティ・スクール制度
14	学校運営②：アカウンタビリティと学校評価	・学校アカウンタビリティとマネジメント・サイクル ・学校評価の意義と評価の形態
15	学習のまとめと振り返り	・学習マップの完成と発表による学習のまとめと振り返り

《教職に関する科目》

科目名	教育相談（カウンセリングを含む。）	科目ナンバリング	HTAL41011
担当者氏名	原 志津		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

近年の学校教育の重大問題として学力低下とこころの教育をめぐめる問題があげられる。このような状況に対して日常的に子どもたちと接する教師にできることは何だろう。しっかり見て、耳を傾けて子どもたちの声を聴き、子どもたちの気持ちを汲み取り、短い言葉で要約して返すというやりとり、すなわちカウンセリングの技術を学ぶことは、現在の教育現場においても、古くて新しい意味があるように思われる。

《授業の到達目標》

- ・カウンセリングの基本技術を学ぶ
- ・自分自身のこころに焦点を当てる方法を学ぶ
- ・子どもたちのサインに気づく
- ・こころの成長・変化のプロセスを知る

《成績評価の方法》

授業への取り組み30% レポート・確認テスト20%
 授業内容の理解 50%

《テキスト》

指定しない。必要な資料は毎回配布する。

《参考図書》

『スクールカウンセラーがすすめる112冊の本』滝口俊子・田中慶江編 創元社
 『特別支援教育のための100冊』特別支援プロジェクトチーム 創元社

《授業時間外学習》

こころについて学ぶための本のリストを配布するので、できるだけ多くの本を手にとって読んでほしい。自分の最も興味ある一冊を選んで、用紙は問わないが、手書きで5枚の感想文を最終授業日までに提出すること。

《備考》

教職をとらない学生も受講可能である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	15回の授業のオリエンテーション	「人の話をきく」ということについて考える
2	カウンセリングの基礎	カール・ロジャーズのクライエント中心療法について知る
3	カウンセリングの実習	カウンセリングの実習（ロールプレイ）を行う
4	カウンセリングのプロセスについて	カウンセリングのプロセスについて、カール・ロジャーズの理論から学ぶ
5	フォーカシングについて	カウンセリングの「体験過程」から、自分の内面に焦点化することを学ぶ フォーカシングの実習も含む
6	自分自身のテーマを知る	心理テストを体験する
7	こころと身体	身体に異常がないのに起こる症状について学ぶ
8	精神的な問題の分類と概説	精神的な問題の全体像を把握し、病態水準や自我の強さについて学ぶ
9	こころの発達理論	思春期以降の生徒のこころの問題を理解するために、関係性について学ぶ
10	子どもたちの育つ環境の問題	大人が子どもたちの発達を妨げている事例について学ぶ
11	箱庭療法について	箱庭療法が生まれた背景との理論について学ぶ
12	こころの治癒過程を知る	箱庭療法のDVDから、こころの治療過程についての理解を深める
13	専門機関との連携	教師に、できることと・できないことは何かを知り、専門機関と連携する上でたいせつなことを知る
14	様々な事例	学校現場での事例を聴いて自分なりの対処の仕方を考える
15	まとめ	授業での学びをふり返し、今後活かすべきことは何かを考える

平成 26（2014）年度入学者

専門教育科目

カリキュラム年次配当表

健康システム学科 平成26年度（2014年度）入学者対象

（ ）は兼担、[]は兼任講師

授業科目区分	授業科目の名称	ナンバリング	授業方法	単位数		健康運動指導士	運動実践指導者	教員免許関係			学年配当(数字は週当たり授業時間)								平成27年度の担当者	ページ		
								養護	保健体育	保健	1年		2年		3年		4年					
				必修	選択						I	II	I	II	I	II	I	II				
専門基礎教育科目群	基礎ゼミⅠ	H0AA11001	演習	2								2										
	基礎ゼミⅡ	H0AA11002	演習	2									2									
	健康科学序論	H0AA11003	講義	2									2									
	健康科学	H0AA12004	講義	2		▽	◇						2								多田 章夫 105	
	健康統計の基礎	H0AA12005	演習	2									2								河野 稔 106	
	解剖学	H0AA21006	講義	2		▽	◇	○		□		2										
	生理学	H0AA21007	講義	2				○	△	□		2										
	微生物学	H0XA22008	講義	2					○		□			2								[島田 邦夫] 107
	生化学	H0XA22009	講義	2									2									(長尾 憲樹) 108
	栄養学	H0AA21010	講義	2					○		□		2									
	食品学	H0XA21011	講義	2					○			2										
	栄養指導論	H0BB22012	演習	2		▽								2								(真鍋 祐之) 109
	衛生学	H0AA21013	講義	2					○	△	□		2									
	公衆衛生学	H0AC22014	講義	2						△	□			2								[島田 邦夫] 110
	医学概論	H0AB23015	講義	2		▽	◇	○							2							
	生活習慣病(成人病)	H0DB23016	講義	2		▽										2						
	健康心理学	H0AB22017	講義	2		▽	◇						2									大平 曜子 111
	臨床心理学	H0XB23018	講義	2											2							
	教育特論Ⅰ	H0CC12019	講義	2										2								河野 稔 112
	教育特論Ⅱ	H0CC23020	講義	2											2							
教育特論Ⅲ	H0CC23021	講義	2												2							
地域活動演習Ⅰ	H0CC23022	演習	2												2							
地域活動演習Ⅱ	H0CC24023	演習	2		▽											2						

▽は健康運動指導士養成科目

◇は健康運動実践指導者養成科目

○は養護教諭免許必修科目、●は養護教諭免許選択科目

△は保健体育免許必修科目、▲は保健体育免許選択科目

□は保健免許必修科目、■は保健免許選択科目

※ 「スポーツ実践Ⅰ」「スポーツ実践Ⅱ」「健康・体力づくり実践Ⅰ」「健康・体力づくり実践Ⅱ」「地域活動演習Ⅰ」「地域活動演習Ⅱ」は、定期授業の他に学外実習を行う。

※ 「レクリエーション(野外活動を含む)」は、4時間のうち3時間を学外実習にあてる。

※ 健康運動実践指導者養成講座科目として、表中の科目以外に集中講義として「運動障害と予防」と「救急処置」を2年Ⅰ期に、「運動の基礎」の中で「発育・発達と老化」を履修する。

※ 公認ジュニアスポーツ指導員養成科目として、「ジュニアスポーツⅠ」「ジュニアスポーツⅡ」「スポーツ実践Ⅰ」「スポーツ実践Ⅱ」「スポーツ指導法Ⅰ」を履修する。

カリキュラム年次配当表

健康システム学科 平成26年度（2014年度）入学者対象

（ ）は兼担、[]は兼任講師

授業科目区分	授業科目の名称	ナンバリング	授業方法	単位数		健康運動指導士	運動実践指導者	教員免許関係			学年配当 (数字は週当たり授業時間)								平成27年度の担当者	ページ	
				必修	選択			養護	保健体育	保健	1年		2年		3年		4年				
											I	II	I	II	I	II	I	II			
教職に関する科目	教職概論	HTAL41001	講義	2				○	△	□	2										
	教育原理	HTAL41002	講義	2				○	△	□	2										
	教育史	HTAL53003	講義	2				●	▲	■					2						
	教育心理学	HTAL42004	講義	2				○	△	□			2						大平 曜子	131	
	教育制度論	HTAL42005	講義	2				○	△	□	2										
	教育課程論	HTAL42006	講義	2				○	△	□			2						古田 薫	132	
	保健・保健体育科教育法Ⅰ (保健教育内容研究)	HTHH42001	講義	2						△	□		2						[荒木 勉]	133	
	保健・保健体育科教育法Ⅱ (保健教育法研究)	HTHH43002	講義	2						△	□			2							
	保健科教育法Ⅰ (保健科教育教材研究)	HTHH42003	講義	2							□			2						[荒木 勉]	134
	保健科教育法Ⅱ (保健科教育法演習)	HTHH43004	講義	2							□				2						
	保健体育科教育法Ⅰ (保健体育科教育研究)	HTHH42005	講義	2						△				2						[後藤 幸弘]	135
	保健体育科教育法Ⅱ (保健体育科教育法研究)	HTHH43006	講義	2						△					2						
	道徳教育論	HTAL43007	講義	2					○	△	□				2						
	特別活動論	HTAL42008	講義	2					○	△	□			2						[砂子 滋美]	136
	教育方法・技術論	HTAL42009	講義	2					○	△	□			2						河野 稔	137
	生徒指導論 (進路指導を含む)	HTAL42010	講義	2					○	△	□			2						[新井野 久男]	138
	教育相談 (カウンセリングを含む)	HTAL41011	講義	2					○	△	□	2									
	中学校教育実習 (事前事後指導)	HTHH43008	演習	2						△	□				2						
	中学校教育実習	HTHH44011	実習	3						△	□					3					
	高等学校教育実習 (事前事後指導)	HTHH43009	演習	1						△	□				1						
高等学校教育実習	HTHH44010	実習	2						△	□					2						
養護実習 (事前事後指導)	HTY043001	演習	1					○						1							
養護実習	HTY044002	実習	4					○							4						
教職実践演習 (中・高)	HTHH44012	演習	2						△	□						2					
教職実践演習 (養護教諭)	HTY044003	演習	2					○								2					

▽は健康運動指導士養成科目

◇は健康運動実践指導者養成科目

○は養護教諭免許必修科目、●は養護教諭免許選択科目

△は保健体育免許必修科目、▲は保健体育免許選択科目

□は保健免許必修科目、■は保健免許選択科目

※ 教職に関する科目を修得しても、卒業要件単位には含まれない。

※ 教育職員免許状を取得するためには、上記科目のほか、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目として、日本国憲法 (2単位)、体育 (2単位)、外国語コミュニケーション (2単位)、情報機器の操作 (2単位) について、指定の科目を修得すること。

科目名	健康科学	科目ナンバリング	HOAA12004
担当者氏名	多田 章夫		
授業方法	講義	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	2年・1期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合）		

《授業の概要》

健康な状態を維持するために、普段からの健康的な生活が重要である。日常生活が健康に及ぼす影響や各年代において健康を保持増進させるのに重要な因子を理解し将来に役立てることを目的とする。運動、食生活、睡眠、休養などの日常生活と健康との関連や各年代における健康に影響を及ぼす生理的な現象等を科学的な理解を深める講義を行う。

《テキスト》

指定しない。

《参考図書》

各単元毎に必要なに応じて紹介する。

《授業の到達目標》

- 1 運動、栄養などの生活習慣が健康に及ぼす影響を理解する
- 2 各年代において健康を維持する因子を理解する

《授業時間外学習》

- 1 次回の授業範囲を予習し、概要を把握すること
- 2 毎回授業後、ノートを整理し、重要なポイントを理解すること
- 3 日頃から、健康状態について関心を持つよう心掛けること

《成績評価の方法》

- 1 定期試験80%、小テスト20%の割合で評価する
- 2 私語等講義の妨害となる行為や風紀を乱す行為を行った者は、出席取り消しもしくは減点の対象となる

《備考》

第1, 2回の授業では小テストを行わないため、欠席した場合は減点とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	日本人の健康状態	日本人の死亡統計および疾患別患者数統計から、日本人の主な死亡原因は何か、どんな疾患の患者数が多いかが理解できる。
2	日本人の生活習慣	国民栄養健康調査結果から、日本人の生活習慣（運動、食事、休養、喫煙、飲酒等）の現状が理解できる。
3	運動と健康	運動とがん、糖尿病、循環器疾患との関連及び「健康づくりのための運動指針2006」について説明できる。
4	食事と健康	三大栄養素の単位重量当たりのエネルギー、エネルギー代謝（特に基礎代謝）、食事摂取基準量について説明できる。
5	睡眠・休養と健康	睡眠時間と健康の関連、睡眠障害の分類、不眠症の分類及び原因について説明できる。
6	喫煙と健康	喫煙による健康被害（能動喫煙および受動喫煙それぞれ）やタバコに含まれる有害物質について説明できる。
7	飲酒と健康	飲酒が及ぼす健康への効用及び悪影響について説明できる。さらに、適度な飲酒量や胎児性アルコール症候群を理解する。
8	ストレス	ストレス学説、ストレスの発生メカニズム（自律神経を中心とした）、ストレスの評価法について説明できる。
9	咀嚼と健康	咀嚼が脳の機能や肥満に及ぼす影響やその生理学的なメカニズムについて説明できる。
10	乳幼児期の健康	乳幼児期の腸内細菌叢の変化、出生直後の免疫、脳の発達、乳幼児期の睡眠、発育と発達の相違について説明できる。
11	少年期の健康	少年期の発育・発達の特徴（特に脳の発達）、遊びの必要性、ゴールデンエイジについて説明できる。
12	青年期の健康	第二次性徴及び青年期の健康問題として無理なダイエットや朝食欠食による体への悪影響について説明できる。
13	妊婦の健康	妊婦における運動の必要性、妊婦に適した運動、妊婦の喫煙や飲酒による胎児への影響について説明できる。
14	成人期の健康	内臓脂肪型肥満と運動との関連、体脂肪のエネルギー計算、減量初期の体蛋白の崩壊、原料における食事療法単独の問題点について説明できる。
15	老年期の健康	老化の定義、老化現象、老化による筋肉の減少の仕方及び筋トレ、痴呆および痴呆予防について説明できる。

科目名	健康統計の基礎		科目ナンバリング	HOAA12005
担当者氏名	河野 稔			
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
				2年・1期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）			

《授業の概要》

コンピュータを利用して、健康科学を学ぶ上で必要となる、統計手法の基礎を身につけることを目指す。具体的には、調査・実験から得られた資料（データ）を整理し、資料の特徴をあらわす数値を求めたり、確率を利用して資料のもととなる集団の特徴や傾向を推測する手法について学ぶ。また、実際の統計処理で使用される、表計算ソフトを利用した演習を通して、理論だけでなく実際の処理のながれを理解する。

《授業の到達目標》

- 基礎統計量を計算して、データの特徴を説明できる。
- 基本的な統計手法を用いて、データを解析し説明できる。
- 表計算ソフトを使用して、資料の整理や基本的な統計解析ができる。

《成績評価の方法》

演習課題とレポートの提出（50%）、定期試験（50%）で評価する。

《テキスト》

石村貞夫・劉晨・石村友二郎(2013)『Excelでやさしく学ぶ統計解析2013』東京図書。

《参考図書》

- 石村貞夫(2006)『入門はじめての統計解析』東京書籍。
- 菅民郎(2013)『Excelで学ぶ統計解析入門 -Excel2013/2010対応版』オーム社。
- 涌井良幸・涌井貞美(2010)『統計解析がわかる（ファーストブック）』技術評論社。

《授業時間外学習》

- 予習では、教科書の授業範囲を読んでおくこと。また、基礎統計量や統計処理については、表計算ソフトを使う手順を確認しておくこと。
- 復習では、定期試験に向けて、公式や統計手法を扱えるように練習しておくこと。また、表計算ソフトを使用する際に、関数を使わずに公式による計算ができるようにしておくこと。

《備考》

主体的かつ意欲的に授業に参加することを期待します。とくに表計算ソフトが苦手な学生は、自主的に練習しておいてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	統計の必要性、記述統計と推測統計
2	表計算ソフトの利用(1)	データの入力と修正、表の作成と編集
3	表計算ソフトの利用(2)	データの検索、並び替え、関数の利用
4	1変数のグラフ表現	棒グラフ、円グラフ、折れ線グラフ、レーダーチャート
5	1変数の統計量	代表値（平均値、最大値、最小値など）、散布度（分散、標準偏差など）
6	2変数のグラフ表現と統計量	散布図の作成、相関係数
7	回帰直線による予測	回帰直線
8	時系列データの推移	移動平均
9	度数分布表とヒストグラム	度数分布表の作成、ヒストグラムの作成
10	確率分布とその数表	標準正規分布、カイ2乗分布、t分布、F分布
11	区間推定	母平均の区間推定、母比率の区間推定
12	仮説検定の基礎(1)	2つの母平均の差の検定
13	仮説検定の基礎(2)	対応のある母平均の差の検定
14	クロス集計と仮説検定	クロス集計表、独立性の検定
15	まとめ	全体の学習の振り返り

科目名	微生物学	科目ナンバリング	HOXA22008
担当者氏名	島田 邦夫		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ○ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） ○ 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）		

《授業の概要》

生命科学の知見は、大部分が微生物の研究から得られたものである。「健康」は生命の根源であり、「安全神話」は感染症に対する油断を生み、私達は病原体の格好の餌食になっている。デング熱やエボラ出血熱など感染症が流行し大きな社会問題となった。私達の体には疾病を制御する巧妙な能力が備わっている。本科目では微生物学の基礎と共に病原微生物の逆襲に備え生体が病原体と戦う仕組みについて理解を深め学習する。

《テキスト》

『新版・微生物と免疫』、林 修 編：碓井之雄・江崎一子・太田利子・杉源一郎・中屋祐子・眞山眞理 共著（建帛社）

《参考図書》

『新・感染と微生物の教科書』、田爪正氣・築地真実・他 4名共著（研成社）

《授業の到達目標》

① 微生物の種類や分類を説明できる。② 主要な病原微生物による感染症の病態と特徴を理解・説明できる。③ 主な感染症の予防対策を提言できる。④ 病原体と戦う免疫現象を理解・説明できる。

《授業時間外学習》

① 予習：あらかじめテキストに目を通す。
 ② 復習：授業内容を再確認する。不明点は授業時に質問する。または自分で調べ、整理してまとめる。マスメディアで報道された感染症の切り抜きなどをファイルしてまとめる。

《成績評価の方法》

① 受講態度、学習意欲、討論への参加 20%（小試験、又はレポート提出で評価する：提出期限を守らない場合は減点とする）
 ② 定期試験 80%

《備考》

微生物学を通じ、自分の健康管理に関する知識を身につけるよう心がける。話題になる感染症について、関心を高めておく。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	「微生物」とは・・・？ 微生物学へのいざない！ 微生物の逆襲に備え、戦略をねる！
2	微生物学の概要・歴史	プロジェクター（映像）を使い、「微生物学」全体像の理解を深める。
3	1. 微生物の特徴と分類	微生物にはどんな種類があるのか？ 病原体の侵入門戸（感染経路）は・・・？
4	2. 細菌学総論	形と分類、培養・増殖、変異と遺伝：主要な細菌の性状と病原性、迅速診断（遺伝子診断）
5	3. ウイルス学総論	主要なウイルスの感染症、遺伝子診断
6	4. 真菌学総論	形態と増殖、分類、主要な真菌感染症
7	5. 原虫学総論	分類と特徴、主要な原虫・寄生虫形態・構造と分類、遺伝と変異
8	6. 生活に身近な微生物	常在細菌叢、バイオテクノロジー
9	7. 感染一発症と予防	感染と発症、感染から身をまもる機能（感染と免疫：液性免疫・細胞性免疫）
10	8. アレルギーと自己免疫疾患	アレルギーはなぜ起きる・・・？免疫寛容の破綻！
11	9. 輸血と移植免疫	拒絶反応・移植免疫とは・・・？
12	10. 滅菌と消毒、話題の感染症	主要な滅菌法・消毒法、新興感染症・再興感染症、人獣共通感染症
13	11. 栄養と免疫	栄養不良と免疫機能
14	12. 感染と生体防御	感染症の蔓延を防ぐ法規制（感染症予防法、検疫法、予防接種法） 異物から生体を守るには？
15	まとめ：感染症と原因微生物	総括、知っておきたい世界の感染症！、バイオハザードとは？その対策！

科目名	生化学	科目ナンバリング	HOXA22009
担当者氏名	長尾 憲樹		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・1期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力）		

《授業の概要》

生命とは、物質代謝によって自己の構造を維持し、積極的に行動しているものと定義されている。生化学は、端的に言えば生命の営みを化学的に理解する学問である。生化学の基礎知識が人間の運動と健康を考える上で必要不可欠である。

《テキスト》

配布資料を使用する。

《参考図書》

必要が生じた際に紹介する。

《授業の到達目標》

生化学の基礎知識を習得し、できうる限りの実体感を得る。

《授業時間外学習》

これまで学習してきた理科に関する復習を行う。

《成績評価の方法》

定期試験70%
レポート30%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	生命とは？	生命の起源についての学説を概観する。
2	生化学の始まり	発酵現象の歴史的意義
3	解糖系 I	微生物・植物について
4	解糖系 II	動物・人間について
5	生体のエネルギー	ATPの発見
6	脂質	脂質の種類と構成要素
7	TCAサイクル	ミトコンドリア内の化学反応
8	電子伝達系	ATPのカウントについて
9	アミノ酸とタンパク質	アミノ酸の種類とタンパク質の多様性
10	乳酸	乳酸の考え方
11	細胞	40兆の細胞とネットワーク
12	遺伝情報	ゲノム解析から
13	エピジェネティクス	環境要因と遺伝
14	運動と生化学	どのような点に興味を持ちますか。
15	まとめ	これまでの学習を振り返ってまとめる。

科目名	栄養指導論	科目ナンバリング	H0BB22012
担当者氏名	真鍋 祐之		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ◎ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） 		

《授業の概要》

栄養情報を伝えるべき対象者、とくに子ども達に対して、心身の健全な発育・発達に必要な情報を提供するため、栄養指導の基本的な知識と技術、さらに実践方法を理解し、対象者の健康づくりに必要な自己管理方法を学ぶ。

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

《参考図書》

『最新日本食品成分表』医歯薬出版編、医歯薬出版
『日本人の食事摂取基準2015年版』第一出版

《授業の到達目標》

- (1) 栄養指導に必要な基本的知識や技術を理解する。
- (2) 自分自身の食生活を見直し、改善できるように自己管理能力を高める。
- (3) 正確な情報と適切な伝達能力の獲得を目指す。

《授業時間外学習》

- (1) 予習の方法: 次回講義予定部分に目を通し、学習内容の概要を把握しておくこと。
- (2) 復習の方法: 毎回の講義内容を見直し、ノート等の不完全な部分については、資料等で補足しておくこと。
- (3) 忘れることを恐れず、一度は理解しておくこと。

《成績評価の方法》

定期試験(100%)

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	栄養指導論の目的と必要性について解説する。
2	栄養指導の基礎①	栄養指導に必要な栄養学の基礎知識を理解する。
3	栄養指導の基礎②	栄養指導に必要な食品学の基礎知識を理解する。
4	栄養指導の基礎③	栄養指導に必要な調理学の基礎知識を理解する。
5	栄養指導の基礎④	栄養指導の基礎知識(栄養学、食品学、調理学)の理解度を確認する。
6	栄養指導の基礎⑤	食事摂取基準について解説する。
7	栄養指導の基礎⑥	食事バランスガイド、食生活指針、健康日本21について解説する。
8	基本知識と技術のまとめ	栄養指導の基礎知識(食事摂取基準、食事バランスガイド、食生活指針、健康日本21)の理解度を確認する。
9	栄養指導の各論①	ライフステージ(妊娠・授乳期～思春期)の特徴と栄養指導を理解する。
10	栄養指導の各論②	ライフステージ(成人期～高齢期)の特徴と栄養指導を理解する。
11	栄養指導の各論③	ストレス時や運動時の栄養指導を理解を深める。
12	栄養指導の実際①	食品成分表の使い方と栄養価計算の方法を理解する。
13	栄養指導の実際②	食品のさまざまな側面(表示、重量、廃棄率、栄養素)を理解する。
14	栄養指導の実際③	自己診断から実行可能な健康づくり案を計画する。
15	まとめ	栄養指導論のまとめ

科目名	公衆衛生学	科目ナンバリング	HOAC22014
担当者氏名	島田 邦夫		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）		

《授業の概要》

みんなの健康はみんなで守ろう！これが公衆衛生である。人と現代の生活、健康をめぐる行動特性・メカニズムを解き明かす。社会・環境と健康との関係や、その変化が健康に与える影響、健康増進・疾病予防の考え方と取り組みを学ぶ。併せて保健・医療・福祉・介護システムなどの社会構造をも学習する。

《テキスト》

『イラスト 公衆衛生学』、石川哲也・大谷 誉・中村 亮・成田美代・吉岡義正・吉川 博 著（東京教学社）

《参考図書》

「衛生行政大要 改訂第23版」、上田 茂 編集（日本公衆衛生協会）

《授業の到達目標》

① 健康増進（ヘルス・プロモーション）に対応した法制度および地域保健活動の内容を理解・説明できる。② 生活習慣病や感染症への予防対策が提言できる。③ 社会保障の問題について提言・説明できる。

《授業時間外学習》

① 予習：あらかじめテキストに目を通す。
 ② 復習：授業内容を再確認する。不明点は授業時に質問する。または自分で調べ、整理してまとめる。

《成績評価の方法》

① 受講態度、学習意欲、討論への参加 20%（レポート提出、または小試験で評価する。レポート提出期限を守らない場合は減点とする）
 ② 定期試験 80%

《備考》

「人間社会」を取り扱うため、非常に広範囲の知識が要求される。御嶽山の噴火による土石流や東日本大震災に伴う津浪、原発事故も公衆衛生の範疇に含まれる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション：公衆衛生学への誘い	「公衆衛生学」へのいざない！公衆衛生学で何を学ぶか・・・？
2	「公衆衛生学」の概念	プロジェクター（映像）を使い公衆衛生の全体像を把握・理解を深める。
3	「公衆衛生学」の概要	みんなの健康を考える。病気は予防がお得！健康増進に果たす役割
4	日本の健康レベル	健康レベルの指標、人口統計、人は何年生きられるか？
5	感染症の原因を探る	疫学、感染症の最近の動向、感染症から身を守るには？ 感染症予防法、予防接種法
6	感染症以外の疾病対策	生活習慣病、精神保健（自殺など）、難病、リウマチ、アレルギー疾患
7	地域保健、衛生行政	地域保健法、衛生行政の組織、健康危機管理
8	母子保健、学校保健	母子保健対策、学童期の健康状況、保健教育・保健管理、学校感染症、養護教諭の役割
9	精神保健・福祉	地域精神保健福祉対策、精神障害者の医療、精神障害者福祉と社会復帰対策
10	障害児・障害者対策	障害者自立支援法、身体障害者、知的障害者など
11	歯科保健、労働衛生、	歯科保健の現状と対策、労働と健康その対策、メンタルヘルス、パワーハラスメント
12	国際保健	国際交流・協力、検疫法
13	社会保障	社会保障の定義、公衆衛生と社会保障、社会福祉、医療・介護保険制度
14	保健・福祉・介護等関連法規	法の概念、衛生法規など
15	まとめ	学習成果についてレビューする。

科目名	健康心理学		科目ナンバリング	HOAB22017
担当者氏名	大平 曜子			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力）			

《授業の概要》

心理学としては異色の「身体的な健康」と「精神的な健康」とを根元的な結びつきの中で捉えようとしていることと、障害や疾病状態ではなく健康を中心課題としているところに特徴があります。心理的要因の心身の健康への影響を理解し、自他の健康アプローチに関心を払い、運動指導や生活習慣の改善・行動変容に生かす態度・能力の育成を目指します。授業では、健康への認知行動的アプローチに基づく実際を学びます。

《授業の到達目標》

- 健康心理学の領域を理解し、説明できる。
- 健康心理学の基礎となる心理学の概念を理解し、代表的な理論について説明ができる。
- 健康なパーソナリティについて、考えを述べるができる。
- 健康習慣や健康行動について理解し、また、その指導ができる。

《成績評価の方法》

レポート課題に対する取り組みの成果 20%、
 定期試験 60%、
 中間におこなう確認テスト 20%

《テキスト》

『新版 健康心理学』 野口京子著 金子書房

《参考図書》

『現代心理学シリーズ 健康心理学』島井哲志編 培風館他
 授業の中で適宜紹介

《授業時間外学習》

健康生活を実践し、健康習慣に関して、自分の意見をまとめておく。テキストを通読し、健康心理学の領域を理解する。課題のレポート作成には、必ず文献を探す。

《備考》

健康運動指導士や健康運動実践指導者の資格を目指す者はいうまでもなく、意欲的な参加と主体的な学習態度を期待します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	健康心理学の歴史と他学問領域との関係
2	健康心理学の基礎理論 (1)	精神分析、学習理論、行動理論
3	健康心理学の基礎理論 (2)	発達理論、認知理論、人間主義理論
4	健康行動の理解	健康行動とは 予防と治療とリハビリ
5	パーソナリティと健康行動 (1)	健康なパーソナリティ
6	パーソナリティと健康行動 (2)	疾病とパーソナリティ
7	生活習慣と健康	健康な生活習慣 生活習慣病の予防と健康行動
8	健康への認知行動的アプローチ (1)	認知の行動の関わり、認知行動療法
9	健康への認知行動的アプローチ (2)	社会的要因と個人的要因 健康関連行動について
10	ヘルスケアシステム	健康心理アセスメント
11	健康におけるソーシャルサポートの働き	ソーシャルサポートの測定
12	健康心理カウンセリング	基礎理論 理性感情行動療法、交流分析、自律訓練法
13	健康教育活動	禁煙、薬物防止、食行動の変容などについて
14	行動変容や習慣改善への試み	集団力学・グループダイナミクス、個人指導
15	授業のまとめ	これまでの学習と得られた知見を再確認し、具体的な成果を説明することができる。

科目名	教育特論 I	科目ナンバリング	HOCC12019
担当者氏名	河野 稔		
授業方法	講義	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ◎ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） ○ 3-2 効果的な意思疎通ができる（コミュニケーション力） 		

《授業の概要》

キャリア（生涯にわたっての仕事や社会とのかかわり方）への明確な課題意識を持ち、進路の実現に向けて主体的に能力を開発することが、社会的・職業的に自立する上で重要である。そこで、教員採用試験の一般教養相当の知識や問題解答力の習得を通じて、自己のキャリア実現への目標と課題を明確にし、その課題に取り組む力を養うことを目指す。授業はオムニバス形式（専任教員が入れ替わりで担当）である。

《授業の到達目標》

- 自分の進路に対する具体的な目標を持ち、その実現に向けての課題を具体的に説明できる。
- 自分の進路を実現するための計画を練り、それを行動に移すことができる。
- 自分の進路に必要となる基礎的な知識を主体的かつ継続的に学習する態度が身についている。

《成績評価の方法》

ワークシートやレポート等の提出物（40%）、グループワークでの発表内容（40%）、グループワークでの相互評価の結果（20%）で評価する。

《テキスト》

オムニバス形式の授業であるため、適宜授業の中でプリントを配布する。

《参考図書》

オムニバス形式の授業であるため、参考となる文献や資料は、適宜授業の中で紹介する。

《授業時間外学習》

あらかじめ、自分の進路に必要となる学習内容をチェックして、自主的に学習を進めておくこと。
授業後には、配布された資料等をもとに学習内容をよく理解しておくこと。とくに、問題解答能力を養うには、受講生同士の協力から得るものが多い。学習成果や疑問点を授業に持ち寄って情報交換できるように整理をしておくこと。

《備考》

オムニバス形式の授業であるため、授業計画は目安です。担当教員の都合により進行が異なることがあります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方、スケジュールの説明などを説明する。
2	キャリアとは	キャリアとは何か、社会人基礎力とは何かについて考える。
3	キャリアデザイン(1)	自分自身のこれまでの学習成果や社会経験をふり返り、将来のキャリアについて考える。
4	キャリアデザイン(2)	自分たち自身を客観視するために、健康システム学科の学生のキャリアを設計する。
5	採用試験の概要	教員・公務員・民間企業等、進路ごとの採用試験に向けた取り組みについて考える。
6	一般教養の傾向と対策(1)	教員採用試験の一般教養の問題に取り組み、自分の実力を確認する。
7	一般教養の傾向と対策(2)	一般教養の人文科学分野の練習問題・過去問に取り組む。
8	一般教養の傾向と対策(3)	一般教養の社会科学分野の練習問題・過去問に取り組む。
9	一般教養の傾向と対策(4)	一般教養の自然科学分野の練習問題・過去問に取り組む。
10	一般教養のまとめ	ここまでに取り組んだ一般教養の問題にあらためて取り組む。
11	一般知能の傾向と対策(1)	公務員採用試験の一般知能の問題に取り組み、自分の実力を確認する。
12	一般知能の傾向と対策(2)	一般知能の数的推理・判断推理の練習問題・過去問に取り組む。
13	一般知能の傾向と対策(3)	一般知能の空間把握・資料解釈の練習問題・過去問に取り組む。
14	一般知能のまとめ	ここまでに取り組んだ一般知能の問題にあらためて取り組む。
15	将来の進路の実現に向けて/まとめ	授業全体についてふり返り、将来のキャリア実現に向けた課題を考える。

《専門教育科目 I群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	運動生理学		科目ナンバリング	H1BC22003	
担当者氏名	木下 幸文				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・1期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力）				

《授業の概要》

身体運動が人体機能にどのような応答をもたらすのか、また継続して身体活動を行った場合にはどのような適応を示すのかなど、その生理学的な機序を学習していく。講義で学習する主な点は、(1) 運動と健康との関係について (2) 人が運動する場合の生理・生化学的機構について (3) 運動による人体機能の応答・適応についてであり、これらの内容についてそれぞれ詳細に講述していく。

《授業の到達目標》

この講義は、運動やスポーツなどの身体活動にともなう人体の生理機能の変化やその機序についての知識を身につけることができるとともに、運動することにおいて大切な基礎的知識について説明できる。

《成績評価の方法》

定期試験の結果（80％）と毎講義ごとに行う確認テスト（10％）、事前学習課題（10％）によって評価する。100点満点で60点以上を合格とする。

《テキスト》

「現代栄養科学シリーズ18 運動生理学」池上晴夫著（朝倉書店）2003年

《参考図書》

「新運動生理学（上巻）」宮村実晴編（真興交易（株）医書出版部）2001年、「新運動生理学（下巻）」宮村実晴編（真興交易（株）医書出版部）2001年、「身体活動と不活動の健康影響」郡司篤晃、川久保清、鈴木洋児編（第一出版）1998年、「運動生理学」Astrand, PO and Rodahl, K.（大修館書店）1990年

《授業時間外学習》

テキストの指定箇所を事前に読んでおくこと。毎講義ごとに前回講義の復習を兼ねて確認テストを実施しますので、各自で復習学習しておくこと。また、事前の課題を学習しておくこと。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	健康と運動	健康と体力、運動の効果について
2	運動適応のメカニズム (1)	運動時のエネルギー発生仕組みについて理解する
3	運動適応のメカニズム (2)	有酸素能力と無酸素性作業閾値について理解する
4	運動適応のメカニズム (3)	運動と呼吸について理解する
5	運動適応のメカニズム (4)	運動と循環について理解する
6	運動適応のメカニズム (5)	運動と筋・骨格系①について理解する
7	運動適応のメカニズム (6)	運動と筋・骨格系②について理解する
8	運動適応のメカニズム (7)	運動と神経系①について理解する
9	運動適応のメカニズム (8)	運動と神経系②について理解する
10	運動適応のメカニズム (9)	運動と自律神経・内分泌系について理解する
11	運動適応のメカニズム (10)	運動と体温調節について理解する
12	運動適応のメカニズム (11)	運動と環境（内部・外部）の関係について理解する
13	運動適応のメカニズム (12)	発育発達期における運動の役割について理解する
14	運動適応のメカニズム (13)	運動強度・量の表し方について理解する
15	健康のための運動処方	様々な環境下での有酸素性運動の在り方について説明できる

科目名	運動生理学演習		科目ナンバリング	H1CX22004	
担当者氏名	木下 幸文				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ◎ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） 				

《授業の概要》

身体運動時の生理反応の基礎と本質を演習を通じて学習していくとともに、運動中の生理現象を詳細に記録や観察し、測定時に得られたデータを解析することによって身体の生理学的な適応反応の意義を理解できるようにする。主なテーマとして、(1)呼吸循環機能に及ぼす身体活動の影響(2)筋力や筋持久力に及ぼす身体活動の影響(3)運動負荷試験の実際と解釈について、評価していく。

《授業の到達目標》

運動生理学演習では、2年次Ⅰ期開講の運動生理学の講義で学んだ知識について実習を通して再確認していくとともに、運動生理学の分野において用いられる基礎的な測定方法を習得することができる。また演習を通じて、身体活動時にみられる人体機能の複雑で巧妙な適応機能について説明できる。

《成績評価の方法》

演習中のレポート課題（80%）と演習の参加意欲（作業シート（20%））により評価する。なお、提出期限後に提出されたレポートは評価対象外とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	演習の進め方について
2	体組成の評価	様々な機器や方法を用いての体組成計測法について学び、あらゆる場面において体組成測定が出来るようになる
3	心肺運動負荷試験(1)	有酸素性作業能力の測定方法と心肺運動負荷試験による間接法と直説法について理解する
4	心肺運動負荷試験(2)	直接法による酸素摂取量の測定が出来るようになる
5	心肺運動負荷試験(3)	直接法による酸素摂取量の測定が出来るようになる
6	運動中の呼吸循環機能の評価(1)	換気亢進のメカニズム（運動強度の違いによる換気量の変化を評価する）
7	運動中の呼吸循環機能の評価(2)	換気亢進のメカニズム（運動強度の違いによる換気量の変化を評価する）
8	運動中の呼吸循環機能の評価(3)	運動時の心拍数の変化について理解する（運動中の心拍変動を分析する）
9	運動中の呼吸循環機能の評価(4)	運動時の血圧調節について理解する（運動中の血圧変化を分析する）
10	運動中の呼吸循環機能の評価(5)	酸素負債と酸素借について理解する
11	運動中の体温調節機構について(1)	運動と熱放散反応（運動時の体表面温を分析）
12	運動中の体温調節機構について(2)	運動と熱放散反応（運動時の体表面温を分析）
13	運動中のエネルギー代謝について	飲料水摂取後の血中グルコース濃度を測定し、糖質の代謝とその機能について理解する
14	運動時の筋活動機能の評価(1)	筋電図の測定（1）
15	運動時の筋活動機能の評価(2)	筋電図の測定（2）

《テキスト》

本演習用の手引きを配付し、それに応じて演習を進めて行く。また、必要に応じて関連するプリントを配布する。

《参考図書》

「運動負荷心電図 第2版—その方法と読み方」川久保清著（医学書院）2009年、「スポーツ選手と指導者のための体力・運動能力測定法」西園秀嗣著（大修館書店）2004年、「改訂最大酸素摂取量の科学」山地啓司著（杏林書院）2001年、「運動処方」の指針—運動負荷試験と運動プログラム—アメリカスポーツ医学会編（南江堂）2001年

《授業時間外学習》

演習で得られた測定記録を整理しながら、レポート作成のための資料を収集しておくこと。また、参考図書などを参考に生理機能の仕組みについて理解しておくこと。

《備考》

身体活動を評価するための実験を行いますので、演習にふさわしい服装（靴も含む）で参加すること。演習活動を妨げるような服装の場合には本演習を受講する必要はない。

科目名	運動栄養学	科目ナンバリング	H1BX22005
担当者氏名	木下 幸文		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・1期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力）		

《授業の概要》

われわれ人類の健康を維持したり増進させたりするためには、栄養・運動・休養の三要素が必要である。特に栄養は毎日の生活の基礎である食事や食生活のあり方につながるだけに重要であり、健康やスポーツに携わる者にとり基本的な栄養知識は必須である。そこで、栄養と運動や健康の関わりを中心に、栄養学の基礎と運動時のエネルギーや栄養素摂取のあり方と問題点について述べる。

《授業の到達目標》

栄養と運動は車の両輪のようなものである。生活習慣病の数々は、運動と栄養のバランスの乱れに起因している。また、スポーツを行うにあたり、パフォーマンスを高めるための土台となる栄養素の働きについて理解できるようになることが重要である。この運動栄養学の講義を通じて、栄養学の基本的な内容を説明できるようになり、運動や身体活動時のエネルギーや栄養素摂取のあり方についての基礎的な知識を説明できる。

《成績評価の方法》

成績評価は定期試験の結果（80%）、各單元ごとに行う確認テスト（10%）、レポート課題（10%）によって評価する。100点満点で60点以上を合格とする。

《テキスト》

「スポーツと健康の栄養学」（第3版）下村吉治著（NAP）2010年、また必要に応じて関連した資料も配付する。

《参考図書》

「健康づくりと競技力向上のためのスポーツ栄養マネジメント」鈴木志保子（日本医療企画）2011年、「アスリートのための栄養・食事ガイド」小林修平、樋口満編（第一出版）2006年、「実践的スポーツ栄養学」鈴木正成著（文光堂）2006年、「身体運動・栄養・健康の生命科学Q&A 栄養と運動」伏木亨他著（杏林書院）2001年

《授業時間外学習》

テキストの指定箇所を事前に読んでおくとともに、1年時開講の「栄養学」で学んだ内容についてよく理解しておくこと。また、單元ごとに復習を兼ねて確認テストを実施する予定にしていますので、各自で学習しておくこと。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	健康の概念と栄養	栄養と運動や健康の関わりについて理解する
2	栄養学の基礎(1)	運動時の炭水化物・脂質・蛋白質の働きについて理解する
3	栄養学の基礎(2)	運動時のビタミン・無機質の働きについて理解する
4	栄養学の基礎(3)	エネルギー産出と筋運動時のエネルギー
5	栄養学の基礎(4)	生活活動とエネルギー消費
6	運動時の栄養補給(1)	運動時の糖質代謝（スタミナと炭水化物ローディング）について理解する
7	運動時の栄養補給(2)	運動時の脂質代謝について理解する
8	運動時の栄養補給(3)	運動時の蛋白質代謝について理解する
9	運動時の栄養補給(4)	運動時のビタミン・無機質の代謝、生体内での役割について理解する
10	運動と栄養素の消化・吸収	運動中の栄養素の消化・吸収について理解する
11	活性酸素と運動・栄養	抗酸化剤（サプリメント）の効果について理解する
12	トレーニング期と試合期の食事	筋肉づくりのための食事タンパク質の摂取方法について説明できる
13	栄養・食事アセスメント(1)	栄養状態の判定と評価
14	栄養・食事アセスメント(2)	運動期間中の食事アセスメントの方法とその実際
15	日本人の食事摂取基準（栄養所要量）	栄養素摂取量の現状と運動時の活用法について説明できる

科目名	ジュニアスポーツ I		科目ナンバリング	H1BB12006
担当者氏名	三宅 一郎			
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期 2年・1期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ◎ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） 			

《授業の概要》

演習科目である為、理論と実践を結びつけながら進める。子どもの理解を深める意味で附属幼稚園の子どもの観察をしたり子ども達と接する機会を持つ。今までの学校体育で経験した内容やスポーツ実践での考え方の枠を広げ、より柔軟的に運動を捕らえ、幅広い運動遊びや学校体育に役立つ内容を指導する。

《授業の到達目標》

幼児の運動遊び指導者（幼児体育指導者）並びに小学生児童の体育指導者（ジュニアスポーツリーダー）としての能力を養うことを目標とする。その為に、子どもの発育発達特徴を理解し幼児期・児童期前半における運動の正しい実践方法の知識を身につける。様々な運動の考え方や実践方法を理解する事によって、幼児期・児童期前半に適した運動実践の在り方を学ぶ。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的且つ真剣に授業に参加する事を望む。毎時間の授業のまとめ、感想、質問等をまとめたノート提出する（50%）。随時課題に対するレポート（30%）。学期末に理解度を確認するテスト（20%）。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の進め方、評価方、。授業ノートのまとめ等の説明。
2	発育発達期の特徴	子ども達を取り巻く問題点と運動・スポーツの必要性、指導における問題点の対策について。からだの発育発達の特徴と心理的特徴・
3	発育発達期の障害と予防	発育発達期に応じた運動・スポーツの理解（コーディネーション能力、オーバートレーニング防止、スポーツの在り方、望ましいライフスタイルとの関係等について）
4	精神面の発達特徴	年代別における精神面の発達特徴の理解とコミュニケーション（コミュニケーションスキルにおける基本的項目：観察・傾聴・洞察）体力と運動機能の発達と特徴
5	体力と運動機能の発達	体力と運動機能（関節運動を含む）発達過程と特徴（運動指導におけるコミュニケーションスキルのための観察・傾聴・洞察）
6	心拍数の運動生理学	心拍数からみた幼児・児童の運動発達の特徴と全身運動
7	呼吸循環機能の発達	各年代における呼吸循環機能の発達と運動
8	移動系運動の発達と指導法と指導プログラム	移動系運動の発達と実際（スポーツスキルの習得：1人・親子・グループゲーム、コーディネーション能力トレーニングを含む）
9	操作系・非移動系（平衡系）運動の発達	指導方法及び指導プログラム（スポーツスキルの習得：1人・親子・グループゲーム、コーディネーション能力トレーニングを含む）
10	体力測定及び運動能力測定	体力測定及び運動能力測定の実施方法と測定結果の活用方法（スポーツスキルの習得および上達のためのデータ活用）
11	運動指導プログラム	各年代における発育発達特徴を踏まえた運動指導プログラムの実際と指導法（コミュニケーションの3Vの法則：言語、聴覚、視覚を踏まえたアドバイス等）
12	移動系運動指導のプログラム	移動系運動の考え方をと指導プログラム（1人・親子・グループゲーム）集団ゲームスキル獲得のための方法と実際。コーディネーション能力トレーニングを含む）
13	操作系運動指導のプログラム	操作系運動の考え方や指導プログラム（1人・親子・グループゲーム、コーディネーション能力トレーニングを含む）
14	非移動系（平衡系）運動の指導プログラム	非移動系（平衡系）運動の考え方や指導プログラム（1人・親子・グループゲーム、コーディネーション能力トレーニングを含む）
15	まとめ	幼児期及び児童期前半の発育発達特徴を踏まえた運動指導プログラム。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考図書》

「運動発達の科学」～幼児の運動発達を考える～三宅一郎（大阪教育図書）
「幼児の運動発達学」小林寛道（ミネルヴァ書房）
「幼児の有酸素性能力の発達」吉澤茂弘著（杏林書院）
“Motor Development and Movement Experiences for Young Children” DAVID L. GALLAHUE, John Wiley&Sons, ink

《授業時間外学習》

<予習方法>下記授業計画における次時の授業内容を参考文献等であらかじめ確認しておくことでより理解が深まる。<復習方法>学んだ内容を配付資料等により再確認にノートにまとめる。疑問点等があればノートの感想欄に記載すること（後日必ず返答する）。これらの活動を通して効果的な理解が得られると考える。

《備考》

幼児の運動遊び指導者（幼児体育指導者）および小学校体育指導者（ジュニアスポーツリーダー）として必要な知識を身につけて欲しい。

《専門教育科目 I群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	ジュニアスポーツⅡ	科目ナンバリング	H1CX22007
担当者氏名	矢野 琢也		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） ○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ◎ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） 		

《授業の概要》

公認ジュニアスポーツ指導員の養成を目的に授業を実施し、以下の能力の獲得をめざす。①発育発達期の身体的・心理的特徴を理解する ②基本動作の習得のためのプログラムが活用できる ③「あそび」のプログラムが活用できる ④コーディネーション能力を高めるプログラムが活用できる ⑤コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力の獲得

《授業の到達目標》

児童期から青年前期にかけての子どもを対象に発育発達特徴を理解した上で運動・スポーツの基本的な知識を学ぶ。具体的なスポーツスキルの獲得に至る迄の各段階での運動・スポーツ指導の方法、心構え全般を理解し身につける。

《成績評価の方法》

随時課題に対するレポート提出（30%）
 学期末に理解度を確認するテスト＜筆記及び実技＞（70%）
 出席数が2/3に満たない者は単位認定対象外とする。
 期日、時間の厳守。期日を過ぎた提出物は原則受け取りません。

《テキスト》

「公認ジュニアスポーツ指導員養成テキスト 理論編」「公認ジュニアスポーツ指導員養成テキスト 実践編」日本体育協会
 ＊必要に応じて資料も配付する。

《参考図書》

「疾走能力の発達」宮丸凱史（杏林書院）、「幼児の有酸素性能力の発達」吉澤茂弘（杏林書院）、「発達運動論」臼井永男（放送大学）、「体力を高める運動75選」神家一成（東洋館出版）、「コーディネーション運動65選」東根明人（明治図書）

《授業時間外学習》

事前にテキスト等、該当箇所を予習することを望む。あわせて実際に該当する運動等を行うこと。

《備考》

指導者養成を目的として実施するので、その心構えを持つ事。あわせて、自ら積極的に専門分野の学習を行うことを強く望みます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の概要を説明する。
2	移動系運動①	移動系運動を中心とした運動の発達とスキルの獲得について学ぶ（移動系運動①）
3	移動系運動②	移動系運動を中心とした運動あそび・ゲームの実際を学ぶ
4	操作系運動①	操作系運動を中心とした運動の発達とスキルの獲得について学ぶ
5	操作系運動②	操作系運動を中心とした運動の発達とスキルの獲得について学ぶ
6	操作系運動③	操作系運動を中心とした運動遊び・ゲームの実際を学ぶ。コーディネーション能力を含む
7	非移動系運動①	非移動系運動を中心とした運動の発達とスキルの獲得について学ぶ
8	非移動系運動②	非移動系運動を中心とした運動遊び・ゲームの実際について学ぶ（コーディネーション能力トレーニングを含む）
9	対人ゲーム（1）	スポーツスキル獲得のための方法と実践（コーディネーション能力を含む）
10	集団ゲーム（1）	スポーツスキル獲得のための方法と実践（コーディネーション能力を含む）
11	集団ゲーム（2）	スポーツスキル獲得のための方法と実践（コーディネーション能力を含む）
12	小学校体育（1）	低学年における体育指導の考え方と実践方法（スポーツスキル獲得のための方法と実践）
13	小学校体育（2）	中学年における体育指導の考え方と実践方法（スポーツスキル獲得のための方法と実践）（コーディネーション能力を含む）
14	小学校体育（3）	高学年における体育指導の考え方と実践方法（スポーツスキル獲得のための方法と実践）（コーディネーション能力を含む）
15	まとめ	スポーツスキルの上達のためのデータ活用等を学ぶ

《専門教育科目 I群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	スポーツ心理学	科目ナンバリング	H1BX22009
担当者氏名	堤 俊彦		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ◎ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） 		

《授業の概要》

スポーツの場面の心理・行動学的な視点理解を深めるために、スポーツを通じた発達、心理とパフォーマンスとの関係、競技不安やストレスマネジメント、動機づけのメカニズムと方法、スポーツパーソナリティ、対人認知、メンタルコンディショニング、などについて考究する。あわせて、スポーツ選手のパフォーマンスを支援する心理サポートの理論的背景を行動科学的な視点からの応用技法を学習する。

《授業の到達目標》

スポーツ場面における心理・行動学的な基礎的な事項について説明できる。
 スポーツにおける各種心理的支援の行い方について知識を得る。
 行動変容に必要なカウンセリングに関する知識を学び技法を習得する。

《成績評価の方法》

ファイナルテスト（50%）、予習レポート（30%）、毎講義後のふり返り（20%）を総合して評価とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	スポーツ心理学とは	心理的スキルのトレーニングとしてメンタルトレーニングについての概観
2	スポーツと心	スポーツと心の関わりの基礎、競技不安、スポーツ関連感情、スポーツ自己有能感
3	スポーツ選手との関係づくり	心理の専門家として現場との良好な関係を築くための「心の作業」
4	スポーツにおける動機づけ	動機づけ理論、生理・心理・社会的効果、競技を継続に必要な心理的側面
5	コーチングの心理	選手のやる気を引き出すかコーチング、意思決定及び強化随伴性
6	メンタルトレーニングの評価	技法、メンタルトレーニング・プログラムの効果の作成、及び評価尺度の作成法
7	スポーツ・コミュニケーション	コミュニケーションスキルとその評価、改善法、モニタリングの活
8	スポーツとパーソナリティ	スポーツの競技場面に及ぼすパーソナリティの影響
9	ストレスマネジメント	競技ストレス、運動・スポーツのストレスへの効果、不安減少のメカニズム
10	ゴールセッティング	目標設定の原理・原則、具体的な応用法、スモールステップと強化の原理
11	集中力向上のトレーニング	集中力を妨害する要因、妨害要因の予防と集中力を向上のためのトレーニング法
12	自信をつけるためのトレーニング	自信のメカニズム、自信及び自己効力感の測定法、自信向上のためのトレーニング法
13	チームワーク向上トレーニング	チームワークの理論と向上のためのトレーニング、チームビルディング
14	心理的コンディショニング	心理的状态を把握方法、ピークパフォーマンスへのピーキングと心理的コンディショニング
15	まとめ	スポーツ・運動が及ぼす心理的効果のまとめ

《テキスト》

スポーツメンタルトレーニング教本、日本スポーツ心理学会編、大修館書店

《参考図書》

無し

《授業時間外学習》

講義の前に指定箇所を必読しておくこと。
 その要約とコメントを予習レポートして提出（任意）。

《備考》

本クラスではパフォーマンスやメンタルマネジメントに関し実践的な内容を習得します。それらを、実践の場で応用できるように期待しています。

科目名	トレーニング科学 I		科目ナンバリング	H1BX22014	
担当者氏名	矢野 琢也				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・1期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） 				

《授業の概要》

トレーニング指導において必要な基礎知識（運動生理学、解剖学、トレーニング理論、方法論等）の習得をレジスタンストレーニングを中心にを行います。実際にレジスタンストレーニングを行い理解を深めます。（時間配分：理論習得に約70%、実技習得に約30%）基本はテキストを中心に解説し、必要に応じてトピックス等を追加します。数回のレポート課題があります。

《授業の到達目標》

トレーニング指導において必要なレジスタンストレーニングの基礎知識の獲得を行います。健康運動実践指導者におけるレジスタンストレーニングの基本知識ならびに基本技術を身につけることを目標とします。

《成績評価の方法》

- ・数回のレポートと筆記テスト(70%)、実技テスト(30%)の結果のみで評価します。
- ・レポートは期日厳守です。原則遅れは受け取りません。

《テキスト》

「健康運動実践指導者用テキストー健康運動指導者の手引きー」（財）健康・体力づくり事業財団

《参考図書》

「NSCA パーソナルトレーナーのための基礎知識」森永製菓（株）健康事業部、「競技力向上のトレーニング戦略」大修館書店、「入門運動生理学第3版」杏林書院、「筋力をデザインする」杏林書院、「筋力トレーニングの理論と実際」大修館書店、「スポーツ・健康科学」放送大学、「エクササイズ科学」文光堂

《授業時間外学習》

- ・該当する箇所はテキストを事前に読んで理解しておく事。
- ・実技に関しては、自ら時間を作って練習ならびに実践を行うことを強く希望します。

《備考》

実際にレジスタンス運動を行います。運動指導者を目指す学生が、より多くの知識や技術が習得できるようにサポートしますので、積極的に参加してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の展開や評価方法等について説明します。受講者は必ず出席すること。
2	指導者について	トレーニング指導者における必要な素養や技術等について学び理解する。
3	スポーツ障害について	スポーツ障害の発生について理解する。あわせていかに予防するかをレジスタンストレーニングの視点から考える。
4	レジスタンストレーニングとは	静的、動的筋収縮における基本的なレジスタンストレーニングについてその特徴や理論を理解する。
5	レジスタンストレーニングの種類	静的、動的筋収縮におけるレジスタンストレーニングの種類とその特徴について理解する。
6	トレーニングのプログラムとは	静的、動的筋収縮におけるレジスタンストレーニングのプログラム作成のための計画について理解する。
7	トレーニングのプログラム評価	静的、動的筋収縮におけるレジスタンストレーニングのプログラム評価のための指標について理解する。
8	レジスタンストレーニング	静的、動的筋収縮におけるレジスタンストレーニングのプログラム-1。下腿のトレーニング種類と特徴を理解する。
9	レジスタンストレーニング	静的、動的筋収縮におけるレジスタンストレーニングのプログラム-2。上肢のトレーニングの種類と特徴を理解する。
10	レジスタンストレーニング	静的、動的筋収縮におけるレジスタンストレーニングのプログラム-3。体幹のトレーニングの種類と特徴を理解する。
11	レジスタンストレーニング	静的、動的筋収縮におけるレジスタンストレーニングのプログラム-4。話題性の高いレジスタンストレーニングについてその効果等を知る。
12	レジスタンストレーニング	静的、動的筋収縮におけるレジスタンストレーニングのプログラム-5。高齢者を対象としたレジスタンストレーニングについて理解する。
13	レジスタンストレーニング	静的、動的筋収縮における成長期におけるレジスタンストレーニングについて理解する。
14	レジスタンストレーニング	レジスタンストレーニングと栄養に関する事項をサプリメントの活用等から理解する。
15	まとめ&実技テスト	実技のチェック（テスト）&総まとめを行う。

科目名	トレーニング科学Ⅱ		科目ナンバリング	H1BX22015	
担当者氏名	矢野 琢也				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） 				

《授業の概要》

筋力トレーニングをテーマにその理論と実践を学びます。基本的な運動生理学、解剖学、運動栄養学の知識を取得している者を対象とし、筋力トレーニング指導において必要な基礎知識（運動生理学、解剖学、トレーニング理論、方法論等）の習得を行います。授業は、各回テキストの1章のスピードで解説を行いながら随時トピックス等を追加します。適宜レポート課題あり。

《授業の到達目標》

ストレンクスコーチの養成を目標とします。レジスタンストレーニング指導において必要な基礎知識の獲得を行います。その結果、基本的なレジスタンストレーニングのメニューや指標作り、ならびにトレーニング評価が出来るレベルを目指します。

《成績評価の方法》

レポートとテスト(100%)の結果のみで評価します。レポート提出は期日厳守です。原則遅れは受け取りません。*加点主義です。努力した分は積極的に評価します。

《テキスト》

「筋力トレーニングの理論と実践」大修館書店
 ¥2,900+税
 *必要に応じて資料も配布します

《参考図書》

「ストレンクストレーニング&コンディショニング」ブックハウスHD、「レジスタンストレーニングのプログラムデザイン」ブックハウスHD、「競技力向上のトレーニング戦略」大修館書店、「入門運動生理学第3版」杏林書院、「スポーツ医科学」杏林書院、「パワーアップの科学」朝倉書店、「臨床スポーツ医学」医学映像教育センター、「エクササイズ科学」文光堂

《授業時間外学習》

事前に指定された内容の箇所をテキストを読んで、「わからない点」を明確にしておくことを求めます。そのわからないところやわかりにくい点ならびに重要箇所を中心に解説します。

《備考》

ストレンクスコーチを目指す人が、より多くのことを学べるよう積極的に授業を展開します。テキストの予習をした上での積極的な姿勢を望みます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業方針や評価方法等について説明します。受講者は必ず出席すること。
2	トレーニング理論について	トレーニング理論の基本概念的な解説と理解を行う。
3	特異性について	運動課題に応じた特異的な筋力について学ぶ（筋力の決定要因に関する内容）
4	最大筋力について	スポーツ競技に応じた特異的な筋力について学ぶ（最大筋力に関する内容）
5	トレーニング強度について	筋力トレーニングの強度について学ぶ（トレーニング強度に関する内容）
6	トレーニング計画について	筋力トレーニングのタイミングについて学ぶ（トレーニング計画に関する内容）
7	トレーニングの種類について	筋力トレーニングの種類について学ぶ（方法の選択に関する内容）
8	障害予防について	障害の予防について学ぶ（筋力トレーニングと障害予防に関する内容）
9	目的に応じたトレーニングについて	目的に応じた筋力トレーニングについて学ぶ（筋力、パワー、持久力の向上に関する内容）
10	性差や健康増進について	女性のための筋力トレーニングについて学ぶ（性差や健康の維持増進に関して生理学的、解剖学的な面から理解する）
11	ジュニア期におけるトレーニングについて	ジュニアのための筋力トレーニングを中心に学ぶ（発育発達における適時性や特性に加えて健康づくりの促進に関する内容を学び理解する）
12	高齢者など加齢や健康について	シニアのための筋力トレーニングについて学ぶ（加齢、可塑性、健康の維持増進等に関する内容について学び理解する）
13	レジスタンストレーニングの手技について	基本的なフリーウエイトの手技について学ぶ1（使用する筋の名称や位置に関する内容）
14	レジスタンストレーニングの手技について	基本的なフリーウエイトの手技について学ぶ2（目的に応じた選択に関する内容）
15	レジスタンストレーニングの手技について	基本的なフリーウエイトの手技について学ぶ2（目的に応じた選択に関する内容）

科目名	健康・体力づくり実践 I	科目ナンバリング	H1CX22019
担当者氏名	三宅 一郎、徳田 泰伸、樽本 つぐみ		
授業方法	演習	単位・必選	3・選択
		開講年次・開講期	2年・1期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ◎ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） 		

《授業の概要》

授業計画に示す内容のスポーツ種目や学校体育種目を実施する。方法として、個人・グループ毎に実施種目のルール確認と正しい実践方法の理解。実施種目は、個人・グループ毎に授業計画に示す全種目を経験する。各自がこの授業を通して体得したものが、次年度以降の授業に有効に活用されることを期待する。さらに、水泳（水中運動）とエアロビクスダンスに関しては定期時間外の集中講義にて実施する。

《授業の到達目標》

に主として運動実践を通して体育指導者としての能力を養うことを目標とする。その為に、スポーツ・体育における様々な種目の正しい実践方法を身につける。学校体育における実施種目の実践を通して段階的な指導方法を学ぶ。また、スポーツ・運動実践時の障害や事故を未然に防ぐ為に、有効な準備運動や整理運動を知る。以上に示したスポーツ・体育指導者として必要と思われる内容を実施する。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間の授業のまとめ、感想、質問等をまとめたノート提出する（50%）。随時課題に対するレポート（30%）。学期末に理解度を確認するテスト（20%）。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考図書》

『運動適応の科学～トレーニングの科学的アプローチ～』竹宮隆・石河利寛著（杏林書院）『体力を考える～その定義・測定と応用～』宮下充正著（杏林書院）『障害スポーツのプログラム』日本レクリエーション協会編（遊戯社）『からだの‘仕組み’のサイエンス～運動生理学の最前線～』

《授業時間外学習》

<予習方法> 下記授業計画における次時の授業内容を参考文献等であらかじめ確認しておくことでより理解が深まる。<復習方法> 学んだ内容を配付資料等により再確認にノートにまとめる。疑問点等があればノートの感想欄に記載すること（後日必ず返答する）。これらの活動を通して効果的な理解が得られると考える。

《備考》

健康システム学科の学生として、スポーツ・学校体育の理論と実践を積極的に体得しよう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の概要を説明する
2	器械運動	平均台運動における特性の理解と実践（1）
3	器械運動	平均台運動における特性の理解と実践（2）
4	球技	テニスにおける特性の理解と実践（1）
5	球技	テニスにおける特性の理解と実践（2）
6	球技	ハンドボールにおける特性の理解と実践（1）
7	球技	ハンドボールにおける特性の理解と実践（2）
8	陸上競技	やり投げにおける種目特性の理解と実践
9	陸上競技	ハードル走における種目特性の理解と実践
10	陸上競技	健康づくりの為にウォーキング・ジョギング短・長距離走における種目特性の理解と実践
11	球技	卓球における特性・ルールの理解と実践
12	球技	ソフトボールにおける特性・ルールの理解と実践
13	ダンス	表現活動における特性の理解と実践（1）
14	ダンス	表現活動における特性の理解と実践（2）
15	まとめ	授業全体のまとめをする

科目名	健康・体力づくり実践Ⅱ	科目ナンバリング	H1CX22020
担当者氏名	三宅 一郎、徳田 泰伸、樽本 つぐみ		
授業方法	演習	単位・必選	3・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） ◎ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） 		

《授業の概要》

日常生活において実践できる多種多様な健康体力づくりの運動を、実践を通してその方法を体得して欲しい。また、各年代や体力レベルに応じた健康体力づくりの指導時における留意点などを考える。また、体力測定の実施しを通して、的確な体力レベルの把握の仕方についても考える。さらに、水泳（水中運動）とエアロビクスダンスに関しては定期時間外の集中講義にて実施する。

《授業の到達目標》

学校体育対象者を含めた様々な年代の個人の体力レベルに応じた、健康体力づくりの実践方法を考える。その実践を通して、多種多様な健康体力づくり実践時の正しい実践方法や有効な準備運動・整理運動について理解し、指導者としての能力を養うことを目標とする。最終的には、実際に個人レベルでの健康体力づくりプログラムを作成し、実践指導を体験する。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間の授業のまとめ、感想、質問等をまとめたノート提出する（50%）。随時課題に対するレポート（30%）。学期末に理解度を確認するテスト（20%）。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の概要を説明する
2	体力測定	年代に応じた、体力測定の実施方法と意義
3	障害予防（1）	障害を防ぐストレッチングと柔軟体操の実践
4	障害予防（2）	障害を防ぐウォーミングアップとクーリングダウンの実践
5	年代に応じた健康体力づくり（1）	幼児期における健康体力づくりの実践と指導法
6	年代に応じた健康体力づくり（2）	児童期における健康体力づくりの実践と指導法
7	年代に応じた健康体力づくり（3）	青少年期における健康体力づくりの実践と指導法
8	年代に応じた健康体力づくり（4）	成人期における健康体力づくりの実践と指導法
9	年代に応じた健康体力づくり（5）	中高年期における健康体力づくりの実践と指導法
10	年代に応じた健康体力づくり（6）	高齢者における健康体力づくりの実践と指導法
11	体力レベルに応じた健康体力づくり（1）	体力の比較的高いレベルの人に対する健康体力づくりの実践と指導法
12	体力レベルに応じた健康体力づくり（2）	体力の比較的低いレベルの人に対する健康体力づくりの実践と指導法
13	スポーツ実践（1）	各年代に応じたスポーツ実践とその指導法（1）
14	スポーツ実践（2）	各年代に応じたスポーツ実践とその指導法（2）
15	まとめ	授業全体のまとめをする

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考図書》

『運動適応の科学～トレーニングの科学的アプローチ～』竹宮隆・石河利寛著（杏林書院）『体力を考える～その定義・測定と応用～』宮下充正著（杏林書院）『障害スポーツのプログラム』日本レクリエーション協会編（遊戯社）『からだの‘仕組み’のサイエンス－運動生理学の最前線－』

《授業時間外学習》

<予習方法> 下記授業計画における次時の授業内容を参考文献等であらかじめ確認しておくことでより理解が深まる。<復習方法> 学んだ内容を配付資料等により再確認にノートにまとめる。疑問点等があればノートの感想欄に記載すること（後日必ず返答する）。これらの活動を通して効果的な理解が得られると考える。

《備考》

健康システム学科の学生として、スポーツ・学校体育の理論と実践を積極的に体得しよう。

科目名	病理学概論		科目ナンバリング	H2XB22001
担当者氏名	北条 香織			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期 2年・1期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ◎ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力）		

《授業の概要》

病理学とは、病気の理由もしくは機序を理解する学問です。この講義では 病気の原因になりうる ①病態（炎症、感染、腫瘍、免疫、血管障害、等）の病因（etiology）を学び、②その病気の場合となる臓器（呼吸器、循環器、神経系、等）の形態・機能を理解して、③それらの臓器が病気により、組織の構造が形態学的にどのように変化していくかをDVD等の映像も交えてみていきます。

《授業の到達目標》

- 1) 体を構成する各器官と機能を理解する。
- 2) それら臓器におこる病気の種類と病態を理解する。
- 3) 以上を理解すると、予防医学的な考えが身につく、健康管理に必要な知識を得られる。
- 4) 主な疾患を網羅しているので、病院で医師から伝えられる、難解な病状説明や治療方針も理解しやすくなるでしょう。

《成績評価の方法》

定期試験：55%（試験はテキスト等の持ち込み不可）
 授業時に渡す小テスト：45%（各3点×15回）

全授業出席で45点となる。60点で合格圏内にはいる。さらに高得点を期待される生徒は定期試験で良い点を取って下さい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	総論) 炎症	急性炎症の疾患、慢性炎症の疾患とそれらをつかさどる細胞や科学因子
2	総論) 感染	いろいろな外来生物からの感染と各臓器の重要な感染症
3	総論) 体を守る免疫と過剰な反応、アレルギー	白血球やリンパ球 それから産生される抗体というものが体を守る
4	各論) 血液の役割と病気	アレルギー反応と疾患、自己に反応して自分を侵す自己免疫疾患
5	総論) 循環障害・血液異常	全身を流れる血管のしくみと、その異常。出血、梗塞、それらの基礎となる動脈硬化
6	各論) 心臓と脈管系	動脈硬化や血栓症などによる各臓器の病気
7	各論) 酸素交換の場の呼吸器系とその病気	心臓・呼吸器の構造と機能とその病気
8	各論) 血液を浄化する腎臓とその病気	腎臓の構造とその病気
9	各論) 内分泌ホルモンとその異常	ホルモンを分泌する臓器と作用する臓器とその異常から起こる病気
10	各論) 肝臓・胆嚢・膵臓の働きと疾患	インシュリンを産生する膵臓の病気、糖尿病、肝・胆の病気からおこる黄疸 など
11	各論) 食物を消化・吸収する消化器	栄養を吸収し、排泄する消化管の構造と機能。下痢や嘔吐から疾患へ
12	総論) 腫瘍（新生物）	癌というもの成り立ちを理解し、病態を知る
13	各論) 脳のしくみと認知症	大脳・小脳・脳幹のしくみ
14	各論) 筋肉とそれを動かす末梢神経と脊髄	筋肉はどのようにして動かされるか？ 感覚はどのようにして知覚されるか？
15	神経疾患のDVD	-

《テキスト》

カラーで学べる病理学 第4版 （ヌーベルヒロカワ）

《参考図書》

臨床病理・病態学、山内 豊明編（メディカ出版）
 カラーで学べる病理学（ヌーベルヒロカワ）
 Dr. レイの病理学講義 高橋レイ（金芳堂）
 マクロ病理アトラス 西山保一著（東京文光堂）

《授業時間外学習》

授業の復習としての小テストから定期試験が実施される。配布したプリントも保存し参考にする事。

《備考》

特に理解できない項目等にリクエストあれば授業内容に取り込む。

《専門教育科目 II 群（養護・保健に関連する科目）》

科目名	学校保健II	科目ナンバリング	H2BC22008
担当者氏名	加藤 和代		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・1期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ◎ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） 		

《授業の概要》

学校保健は子どもの命と健康を守るために必要な教育活動であり、学校教育にかかわる者に必要な使命である。学校保健 I の学修内容をもとに学校保健活動の実際の理論と方法を学び、児童生徒の健康づくりを考えることをねらいとしている。学校安全を含めた保健管理の領域を中心に、必要な知識や技術を修得するとともに児童生徒の心身の健康について演習や実習を通して具体的に学ぶ。

《授業の到達目標》

- 学校保健の領域を構造的にとらえることができる
- 児童生徒の健康・安全に対する教師の役割や責任について説明できる
- 学校保健活動の根拠となっている法律や制度を説明することができる

《成績評価の方法》

レポート等(50%) 定期試験(50%) で総合的に判断する

《テキスト》

「学校保健ハンドブック」教員養成系大学保健協議会編
東山書房

《参考図書》

学校保健の動向（平成26年度版）

《授業時間外学習》

学校教育、学校保健に関するトピックスを提示するので、「読み取る」「調べる」などして自分の意見をまとめ次回に提出する

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	学校保健活動の構造及び展開	学校保健と学習指導要領、保健教育・保健管理・保健組織活動、学校保健計画
2	学校保健活動の構造及び展開	子どもの健康問題の推移、現代的健康課題、ヘルスプロモーション
3	健康実態把握の方法	文部科学省学校保健統計、健康観察、保健調査、健康診断
4	児童生徒の健康診断(1)	学校行事としての健康診断、計画から事後措置
5	児童生徒の健康診断(2)	実習、技術的基準 身体測定、視力検査、聴力検査 教育活動としての健康診断
6	メンタルヘルスケアとその体制	校内組織体制、スクールカウンセラー 心のケア サポートシステム
7	感染症・食中毒の予防と管理	学校で予防すべき感染症、出席停止、臨時休業
8	学校環境衛生活動	学校環境衛生基準
9	学校環境生成活動の実際	日常の点検活動 定期検査 飲料水の検査 プール水の検査 残留塩素 照度検査
10	学校における危機管理、安全管理	学校危機管理 安全点検、危機管理マニュアル、避難訓練
11	学校管理下での事故や災害	学校事故発生状況、不審者侵入 突然死への対応 災害共済給付制度
12	学校給食と食育	学校給食法、食育基本法、栄養教諭
13	学校保健計画、学校安全計画	学校保健・安全計画の目的意義 作成手順・評価
14	学校保健組織活動	学校と地域社会との連携、学校保健委員会
15	まとめ	学修内容確認

《専門教育科目 II 群（養護・保健に関連する科目）》

科目名	学校保健Ⅲ		科目ナンバリング	H2DC22009	
担当者氏名	大平 曜子、加藤 和代				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） ◎ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） ○ 3-3 人とつながり、責任をもって仕事を成し遂げる（リーダーシップ） 				

《授業の概要》

学校では、全職員が協力して児童生徒の健康安全を推進していくことが求められている。特に保健体育教諭、養護教諭はその専門的な立場から協力して積極的に役割を担い活躍することが期待される。ここでは保健教育、安全教育の指導の場面を中心に、児童生徒の健康課題の解決に向けた模擬授業等の体験、演習をとおして実践力を身につけることをねらいとしている。

《授業の到達目標》

- 児童生徒の現代的な健康課題について説明することができる
- 「教科保健（保健学習）」と「保健指導」の相違点を説明することができる
- 保健指導の指導案作成、模擬授業等をとおして役割を担う指導力、実践力を身につけることができる

《成績評価の方法》

課題レポートの内容評価・グループワークの発表内容（50%）
定期試験（50%）により、総合的に評価する。

《テキスト》

『学校保健ハンドブック』（ぎょうせい）小学校学習指導要領解説文部科学省体育偏、特別活動編（東洋館出版）中学校学習指導要領解説保健体育偏、特別活動編（東山書房、ぎょうせい）

《参考図書》

これからの中学校保健学習（財団法人日本学校保健会）
これからの小学校保健学習（財団法人日本学校保健会）
楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動（文部科学省国立教育政策研究所）
「生きる力」を育む小学校保健教育の手引き（文部科学省）
学校保健の動向（平成26年度版）（日本学校保健会）

《授業時間外学習》

ワークシート、資料をこまめに整理して復習するとともに、児童生徒の健康課題に関心をもって情報を収集すること

《備考》

「学校保健Ⅰ」、「学校保健Ⅱ」を履修していることが望ましい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	社会の変化と児童生徒の健康課題、ヘルスプロモーションと保健教育
2	教育課程と保健教育	学習指導要領、保健学習と保健指導 特別活動、学級活動（ホームルーム活動）、学校行事
3	歯、口の健康づくり	歯・口の健康実態、指導計画、指導体制、学校歯科医、実践事例
4	喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育（1）	喫煙・飲酒・薬物乱用実態、指導計画、指導体制
5	喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育（2）	指導実践例
6	学校における性教育、エイズ教育（1）	性の問題行動の実態、指導計画、指導体制
7	学校における性教育。エイズ教育（2）	指導実践例、ビデオ教材
8	ライフスタイルと保健指導（1）	生活習慣の実態、指導計画、指導体制
9	ライフスタイルと保健指導（2）	指導実践例
10	学習指導案の作成	学習指導案作成の意義、形式、学習指導要領との関連、教科学習との関連
11	学習指導案の作成	保健指導学習指導案作成の実際
12	保健指導模擬授業（1）	グループワーク、模擬授業、授業研究、評価
13	保健指導模擬授業（2）	グループワーク、模擬授業、授業研究、評価
14	保健指導模擬授業（3）	グループワーク、模擬授業、授業研究、評価
15	まとめ	学修内容、到達目標確認

《専門教育科目 II 群（養護・保健に関連する科目）》

科目名	健康行動論	科目ナンバリング	H2BC22011
担当者氏名	棟方 百熊		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・1期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ◎ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）		

《授業の概要》

健康行動の理論モデルを分析し、実際の健康教育場面での応用を検討する。

《テキスト》

松本千明『医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎』医歯薬出版

《参考図書》

適宜、参考図書を紹介する。

《授業の到達目標》

- それぞれの健康行動モデルの特徴を説明できる。
- 健康行動モデルの健康教育場面への応用について、思考・判断する。

《授業時間外学習》

授業中に示すテキストの指摘箇所を予習として読んでおくこと。また、宿題を課すことがあるので、指定の方法で提出すること。

《成績評価の方法》

- (1) 授業への参加 (30%) , (2) 小課題への取り組み (30%) , (3) 最終課題 (40%)

《備考》

本授業は担当者の他に先生をお招きし、各分野の専門のご講義をしていただく計画である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	健康行動科学の発展	健康行動科学の健康科学における位置づけ、健康行動科学の歴史的発展
2	価値 - 期待モデルの理解	価値 - 期待モデルとは何か。健康教育における意義。
3	ヘルスビリーフモデルの理解	ヘルスビリーフモデルとは何か
4	ヘルスビリーフモデルの応用	ヘルスビリーフモデルの応用例の検討
5	自己効力感と健康行動	自己効力感とは何か
6	自己効力感と健康教育	自己効力感の健康教育への応用
7	子どもの健康を守る (1)	世界の学校保健 (山内愛先生)
8	ヘルスローカスオブコントロールの理解	ヘルスローカスオブコントロールとは何か、ヘルスローカスオブコントロールの研究の検討
9	変化のステージモデルの理解 (1)	不適切な行動を適切な行動に変容するために必要なこととは? (友國由美子先生)
10	変化のステージモデルの理解 (2)	各ステージの具体的な状態とその対処方法 (友國由美子先生)
11	子どもの健康を守る (2)	日本人学校の保健室 (山内愛先生)
12	健康行動と関連する諸要因の理解	タイプA行動特性、自尊感情、ソーシャルサポート
13	ストレスコーピングの理解	ストレスコーピングとは何か (友國由美子先生)
14	ストレスコーピングの応用	ストレスコーピングで用いられる方法について (友國由美子先生)
15	まとめ	授業全体で得られた知見の再確認

科目名	健康統計学		科目ナンバリング	H2XC22012
担当者氏名	河野 稔			
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期 2年・II期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）			

《授業の概要》

2年I期「健康統計の基礎」の学修成果をもとに、統計学の考え方や手法を身につけることを目指す。具体的には、基本統計量（平均値、分散、標準偏差など）や資料整理の方法、相関と回帰分析、確率分布、区間推定や仮説検定（カイ2乗検定、t検定、F検定など）まで、統計学全般の基礎について学ぶ。また、表計算ソフトを用いた演習にも取り組むことで、実践的な統計解析の手法についても学ぶ。

《授業の到達目標》

- 基本統計量を求めたりグラフを作成したりして、データ全体の特徴を把握できる。
- 統計的手法を用いて、標本から母集団の特徴を推測したり、複数の母集団の特徴を比較したりできる。
- 表計算ソフトなどを用いて、データの整理と分析ができる。
- 統計的に分析した結果を論文やレポートとして適切に表現できる。

《成績評価の方法》

小テスト（20%）、演習課題の提出（30%）、中間試験と定期試験（50%）で評価する。

《テキスト》

石村貞夫(2006)『入門はじめての統計解析』東京書籍。

《参考図書》

- 石村貞夫・劉晨・石村友二郎(2013)『Excelでやさしく学ぶ統計解析2013』東京図書。
- 菅民郎(2013)『Excelで学ぶ統計解析入門 -Excel2013/2010対応版』オーム社。
- 高木廣文(2009)『ナースのための統計学 第2版』医学書院。

《授業時間外学習》

- 予習では、教科書の授業範囲を読んでおくこと。また、グラフ作成や関数の利用など、表計算ソフトの操作や手順を確認しておくこと。
- 復習では、小テストや定期試験に向けて、定義や公式、手法を確認しておくこと。とくに、データの整理や手法を実際に行えるように練習しておくこと。

《備考》

授業での学習だけでなく、身の回りにある「データ」に関心を持ち、学習した成果を興味のある分野に生かそうという意欲を持って、授業に参加してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	統計の必要性、記述統計と推測統計
2	データの尺度、統計資料の整理	尺度、度数分布表、ヒストグラム
3	代表値と散布度(1)	平均値、中央値、最頻値など
4	代表値と散布度(2)	分散、標準偏差、範囲、変異係数など
5	相関と回帰分析(1)	相関係数、順位相関係数
6	相関と回帰分析(2)	回帰直線
7	確率、順列と組み合わせ	加法定理と乗法定理、順列、組み合わせ
8	中間試験	中間試験（ここまでのふり返り）
9	確率変数と確率分布	確率変数、確率分布（二項分布、正規分布、カイ二乗分布、F分布など）
10	区間推定(1)	母集団と標本、母平均の推定
11	区間推定(2)	母比率の推定、母相関係数の推定
12	仮説検定(1)	1つの母集団の統計値の検定（母平均、母比率、母相関係数）
13	仮説検定(2)	2つの母集団の統計値の検定（z検定、t検定など）
14	仮説検定(3)	クロス表の検定（適合度の検定、独立性の検定など）
15	仮説検定(4)／まとめ	その他のノンパラメトリックな検定／全体の学習のふり返り

《専門教育科目 II 群（養護・保健に関連する科目）》

科目名	看護学 I	科目ナンバリング	H2XC22015
担当者氏名	細井 八千代		
授業方法	演習	単位・必選	3・選択
		開講年次・開講期	2年・1期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ◎ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）		

《授業の概要》

基礎看護技術を習得し、よりよい看護ケアにつながる看護知識、技術、態度を学び、養護教諭としての看護実践を考えます。受講者は、健康の保持増進及び回復のために、看護は何ができるのか。病気の経過やその症状の訴えを知り、そのための看護を理解したり、治療や処置に伴う看護など、科学的根拠を持って理解するよう努めます。

《授業の到達目標》

- 看護の基礎技術を理解し、説明できる。
- 基本的な技術を習得し、実践できる。
- 看護活動について理解し、健康障害について解説できる。
- 傷病者の状態のアセスメントの方法を理解し、説明できる。

《成績評価の方法》

最終試験（60%）、課題レポート（40%）。100点満点で60点以上を合格とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方や評価方法について 基礎看護学の復習
2	病気の経過に伴う看護	急性疾患、慢性疾患、リハビリテーション、予後
3	治療・処置に伴う看護	安静療法、食事療法、薬物療法、運動療法、放射線療法、外科的療法
4	訴えや症状に対する理解と看護	必要な情報、訴えや症状に対する看護
5	基礎看護 1. 環境整備	看護技術とは、 ベッドの整備、ベッドの条件
6	2. 安楽な体位 3. 移送	基本的な体位、救急時の体位 車椅子、担架、松葉杖、ストレッチャーによる移送・移動
7	4. 衣服の着脱 5. 身体の清潔	衣服の着脱方法、衣類の環境 清潔の意義、眼、耳、鼻、口腔、手指、足部、頭髮等の清潔、発汗の処置
8	6. 排泄の援助 (中間のまとめ)	安楽な体位、プライバシー保持を考えた排泄の援助・介助
9	7. 食生活の援助 8. 電法	食と生活、食事介助、 電法の目的、電法の種類と効果、冷電法と温電法、電法の実施方法
10	9. 薬についての知識 10. 感染予防	与薬の目的、薬の種類、保健室の薬、吸入 消毒と滅菌、機器の使い方、滅菌物の扱い方
11	11. バイタル測定 12. 包帯法	バイタルサインの測定 創傷処置基本の理解 包帯の目的、包帯の種類、包帯の巻き方、三角巾の使い方、
12	授業のまとめ	これまでの学習と得られた知見を再確認し、具体的な成果を説明することができる。
13	-	-
14	-	-
15	-	-

《テキスト》

養護教諭のための看護学（三訂版） 藤井寿美子、山口昭子、佐藤紀久榮、采女智津江 編（大修館書店）

《参考図書》

- ①『最新看護学』中桐・天野・岡田 編著（東山書房）
- ②『実践基礎看護学』中西監修（建帛社）
- ③『基礎看護技術 I』（医学書院） その他適宜紹介する

《授業時間外学習》

課題レポートのため、関係図書に目を通しておく。復習をしっかりとこない、正確な知識の習得に努める。医療的側面理解のため、人体の構造と機能について繰り返し復習しておく。技術の確認や科学的理解のために、実習室を利用して、積極的に練習をおこなう。

《備考》

教員免許取得希望者の必須科目です。演習を随所に取り入れるため、出席はもちろんのこと、主体的に取り組む姿勢が必要です。2コマ連続開講で11回+45分の授業となります。

《専門教育科目 II 群（養護・保健に関連する科目）》

科目名	看護学Ⅱ	科目ナンバリング	H2XC22016
担当者氏名	新田 幸子、小島 光華、天本 都		
授業方法	演習	単位・必選	3・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ◎ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） 		

《授業の概要》

小児期・思春期・成人期・老年期(在宅)における発達段階の特徴と各期において罹りやすい疾患・病態生理・治療・看護について学習する。
各発達段階に応じた健康の保持・増進に必要な観察方法・予防法・看護技術の演習を行う。

《テキスト》

看護学資料により教授。

《参考図書》

「女性のためのライフサイクルとナーシング」 編者 高橋真理 他、ヌーヴェルヒロカワ

《授業の到達目標》

- 1) 小児期・思春期・成人期・老年期(在宅)における発達段階の特徴を理解することができる。
- 2) 各発達段階にある対象の健康状態を評価するための観察ができる。
- 3) 各発達段階の健康の保持・増進するための保健指導を行うことができる。

《授業時間外学習》

演習には事前準備をして臨む。

《成績評価の方法》

小児期（60%）、思春期(20%)、成人期・老年期（在宅）（20%）筆記試験。

《備考》

演習はユニフォームに更衣して行う

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	子どもの理解と小児期の発達段階の特徴	子どもとは何かを多面的に理解し、小児期における発達段階の特徴を理解する。
2	乳幼児期の健康障害と看護	乳幼児期に起こりやすい健康障害（発熱、脱水、川崎病、けいれん、事故）について理解する。
3	学童期の健康障害と看護	学童期に起こりやすい健康障害（心疾患、腎臓病、食物アレルギー、生活習慣病等について）と看護を理解する。
4	学童期のメンタルケア	メンタルケアの意義、PTSD、児童虐待、いじめ、不登校に必要な看護を理解する
5	小児のフィジカルアセスメント	フィジカルアセスメントとの必要性と共に、主に学童期のフィジカルアセスメントを理解する。
6	演習：フィジカルアセスメント	学習した知識をもとに、フィジカルアセスメントの演習を実践する。（バイタルサインの測定、フィジカルアセスメント：呼吸器・ショックへの対応等）
7	小児期のまとめと小テスト	ビデオ鑑賞とまとめ、小テスト
8	女性のライフサイクル	女性のライフサイクル リプロダクティブヘルス/ライツ
9	思春期の発達段階の特徴 母性看護の意義	思春期の特徴 第2次性徴・女性の性周期・母性看護の実際
10	思春期に罹患しやすい主な疾患と看護	主な疾患・病態生理・治療・看護
11	思春期看護に必要な看護技術 まとめ	産婦人科での看護技術・フィジカルアセスメント・まとめ（小テスト）
12	在宅看護の特徴	在宅で生活する療養者とその家族の理解する。 在宅で365日24時間 安心してくらすための支援について説明することができる。
13	看護の対象である家族	家族をクライアントとして捉え、家族アセスメントについて説明することができる。
14	在宅における訪問マナー	訪問マナーとコミュニケーションの大切さを理解する。 コミュニケーションの中から細かい情報を得たり、観察ができることを体験する。
15	在宅における感染予防	手洗いの基本（手の清潔は看護の命）について、体験授業を通して理解する。（小テスト）

《専門教育科目 II 群（養護・保健に関連する科目）》

科目名	臨床看護実習		科目ナンバリング	H2XC22017
担当者氏名	大平 曜子、加藤 和代、米野 吉則			
授業方法	実習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） ◎ 3-2 効果的な意思疎通ができる（コミュニケーション力） 			

《授業の概要》

看護学の最終段階として、これまで学んできた知識や技術を確認すると共に、臨床での人間関係を通して、養護教諭に必要な看護の専門性を確認します。受講者は、担当患者の看護ケアを通して看護過程の実際に触れることができます。医療的ケア、現代的医療の現状や特別なケアの実際にも触れます。人間を深く理解し、科学的な視点で必要なケアを考えるなど、主体的に実習に取り組むことが求められます。

《授業の到達目標》

- 実習目標や内容を明確にし、その成果の報告ができる。
- 対象者を理解し、心身の状況について、観察した内容を端的に報告することができる。
- 看護学の専門性を理解し、専門(学校看護)への応用について考えを述べるができる。
- 自ら習得しなければならぬ学習内容が分かり、実習計画を立てることができる。

《成績評価の方法》

事前指導から事後指導（実習報告会）まで、いっさいの欠席は原則として認めない。実習ノートの記録(40%)、指導者による実習評価(20%)、事前指導と事後指導の活動状況(40%)、100点満点で採点。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	事前指導1 オリエンテーション	臨床（臨地）実習の意義・目的および内容の概略について
2	事前指導2	実習の内容を確認し、各自の目標を決める。
3	事前指導3	実習中の注意事項、心構え等を確認する。
4	実習 1日目	病院における実習計画に則り、臨地実習。オリエンテーション。 詳細は実習要項参照
5	実習 2日目	病院における実習計画に則り、臨地実習 詳細は実習要項参照
6	実習 3日目	病院における実習計画に則り、臨地実習 詳細は実習要項参照
7	実習 4日目	病院における実習計画に則り、臨地実習 詳細は実習要項参照
8	実習 5日目	病院における実習計画に則り、臨地実習。指導者を交えた、最終カンファレンス。 詳細は実習要項参照
9	実習 6日目	医療・保健・福祉関係施設における、臨地実習 詳細は実習要項参照
10	実習 7日目	医療・保健・福祉関係施設における、臨地実習 詳細は実習要項参照
11	実習 8日目	医療・保健・福祉関係施設における、臨地実習 詳細は実習要項参照
12	実習 9日目	医療・保健・福祉関係施設における、臨地実習 詳細は実習要項参照
13	実習 10日目	医療・保健・福祉関係施設における、臨地実習 詳細は実習要項参照
14	事後指導1	実習内容のまとめ、プレゼンテーションの準備
15	事後指導2	実習報告会において、それぞれの実習で習得した内容や課題について報告する。

《テキスト》

本学作成の『実習記録のノート』配布プリント類

《参考図書》

『最新看護学』中桐・天野・岡田 編著（東山書房）
『養護教諭のための看護学』藤井・山口・佐藤編（大修館書店）
『基礎看護技術Ⅰ』藤崎郁著、医学書院
その他、適宜紹介する

《授業時間外学習》

実習に向けて、文献等での知識の確認と定着に努める。実習室等を積極的に活用し、基礎技術の習得に努める。実習期間中の生活時間帯を想定し、平素より、規則正しい生活習慣を確立する。

《備考》

事前指導から事後指導まですべてを含んで、本実習がある。実習の適否は、学科内委員会が判断する。

《教職に関する科目》

科目名	教育心理学	科目ナンバリング	HTAL42004
担当者氏名	大平 曜子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

教育科学の一分野として、人間形成に関わる独自の理論と方法を提示する実践的な学問である。受講者は、心理学的領域の理解をめざすとともに、人間科学的な視点を養う。

授業では、「発達」と「学習」を中心に、パーソナリティと適応、測定と評価、そして学級集団や教師の心理などの学びを通して、教育実践に役立つ教育心理学の知識の習得と専門領域の教育に応用する方法を学習する。

《授業の到達目標》

- 教育に関する心理学的事実や法則を説明できる。
- 自らの専門領域に教育心理学の基礎知識を役立てることができるか、考えをまとめる。
- 教育効果の検証（評価）ができる。
- 教育心理学の知識を基に、自らの学習態度や教職志望者としての態度形成にむけて考えをまとめることができる。

《成績評価の方法》

授業内課題等の提出物（30%）、定期試験（70%）

《テキスト》

テキストは使用しない。
必要に応じてプリントを配布する。

《参考図書》

『絶対役立つ教育心理学』藤田哲也編著 ミネルヴァ書房
その他、適宜紹介する。

《授業時間外学習》

プリントに基づいて授業内容を整理し、専門用語等の整理をする。
授業の中で提示された課題について、参考文献等に目を通し、期限内に作成して提出する。

《備考》

目的意識を持ち、主体的に授業に臨むこと。プリントやノートに書き込みをし、自分のノートをつくること。「本時の振り返り」の記入提出で、出席を確認する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション教育心理学とは	授業の進め方を理解し、自らの学習方法を確認する。教職における教育心理学の位置づけを理解し、学習の意味を説明することができる。
2	教育心理学の課題	教育心理学の定義を理解する。現代的教育課題や教室における子どもの様子や学習課題を理解し、教育心理学の意義や役割、教育方法とのかかわりについて理解する。
3	発達の基礎理論（1）	発達原理、発達の学説について理解する。
4	発達の基礎理論（2）	発達の様相、成熟と発達
5	発達の基礎理論（3）	発達課題
6	学習の基礎理論（1）	学習の成立、学習の過程、知能と学力
7	学習の基礎理論（2）	学習の理論、学習の概念
8	学習の基礎理論（3）	記憶と学習
9	学習の基礎理論（4）	効果的な学習の理解、動機づけとやる気、意欲と学習活動
10	教育評価（1）	教育評価の概念、意義と役割、評価方法の理解、課題の提示
11	教育評価（2）	測定と評価の実際
12	教授過程	学習指導法、授業の最適化
13	パーソナリティ理論	パーソナリティと性格、パーソナリティの形成、養育態度とパーソナリティ
14	不適応行動	問題行動の現状、欲求と欲求不満、適応と適応障害
15	教育における心理学の働き、まとめ	教育相談、集団の機能と構造、人間関係 これまでの学習と得られた知見を再確認し、具体的な成果を説明することができる。

《教職に関する科目》

科目名	教育課程論	科目ナンバリング	HTAL42006		
担当者氏名	古田 薫				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

教育課程の編成と実施にあたっては、教育課程の構造と基礎的な編成原理、および基準となる学習指導要領の内容と法的性格について理解しておく必要がある。本授業は、これらの理解を深め、教育課程編成における教師の役割の重要性について考察することを目的とする。教育課程の理論的な枠組や主要論点を整理し、教育課程の実際と、新学習指導要領の要点、現代的課題についての理解を深める。

《授業の到達目標》

- 教育課程の構造と基礎的な編成原理について理解している。
- 学習指導要領の内容と法的性格について理解している。
- 学習指導要領の変遷とその背景について理解している。
- 児童生徒の個人差のとらえ方と教育課程編成における個人差の取り扱いについて理解している。
- 学習指導案の書き方を理解し、目的に応じた指導案を作成することができる。

《成績評価の方法》

- ①受講態度（ディスカッションやグループワークへの参加度、発表回数等） 20%
- ②課題の提出と完成度 30%
- ③定期試験 50%（持ち込み不可）

《テキスト》

『中学校学習指導要領』文部科学省、2008年

《参考図書》

田中耕治（編）『よくわかる教育課程』ミネルヴァ書房、2009年。
 広岡義之（編著）『新しい教育課程論』ミネルヴァ書房、2010年。

《授業時間外学習》

参考資料を読んで講義の予習をすること。わからない用語は、事前に調べて授業に臨むこと。

《備考》

授業中の私語や携帯電話の使用を禁止します。ルール違反に対しては厳格に対処します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 教育課程とは	・本講義の進め方について理解し、主体的に学習に取り組む意欲を持つ。 ・教育課程とは何か、教育課程の意義と必要性について理解を深める。
2	学校教育の目的・目標と 教育課程	・教育行政における教育課程の位置づけ ・教育課程の法的性格
3	学力観と学習指導要領の 変遷①	・学習指導要領の変遷とその背景
4	学力観と学習指導要領の 変遷②	・学習指導要領の変遷とその背景
5	教育課程の管理と運営	・学校における教育課程の管理・運営の実際
6	カリキュラムの構造と類 型	・カリキュラムの歴史、さまざまなカリキュラムの類型とその特徴
7	教育課程における個人差 の取り扱い	・個人差とは、個に応じた指導とは ・個人差と教育課程
8	教育課程編成の基礎原理	・教育課程編成の基礎原理について理解する。 ・教育内容をいかにしてデザインするかを理解する。
9	学習指導案の書き方	・指導案の構成と作成手順 ・作成上の留意点
10	小学校教育課程の構成	・小学校教育課程における教授内容や課題を具体的に探究する。 ・総合的な学習の時間について教育内容の構成と実施について考察する。
11	中学校教育課程の編成	・中学校教育課程の特徴や教育内容を知り、現在の課題について考察する。
12	高等学校教育課程の編成	・高等学校教育課程の特徴や教育内容を知り、現在の課題について考察する。
13	教科書制度	・教育課程における教科書の位置づけ ・教科書の無償措置および検定制度
14	諸外国の教育課程	・各国の教育課程に関する制度と実情
15	学習のまとめと振り返り	・学習マップの完成と発表による学習のまとめと振り返り

《教職に関する科目》

科目名	保健・保健体育科教育法Ⅰ（保健教育内容研究）		科目ナンバリング	HTHH42001	
担当者氏名	荒木 勉				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・1期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

保健教育に限らず、授業計画は手順を追って作成される。ここでは、単元・授業計画を作成する全段階のうち、最初の「目標づくり」から「内容づくり」までの作業手順を取り扱う。また、これらの作業手順に沿って、中・高等学校教科書を参考に、実際に目標及び内容についての計画作成を試みる

《テキスト》

高等学校教科書「現代保健体育（2006）」大修館書店

《参考図書》

適宜、資料を配布する。

《授業の到達目標》

健康行動の深化・応用や習慣化の促進は、適切な学習目標とそれを支える学習内容に懸っていることを理解できるようになる。また、作成中あるいは作成後の目標や内容について評価・改善するには、計画作成の手順を辿る必要があることから、各段階における作業と段階の間の関連を理解できるようになる。

《授業時間外学習》

毎授業で理解したことが、実際の作業として活かせるかどうかを確める。これに関する詳細については、毎授業時に指示する。

《成績評価の方法》

毎授業終了時に実施する小課題への取り組みの結果（50%）、及び最終テストの結果（50%）によって評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	現代社会における保健教育の在り方（1）	急激な変化を繰り返す現代社会にあって、適切な生活習慣を構築するには、与えられる環境条件との関連を考慮することの重要性について
2	現代社会における保健教育の在り方（2）	生活習慣と環境条件が相互に影響し合うことを踏まえ、相互の好循環を期待できるように環境を操作すること（健康行動）の重要性について
3	授業計画における目標づくりと内容づくり	単元・授業計画を作成する全段階の概略、及び「目標づくり」とそれに続く「内容づくり」について
4	健康行動の実践を促す、学習目標と学習内容	各種健康行動の深化・応用や習慣化の促進を図る、学習目標と学習内容について（躰教育等の例と対比しながら）
5	単元目標づくり（1）	生活習慣を見直せる（評価・改善）ようになるには、各種生活行動や健康行動及びそれらに影響する環境条件を対象にした、学習目標の重要性について
6	単元目標づくり（2）	各種生活行動の見直しを図る、単元目標の作成手順について（教育観に基づいた生徒の実態把握・生徒観、生徒観に基づいた指導観や教材観を用いて）
7	単元目標と単元計画（1）	履修者自身が教師及び生徒と仮定して、手順に沿って単元目標を作成し、その目標の達成に必要な課題（単元計画・授業目標）設定の手順について
8	単元目標と単元計画（2）	前回作成した単元目標の達成に必要な課題の設定手順に沿った作業の実際について
9	授業目標と学習内容づくり（1）	前回作成した各授業毎の目標をクリアするために必要な学習素材を準備する手順について
10	授業目標と学習内容づくり（2）	学習素材を準備する手順に沿った作業の実際について
11	授業目標と学習内容づくり（3）	学習素材を基に、学習内容を掲呈する手順について
12	授業目標と学習内容づくり（4）	学習内容を掲定する手順に沿った作業の実際について
13	目標づくりと内容づくりの実際（1）	ここまで履修してきた手順に則って、目標づくりと内容づくりを試みる
14	目標づくりと内容づくりの実際（2）	前回は引き続いて、目標づくりと内容づくりを進める
15	目標づくりと内容づくりのふり返り	作成してきた目標と内容についての発表、作成手順に沿って評価・改善を試みる

《教職に関する科目》

科目名	保健科教育法 I (保健科教育教材研究)		科目ナンバリング	HTHH42003	
担当者氏名	荒木 勉				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・II期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

ここでは、まず、I期で学んだ「学習目標づくり」と「学習内容づくり」につながる「方法づくり」を中心にして、『教材研究』の作業過程を学習する。次いで、単元・授業計画の手順に沿って、実際に学習目標、学習内容、方法づくりを試み、これらを「学習指導案」としてまとめる。

《テキスト》

高等学校教科書「現代保健体育」大修館書店

《参考図書》

適宜、資料を配布する。

《授業の到達目標》

「目標づくり」「内容づくり」「方法づくり」の各段階における作業手順に沿った教材研究の具体を理解することによって、単元・授業計画を作成するとともに、その計画を「学習指導案」としてまとめることができるようになる。また、この指導案による授業を試み、反省的実践が不可欠であることを実感できるようになる。

《授業時間外学習》

毎授業で理解したことを、実際に作業として活かせるかどうかを確かめる。これに関する詳細については、毎授業時に指示する。

《成績評価の方法》

毎授業終了時に実施する小課題への取り組みの結果(50%)と、最終テストの結果(50%)によって評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	「方法づくり」(1)	教授活動を想定しながら、指定した学習内容を教える際に用いる、設備・用具・教具等(ものに関わる「場づくり」)について
2	「方法づくり」(2)	教授活動を想定しながら、指定した学習内容を教える際の学習集団編成等(人に関わる「場づくり」)について
3	「教材づくり」(1)	学習内容を効果的に伝えることが可能な教材の持つ条件について
4	「教材づくり」(2)	教授活動や学習集団の状況によって、教材の効果が変化することについて
5	「教材づくり」(3)	教材と教授活動の関連性について
6	「教材づくり」(4)	例として提示した学習内容を、効果的に伝える教材づくりの手順について
7	「教材研究」の実際(1)	「現代社会と健康」を単元と仮定し、教育観からの生徒観や生徒観に基づいた指導観と教材観を基に、単元目標及び単元計画の作成
8	「教材研究」の実際(2)	前回(1)に続いて、指導観、生徒観、教材観を基に、学習内容の掲呈
9	「教材研究」の実際(3)	前回(2)に続いて、指導観、生徒観、教材観を基に、「方法づくり」としての設備・用具等に関わる使用計画の作成及び教材作成
10	「学習指導案」の作成(1)	「学習指導案」の具体例を用いて、作成手順に沿った記述項目と記述内容
11	「学習指導案」の作成(2)	「教材研究」の実際(1)～(3)で試みた、教材研究の結果を用いた、学習指導案の作成(単元目標と単元計画)
12	「学習指導案」の作成(3)	前回に続いて、学習指導案の作成(生徒観、指導観、教材観)
13	「学習指導案」の作成(4)	前回に続いて、学習指導案の作成(本時の計画)
14	「学習指導案」の作成(5)	前回作成した、学習指導案による授業の試み
15	「教材研究」の振り返り	前回の授業の評価・改善を教材研究の手順に沿って試みることによる、反省的実践の重要性について

《教職に関する科目》

科目名	保健体育科教育法 I (保健体育科教育研究)		科目ナンバリング	HTHH42005
担当者氏名	後藤 幸弘			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
	履修カルテ参照			
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力				

《授業の概要》

本授業では、学習指導要領を深く理解するとともに保健体育授業担当者としてふさわしい、基本的な資質や能力を身につけることを目標とする。換言すれば、スポーツは楽しければそれでよいのだという「一種の思考停止・判断停止」に支配されている状態から脱却し、「身体運動文化」の奥深さに触れ、それを教育に生かせるようになることを目標とする。

《テキスト》

後藤幸弘編著「内容学と架橋する保健体育科教育論」晃洋書房
 文部科学省「中学校学習指導要領解説（保健体育編）」
 文部科学省「高等学校学習指導要領解説（保健体育編）」

《参考図書》

宇土正彦（監修）「学校体育授業事典」大修館書店
 日本体育学会（監修）「最新スポーツ科学事典」平凡社

《授業の到達目標》

保健体育科成立の文化基盤である「身体運動文化」への興味・関心、認識・理解を深め、専門知識の習得及び中・高等学校保健体育科の授業担当者として求められる資質や実践的能力を身に付ける。具体的には、教育実習に向けて指導案が書けるようになることを目標とする。

《授業時間外学習》

・ノートをもとめ復習する。また、次時の講義内容に当たるテキストの章を読んでおく。

《成績評価の方法》

・出席も重視します。
 ・授業における討議への積極的参加（20%）、レポート（20%）及び試験（持ち込み不可）（60%）を総合的に評価する。

《備考》

・質問・連絡等があればメールでも受け付けます
 (ygoto@gaia.eonet.ne.jp)

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	保健体育とは（払拭して欲しい5つの誤解）
2	教科の成立基盤と授業の構造	保健体育科の成立基盤と授業の構造(含む、教師論)
3	保健体育授業の目標	保健体育授業の目標と学力について
4	学習指導要領	学習指導要領の変化と新学習指導要領について
5	運動領域	運動領域の編成と教育内容の構成について（欲求・発達・運動特性から）、競争について
6	教育内容1	教育内容の措定の方法（陸上競技の短距離走を例に、速度曲線から）
7	教育内容2	教育内容の措定の方法（リレーを例に）
8	陸上競技の学習指導	技術と歴史を統一した障害走の学習指導（石谷実践の紹介）
9	水泳の学習指導	水泳の科学的基礎の理解（浮く、呼吸、推力の創出）
10	指導技術	運動が上手にできる子を育てる学習過程を支える要件
11	学習指導	各種の学習指導法について
12	指導案の作成	学習指導案作成の留意点（レポート：指導案の作成）
13	作成した指導案の検討	運動が上手にできる子を育てる要件を中心に
14	教師行動	教師の4大教授行動、望ましい心情をそだてる4条件
15	まとめと試験問題の検討	作成した試験問題の検討を通して講義のまとめを行う

《教職に関する科目》

科目名	特別活動論	科目ナンバリング	HTAL42008
担当者氏名	砂子 滋美		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

新学習指導要領の中で特別活動の枠組みと内容を十分に理解する、また実践力を養成するために、基礎的・基本的な知識とそれを活用できる力の習得を目的とする。そのために、①わが国の特別活動の歴史と変遷について、②特別活動の意義と目的について、③新学習指導要領における特別活動の位置づけについて、④他の教育領域との関わりについて等を中心に授業展開をする。

《授業の到達目標》

特別活動とは何か、特別活動はどのように構成されるか、我が国の特別活動の変遷を歴史的に考慮して特別活動が小学校・中学校・高等学校においてどのように営まれているか、などを基本的に理解する。

《成績評価の方法》

到達目標に関わる定期試験(60%)、授業態度(20%)、ミニレポート(20%)により評価する。

《テキスト》

広岡義之編著 『新しい特別活動-理論と実践-』
(ISBN978-4-623-07258-3) ミネルヴァ書房 2015年

《参考図書》

文部科学省 『学習指導要領 小学校 中学校 高等学校』
2012年、『教育人間学的視座から見た「特別活動と人間形成」
の研究』大学教育出版 2009年

《授業時間外学習》

受講前に、教材の指定された部分をよく読んでおくこと。講義後のノートの整理に十分に時間をかけること。理解が十分でなかった部分は、自分で学習する、それでも理解が十分でないところは、次回の授業にて講師に質問する準備をする。

《備考》

積極的な授業参加に加えて、講義内容に関心を寄せ、十分に理解することができる状況をつくる努力を怠らないようにすることが必要である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	本講義のオリエンテーション	新学習指導要領、テキスト、副教材などの紹介と受講姿勢のあり方の指導と特活全体について概略的な説明をする。この授業で到達すべき目標について考える。
2	特別活動体験	特別活動には様々なものがあることを理解し、その目的やねらいについて考える。
3	特別活動と学習指導要領の変遷。特活への期待	戦後特別活動の実施の経緯と発展を学習指導要領の変遷の中で確かめ、特別活動の本質を探る。特別活動の充実が学校生活の満足度に関係することを理解する。
4	特別活動の目標	学習指導要領の特別活動の目標を紹介し、解説・分析し理解する。
5	特別活動と新学習指導要領	特別活動の「意義」を学習指導要領の内容と関わって明確にする。
6	特別活動の内容(学級活動・ホームルーム)	特別活動における学級活動・ホームルームの位置づけ、内容を説明し、その特徴を明確にする。
7	児童会・生徒会活動と学習指導要領	児童会・生徒会活動の内容を解明し、その特徴を特別活動の目標達成に生かすことを理解する。
8	学校行事(儀式的行事)について	儀式的行事の内容と意義を理解し、これらの行事の課題について考える。
9	文化的行事について	文化的行事の内容と特徴を理解し、教科指導と特別活動との関連を明確にする。
10	健康安全・体育的行事について	健康安全・体育的行事の内容を理解し、これらの行事の課題について考える。
11	旅行・集団宿泊的行事について	旅行・集団宿泊的行事の内容を理解し、これらの行事の課題について考える。
12	勤労生産・奉仕的行事について	勤労生産・奉仕的行事の内容と特徴を理解し、これらの行事の課題について考える。
13	特別活動の指導計画の作成と内容の取り扱い	指導計画作成や内容の取り扱いについて理解し、入学式や卒業式などにおける国旗および国歌の取り扱いを明確にする。
14	特別活動学習指導案作成	学級の生徒の様子から、題材を設定し学習指導案を作成し、本時のねらいを達成する授業展開を考える。
15	講義全体のまとめをする	特別活動はいつの時代にも、常に学校生活の基礎として重要な役割を果たしていることや特別活動の充実が学校生活の満足度に深く関わっている等を振り返る。

《教職に関する科目》

科目名	教育方法・技術論	科目ナンバリング	HTAL42009
担当者氏名	河野 稔		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

現代的な教育の方法や技術について扱う。何かを教える方法をどのように計画し、そのための材料をどのように準備し、成功したかどうかをどのように確かめるかを体験的に学習する。授業設計の系統的アプローチに基づいて教材を自作するための方法を解説し、毎回の授業で段階的に教材を作成し、受講生が相互に教材をチェックすることで、「独学を支援する教材」を設計・作成・評価・改善ができることを目指す。

《授業の到達目標》

- 教材作成に関わる専門用語と手法について説明できるようになる。
- 授業設計の系統的アプローチを、自分の専門となる領域での個別学習教材の自作に活用できる。
- 独学を支援する教材の自作体験を通して、他の形態の指導にも系統的アプローチを応用できる。

《成績評価の方法》

- 自作した教材、および、教材企画書・作成報告書（50%）
- 小テストの結果（30%：3回実施予定）
- ワークシート作成等の作業、討論への参加態度（20%）

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業全体の説明／教材をイメージする／キャロルの学校学習モデル
2	教材作りをイメージする	系統的な教材設計・開発の手順／キャランドラのたとえ話
3	教材のアイデアを交換する	独学を支援する教材のアイディア交換／教材企画書の書き方
4	教材の責任範囲を明らかにする	小テスト①（第3、4章）／学習目標と3つのテスト
5	テストを作成する	学習課題の種類／教材企画書の作成
6	教材企画書を作成する	教材企画書の作成／教材企画書の相互チェック
7	教材の構造を見きわめる	小テスト②（第5～7章）／教材企画書の提出／課題分析
8	独学を支援する作戦をたてる	ガニエの9教授事象と指導方略表
9	教材パッケージを作成する(1)	形成的評価の7つ道具
10	教材パッケージを作成する(2)	形成的評価の7つ道具の相互チェック
11	教材パッケージを作成する(3)	7つ道具チェックリストの提出
12	形成的評価を実施する(1)	小テスト③（第8、9章）／形成的評価の方法
13	形成的評価を実施する(2)	形成的評価の実施／教材作成報告書の書き方
14	教材を改善する	教材の改善とその手順／教材作成報告書の作成
15	情報活用能力と独学を支援する教材／まとめ	情報活用能力と独学を支援する教材／教材作成報告書の提出／学習の振り返り

《テキスト》

鈴木克明(2002)『教材設計マニュアル — 独学を支援するために』北大路書房。

《参考図書》

- 稲垣忠・鈴木克明編著(2011)『授業設計マニュアル — 教師のためのインストラクショナルデザイン』北大路書房。
- 向後千春(2014)『教師のための「教える技術」』明治図書。
- 中学校・高等学校の学習指導要領等及び解説書
- その他の文献や資料は、適宜、授業中に紹介する。

《授業時間外学習》

予習として、教科書の次の回の授業範囲を読んで、教材の企画・作成・評価の手順と方法を把握しておくこと。復習としては、授業で学習した成果をもとに、教材および教材企画書・報告書の作成の作業を進めておく。また、小テストでは教材作成に関する専門知識や手法について出題するので、教科書を自学自習しておくこと。

《備考》

パソコンで教材および教材企画書・報告書を作成するので、ワープロなど各種ソフトや情報システムを日ごろから利用し、活用方法を習得しておくこと。

《教職に関する科目》

科目名	生徒指導論（進路指導を含む。）		科目ナンバリング	HTAL42010
担当者氏名	新井野 久男			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
	履修カルテ参照			
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力				

《授業の概要》

生徒指導は学習指導要領に以下のように定められている。一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めるよう指導・援助するものである。生徒指導の意義と課題を確認した上で、学校における指導体制や問題行動の指導、生徒指導に関係する法的制度、家庭、地域、関係機関との連携など生徒指導全般について学ぶ。さらに生徒指導上の諸問題について具体的事例をもとに研究していく。

《授業の到達目標》

小学校から高等学校までの生徒指導の理論や考え方、実際の指導方法等について、学校現場で教職員が共通理解を図り、組織的な取り組みが実践できるための内容について知る。将来教員を目指す者として、生徒指導上、求められる資質や能力は何かを自分のものとする必要がある。

《成績評価の方法》

筆記試験（40%）、レポート（40%）、その他（提出物、出席状況、授業への取り組み姿勢等）（20%）を基本に総合的に評価する。

《テキスト》

「生徒指導提要」平成22年3月（文部科学省）。

《参考図書》

「生徒指導提要」平成22年3月（文部科学省）。毎回、自作の「講義用テキスト」を提供しそれをもとに講義を進めていく。また、生徒指導に関する様々な情報資料をその都度提供する。

《授業時間外学習》

毎時間の最後に「授業のまとめ」として、簡単なレポートを課す。これを提出することで出席の確認とする。「授業のまとめ」は試験やレポートの資料となるのできちんとファイリングしておくこと。

《備考》

受講する要件として、教員免許を必ず取得し、教師を目指す強い意志と意欲が授業の中で感じられる学生であること。受講態度については大学生としての常識を持って臨むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	生徒指導の意義と課題	学校生活がすべての児童生徒にとって有意義で充実したものなることを目指し、学校の教育目標を達成するための生徒指導の意義と課題について学ぶ。
2	教育課程における生徒指導の位置づけ	生徒指導は、教育課程のすべての領域において機能することが求められる。教育課程における生徒指導の位置づけについて詳しく学ぶ。
3	学校における生徒指導体制と組織	個々の児童生徒に対し、組織的な生徒指導を展開していくため、校内の生徒指導体制をどのように構築していくかなどを考察する。
4	生徒指導の方法と進め方	生徒指導を実際に進めていくためには、生徒指導の意義や課題、組織などの考え方を踏まえて学校などの実態に応じて、どのように進めるか学ぶ。
5	生徒指導と進路指導	生徒自らの生き方を考え、将来に対する目的意識を持ち、自らの意志と責任で進路を選択する能力を身につけさせるための指導・援助について学ぶ。
6	道徳教育における生徒指導	児童生徒の道徳性の育成を目的とする道徳教育と、生徒指導との関係について考えていく。
7	生徒指導に関する法規について	校則や懲戒、体罰、出席停止や非行少年の処遇など、生徒指導との関連について、法的にどのような制度になっているかについて学ぶ。
8	生徒指導と家庭・地域・関係機関との連携	生徒指導は、学校だけで実践するのではなく、常に家庭・地域との連携を欠かせない。学校としてどのように学校・家庭・地域と関わっていくか考える。
9	問題行動の指導について	様々な問題行動に対し、一人一人の児童生徒応じた効果的な生徒指導とは何かについて考察する。
10	生徒指導上の諸問題（1）	「いじめ」についての実態や構造などを研究し、いじめ問題の対応などについて考察する。
11	生徒指導上の諸問題（2）	「不登校」の実態を学び、不登校生への対応など、関わりや対策などについて考察する。
12	生徒指導上の諸問題（3）	「規範意識」の醸成のために必要とされる指導などについて考察する。
13	生徒指導上の諸問題（4）	「保護者対応」学校と家庭が連携して児童生徒が健全に育成していくための方策などを考える。また、理不尽な要求など指導困難な保護者等への対応についても考える。
14	事例研究（1）	学校現場で起こった生徒指導上の具体的事例をもとに、実際にどのように指導し対応したかを学ぶ。
15	事例研究（2）	具体事例をもとに、生徒指導上の問題が起こったとき、どう対応するかなどを、小グループで事例研究をする。

平成 25（2013）年度入学者

専門教育科目

カリキュラム年次配当表

健康システム学科 平成25年度（2013年度）入学者対象
 ()は兼担、[]は兼任講師

業 目 区	授 業 科 目 の 名 称	授 業 方 法	単 位 数		健 康 運 動 指 導 士	運 動 実 践 指 導 者	教 員 免 許 関 係			学 年 配 当 (数字は週当たり授業時間)								平 成 27 年 度 の 担 当 者	ペ ー ジ												
			必 修	選 択			養 護	保 健 体 育	保 健	1年		2年		3年		4年															
										I	II	I	II	I	II	I	II														
専 門 に 関 連 す る 科 目	体育原理	講義	2					△			2																				
	運動の基礎	講義	2			◇		△			2																				
	運動生理学	講義	2		▽	◇		△		□		2																			
	運動生理学演習	演習	2									2																			
	運動栄養学	講義	2		▽	◇		△				2																			
	子ども運動学	講義	2		▽			△				2																			
	子ども運動学演習	演習	2					▲				2																			
	スポーツ医学概論	講義	2		▽												2											木下 幸文	153		
	スポーツ心理学	講義	2		▽				▲				2																		
	障害者スポーツ論	講義	2		▽												2											[増田]・樽本	154		
	スポーツ史 (体育史を含む)	講義	2						△			2																			
	スポーツ科学Ⅰ	演習	2														2												矢野 琢也	155	
	スポーツ科学Ⅱ	演習	2														2												矢野 琢也	156	
	トレーニング科学Ⅰ	演習	2		▽	◇						2																			
	トレーニング科学Ⅱ	演習	2		▽								2																		
	体力測定と評価	講義	2		▽	◇			▲			2																			
	スポーツ実践Ⅰ	演習	3		▽	◇			△			4																			
	スポーツ実践Ⅱ	演習	3		▽	◇			△			4																			
	健康・体力づくり実践Ⅰ	演習	3		▽	◇			△				4																		
	健康・体力づくり実践Ⅱ	演習	3		▽	◇			▲				4																		
	スポーツ指導法Ⅰ	演習	2						△								2												三宅・樽本	157	
	スポーツ指導法Ⅱ	演習	2						△								2												三宅・樽本	158	
	健康・体力づくり指導法Ⅰ	演習	2		▽	◇											2												木下 幸文	159	
	健康・体力づくり指導法Ⅱ	演習	2		▽	◇											2												木下 幸文	160	
	運動処方論	講義	2														2												(長尾憲)・(兒玉)	161	
	運動処方演習	演習	2		▽												2												(長尾憲)・(兒玉)	162	
運動負荷試験実習	実習	1		▽												2												[大西 祥男]	163		
レクリエーション (野外活動を含む)	実習	2						△								4												樽本 つぐみ	164		
科 目	Ⅱ群 (養護・保健に 関連する科目)	病理学概論	講義	2								2																			
	薬理学	講義	2					○								2												[中井 裕士]	165		
	養護概説Ⅰ	講義	2					○			2																				
	養護概説Ⅱ	講義	2					●				2																			
	養護活動演習	演習	2					○								2												加藤・米野	166		
	養護活動実習	実習	2					○								2												大平・加藤・米野	167		
	学校保健Ⅰ (小児保健・学校安全を含む)	講義	2					●	△	□		2																			
	学校保健Ⅱ	講義	2					○	△	□			2																		
	学校保健Ⅲ	講義	2					○	△	□				2																	
	精神保健	講義	2					○	△	□						2													[南川 博康]	168	
	健康行動論	講義	2						△	□			2																		
	健康統計学	講義	2						●	■						2													河野 稔	169	
	健康相談活動の理論と実践	講義	2					○								2													大平 曜子	170	
	基礎看護学	演習	2					○				2																			
	看護学Ⅰ	演習	3					○					3																		
看護学Ⅱ	演習	3					○						3																		
臨床看護実習	実習	2					○								4																
救急看護 (救急処置を含む)	演習	2		▽			○	△	□						2													大平・加藤和・米野	171		
卒業研究Ⅰ	演習	3														3															
卒業研究Ⅱ	演習	3															3														

カリキュラム年次配当表

健康システム学科 平成25年度（2013年度）入学者対象

（ ）は兼担、[]は兼任講師

授業科目区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		健康運動指導士	運動実践指導者	教員免許関係			学年配当 (数字は週当たり授業時間)								平成27年度の担当者	ページ	
							養護	保健体育	保健	1年		2年		3年		4年				
										I	II	I	II	I	II	I	II			
教職に関する科目	教職概論	講義	2				○	△	□	2										
	教育原理	講義	2				○	△	□	2										
	教育史	講義	2				●	▲	■					2					(岡本 洋之)	172
	教育心理学	講義	2				○	△	□			2								
	教育制度論	講義	2				○	△	□	2										
	教育課程論	講義	2				○	△	□			2								
	保健・保健体育科教育法Ⅰ (保健教育内容研究)	講義	2					△	□			2								
	保健・保健体育科教育法Ⅱ (保健教育法研究)	講義	2					△	□				2						[棟方 百熊]	173
	保健科教育法Ⅰ (保健科教育教材研究)	講義	2						□				2							
	保健科教育法Ⅱ (保健科教育法演習)	講義	2						□					2					[棟方 百熊]	174
	保健体育科教育法Ⅰ (保健体育科教育研究)	講義	2					△	□			2								
	保健体育科教育法Ⅱ (保健体育科教育法研究)	講義	2					△	□				2						[後藤 幸弘]	175
	道徳教育論	講義	2				○	△	□			2							古田 薫	176
	特別活動論	講義	2				○	△	□			2								
	教育方法・技術論	講義	2				○	△	□			2								
	生徒指導論 (進路指導を含む)	講義	2				○	△	□			2								
	教育相談 (カウンセリングを含む)	講義	2				○	△	□	2										
	中学校教育実習 (事前事後指導を含む)	実習	5						△	□									三宅・大平・木下	177
	高等学校教育実習 (事前事後指導を含む)	実習	3																三宅・大平・木下	178
	養護実習 (事前事後指導を含む)	実習	5				○												大平・加藤・米野	179
教職実践演習 (中・高)	演習	2					△	□												
教職実践演習 (養護教諭)	演習	2				○														

▽は健康運動指導士養成科目

◇は健康運動実践指導者養成科目

○は養護教諭免許必修科目、●は養護教諭免許選択科目

△は保健体育免許必修科目、▲は保健体育免許選択科目

□は保健免許必修科目、■は保健免許選択科目

※ 教職に関する科目を修得しても、卒業要件単位には含まれない。

※ 教育職員免許状を取得するためには、上記科目のほか、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目として、日本国憲法 (2単位)、体育 (2単位)、外国語コミュニケーション (2単位)、情報機器の操作 (2単位) について、指定の科目を修得すること。

《専門教育科目 専門基礎科目》

科目名	医学概論				
担当者氏名	南川 博康				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・1期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）				

《授業の概要》

医学は臨床医学、基礎医学、社会医学に大別され、本講義では社会医学の中の予防医学、公衆衛生学について学んでゆく。疾病予防における保健統計の意義について理解し、その実践的活用を学習する。癌、高血圧、糖尿病などの生活習慣病の予防・健康教育の考え方を習得する。さらに、食中毒の予防、健康教育について学ぶ。

《テキスト》

21世紀の予防医学・公衆衛生 町田 一彦 岩井 秀明（杏林書院）2008

《参考図書》

実践予防医学 高島 豊（診断と治療社）2003

《授業の到達目標》

感染症、生活習慣病、職業病、環境汚染病といった各種の疾患について学習し、各疾患と社会との関係について理解を深める。

《授業時間外学習》

今回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等をノートに整理して理解しておくこと。

《成績評価の方法》

筆記試験 70% 平常評価 30%（レポート、受講態度など）

《備考》

予防医学は健康をマネジメントする意味において、医療、保健、福祉に従事する人に限らずすべての人に必要な知識である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	公衆衛生と予防医学について	1) 人の健康と科学 2) 予防レベルと保健、医療、福祉分野 3) 病気の予防と健康増進のために
2	疾病の蔓延とその克服の歴史	1) 人と病気の克服 2) 20世紀の医療と公衆衛生の発達 3) 日本の予防医学の発展
3	健康科学の研究法	1) 疫学の定義と特殊性 2) 疫学方法論 3) 健康科学と統計手技 4) 新しい疫学研究の流れ
4	人口統計と衛生統計	1) 健康指標 2) 人口静態統計 3) 人口動態統計 4) 生命表 5) 疾病統計と疾病分類
5	環境と健康	1) 生活環境と健康 2) 気象と健康 3) 公害と公害防止対策 4) 地球環境と私たちの生活・健康 5) 環境影響評価
6	私たちの健康を守るために	1) 各臓器の特徴と疾病 2) 健康管理 3) ストレスと精神衛生 4) 医原性疾患・難病
7	感染症と生体防御	1) 病原微生物と感染症 2) 病原微生物の侵入と生体反応 3) 感染拡大の防止
8	感染症と生体防御	1) 有用な微生物と食品衛生 2) 日本における感染症 3) 世界の感染症
9	生活習慣病の予防と健康増進	1) 栄養とは 2) 嗜好品 3) 運動とスポーツの効用 4) メタボリックシンドロームと特定保健指導 5) ヘルスプロモーション
10	ライフサイクルと人生	1) 出産と健やかな成長 2) 新生児・乳児期および幼児期 3) 学童期・思春期 4) 青年期
11	ライフサイクルと人生	5) 中・熟年期 6) 高齢期 7) 介護保険制度化における高齢者介護 8) 少子高齢化社会の高齢者
12	職業と健康	1) 産業保健 2) 主な職業性疾患の成因とその対策
13	職業と健康	1) 現在の産業保健の問題点と健康増進活動 2) 労働法規
14	社会と健康	1) 社会保障の変遷 2) 医療保険と介護保険 3) 21世紀の健康政策 4) 衛生行政と法律
15	総括	医学概論の総括

科目名	生活習慣病(成人病)				
担当者氏名	兒玉 拓				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する(知識・理解) ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する(情報収集力) ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく(知識の統合) ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う(応用力)				

《授業の概要》

過食や運動不足など不健康な生活習慣によりメタボリック症候群が発症する。メタボリック症候群には高血圧・脂質異常症・糖尿病・肥満等の治療が重要である。本講義では、現時点で明らかであるメタボリック症候群の発生機序を学習するとともに適切な栄養管理や運動指導の実際を理解して疾患発生予防に必要な知識を獲得することを目的とする。

《テキスト》

なし。講義時に資料を配布する。

《参考図書》

『健康運動指導士養成講習会テキスト上・下』(財団法人 健康・体力づくり事業団)

《授業の到達目標》

- 近年のメタボリック症候群発症増加について社会的背景について説明できる
- メタボリック症候群の診断基準や発症機序を説明できる
- メタボリック症候群の予防や治療としての栄養管理・運動指導が適切に実践できる

《授業時間外学習》

講義の進行に応じて実施する課題に真剣に取り組み、重要事項の把握と理解に努めること。必要に応じてグループによる課題作成等の学習を加える予定である。

《成績評価の方法》

定期試験60%、平常評価40%(授業における質問への対応、課題への取り組み)なお講義中の受講姿勢に問題がある学生は必要に応じて減点される。

《備考》

課題の提出は期限を厳守すること。私語、携帯電話、飲食、出入り等の迷惑行為は厳禁である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	生活習慣病概論	我が国の高齢化の進行に伴い急速に生活習慣病が増加している。本講義では生活習慣病の歴史的な変遷から生活習慣病の予防等について概説する。
2	肥満症	肥満症の診断基準を学ぶと同時に肥満症発症メカニズムについて理解する。肥満症の予防や治療方法について正しい知識を習得する。
3	高血圧症(1)	血圧の維持に必要な心・血管機能について基本的な知識を習得する。合わせて異常血圧発症メカニズム等について理解する。
4	高血圧症(2)	高血圧の診断基準と高血圧治療としての運動療法・食事療法・薬物療法について理解する。
5	糖尿病(1)	糖尿病の発症機序と分類、診断基準および糖尿病の合併症について理解する。
6	糖尿病(2)	糖尿病の治療方針、食事療法・運動療法・薬物療法について理解する。
7	脂質異常症	血中脂質の成分、リポ蛋白の機能およびその破綻について理解するとともに脂質異常症のコントロールとしての運動療法・食事療法・薬物療法を概説する。
8	メタボリック症候群	血圧、血中脂質、血糖および腹周によるメタボリック症候群の診断基準を理解し、発症予防のための知識を習得する。
9	虚血性心疾患(1)	動脈硬化の発生機序と心臓における虚血病態の進展メカニズムを理解する。
10	虚血性心疾患(2)	種々の動脈硬化性心疾患の症状、および適切な運動リハビリテーションの方法について理解する。
11	脳卒中	種々の動脈硬化性脳疾患(脳出血・脳梗塞・脳血栓等)の症状、および適切なリハビリテーションの方法について理解する。
12	骨粗鬆症	正常の骨代謝についての知識を習得するとともに骨量低下による骨粗鬆症の発症機序について理解する。
13	高尿酸血症・痛風	基礎的な正常な尿酸を理解するとともに高尿酸血症の発症機序と進展、その予防と治療について学習する。
14	関節リウマチ	自己免疫性疾患である関節リウマチを中心に正常免疫反応とその異常について学習する。
15	まとめ	学習した内容を再確認する。

《専門教育科目 専門基礎科目》

科目名	生涯発達心理学				
担当者氏名	森田 義宏				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・1期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） ◎ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）				

《授業の概要》

発達とは何か、生涯発達とは何かについて考える。発達に及ぼす生得性と環境に影響やその重要性について学ぶ。乳児期から老年期までの各発達段階ごとの認知的・社会的特徴や発達課題や段階特有の問題やその対処などについて学ぶ

《テキスト》

使用しない

《参考図書》

授業中随時紹介する

《授業の到達目標》

- * 発達・生涯発達とはなにか、について説明できる
- * 発達心理学で用いられる基礎的な用語や概念について説明できる
- * 発達におよぼす遺伝や環境の要因について説明できる

《授業時間外学習》

授業内容を復習しておく・・・次回授業での内容・用語についての質問に答えられるようにしておく

《成績評価の方法》

試験 100%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 生涯発達心理学とは	オリエンテーション 発達の概念 発達の原理 発達観の変遷
2	遺伝と環境が発達に及ぼす影響	遺伝と環境 野生児の記録 家系研究 双生児研究 親の養育態度
3	乳児期の心理	乳児期の認知 感覚運動的知能 脱馴化 愛着 基本的信頼感/不信
4	幼児期の心理 1	幼児の認知 前概念思考期 直観的思考期 象徴機能 3項関係 心の理論
5	幼児期の心理 2	社会性の発達 遊びの発達 自律性/恥・疑惑 主導性/罪悪感
6	児童期の心理 1	児童期の認知発達 具体操作期 クラスの概念 脱中心化 勤勉性/劣等感
7	児童期の心理 2	ギャング集団 道徳性の発達 向社会的行動の発達 学校ストレス 心身症
8	青年期の心理 1	過渡期 文化相対論 自我の覚醒 自主自律の要求 異議申し立て 精神的離乳
9	青年期の心理 2	第2反抗期 脱衛星化 感情の論理 理想主義 自己主張・自己顕示
10	青年期の心理 3 成人期の心理 1	自我同一性の確立 再衛星化 職業への準備 恋愛と結婚 青年から成人へ 仕事と家庭
11	成人期の心理 2	一家を構える 親意識 仕事における自己拡大 仕事と家庭 親密性/孤立 愛
12	中年期の心理 1	個性化 第2の人生 生活の再構造化 体力・性的能力・人間関係・思考の危機
13	中年期の心理 2	生殖性/停滞 世話 更年期 自殺 夫婦の危機 子どもの成長と独立
14	老年期の心理 1	加齢と老化 統合性/絶望 英知 高齢者のパーソナリティ
15	老年期の心理 2 まとめ	引退の危機 健康の危機 死の危機 サクセスフルエイジング

《専門教育科目 専門基礎科目》

科目名	臨床心理学				
担当者氏名	原 志津				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・1期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） ◎ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） ○ 3-3 人とつながり、責任をもって仕事を成し遂げる（リーダーシップ）				

《授業の概要》

臨床心理学とは人のこころを理解しようとし人にとっての意味を理解しようとする心理学である。こころの世界の開拓者フロイトは大人の患者との精神分析治療の中で、人のこころの発達における幼児期の重要性を発見した。この授業の中で「こころ」の研究の歴史を辿り人と人との関わることで育まれる「関係性」について知り、自分自身と他者のこころを理解できるよう学んでほしい。

《授業の到達目標》

- ・人の不安の源泉はどこにあるのかを知る
- ・対人関係上の問題を呈する人々を理解する上で、乳幼児と母親との関係性と関連させて、より適切な関わりが実践できるよう学ぶ。

《成績評価の方法》

受講態度30%
レポート20%
筆記テスト50%

《テキスト》

「老いる」とはどのようなことか 河合隼雄 講談社+α文庫
(本体640円)

《参考図書》

授業内で適宜紹介する。

《授業時間外学習》

テキストを読んで、最終授業日までに、レポートを提出する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	臨床心理学の基本的な考え方を知る
2	フロイトの発見	無意識をめぐって、フロイトの発見から考える
3	フロイトの精神分析①	自由連想法について知る
4	フロイトの精神分析②	フロイトの理論を用いて学ぶ
5	ユングの分析心理学①	ユング自身の人生と分析心理学について知る
6	ユングの分析心理学①	ユングのタイプ論を知る
7	乳幼児期のこころの発達①	赤ちゃんの不安の源泉 メラニー・クラインの精神分析理論を知る
8	乳幼児期のこころの発達②	マーガレット・マラーの分離・個体化過程とウィニコットのホールディングについて学ぶ
9	遊戯療法	子どもの心理療法としての遊戯療法を知る
10	箱庭療法①	ユング心理学と箱庭療法の関連について知る
11	箱庭療法②	箱庭療法の実際を学ぶ
12	行動療法	行動療法の理論を学ぶ
13	認知行動療法	考え方や思考のくせに気づき改善していくための認知行動療法を知る
14	フォーカシング	セルフ・カウンセリングとしてのフォーカシングを知る
15	臨床心理学の理解について	全体のふりかえりと確認を行う

《専門教育科目 専門基礎科目》

科目名	人間関係論				
担当者氏名	森田 義宏				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） ○ 3-2 効果的な意思疎通ができる（コミュニケーション力） ◎ 3-3 人とつながり、責任をもって仕事を成し遂げる（リーダーシップ）				

《授業の概要》

現代社会の中で人間関係はストレスの主要な原因となっている。しかし、困ったときに支えてくれるのは良好な人間関係である。人間関係の基本であるコミュニケーション、リーダーシップ、対人認知、交流分析などの理論とスキルを実践的な観点から学ぶ。

《テキスト》

使用しない

《参考図書》

授業中随時紹介する

《授業の到達目標》

- * 人間関係に関する専門用語について説明できる。
- * 自分を取り巻く人間関係について把握できる。
- * 自分の対人関係の在り方を理解できる。
- * 人間関係に起因する問題に向きあい、対処できようスキルを身につける。

《授業時間外学習》

身の回りで生じた人間関係のトラブルや問題を記録しておく

《成績評価の方法》

試験100%、

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 現代社会の人間関係	ゲマインシャフトとゲゼルシャフト ヤマアラシのジレンマ 個室化・個人化 私事化
2	職業的人間関係	ヒト相手の職業の人間関係 感情労働
3	人間関係論の始まり	科学的管理 ホーソン研究 照明実験 能率の論理・心情の論理
4	集団とリーダーシップ1	集団の分類 集団の機能 集団決定 リーダーシップ特理論の変遷
5	集団とリーダーシップ2	リーダーシップ行動論（オハイオ研究、PM理論）とリーダーシップ適合理論 リーダーシップスタイルの測定
6	対人関係と自己理解1	ジョーハリーの窓 自己概念 自我 自己概念の形成 公的自己意識 私的自己意識
7	対人関係と自己理解2	客観的自己理解 パーソナリティとは パーソナリティの理解と測定（類型論的理解と特性論的理解）
8	対人関係と自己理解3	対人認知 印象形成 対人魅力 ソシオメトリー 愛他的行動
9	対人関係の類型	共感性 恋愛類型 対人類型 愛着の内的作業モデル
10	対人関係とコミュニケーション	コミュニケーションプロセス 文脈 ノイズ ことばの意味論 外延 内包
11	カウンセリング1	アドバイス・ガイダンス・カウンセリング・セラピー ロジャースの人間観 自己概念と現実 クライアント中心カウンセリング
12	カウンセリング2	カウンセリングの過程 ラポート 受容 積極的傾聴 共感的理解 沈黙 感情の反射 問題への気づき 洞察
13	対人関係の分析1	交流分析 自我機能 自我防衛機制 構造分析 3つの心 エゴグラム
14	対人関係の分析2	交流分析 交流パターン 平行的（相補）交流 交叉的交流 仮面的交流 ゲーム分析
15	対人関係の分析2	交流分析 ストローク ストローク論 脚本分析

科目名	外書講読 I				
担当者氏名	平本 幸治				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・1期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）				

《授業の概要》

最新の健康科学に関する英語論説文を講読し解説します。英語論説文から情報を収集し、知識として活用する練習をおこないます。テキストを着実に読み進み、内容、語義、文法事項、慣用句、発音などを確認します。小テストにより基本的な知識が定着するように努めます。

《テキスト》

『Global Health & Environment』安浪誠祐他（松柏社）

《参考図書》

適宜参考となる文献や資料を紹介します。

《授業の到達目標》

将来の研究や職場で遭遇する英語による健康科学に関する情報を理解でき、健康や科学に関するコミュニケーションに必要な実用的な英語を身につけ、特に健康科学の英語の用語に習熟することを目標とします。

《授業時間外学習》

テキストの次回の学習範囲の単語や慣用句などの意味を調べ、精読しておいて下さい。

《成績評価の方法》

期末レポート（50%）、授業中に実施する小テスト（50%）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Is Salt That Bad for You?	塩分と健康の関係に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
2	The Goal is Development	開発途上国の現状に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
3	Sleep: a Genetic Link?	睡眠時間と遺伝子に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
4	Saving the World's Most Holy River	聖ヨルダン川を汚染から救うことに関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
5	The Healthiest Countries?	死亡率の低い国はどこかに関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
6	Agricultural Emissions	農業における温室効果ガスの排出に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
7	Loneliness and Social Networks	孤独感と社会ネットワークに関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
8	Crop Insurance for Small Farmers	小規模農家向け作物保険に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
9	Understanding Language and Brain	言語処理の最新研究結果に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
10	Too Many People, Not Enough Water	水不足を解消する新技術に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
11	How to Live Healthier	喫煙と肥満の関係に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
12	Gelotophobia Is No Laughing Matter	ゲロトフォビアに関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
13	Genetic Engineering and Environment	遺伝子組み換え作物と環境に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
14	Protecting Children Against Pneumonia	肺炎から子供を守る方法に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
15	まとめ	これまでの学習内容と得られた知識を再確認し、その具体的な成果を説明することができるように総括します。

科目名	外書講読Ⅱ				
担当者氏名	平本 幸治				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）				

《授業の概要》

「外書講読Ⅰ」よりも、より高度な最新の多様な国々の健康科学に関する英語論説文を講読し解説します。英語論説文から情報を収集し、知識として活用する練習をおこないます。テキストを着実に読み進み、内容、語義、文法事項、慣用句、発音などを確認します。小テストにより基本的な知識が定着するように努めます。

《テキスト》

『The Picture of Health』小笠原真司他（南雲堂）

《参考図書》

適宜参考となる文献や資料を紹介します。

《授業の到達目標》

将来の研究や職場で遭遇する英語による健康科学に関する情報を理解でき、健康や科学に関するコミュニケーションに必要な実用的な英語を身につけ、特に健康科学の英語の用語に習熟することを目標とします。

《授業時間外学習》

テキストの次回の学習範囲の単語や慣用句などの意味を調べ、精読しておいて下さい。

《成績評価の方法》

期末レポート（50%）、授業中に実施する小テスト（50%）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Huge Ocean Tuna Farm	世界的な寿司人気でマグロ激減、ハワイ沖で進む養殖計画（アメリカ）に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
2	Low-Fat Diet	人気のオボッサム、治療のためにダイエット（ドイツ）に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
3	Dutch Ban on Eel Fishing	激減したウナギの保護へ魚規制始まる（オランダ）に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
4	Fat' Nightclub	肥満者のための開かれたナイトクラブ誕生（アメリカ）に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
5	World's Next Healthy Superfood	アンデス山脈の穀物「キヌア」、健康食として人気上昇中（ボリビア）に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
6	Commuting through Berlin by Bike	温暖化対策とエクササイズを兼ねて自転車通勤がブーム（ドイツ）に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
7	Bottled Water	ボトル詰め飲料水の販売を禁止した町（オーストラリア）に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
8	Swine Flue Shots	サンタに新型インフルエンザワクチンを（アメリカ）に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
9	Asian Obesity	アジアで肥満増加、健康食品の取扱狙う食品業界（台湾）に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
10	Threat of Swine Flue	新型インフルエンザの影響でメッカ巡礼者が激減（サウジアラビア）に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
11	Key to Battling Diabetes	がんも糖尿病も発病しない人々、治療法の鍵にぎる可能性も（エクアドル）に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
12	Deng Fever	デング熱の撲滅目指し、「遺伝子組み換え蚊」の野外放出実験、事前通告なしで非難も（マレーシア）に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
13	Save Tasmanian Devils	「謎のがん」で絶滅危機のタスマニアデビル、ゲノム解析で治療に光明（オーストラリア）に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
14	Chess Boxing	知力と体力をラウンドごとに競う究極のスポーツ、チェスボクシング（ドイツ）に関する英語の論説文を発表形式で講読し解説を加えます。
15	まとめ	これまでの学習内容と得られた知識を再確認し、その具体的な成果を説明することができるように総括します。

科目名	教育特論 I				
担当者氏名	河野 稔				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・1期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ◎ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） ○ 3-2 効果的な意思疎通ができる（コミュニケーション力） 				

《授業の概要》

キャリア（生涯にわたっての仕事や社会とのかかわり方）への明確な課題意識を持ち、進路の実現に向けて主体的に能力を開発することが、社会的・職業的に自立する上で重要である。そこで、教員採用試験の一般教養相当の知識や問題解答力の習得を通じて、自己のキャリア実現への目標と課題を明確にし、その課題に取り組む力を養うことを目指す。授業はオムニバス形式（専任教員が入れ替わりで担当）である。

《授業の到達目標》

- 自分の進路に対する具体的な目標を持ち、その実現に向けての課題を具体的に説明できる。
- 自分の進路を実現するための計画を練り、それを行動に移すことができる。
- 自分の進路に必要となる基礎的な知識を主体的かつ継続的に学習する態度が身についている。

《成績評価の方法》

ワークシートやレポート等の提出物（40%）、グループワークでの発表内容（40%）、グループワークでの相互評価の結果（20%）で評価する。

《テキスト》

オムニバス形式の授業であるため、適宜授業の中でプリントを配布する。

《参考図書》

オムニバス形式の授業であるため、参考となる文献や資料は、適宜授業の中で紹介する。

《授業時間外学習》

あらかじめ、自分の進路に必要となる学習内容をチェックして、自主的に学習を進めておくこと。
授業後には、配布された資料等をもとに学習内容をよく理解しておくこと。とくに、問題解答能力を養うには、受講生同士の協力から得るものが多い。学習成果や疑問点を授業に持ち寄って情報交換できるように整理をしておくこと。

《備考》

オムニバス形式の授業であるため、授業計画は目安です。担当教員の都合により進捗が異なることがあります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方、スケジュールの説明などを説明する。
2	キャリアとは	キャリアとは何か、社会人基礎力とは何かについて考える。
3	キャリアデザイン(1)	自分自身のこれまでの学習成果や社会経験をふり返り、将来のキャリアについて考える。
4	キャリアデザイン(2)	自分たち自身を客観視するために、健康システム学科の学生のキャリアを設計する。
5	採用試験の概要	教員・公務員・民間企業等、進路ごとの採用試験に向けた取り組みについて考える。
6	一般教養の傾向と対策(1)	教員採用試験の一般教養の問題に取り組み、自分の実力を確認する。
7	一般教養の傾向と対策(2)	一般教養の人文科学分野の練習問題・過去問に取り組む。
8	一般教養の傾向と対策(3)	一般教養の社会科学分野の練習問題・過去問に取り組む。
9	一般教養の傾向と対策(4)	一般教養の自然科学分野の練習問題・過去問に取り組む。
10	一般教養のまとめ	ここまでに取り組んだ一般教養の問題にあらためて取り組む。
11	一般知能の傾向と対策(1)	公務員採用試験の一般知能の問題に取り組み、自分の実力を確認する。
12	一般知能の傾向と対策(2)	一般知能の数的推理・判断推理の練習問題・過去問に取り組む。
13	一般知能の傾向と対策(3)	一般知能の空間把握・資料解釈の練習問題・過去問に取り組む。
14	一般知能のまとめ	ここまでに取り組んだ一般知能の問題にあらためて取り組む。
15	将来の進路の実現に向けて/まとめ	授業全体についてふり返り、将来のキャリア実現に向けた課題を考える。

科目名	教育特論Ⅱ				
担当者氏名	平本 幸治				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） ◎ 3-2 効果的な意思疎通ができる（コミュニケーション力） 				

《授業の概要》

自己の表現能力開発の一環として、文章表現をはじめ、グループ・ディスカッションやディベートなどを通じて個人的課題を明確にするとともに、チームの一員として活動する上で必要な事項を学びます。授業は学科専任教員が交代で担当するオムニバス形式で進め、専門分野の特性も加味しつつ指導し・助言します。受講者が相互に協力し合い、学びとる態度が必要になります。

《授業の到達目標》

自己の進路に必要な知識・能力を主体的かつ継続的に獲得する姿勢・態度が身についている。グループ・ディスカッションの進行などに精通し、自己の役割を果たすことができる。自己並びにチームの課題を把握・分析し、解決に向けて計画的に取り組み、評価することができる。

《成績評価の方法》

授業での活動状況（20%）、レポートと課題などの提出物（80%）で評価します。

《テキスト》

適宜プリントを配布します。

《参考図書》

適宜参考となる文献や資料を紹介します。

《授業時間外学習》

自己の進路に必要な事項について計画的に学習を進めてください。進路に関連する情報の収集を積極的に行い、相互に有益な情報交換が可能になるように整理しておいてください。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方、学習の方法、到達目標などを説明します。
2	学科の専門性	健康システム学科の学習領域を説明します。
3	キャリア形成のタイムスケジュール	各自の就職活動に向けて幅広い立場・観点から、具体例をあげながら説明します。
4	論理的思考と文章表現①	文章理解の練習をし、読解力・理解力を高める指導を行います。
5	論理的思考と文章表現②	文章表現、特に、就職活動における自己アピールの練習を行います。
6	面接①	個人面接の受け方の基本を説明し、実際に練習します。
7	面接②	実際に受講者個々人が教室の前で自己紹介、自己アピールをし、実例を示しながら面接の指導を行います。
8	面接③	グループ面接の方法を説明し、実際に面接の練習を試み具体的に指導します。
9	面接の総括	個人やグループでの面接に関する基本を再確認し、さらに進展させます。
10	グループワーク①	グループワークの技能の習得を目指し、練習を行います。
11	グループワーク②	グループワークの技能の習得を目指し、練習を行います。
12	ディベート①	ディベートの基本を説明します。例として三つ論題を掲げ、賛成・反対を理由を述べながら明確に発表する練習を行います。
13	ディベート②	グループに分かれて実際にディベートの練習をし、解説します。
14	グループワークのまとめ	グループワーク、グループディスカッション、ディベートに関して再確認し、技能をさらに進展させます。
15	学習のまとめ	これまでの学習内容と得られた知識を再確認し、その具体的な成果を説明することができるように総括します。

科目名	地域活動演習 I				
担当者氏名	徳田 泰伸、河野 稔				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） ○ 3-2 効果的な意思疎通ができる（コミュニケーション力）				

《授業の概要》

地域社会における運動指導現場やボランティア現場等に参加し、実際の活動を通して、社会人としての行動を身につけ、指導者・教育者としての心構え、指導法、および、現場における課題等を体験的に学習する。実習先は、公共・民間のフィットネス施設、各種スポーツクラブおよびチーム、学校や教育施設、地方公共団体や非営利目的の諸団体等、その他、担当者が認めた施設・各種団体である。

《授業の到達目標》

- 地域の活動現場において、現場にいる人々と協力して行動できる。
- 大学での学修成果を、現場での指導や教育などの活動に生かせる。
- 現場での諸問題を理解し、その解決に向けて主体的に取り組める。

《成績評価の方法》

実習の記録（40%）、実習後の報告（40%）、平常点（20%）とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	15週の内容について話し合う。特に実習先の検討。学生の実習先の希望等について打ち、わせる
2	実習のシミュレーション(1)	実習先でのシミュレーションを行い、実習場面で発生する問題等について議論する：スポーツ組織の運営等
3	実習のシミュレーション(2)	各施設先（実習先）を想定し、2週目で発生した諸問題について検討し、指導力を養うための講義とするスポーツ組織の運営等
4	学外実習	実習先での授業（第1回目 挨拶、打ち合わせ、仕事の内容等について現場指導者との協議に入る）：スポーツ事業の計画、運営、実施等
5	学外実習	実習先での授業（第2回目 仕事の内容について具体的な指示を受ける）：スポーツ事業の計画、運営、実施等
6	学外実習	実習先での授業（第3回目 仕事の実践を通して客と対応していく）対応した内容について反省と明日への対応を検討する。広域スポーツセンターについて考える
7	学外実習	実習先での授業（第4回目 第3回目と同じく仕事の内容に対して反省と自分らしさの指導力を発揮していく）あわせて広域スポーツセンターの機能と役割についても学ぶ
8	学外実習	実習先での授業（第5回目 第4回目の内容をふまえ、自分の指導力への客の反応を反省し、明日への計画に生かしていく）地域におけるスポーツ振興について考える
9	学外実習	実習先での授業（第6回目 第5回目と同じく指導力を発揮し、その内容をふまえ、何が足りないか常に、との繋がりを重視する）地域におけるスポーツ振興について考える
10	学外実習	実習先での授業（第7回目 第6回目の内容をふまえ、実習後半の指導力を反省し、理論と実践を身につけていく）
11	学外実習	実習先での授業（第8回目 第7回目をふまえ、理論と実践が片寄りのない指導になっているかを検討する）
12	学外実習	実習先での授業（第9回目 第8回目をふまえ、各自の指導力が客に対して、評価がどのようなものかを確認する）
13	実習の反省	本学での授業の中で実習先での諸問題等について報告し反省会を開く
14	実習記録の作成	実習先での実習録を作成し、全員でまとめる（各施設ごと）
15	実習報告	各自の報告を発表形式で行う

《テキスト》

授業中に資料を配布する。

《参考図書》

ヘルス&フィットネス実務マニュアル「フィットネスクラブ内
○秘実務業務の手引書」（現場マニュアル）

《授業時間外学習》

予習としては、配布資料をよく読み、実習に備えておくこと。
復習としては、実習中の記録を適宜まとめておくこと。

《備考》

原則として、実習先の施設・各種団体へは自らの意思で参加すること。また、実習までに、これまでに学習した専門教育科目の内容を十分に復習しておくこと。

科目名	スポーツ医学概論				
担当者氏名	木下 幸文				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） ◎ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力）				

《授業の概要》

これまでに習慣的な運動が生活習慣病の病態改善や心臓血管系疾患の発症リスクを軽減することが明らかにされている。運動指導に携わる者は対象者に運動を负荷したとき、どのようなメカニズムによってその効果が得られるのかという本質を理解しておかなければならない。本講義では原著論文の講読を通じて、生活習慣病に関連する医学的基礎知識から治療につながるような運動の効果について講述する。

《授業の到達目標》

生活習慣を改善することにより、疾病の発症や進行が予防できる疾患と定義されている生活習慣病は、「一次予防」すなわち健康を維持・促進して疾患の発症を予防することを目標としている。運動は疾患の発症を予防するだけでなく、生活習慣病に対する運動療法としても注目を集めている。本講義を通じて、主に生活習慣病に対する治療や予防に効果的な運動を類別できるようにする。

《成績評価の方法》

講義時間中に行う発表と討論、課題テストで評価を行う。具体的には、必要な資料作成（40%）、口頭発表（10%）、質疑（10%）、課題テスト（40%）を合わせて総合的に評価する。

《テキスト》

テキストは特に指定せず、講義ごとに配付する関連した資料を使用します。

《参考図書》

「健康管理とスポーツ医学—公認アスレティックトレーナー専門科目テキストワークブック」赤間高雄編（文光堂）2011年
 「スポーツ運動科学—バイオメカニクスと生理学」W.E.ギャレット、D.T.カーケンダル編（西村書店）2010年「運動療法と運動処方—身体活動・運動支援を効果的に進めるための知識と技術」佐藤祐造編（文光堂）2008年

《授業時間外学習》

講義中に行う発表に関する資料について、専門用語や内容について学習しておくこと。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	健康づくりにおける運動のあり方	疾病の治療、特に生活習慣病に対する運動の効果や在り方について理解する
2	健康づくりのための運動所要量と運動指針	健康づくりのための運動指針について（その目的や意義について）説明することが出来る
3	生活習慣病の運動療法(1)	糖尿病に対する運動の意義(1) 運動とインスリン感受性の関係について理解する
4	生活習慣病の運動療法(2)	糖尿病に対する運動の意義(2) 運動と糖輸送蛋白の関係について理解する
5	生活習慣病の運動療法(3)	高血圧症に対する運動の意義(1) 運動による降圧の機序について理解する
6	生活習慣病の運動療法(4)	高血圧症に対する運動の意義(2) 運動処方として適している身体活動の種類について理解する
7	生活習慣病の運動療法(5)	高脂血症に対する運動の意義(1) 運動と脂質代謝について理解する
8	生活習慣病の運動療法(6)	高脂血症に対する運動の意義(2) 運動と脂質代謝の調節機構について理解する
9	生活習慣病の運動療法(7)	動脈硬化症に対する運動の意義(1) 運動と脂質代謝（リポタンパク質）について理解する
10	生活習慣病の運動療法(8)	動脈硬化症に対する運動の意義(2) 運動と脂質代謝の調節機構について理解する
11	生活習慣病の運動療法(9)	虚血性心疾患、肥満に対する運動の効果について理解する
12	女性とスポーツ	競技スポーツや身体活動が生体に及ぼす影響について理解する
13	運動と免疫機能	運動と炎症反応、その防御機構について理解する
14	運動と活性酸素	運動による活性酸素の消去システム機構について理解する
15	総括（課題テスト）	これまでの学習内容と得られた知見を再確認し、その具体的な成果を説明することが出来る

《専門教育科目 I群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	障害者スポーツ論				
担当者氏名	増田 和茂、樽本 つぐみ				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ◎ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） 				

《授業の概要》

スポーツは健常者だけが楽しみ豊かな生活と健康維持増進のために行うものではなく、障害がある者も同等に必要であり、権利として認められるものである。障害者が安心・安全にスポーツに取り組み、また、健康維持と社会参加への推進のために、障害を理解し、理論と実技の知識と実践指導力を身につける。

《テキスト》

障害者スポーツ指導教本（初級・中級）（株）ぎょうせい
全国障害者スポーツ大会競技規則集
（公財）日本障害者スポーツ協会

《参考図書》

アダプテッド・スポーツの科学ー障害者・高齢医者のスポーツ実践のための理論ー 市村出版

《授業の到達目標》

スポーツの指導は年齢、性別、体力、技能と障害の有無など個々の対象に適応した運動の方法や運動量を指導することである。個人に応じた競技スポーツから健康維持増進のためのスポーツに対し、アダプテッドスポーツ（適応させる）の考え方で、幼児から高齢者、そして障害者への創意工夫の理論と実技指導ができる指導者を養成する。

《授業時間外学習》

別日程で障害者スポーツセンターで車いすバスケットボールや視覚障害者の卓球などを体験学習（実技）する。

《成績評価の方法》

1. 障害者スポーツに関するテーマをレポート提示し、その視点、内容を評価（30%）
2. 基本的知識を1回のテスト（持込不可）で評価（70%）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	障害者福祉施策と障害者スポーツ	障害者の福祉施策と障害者のスポーツの基本的な知識を学び、現状と課題に触れる。
2	ボランティア論	障害者のスポーツ推進には、ボランティアの支援は欠かせない人財であり、その具体的な事例を学ぶ。
3	障害者スポーツの意義と理念	障害者がスポーツを行うことの意味と心身及び社会的な効果、具体的な事例から実際に対応できる知識を学ぶ。
4	日本障害者スポーツ協会資格認定制度	障害者スポーツの制度とその役割を知り、資格取得後の活動行動へ連動させる知識と情報を得る。
5	障害の理解とスポーツ（身体障害）	身体障害（肢体不自由、視覚障害、聴覚言語障害、内部障害）の基本的な知識を学び、指導、支援するために役立てる。
6	Ⅱ-5-③障害者に応じたスポーツの工夫（身体障害）	身体障害（肢体不自由、視覚障害、聴覚言語障害、内部障害）のスポーツの基本的な知識を学び、指導、支援するために役立てる実技学習。
7	障害の理解の理解とスポーツ（知的障害）	知的障害の基本的な知識を学び、指導、支援するために役立てる。
8	障害者に応じたスポーツの工夫（知的障害）	知的障害のスポーツの基本的な知識を学び、指導、支援するために役立てる実技学習。
9	障害の理解の理解とスポーツ（精神障害）	精神障害の基本的な知識を学び、指導、支援するために役立てる。
10	障害者に応じたスポーツの工夫（精神障害）	精神障害のスポーツの基本的な知識を学び、指導、支援するために役立てる実技学習。
11	全国障害者スポーツ大会の概要	全国障害者スポーツ大会の概要、競技と種目、各競技規則を学び、予選ブロック大会やその選考大会となる各種大会を学ぶことで指導現場での情報を知る。
12	指導上の留意点と事例	障害、残存機能、性別、年齢、個人のスポーツ経験や目的に対応した指導上の留意点を学び事例報告から実践的な知識を身につける。
13	障害者との交流	障害のある方から具体的な生活、地域とのかかわりやスポーツに取り組むための現状と課題を聴き、社会や個人ができることを考究する。
14	安全管理と事例	スポーツの実施には、障害の有無に関わらず安全で効果的な運動が原則である。その中で障害者スポーツの事故事例などを学び、安全管理能力を習得する。
15	障害に応じた新たなスポーツの企画	障害者スポーツの指導や事業を計画するテーマから、プラン、実施、評価を踏まえてのシミュレーションをチームで企画する。

《専門教育科目 I 群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	スポーツ科学 I				
担当者氏名	矢野 琢也				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・1期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に敏感に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） 				

《授業の概要》

トレーニング指導において、運動生理学、解剖学、トレーニング理論等の科学的な基礎知識無しでは効果的な結果は得られません。よって、これらの知識をもとに競技力向上を目的としたトレーニング方法について学びます。1～3年生までに学んだ基礎知識をもとにその応用です。数回のレポート課題による理解力、プレゼンテーション能力の習得も行います。

《授業の到達目標》

トレーニング指導者として必要な基礎知識の獲得を目標とします。また、「聞く、理解する、ポイントを見つける、まとめる、書く」といった作業を徹底して行い、指導者として必要な資質の習得も目標とします。

《成績評価の方法》

数回のレポート(50%)とテスト(50%)の結果のみで評価します。レポート等の提出物は期限厳守です。原則遅れは受理しません。

《テキスト》

特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

《参考図書》

「ストレングストレーニング&コンディショニング」ブックハウスHD、「競技力向上のトレーニング戦略」大修館書店、「入門運動生理学第3版」杏林書院、「スポーツ医科学」杏林書院、「パワーアップの科学」朝倉書店、「臨床スポーツ医学」医学映像教育センター、「スポーツ・健康科学」放送大学、「エクササイズ科学」文光堂、「スポーツ生理学」化学同人

《授業時間外学習》

シラバスで授業内容を確認して予習をするように。また、各自が実際に運動やトレーニングを行い、理論の確認や疑問点の発見を行うことを強く希望します。少しでも多くの知識や技術が習得できるようにサポートしますので、積極的に参加してください。

《備考》

トレーニング指導者養成のための授業を行いますので、その強い意思のある者の履修を希望します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方や評価方法等の説明をします。受講者は必ず出席すること。
2	トレーニングの原理原則	トレーニングの原理原則について学ぶ。
3	筋の構造とメカニズム	筋の構造とメカニズムについて学ぶ。
4	筋活動におけるエネルギー系や神経系	筋活動におけるエネルギー系や神経系のメカニズムについて学ぶ。
5	筋組成（遅筋）の特徴	筋組成（遅筋）の特徴とトレーニング効果について学ぶ。
6	筋組成（速筋）の特徴	筋組成（速筋）の特徴とトレーニング効果について学ぶ。
7	AT、LT、VT、OBLA	AT、LT、VT、OBLAについて理解する。
8	パワー	パワーに関する基礎知識および強化方法を習得する。
9	筋持久力	筋持久力に関する基礎知識および強化方法を習得する。
10	有酸素性持久力トレーニング	有酸素性持久力トレーニングに関する基礎知識および強化方法を習得する。
11	エネルギー補給と代謝	エネルギー補給と代謝に関する基礎知識および実践方法を習得する。
12	ジュニアアスリートにおけるトレーニング	ジュニアアスリートにおけるトレーニングについて障害防止の視点から学ぶ。
13	高齢者を対象としたトレーニング	高齢者を対象としたトレーニングとその効果について理解する。
14	ディ・トレーニング	ディ・トレーニングについて学ぶ。
15	まとめ	まとめ&トピックスを交えながら補足を行う。

《専門教育科目 I 群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	スポーツ科学Ⅱ				
担当者氏名	矢野 琢也				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力）				

《授業の概要》

スポーツ科学Ⅰの応用編です。実技と講義を併用します。競技力向上を目的としたトレーニングの基本を学びます。実際にHRモニターで心拍数の計測や乳酸値の計測を行ったりしながら理論の確認を行います。トレーニング科学を実際に活用するために必要な知識や技術の獲得を狙います。

《授業の到達目標》

競技力向上を目的とした指導者養成を目標とし、トレーニングの基本的な理論の習得ならびにメニューの作成ができることを目指します。実際にHRモニターや乳酸測定機器等を用いて計測やデータの分析が行えることを目指します。

《成績評価の方法》

数回のレポート(50%)とテスト(50%)の結果のみで評価します。提出物の期限は厳守です。原則遅れは受け取りません。

《テキスト》

「スポーツ生理学」化学同人 ￥2,600＋税

《参考図書》

「長距離選手の生理科学」杏林書院、「競技力向上のトレーニング戦略」大修館書店、「入門運動生理学第3版」杏林書院、「中長距離ランナーの科学的トレーニング」大修館書店、「高所トレーニングの科学」杏林書院、「運動生理・生化学事典」大修館書店、「スポーツ医科学」杏林書院、「乳酸をどう活かすか」杏林書院、「持久力の科学」杏林書院

《授業時間外学習》

シラバスを確認の上で予習をすること。また、各自でHRモニターの使用方法の習得のための時間を確保するように（実際に走って記録を取るなど）。

《備考》

トレーニング指導者を目指す学生の受講を求めます。少しでも多くの知識や技術が習得できるようにサポートしますので、積極的に参加してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の展開や評価方法等について説明します。受講者は必ず参加すること。
2	呼吸機能について	長距離走者の呼吸機能の特性
3	循環機能について	長距離走者の循環機能の特性
4	骨格筋について	長距離走者の骨格筋の特性
5	無酸素性、有酸素性能力について	長距離走者の無酸素性、有酸素性の能力の特性
6	内分泌系、血液成分について	長距離走者の内分泌系や血液成分の特性
7	水分補給、体温調整	長距離走者の体温調節機能と水分補給
8	身体組成について	長距離走者の身体組成の特徴
9	持久的トレーニング	長距離走のトレーニングと効果
10	トレーニング計画	トレーニング計画の作成（ピリオダイゼーションを含む）
11	ウォーミングアップ&クーリングダウン	ウォーミングアップ&クーリングダウンの必要性や方法
12	エネルギー補給	競技力向上のためのエネルギー補給
13	障害について	長距離走者を対象とした障害の発生とその原因、防止-1
14	障害について	長距離走者を対象とした障害の発生とその原因、防止-2
15	まとめ	全体のまとめ&補足

《専門教育科目 I 群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	スポーツ指導法 I				
担当者氏名	三宅 一郎、樽本 つぐみ				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・1期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） 				

《授業の概要》

運動実践を通して体育指導者としての指導能力を養うことを目標とする。1、2年次に履修した「スポーツ実践 I・II」「健康体力づくり I・II」においてスポーツや学校体育における正しい実践方法を再確認すると共に指導方法を身につける。具体的には、様々なスポーツや学校体育における実施種目の実践を通して段階的な指導方法やその際の指示助言等を学ぶ。

《授業の到達目標》

授業計画に示す内容のスポーツ種目や学校体育種目を実施する。方法として、基本的に個人で各種目における指導計画を作成し実際に指導経験をする。さらに反省・評価を繰り返し行うことにより指導者としての資質を高める。実施種目は、個人・グループ毎に授業計画に示す全種目を経験する。さらに、学校施設内で実施不可能な種目（水泳等）については定期時間外に集中講義を実施する。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。毎時間の授業のまとめ、感想、質問等をまとめたノート提出する（50%）随時課題に対するレポート（30%）学期末に理解度を確認するテスト（20%）

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料を配付する。

《参考図書》

『運動適応の科学～トレーニングの科学的アプローチ～』竹宮隆・石河利寛著（杏林書院）『体力を考える～その定義・測定と応用～』宮下充正著（杏林書院）『選手とコーチのトレーニングマニュアル』ブルーノ・ボーレット著『中学校学習指導要領解説（体育編）』（明治図書）

《授業時間外学習》

予習方法は、下記授業計画における次時の授業内容を参考文献等で確認し、あらかじめ指導計画案を作成することによって指導方法に対してより理解が深まりかつ指導内容が広がる。復習方法は、学んだ内容を配付資料等により再確認しノートにまとめる。

《備考》

健康システム学科の学生として、スポーツ・学校体育の理論と実践を積極的に体得しよう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の概要を説明する
2	スポーツ実践の方法と指導計画の立て方	指導実習（指導計画書の作成と実施）
3	スポーツ活動と安全管理	指導実習（指導計画書の作成と実施）
4	器械運動	マット運動における特性の理解と指導法（1）
5	器械運動	マット運動における特性の理解と指導法（2）
6	球技	バスケットボールにおける特性・ルール理解と指導法
7	球技	バレーボールにおける特性・ルール理解と指導法
8	球技	テニス・バドミントンにおける特性・ルール理解と指導法：指導実習（指導計画書の作成と実施）
9	陸上競技	サッカーにおける特性・ルール理解と指導法：指導実習（指導計画書の作成と実施）
10	陸上競技	短距離における種目特性の理解と指導法
11	陸上競技	リレーにおける種目特性の理解と指導法
12	陸上競技	走り幅跳びにおける種目特性の理解と指導法
13	格技	剣道における特性の理解と指導法（1）
14	格技	剣道における特性の理解と指導法（2）
15	まとめ	授業全体のまとめをする

科目名	スポーツ指導法Ⅱ				
担当者氏名	三宅 一郎、樽本 つぐみ				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） ○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） 				

《授業の概要》

スポーツ指導法Ⅰと、様に主として運動実践を通して体育指導者としての指導能力を養うことを目標とする。その為に、スポーツ・体育における様々な種目の正しい実践方法を再確認すると共に指導方法を身につける。具体的には、様々なスポーツのルールや学校体育における種目の実践を通して段階的な指導方法やその際の指示助言等を学ぶ。

《授業の到達目標》

授業計画に示す内容のスポーツ種目や学校体育種目を実施する。方法として、個人で各種目における指導計画を作成し指導経験をjする。さらに反省・評価→指導を繰り返すことにより指導者としての資質を高める。実施種目は、個人・グループ毎に授業計画に示す全種目を経験する。さらに、学校施設内で実施不可能な種目（水泳等）については時間外に実施する。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。毎時間の授業のまとめ、感想、質問等をまとめたノート提出する（50%）随時課題に対するレポート（30%）学期末に理解度を確認するテスト（20%）

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の概要を説明する
2	器械運動	跳び箱運動における特性の理解と指導法（1）
3	器械運動	跳び箱運動における特性の理解と指導法（2）
4	器械運動	鉄棒運動における特性の理解と指導法（1）
5	器械運動	鉄棒運動における特性の理解と指導法（2）
6	球技	バドミントンにおける特性・ルールの理解と指導法（1）
7	球技	バドミントンにおける特性・ルールの理解と指導法（2）
8	陸上競技	走り高跳びにおける種目特性の理解と指導法
9	陸上競技	砲丸投げにおける種目特性の理解と指導法
10	陸上競技	長距離走における種目特性の理解と指導法
11	球技	サッカーにおける特性・ルールの理解と指導法（1）
12	球技	サッカーにおける特性・ルールの理解と指導法（2）
13	格技	柔道における特性の理解と指導法（1）
14	格技	柔道における特性の理解と指導法（2）
15	まとめ	授業全体のまとめをする

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料を配付する。

《参考図書》

『運動適応の科学～トレーニングの科学的アプローチ～』竹宮隆・石河利寛著（杏林書院）『体力を考える～その定義・測定と応用～』宮下充正著（杏林書院）『選手とコーチのトレーニングマニュアル』ブルーノ・ボーレット著『中学校学習指導要領解説（体育編）』（明治図書）

《授業時間外学習》

予習方法は、下記授業計画における次時の授業内容を参考文献等で確認し、あらかじめ指導計画案を作成することによって指導方法に対してより理解が深まりかつ指導内容が広がる。復習方法は、学んだ内容を配付資料等により再確認しノートにまとめる。疑問点等があればノートの感想欄に記載すること（後日必ず返答する）。

《備考》

健康システム学科の学生として、スポーツ・学校体育の指導者としてふさわしい能力を体得しよう。

科目名	健康・体力づくり指導法 I				
担当者氏名	木下 幸文				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・1期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） ○ 3-2 効果的な意思疎通ができる（コミュニケーション力） 				

《授業の概要》

運動を効果的に指導するためには、目的のほか質や量について検討しなければならない。生活習慣病の予防や治療における運動プログラムは様々であり、個別に対応した運動プログラムを開発しなければならない。目的に応じた運動プログラムを提供していくためには、個人の生理的・心理的特性も考慮しなければならない。演習では、様々な条件下で、安全かつ効果的な健康運動プログラムの作成するための手段を学んでいく。

《授業の到達目標》

この演習では、健康づくりや生活習慣病の治療や予防に関わる運動のあり方について説明でき、日常生活や運動での健康づくり、ライフスタイルや各年代に応じた安全で効果的な運動プログラムを作成することが出来る。

《成績評価の方法》

演習中に毎回行う確認テスト(30%)と課題レポート(10%)、実技テスト(20%)、最終確認試験(40%)により評価する。確認テストにより生じるレポートや課題レポートは提出期限を守ること。期限後に提出されたレポートは評価対象外とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	演習を始めるにあたり	健康増進や疾病治療のための運動の在り方について理解する
2	健康づくり運動と運動プログラム作成の理論	ライフスタイルにあった運動プログラムの作成意義や考え方について理解する
3	個別健康支援プログラムについて	国保ヘルスアップモデル事業（個別健康支援プログラム）について理解する
4	ライフスタイルに応じた運動プログラムの作成	健康づくりのための運動プログラム作成について理解する(1)
5	ライフスタイルに応じた運動プログラム	健康づくりのための運動プログラム作成について理解する(2)
6	ライフスタイルに応じた運動プログラム	各ライフスタイルに応じた運動プログラムの実際と評価(1)
7	ライフスタイルに応じた運動プログラム	各ライフスタイルに応じた運動プログラムの実際と評価(2)
8	高齢者の健康増進プログラムの作成と評価	介護予防運動の実際について理解する
9	疾病の予防・治療のための運動プログラム(1)	生活習慣病（成人病）に対する運動処方と処方プログラムの作成（1）（肥満症）
10	疾病の予防・治療のための運動プログラム(2)	生活習慣病（成人病）に対する運動処方と処方プログラムの作成（2）（糖尿病）
11	疾病の予防・治療のための運動プログラム(3)	生活習慣病（成人病）に対する運動処方と処方プログラムの作成（3）（高血圧症）
12	健康づくり運動の理論と実際(1)	健康のための水泳・水中運動の理論と実際(1)水中運動のプログラム作成と評価
13	健康づくり運動の理論と実際(2)	健康のための水泳・水中運動の理論と実際(2)アクアビクスプログラムの作成
14	健康づくり運動の理論と実際(3)	健康のための水泳・水中運動の理論と実際(3)水中ウォーキングプログラムの作成
15	総括	これまで学習してきた内容と演習を通じて得られた知見を再確認するとともに、具体的な成果を説明することが出来る

《テキスト》

「健康運動実践指導者養成用テキスト」健康体力づくり事業財団（南江堂）2009年、「健康運動指導士養成講習会テキスト」健康体力づくり事業財団（社会保険研究所）2013年

《参考図書》

「メタボリックシンドロームに効果的な運動・スポーツ」坂本静男著（ナッパ）2011年、「ACSM 健康にかかわる体力の測定と評価」アメリカスポーツ医学会編（市村出版）2010年、「エビデンスと実践事例から学ぶ運動指導」金川克子（監修）（中央法規出版）2009年、「メタボリックシンドローム解消ハンドブック」田畑泉著（杏林書院）2008年

《授業時間外学習》

毎時間、テキストの各章について確認テストを行いますので事前にテキストの学習をしておくこと。確認テスト不合格の場合はレポート課題を課す。テキストの専門用語について、事前に各自で意味を理解しておくこと。

《備考》

定期の授業時間以外に学外実習（水中運動）を行う（日時未定）。健康運動実践指導者・健康運動指導士認定試験の受験予定者は必ずテキストを購入すること。

科目名	健康・体力づくり指導法Ⅱ				
担当者氏名	木下 幸文				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） ○ 3-3 人とつながり、責任をもって仕事を成し遂げる（リーダーシップ） 				

《授業の概要》

各種の有酸素性運動やレジスタンス運動を実践することによって、それぞれの運動の特性や効果について理解を深めるとともに、指導上の留意点、問題点を挙げながら講述していく。また、健康づくり運動だけでなく、生活習慣病に対する運動療法としての理論を講述するとともに、それぞれの目的にかなった運動プログラムの作成や実践していくための手段について検討していく。

《授業の到達目標》

健康体力づくりのための運動指導を行うためには、運動の特性や理論を理解することに加えて、専門能力・知識やその遂行能力だけでなく、人間関係の指導力または社会的な能力も有し、指導者としての自覚をもって行動する必要がある。「健康体力づくり指導法Ⅰ」に引き続いて本演習では、健康を維持増進するための適切な運動の在り方・方法論を説明でき、健康増進のほか疾病治療に必要な運動プログラムを実演できる。

《成績評価の方法》

毎演習時に実施する章テスト（40%）、課題レポート（20%）、最終確認試験（40%）により判断する。章テストの結果により発生するレポートは、提出期限を厳守すること。期限後に提出されたレポートや課題は評価の対象に含まない。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	演習を始めるにあたり	健康増進や疾病治療のための運動の在り方について理解する
2	有酸素性運動の理論と実際 (1)	エアロビックダンスの特性と理論について理解する
3	有酸素性運動の理論と実際 (2)	エアロビックダンスの指導の要点と実際(1)
4	有酸素性運動の理論と実際 (3)	エアロビックダンスの指導の要点と実際(2)
5	有酸素性運動の理論と実際 (4)	水泳・水中運動の特性と理論について理解する
6	有酸素性運動の理論と実際 (5)	水泳・水中運動の指導の要点と実際(1)
7	有酸素性運動の理論と実際 (6)	水泳・水中運動の指導の要点と実際(2)
8	有酸素性運動の理論と実際 (7)	ウォーキング・ジョギングの特性と理論について理解する
9	有酸素性運動の理論と実際 (8)	ウォーキング・ジョギングの指導の要点と実際
10	疾病の予防・治療のための運動プログラム(1)	生活習慣病（成人病）に対する運動処方と処方プログラムの作成（1） （虚血性心疾患）
11	疾病の予防・治療のための運動プログラム(2)	生活習慣病（成人病）に対する運動処方と処方プログラムの作成（2） （腰痛症および変形性関節症）
12	疾病の予防・治療のための運動プログラム(3)	生活習慣病（成人病）に対する運動処方と処方プログラムの作成（3） （腰痛症および変形性関節症）
13	健康づくり運動の実際	ストレッチングの理論と実際について理解する
14	運動プログラム作成の理論	運動プログラム作成上の原則について説明することが出来る
15	総括（最終確認試験）	これまで学習してきた内容と演習を通じて得られた知見を再確認するとともに、具体的な成果を説明することが出来る

《テキスト》

「健康運動実践指導者養成用テキスト」健康体力づくり事業財団（南江堂）2009年、「健康運動指導士養成講習会テキスト」健康体力づくり事業財団（社会保険研究所）2013年

《参考図書》

必要があれば適宜紹介していく。

《授業時間外学習》

毎時間、テキストの各章について章テストを行いますので事前に目を通しておくこと。章テスト（再テスト）不合格の場合は、指定された課題を提出するようにしてください。また、運動指導プログラムが実演できるように各自で練習しておくこと。

《備考》

時間以外に学外実習を行う予定である。この演習は特に健康運動実践指導者の認定試験を受験する学生を対象としている。健康体力づくり指導法Ⅰを受講しておくことが望まれる。

《専門教育科目 I群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	運動処方論				
担当者氏名	長尾 憲樹、兒玉 拓				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・1期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ◎ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） ○ 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力） 				

《授業の概要》

運動処方と運動指導は、どの様に違いがあるのでしょうか。人間を対象として健康の維持・増進を目指す運動処方を推し進めていくために、知らねばならない点を深く考えます。

《テキスト》

特に定めません。

《参考図書》

健康運動実践指導者養成用テキスト、健康運動指導士養成用テキスト：財団法人健康・体力づくり事業団

《授業の到達目標》

運動・スポーツに関する科目を学んできました。その知識を再考しながら、生きた智恵を構築します。

《授業時間外学習》

日常における生活を通して、様々なタイプの人の観察をして下さい。

《成績評価の方法》

定期試験70%
レポート30%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	運動処方とは？	運動処方の概念について考えます。
2	体組成	今一度、体組成について考えます。
3	心肺持久力	生活習慣病予防・介護予防との関連を考えます。
4	筋力と筋持久力	健常人と介護予防との関連を考えます。
5	柔軟性	基準になる評価方法を考えます。
6	生活関連体力	通常の体力テストでは、評価できない能力を考えます。
7	個別運動処方Ⅰ	自分自身を知っていますか。
8	個別運動処方Ⅱ	家族、友人の何を知っていますか。
9	防災体力運動処方Ⅰ	自己の防災体力を考えます。
10	防災体力運動処方Ⅱ	家族の防災体力を考えます。
11	高血圧に対する運動療法	中高齢者の動脈硬化の進展に伴い高血圧が発症する。本講義では高血圧発症のメカニズムを理解するとともに安全で効果的な運動処方を作成できる。
12	糖尿病に対する運動療法	糖尿病とその進行に伴う合併症について理解するとともに糖尿病に効果的な運動療法および食事療法の実際を学習する。
13	心疾患に対する運動療法	動脈硬化の進行から発症する虚血性心疾患は心機能が棄損される。本講義では動脈硬化予防および心疾患発症後の心臓リハビリテーションの実際を理解する。
14	気管支喘息に愛する運動指導	運動誘発喘息は運動負荷によって呼吸機能が急速に低下する。本講義では運動誘発喘息の予防を中心に基礎的な考え方を学習する。
15	運動時の熱中症対策	高温環境下における運動は急速な深部体温の上昇から熱中症が発症する。本講義では熱中症発症メカニズムを理解するとともに発症予防の注意点について述べる。

《専門教育科目 I群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	運動処方演習				
担当者氏名	長尾 憲樹、兒玉 拓				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力）				

《授業の概要》

人間を対象として健康の維持・増進を目指す運動処方を押し進めていくために、Ⅰ期の運動処方論を受けて実際に可能な運動処方の各要素の演習を行う。

《テキスト》

特に定めない。

《参考図書》

健康運動実践指導者養成用テキスト、健康運動指導士養成用テキスト：財団法人健康・体力づくり事業団

《授業の到達目標》

これまでの講義、実習を受けてきたことの復習から、発展させて演習を進める。既存の知識をこえる。

《授業時間外学習》

その時間内で終了しない内容は個人的に、あるいは履修学生間の協力のもとに追加データを得ることが必要となる。

《成績評価の方法》

演習レポート70%
レポートのプレゼンテーション30%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	運動演習とは？	演習の可能性について考えてみる。
2	健康関連体力テストⅠ	体組成の測定・評価
3	健康関連体力テストⅡ	心肺持久力の測定・評価
4	健康関連体力テストⅢ	筋力と筋持久力の測定・評価
5	健康関連体力テストⅣ	柔軟性の測定・評価
6	生活関連体力テスト	各種生活関連体力の測定・評価
7	個別運動処方Ⅰ	自己に対する運動処方
8	個別運動処方Ⅱ	友人に対する運動処方
9	防災体力Ⅰ	避難のための体力測定・評価
10	防災体力Ⅱ	家族・災害弱者を支援する体力測定・評価
11	循環器・呼吸器の解剖と生理学	本講義では運動処方に必要な基礎的な肺臓や心臓および動脈・静脈系の解剖および生理学的機能について講義する。
12	心電図の基礎	心電図検査は病的疾患の診断に重要である。本講義では安静時における正常および病的な心疾患の心電図の読み方を学習する。
13	負荷心電図の実際	虚血性心疾患の心電図は安静時に正常と判断されることも多い。本講義では運動負荷心電図の適応とその実際の方法について概説する。
14	呼吸リハビリテーション	喫煙により呼吸機能が低下、慢性閉塞性肺疾患(COPD)が発症する。本講義ではCOPDを中心に呼吸リハビリテーションについての基本的な知識を習得することを目的とする。
15	メタボリック症候群対策としての運動療法	中高年者を中心に肥満・高血圧・脂質異常症・糖尿病の発症が増加している。本講義ではメタボリック症候群の診断および治療について運動療法を中心に講義する。

《専門教育科目 I群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	運動負荷試験実習				
担当者氏名	大西 祥男				
授業方法	実習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）				

《授業の概要》

運動負荷試験は、心疾患の診断ならびに薬効評価、心臓リハビリテーションの効果判定など臨床の場でその有用性は確立されている。また、保健指導のなかの運動療法も発症予防の取り組みとして極めて重要である。個々の背景に配慮した運動負荷試験・運動療法を実施することが大切であり、本実習では指導対象者の運動や身体活動に関する準備状態に配慮した運動負荷試験が設定、実施できることを目標とする。

《授業の到達目標》

1. 運動負荷試験の目的・適応・禁忌が説明できる 2. 運動負荷試験の種類とプロトコールとそれらの違いについて説明できる 3. 安全に運動負荷試験を実施する上での注意点と中止基準について説明できる 4. 運動負荷試験の評価方法について説明できる 5. 指導者と共に症例に対して運動負荷試験を実施し、要約を作成できる

《成績評価の方法》

到達目標の1～4については試験、5については、レポート作成とする。配点は試験40点、レポート60点、100点満点とし、60点以上を合格とする

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	運動の生理	運動による生理反応、血圧、脈拍の変化について理解する
2	運動負荷試験の目的・適応・禁忌	運動負荷試験の目的・適応・禁忌について理解する
3	運動負荷試験の危険性・安全対策	運動負荷試験の危険性・安全対策について理解する
4	運動負荷心電図診断とその判定基準①	STT変化をはじめ判定基準ならびに中止基準を理解する
5	運動負荷心電図診断とその判定基準②	STT変化をはじめ判定基準ならびに中止基準を理解する
6	運動負荷試験各論①	運動負荷の様式について説明できる
7	運動負荷試験各論② マスター2段階試験	マスター2段階試験法について実施・判定方法を理解する
8	運動負荷試験各論③ 自転車エルゴメーター	自転車エルゴメーター法について実施・判定方法を理解する
9	運動負荷試験各論④ トレッドミルテスト	トレッドミルテストについて実施・判定方法を理解する
10	運動負荷試験各論⑤ ホルター心電図	ホルター心電図を用いた運動負荷試験について実施・判定方法を理解する
11	症例検討①	運動負荷試験実施症例についての負荷試験を中心に症例検討
12	症例検討②	運動負荷試験実施症例についての負荷試験を中心に症例検討
13	呼気ガス分析を用いた運動処方	CPXを用いた運動処方を作成する
14	呼気ガス分析を用いた運動処方に基づく運動療法	CPXを用いて作成した運動処方に基づき運動療法を実施する
15	症例検討③	CPXを用いた運動処方実施症例の運動療法の実施、そしてその効果について検討する

《テキスト》

健康運動指導士 養成講習会テキスト（下）：公益財団法人健康・体力づくり事業財団

《参考図書》

《授業時間外学習》

・上記テキストの第12章 運動負荷試験（815～834頁）は予習しておくこと。
 ・心電図の基本については、復習しておくこと。

《備考》

《専門教育科目 I群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	レクリエーション（野外活動を含む）				
担当者氏名	樽本 つぐみ				
授業方法	実習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・1期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ◎ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） ○ 3-2 効果的な意思疎通ができる（コミュニケーション力）				

《授業の概要》

現在のレクリエーションは、スポーツと文化活動を包含する幅の広い自由時間の過ごし方として生涯学習と同様なものとなっている。そこでレクリエーションの果たす役割について理解し、活動（イベント）を通して参加者の意欲を引き出し、魅力のある活動や運営の仕方を学ぶ。また、市民を対象に事業を展開することで実践力を養う。本講義は、保健体育免許必修科目である。

《授業の到達目標》

- (1) レクリエーション支援が、子どもから高齢者まで多様な活動の機会を提供するための働きかけであることを理解する。
- (2) ニュースポーツを中心に実践方法を習得する。(3) オリジナリティのあるレクリエーションを考え、実践する。(4) 学外での事業を展開し実践力を養う。(5) 実習後のレポートを作成し発表する。

《成績評価の方法》

(1) (4) (5)についてはレポート提出、(2) (3) (4)は発表の内容、イベントの様子で評価する。評価の割合は、レポート50%、発表30%、テスト20%とし100点満点で60点以上を合格とする。

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じて資料を配付する。

《参考図書》

「やさしいレクリエーション実践」川村皓章（日本レクリエーション協会）
 「野外活動テキスト」（日本野外教育研究会）
 「レクリエーション支援の基礎～楽しさ・心地よさを活かす理論と技術～」（レクリエーション協会）

《授業時間外学習》

①授業終了時に次回のプリントを配付するので読んでおくこと。②レクリエーションに関する課題について新聞や雑誌の記事を切り抜き要点をまとめて提出し発表する。③学外での事業展開、集中講義でレクリエーション指導をする。

《備考》

15回の授業とは別に、7月か8月に小学生から高齢者を対象とした行事を実施する

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の流れを説明する
2	レクリエーションの基礎理論	レクリエーションの基礎的な知識や歴史を理解する
3	レクリエーション支援の理論	レクリエーション支援の展開と方法、特色について理解する
4	レクリエーション支援者の役割	コミュニケーションワークについて理解する
5	レクリエーション組織の経営論 (1)	クラブの設立や運営について理解する
6	レクリエーション組織の経営論 (2)	市区町村とレクリエーション指導者の関係と課題について理解する
7	コミュニケーションワーク (1)	ホスピタリティ・トレーニング(小学生から高齢者まで)
8	コミュニケーションワーク (2)	アイスブレイキング(小学生から高齢者まで)
9	レクリエーションサービス論 (1)	行事の成り立ちを理解し企画する
10	レクリエーションサービス論 (2)	準備、運営、スタッフの役割について流れを計画する
11	レクリエーションサービス論 (3)	事故を起こさないための安全管理について理解し計画する
12	ニュースポーツの理解 (1)	ニュースポーツについて理解し実践する
13	ニュースポーツの理解 (2)	ニュースポーツの指導ポイントを学ぶ
14	まとめ	発表会 (1)
15	まとめ	発表会 (2)

科目名	薬理学				
担当者氏名	中井 裕士				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ◎ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） 				

《授業の概要》

薬理学の基本的概念を薬物作用学と薬物動態学の両面から理解することで、基本的な疾病の成立過程と薬物の作用機序の関連性、副作用とその対策についての知識を修得することを目的とする。治療対象となる患者側に立ち、薬物体内動態の知識に基づいた適切な投与方法ならびに投与後の薬物生体内運命、投与時の注意および取り扱い等についても学ぶ。

《テキスト》

薬理学 疾病の成り立ちと回復の促進 第3版：医歯薬出版株式会社：中嶋敏勝 編著

《参考図書》

いろいろあるが、特に推薦できる図書はなし。今回使用のテキストは非常にわかりやすく記載されている。

《授業の到達目標》

- ①薬物の体内動態や有効性との基本的な考え方を説明できる。
- ②主要な薬物について、基本的な作用機序を説明できる。
- ③主要な薬物について、適応疾患ごとに分類できる。
- ④病気予防や健康管理に対する薬物治療の重要性を主体的に考えることができる。

《授業時間外学習》

教科書による予習・復習の自己学習を確実にに行い講義に臨むこと。自己学習しても理解できないときには、積極的に質問すること。

《成績評価の方法》

定期試験：70% 授業の出席：30%

《備考》

講義中の私語、携帯電話、出入り等の迷惑行為は厳禁とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	薬に関する基礎知識	処方薬と一般用薬の違いなど医薬品の定義。薬に関する基礎的な知識を習得する。
2	薬物の体内での動き（薬物体内動態）	適切な薬物投与を行うために、吸収・分布・代謝・排泄などの薬物体内動態の知識を学び、投与後の薬物生体内運命を理解する。
3	薬物の効く仕組み	選択毒性や受容体などの知識に基づき、薬物の作用機序と薬物治療戦略を説明できる。
4	薬物の副作用・中毒	薬物相互作用についての機序や、病態時に特徴的に起こる副作用の発生機序とその対策についての知識を修得する。
5	感染症に対する治療薬	細菌、真菌、ウイルスなどの個々の感染症に対する薬物治療戦略について学ぶ。
6	炎症や自己免疫疾患に対する治療薬	免疫についての解説と自己免疫疾患に対する基本的な疾患の成立過程とその治療薬について学ぶ。
7	がん化の機構とがんに対する治療薬	腫瘍に関する基本的な疾病の成立過程とさまざまな抗腫瘍薬についての薬物治療戦略の違いについて学ぶ。
8	糖尿病、脂質異常症などの代謝・内分泌治療薬	糖尿病、脂質異常症、高尿酸血症などの分類ならびにその疾患の成立過程とそれに対する治療薬の作用機序について学ぶ。
9	脳・神経の疾患に対する治療薬	てんかんなどの機能的神経疾患、パーキンソン病などの神経変性疾患、脳梗塞などの脳血管障害に分け、その治療薬や薬物治療戦略について解説する。
10	認知症、双極性障害、統合失調症などの治療薬	精神疾患の成立過程とそれに対する治療薬の作用機序について学ぶ。
11	貧血、血栓症などの血液疾患に対する治療薬	貧血、血栓症などの分類ならびにその疾患の成立過程とそれに対する治療薬の作用機序について学ぶ。
12	高血圧、心不全、狭心症などの循環器疾患治療薬	循環器疾患の分類ならびにその疾患の成立過程とそれに対する薬物治療戦略について解説する。
13	胃・十二指腸潰瘍などの消化器系疾患治療薬	消化器系疾患の成立過程とそれに対する治療薬の作用機序について学ぶ。
14	気管支喘息などの呼吸器系疾患に対する治療薬	呼吸器系疾患の成立過程とそれに対する治療薬の作用機序について学ぶ。
15	眼、耳や皮膚などの疾患に対する治療薬	眼、耳や皮膚などの疾患に対する薬物治療について学ぶ。

《専門教育科目 II 群（養護・保健に関連する科目）》

科目名	養護活動演習				
担当者氏名	加藤 和代、米野 吉則				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・1期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） ○ 3-3 人とつながり、責任をもって仕事を成し遂げる（リーダーシップ） ◎ 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力） 				

《授業の概要》

「学校保健Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」「養護概説Ⅰ、Ⅱ」で修得した知見や技術をもとに、養護教諭が行う教育活動を、グループワークを通して実践場を構成して展開する。児童生徒の健康課題を解決するための養護教諭の教育実践活動の理論と実際の教育現場で行われる実践とを往還しながら学ぶ。

《テキスト》

指定テキストなし
必要に応じて、自作プリントを配布する

《参考図書》

養護教諭が担う「教育」とは何か、藤田和也、農文協

《授業の到達目標》

- 児童生徒の発達段階や生活を理解した観察や関わりができる
- 健康教育・健康管理を推進して行くための養護教諭の役割や保健室の機能が説明できる
- 演習を通して「養護とは」の考察と理解を深める。

《授業時間外学習》

演習で得た知見や資料を整理し、課題レポートに活かすこと

《成績評価の方法》

グループワークの発表（50%）、レポート（50%）で評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の基本的な視点、授業の概要、学習動機づけ、評価等の説明
2	「養護」と「教育機能」	養護教諭の職務と役割、求められる専門的能力 養護活動とは養護教諭の教育実践活動
3	健康実態把握 (1) 健康診断	保健調査の活用と管理、健康診断実施計画書の作成・実施・評価
4	健康実態把握 (2) 健康診断	統計処理（ソフトの利用）の実際、事後措置結果の管理と活用
5	健康実態把握 (3) 健康観察	健康観察簿の作成、事後措置、欠席管理、感染症対応（臨時休業、出席停止）等
6	健康実態把握 (4) 救急処置	救急処置簿作成、事後措置、データー処理、分析（外科的、内科的、メンタルヘルス）
7	健康実態把握 (5) 生活・健康実態調査等	生活習慣（睡眠時間、就寝時間、朝食摂取など）や心の健康状態のアンケート調査
8	健康課題の明確化	実態の分析・考察、課題の明確化、校内組織で課題の共有、共通理解
9	養護教諭の活動計画 (1)	学校保健安全計画、校内組織、役割分担
10	養護教諭の活動計画 (2)	保健室経営計画、健康課題の把握、PDCAサイクル
11	養護活動実践 (1)	保健管理、健康相談に伴う保健指導及び教育的支援、学級担任への支援
12	養護活動実践 (2)	保健教育（保健学習、保健指導）における指導及び教育的支援、学級担任への支援
13	養護活動実践 (3)	児童生徒保健委員会活動、生徒会の健康活動
14	養護教諭活動 (4)	学校全体で進める健康（保健）教育、学校保健委員会、PTA活動・地域との連携
15	保健室、養護教諭の 教育的役割	「養護とは」「児童生徒の養護をつかさどるとは」 教育的役割のまとめ

《専門教育科目 II 群（養護・保健に関連する科目）》

科目名	養護活動実習				
担当者氏名	大平 曜子、加藤 和代、米野 吉則				
授業方法	実習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・II期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） ◎ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） ○ 3-3 人とつながり、責任をもって仕事を成し遂げる（リーダーシップ） 				

《授業の概要》

これまでに修得した保健室の機能と養護教諭の教育的役割を基盤に、実践的な養護教諭の活動の理解を学内実習をとおして深める。

《テキスト》

指定テキストなし

《参考図書》

授業の中で、適宜紹介する

《授業の到達目標》

- 養護教諭の行う保健管理、保健教育の活動の実際を学内実習をとおして体得する。
- 児童生徒一人ひとりを大切にしたい支援について理解し、校内体制、家庭や専門機関と連携について、養護教諭の活動を説明できる。

《授業時間外学習》

これまでに得た知識技術を確認・整理し、主体的にその研鑽に励むとともに、配布資料を確認し、授業内容の予習と復習を欠かさず行う。

《成績評価の方法》

小テスト(50%)、レポート(50%)で評価する。

《備考》

養護活動演習の履修を終えていること。通年科目であり、評価は4年生I期の修了後に行う。実習科目であるため、出席はもちろんのこと、主体的に取り組む姿勢を重視する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	養護とは 養護教諭の教育活動
2	保健室経営（1）	保健室経営案、保健室備品、諸帳簿の保管・管理、個人情報の管理の実際
3	保健室経営（2）	感染予防の基本技術 ① (機器、器具、寝具、衛生材料の確認と使用技術)
4	保健室経営（3）	感染予防の基本技術 ② (汚物等の清潔操作、滅菌・消毒の実際)
5	健康診断の計画・運営・事後措置（1）	発育測定、視力・聴力検査、心電図検査の実際、
6	健康診断の計画・運営・事後措置（2）	歯科、眼科、耳鼻科等の専門医検診の実際
7	健康診断の計画・運営・事後措置（3）	内科検診の実際
8	健康診断の計画・運営・事後措置（4）	事後措置の実際
9	保健室来室者の対応（1）	外科的救急処置と事後処置、保健指導 ①
10	保健室来室者の対応（2）	外科的救急処置と事後処置、保健指導 ②
11	保健室来室者の対応（3）	内科的救急処置と事後措置、保健指導 ①
12	保健室来室者の対応（4）	内科的救急処置と事後措置、保健指導 ②
13	保健室来室者の対応（5）	健康相談的対応と継続支援 ①
14	保健室来室者の対応（6）	健康相談的対応と継続支援 ②
15	まとめ	保健室の機能と養護教諭の教育活動、

《専門教育科目 II 群（養護・保健に関連する科目）》

科目名	精神保健				
担当者氏名	南川 博康				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・1期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） ◎ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） 				

《授業の概要》

運動、あるいは養護や保健の専門家として、幼児から高齢者まで、発達段階に応じた心の健康・心の問題について正しく理解する。次に、心の病的状態についても精神医学的観点から学習し、予防方法を考えることによって心の健康の保持、増進について理解を深める。

《テキスト》

「精神看護学Ⅰ 精神保健学」 吉松和哉他編 ノーヴェルヒロカワ

《参考図書》

《授業の到達目標》

精神保健の理論を理解しそれを実践することの重要性を説明できる。

《授業時間外学習》

次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を整理し理解しておくこと。

《成績評価の方法》

筆記試験70%、平常評価30%(レポート、受講態度など)

《備考》

現在のようなストレスフルな社会において、医療関係者や専門家といわれる人々だけでなく、すべての人が精神保健についての知識を持ち健やかな生活を営まれることが望ましい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会とメンタルヘルス	様々な社会病理現象：アルコールおよび薬物依存、虐待やDV、自殺の増加、PTSDなど
2	社会とメンタルヘルス	様々な社会病理現象：離婚、モンスターペアレント、移住、宗教体験など。精神医学的問題と社会的要因
3	現在の精神保健	精神保健とは。心の健康とは。精神力動的な考え方。
4	現在の精神保健	脳の機能とその障害。
5	現在の精神保健	ストレス。リスクマネジメント。
6	ライフサイクルと精神保健	胎生期、乳幼児期、学童期、思春期・青年期。
7	ライフサイクルと精神保健	成人期、中年期、老年期
8	生活の場と精神保健	家族・家庭の精神保健。学校における精神保健。
9	生活の場と精神保健	職場における精神保健。地域精神保健活動。
10	心の健康と不健康	病むという体験。病気になることによるストレス。支える家族の心の健康。
11	心の健康と不健康	さまざまな状態における心の健康。
12	リエゾン精神医学	リエゾンとは。
13	集団力動論、地域精神保健活動	チームワークとリーダーシップ。地域精神保健活動の目標や今後の課題。
14	精神保健の歴史と倫理的問題。	精神医療の歴史や関連事件。倫理基準とインフォームドコンセント。
15	総括	精神保健の総括

科目名	健康統計学				
担当者氏名	河野 稔				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・1期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）				

《授業の概要》

統計学の基礎な考え方と手法を身につけることを目指す。具体的には、基本的な統計量（平均値、分散、標準偏差など）やデータの整理、相関と回帰、確率分布、区間推定や仮説検定（カイ2乗検定、t検定、F検定など）まで、統計学の基礎全般について学習する。毎回の授業では、理解度確認のための小テストを実施する。また、表計算ソフトを利用した統計処理の演習も行う。

《授業の到達目標》

- データを代表する統計量を求めたりグラフを作成したりして、データ全体の特徴を把握できる。
- 統計的手法を用いて、標本から母集団の特徴を推測したり、複数の母集団の特徴を比較したりできる。
- 表計算ソフトなどを用いて、データを整理し分析できる。

《成績評価の方法》

毎回の小テスト（20%）、課題などの提出物（20%）、中間試験および定期試験の結果（60%）で評価する。

《テキスト》

縣俊彦(2012)『やさしい保健統計学 改訂第5版』南江堂。

《参考図書》

- 菅民郎(2013)『Excelで学ぶ統計解析入門 -Excel2013/2010対応版』オーム社
- 涌井良幸・涌井貞美(2010)『統計解析がわかる（ファーストブック）』技術評論社
- 高木廣文(2009)『ナースのための統計学 第2版』医学書院
- 小島寛之(2006)『完全独習 統計学入門』ダイヤモンド社

《授業時間外学習》

- 予習では、教科書の授業範囲を読んでおくこと。また、グラフ作成や関数の利用など、表計算ソフトの操作や手順を練習しておくこと。
- 復習では、中間・定期試験に向けて、用語や統計的手法を覚えるだけでなく、データの整理や手法を実際に行えるように練習しておくこと。

《備考》

授業での学習だけでなく、身の回りにある「データ」に関心を持ち、学習した成果を興味のある分野に生かそうという意欲を持って、授業に参加してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	統計の必要性、記述統計と推測統計
2	データの尺度、統計資料の整理	尺度、度数分布表、ヒストグラム
3	代表値と散布度	平均値、中央値、最頻値、標準偏差、範囲、変異係数
4	相関と回帰	相関係数、順位相関係数、回帰直線
5	確率、順列と組み合わせ	確率、順列、組み合わせ
6	中間試験	中間試験の実施（ここまでの学習の振り返り）
7	確率変数と確率分布	中間試験の解説／確率変数、確率分布
8	確率分布	二項分布、正規分布、カイ二乗分布、F分布など
9	母集団と標本、点推定と区間推定	母集団と標本、母平均の推定、母比率の推定、母相関係数の推定
10	仮説検定(1)	1つの母集団の統計値の検定（母平均、母比率、母相関係数）
11	仮説検定(2)	2つの母集団の統計値の検定（z検定、t検定など）
12	仮説検定(3)	クロス表の検定（適合度の検定、独立性の検定など）
13	仮説検定(4)	その他のノンパラメトリックな検定
14	分散分析	一元配置分散分析、二元配置分散分析
15	まとめ	全体の学習の振り返り

科目名	健康相談活動の理論と実践				
担当者氏名	大平 曜子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ◎ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） ○ 3-2 効果的な意思疎通ができる（コミュニケーション力） 				

《授業の概要》

学校教育における健康相談の概念や特質を踏まえて、子どものヘルスニーズに対処できる力量形成を目指す。また、人間観や健康観、対人関係など健康相談の基礎的理論を学び実践力をつける。養護教諭の仕事における健康相談の位置づけを理解するとともに、関係機関との有機的連携について学習する。授業では、健康相談の目標と方法、問題の捉え方、記録とプライバシー保護など、基礎から実際までを学ぶ。

《授業の到達目標》

- 健康相談の概念や役割について説明できる。
- 健康相談の基礎的理論について理解し、説明できる。
- 子どものヘルスニーズがわかり、健康相談の進め方がわかる。
- 健康相談の実際を体験的に理解する。ロールプレイングができる。

《成績評価の方法》

毎授業終了時記入の学習内容の記録についての評価 10%、
課題の実践とレポート提出 30%、
定期試験 60%とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方を理解し、自らの学習方法を確認する。健康相談の位置づけを理解し、学習の意味を説明することができる。
2	養護教諭と健康相談	養護教諭のもつ健康感や人間観との関わり
3	法規と健康相談	学校保健安全法を中心に、健康相談の位置づけを理解する。
4	健康相談の概念	定義、目的と意義
5	健康相談活動の対象	子どものヘルスニーズの理解、問題理解
6	健康相談に必要な力量	養護教諭の力量形成と資質
7	近接領域の相談と健康相談活動の違い	相談とは、臨床心理学とは、教育相談や生活指導、などとの関係
8	健康相談の実際 (1)	進め方の実際、保健室の機能
9	健康相談の実際 (2)	事例の学習、健康相談活動のプロセス保健室登校・特別支援教育と養護教諭のかかわり
10	健康相談の実際 (3)	ロールプレイの実際
11	健康相談の実際 (4)	グループ学習 (演習)
12	記録と保管	記録の方法、書式、保管と活用
13	幼児・児童・生徒への健康相談	支援方法の違いと実際
14	力量形成と研究	養護教諭にとって、健康相談に関する研究の意味と方法を理解する
15	授業のまとめ	これまでの学習と得られた知見を再確認し、具体的な成果を説明することができる。

《テキスト》

テキストは使用しない。
必要に応じて適宜プリントを配布する。

《参考図書》

『養護教諭の行う健康相談活動』大谷・森田編著、東山書房
『養護教諭の健康相談ハンドブック』森田著、東山書房
『健康相談活動の理論と実際』三木・森田編著、ぎょうせい
その他、適宜紹介する。

《授業時間外学習》

関係図書にはできるだけ目を通す。課題レポートについては、文献にあたって上で作成する。授業で配布したプリントには、必ず目を通しておく。

《備考》

養護教諭をめざす者は、目的意識を持ち、主体的に授業に臨んで欲しい。演習の形態も含めるが、主体的に参加することが望まれる。また、演習には必ずレポート課題の提出を求める。

《専門教育科目 II 群（養護・保健に関連する科目）》

科目名	救急看護（救急処置を含む）				
担当者氏名	大平 曜子、加藤 和代、米野 吉則				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・1期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） ○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ◎ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） 				

《授業の概要》

教育活動やスポーツ活動においては、予期せぬ発病や事故や外傷が起こります。その初期対応や処置の仕方、対応の良否はその後の経過に影響するとも言われます。授業は複数の担当者によるオムニバス形式で進めていきます。受講者は、救急処置に必要な知識と技術を習得します。また、具体的な場面を想定した救急処置の実践的能力を身につけ、教師としての専門性に生かせるよう主体的に取り組むことが求められます。

《授業の到達目標》

- 救急看護の概念と基礎知識を理解し、説明できる。
- 災害救護活動について理解し、災害時の健康障害について解説できる。
- 基本的な救急処置ができる(救急処置の範囲がわかる)。
- 救急蘇生法について初心者に説明し、指導できる。
- 傷病者の状態のアセスメントの方法を理解し、説明できる。

《成績評価の方法》

各担当者出題による最終試験(60%)、演習後のレポート(40%)。100点満点で60点以上を合格とする。

《テキスト》

適宜プリント等を配布する

《参考図書》

- ①『救急看護論』山勢博彰編著、ヌーヴェルヒロカワ
 - ②『初心者のためのフィジカルアセスメントー救急保健管理と保健指導ー』第2版 荒木田美香子他、東山書店
 - ③『スポーツ指導者のためのスポーツ外傷・障害 改.第2版』、南江堂
- その他、適宜紹介する。

《授業時間外学習》

課題レポートのため、関係図書に目を通しておく。復習をしっかりおこない、正確な知識の習得に努める。医療的側面理解のため、人体の構造と機能について繰り返し復習しておく。技術の確認や科学的理解のために、実習室を利用して、積極的に練習をおこなう。

《備考》

教員免許取得希望者の必須科目です。演習を随所に取り入れるため、出席はもちろんのこと、主体的に取り組む姿勢が必要です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方や評価方法について、救急看護の考え方、年齢別に起こりやすい事故と病気。フィジカルアセスメントの知識
2	学校救急①	学校救急看護
3	学校救急②	学校救急看護
4	小児救急①	子どもに多い事故と傷病、小児救急の実際と処置の基礎知識①
5	整形外科的障害	整形外科的障害（突き指、骨折、捻挫、頭部外傷など）の救急処置の基本
6	小児救急②	子どもに多い事故と傷病、小児救急の実際と処置の基礎知識②
7	内科的障害	内科的障害（胸痛、腹痛、熱中症、過換気症候群など）の救急処置の基本
8	基本的応急処置	傷病者の観察と基本的応急処置法（止血法、包帯法、搬送方法）
9	災害看護とトリアージ	災害の定義、災害発生の現代的課題、災害看護とトリアージ
10	救急蘇生法の理論と実習①	救急蘇生法の理論と実習1（人工呼吸、胸骨圧迫心マッサージ、AED）
11	救急蘇生法の理論と実習②	救急蘇生法の理論と実習2（異物除去、RICE）
12	救急蘇生法の理論と実習③	救急蘇生法の実技確認1
13	救急蘇生法の理論と実習④	救急蘇生法の実技確認2
14	救急蘇生法のまとめ	確認テスト
15	授業のまとめ	これまでの学習と得られた知見を再確認し、具体的な成果を説明することができる。

《教職に関する科目》

科目名	教育史				
担当者氏名	岡本 洋之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

本授業では、「教育」の関わる範囲を学校教育や社会教育だけでなく、子どもの遊び、子育て、大人と子どもの関係、海外留学など、広くとらえ、みなさんが日ごろ読んでいる本の中に教育史に関わる題材があふれていることをおさえる。

具体的には、受講生は日ごろ読んでいる本の中から、教育史的内容を含むものを1冊以上選び（例は「参考図書」欄を参照）、その本の中の教育史的内容と考察を順次口頭で発表する。

《授業の到達目標》

教育史は、文字通り教育の歴史である。しかし歴史というと、無味乾燥な暗記物というイメージが付きまとう。誤った歴史教育がそのようなイメージを生んでしまったのは残念である。

本授業では、みなさんに暗記してもらうことは一つもない。その代わりに教育史に関する文献を自分で見つけ、それについて発表することにより、教育史を身近に感じてもらうことが、本授業の目的である。

《成績評価の方法》

提出物(30%)と、発表への評価(70%)による。ただし、大学教育の基本である「個に応じた指導」の原則に基づき、変更することがある。

《テキスト》

とくに定めない。

《参考図書》

妹尾河童『少年H』，さくらももこ『まる子だった』，黒柳徹子『窓際のトットちゃん』，司馬遼太郎『竜馬がゆく』，ヘッセ『車輪の下』，サンテグジュペリ『星の王子さま』，童門冬二『上杉鷹山』，乙武洋匡『五体不満足』，ほか。

《授業時間外学習》

自力で文献を読むことは言うまでもないが、その他は必要に応じて指示する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方の説明
2	発表文献選定のための個別指導(1)	文献リスト作り等
3	発表文献選定のための個別指導(2)	発表内容の詰め等
4	口頭発表(1)	文献例:妹尾河童『少年H』
5	口頭発表(2)	文献例:さくらももこ『まる子だった』
6	口頭発表(3)	文献例:黒柳徹子『窓際のトットちゃん』
7	口頭発表(4)	文献例:司馬遼太郎『竜馬がゆく』
8	口頭発表(5)	文献例:H・ヘッセ『車輪の下』
9	口頭発表(6)	文献例:A・サンテグジュペリ『星の王子さま』
10	口頭発表(7)	文献例:童門冬二『上杉鷹山』
11	口頭発表(8)	文献例:乙武洋匡『五体不満足』
12	口頭発表(9)	文献例:E・ケストナー『エーミールと探偵たち』
13	口頭発表(10)	文献例:東上高志『教育革命』
14	口頭発表(11)	文献例:三好京三『子育てごっこ』
15	口頭発表(12)	文献例:李潤福『ユンボギの日記』

《教職に関する科目》

科目名	保健・保健体育科教育法Ⅱ（保健教育法研究）				
担当者氏名	棟方 百熊				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・1期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

保健科教育について、学習指導要領、保健科教育研究や実践の分析・検討を通して考察し、その目標、方法、評価等について発展的な理解を深める。

《テキスト》

中学校教科書「中学保健体育」学習研究社、高等学校教科書「現代保健体育」大修館書店、中学校学習指導要領解説「保健体育」、高等学校学習指導要領解説「体育・保健体育」

《参考図書》

森昭三他「新保健の授業づくり入門」大修館書店 他
講義の際に適宜示します。

《授業の到達目標》

保健科教育の目標、内容、方法、評価についての今日的課題を説明できる。保健科教育の目標、内容、方法、評価について、学習指導要領、保健科教育研究や実践を分析・検討できる。

《授業時間外学習》

前時の学習内容の復習をするとともに、前時に示された次時の内容を予習しておきましょう。
また、受講者同士で協力して以下の事項の実践を推奨します。
(1) 授業中に示された課題を検討する
(2) 学習指導要領等の資料を読み込む

《成績評価の方法》

- (1) 小課題への取り組み (40%)
 - (2) 最終課題 (60%)
- の2点を基本とする。

《備考》

本講義は基本的に土曜日に隔週で実施されますが、行事等により変更が有り得るため、通知等には常に留意してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション及び保健科教育の歴史	オリエンテーション（授業計画、評価の確認） 保健科教育の変遷、保健科授業経験の検討
2	保健科における学力と保健科教育	保健科の学力と教育による学力の育成・向上に関する検討
3	保健科教育内容の検討（中学校）	中学校学習指導要領及び解説の検討
4	保健科教育内容の検討（高等学校）	高等学校学習指導要領及び解説の検討
5	保健科教育の教授 - 学習過程の検討	保健科教育の教授 - 学習過程の分析
6	保健教科書の分析（中学校）	中学校保健教科書内容の分析
7	保健教科書の分析（高等学校 単元1）	高等学校保健教科書の分析（現代社会と健康）
8	保健教科書の分析（高等学校 単元2・3）	高等学校保健教科書の分析（生涯を通じる健康、社会生活と健康）
9	保健科教育の教材論	保健科教育教材の分析
10	保健科教育の教材づくり（計画）	保健科教育教材づくり（計画から作成）
11	保健科教育の教材づくり（作成）	保健科教育教材づくり（作成から評価）
12	保健科教育の評価	保健科教育の評価とその今日的課題
13	保健科教育における評価の観点と評価の方法	保健科教育における評価の4観点と適切な評価方法に関する検討
14	保健科教育における具体的評価	保健科教育における観点別評価に適した評価方法の適用
15	まとめ	これまでの学習内容と得られた知見の再確認

《教職に関する科目》

科目名	保健科教育法Ⅱ（保健科教育法演習）				
担当者氏名	棟方 百熊				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

保健の授業では、健康に関する基礎的な内容の理解、現代的健康課題への対応、実践力の育成、学習方法の工夫等が求められている。それらをふまえて、教材研究、授業計画の作成、模擬授業の実践、カンファレンス、模擬授業改善を行う。これらを通じて保健の授業づくりの力を高める。

《テキスト》

中学校教科書「中学保健体育」学習研究社、高等学校教科書「現代保健体育」大修館書店、中学校学習指導要領解説「保健体育」、高等学校学習指導要領解説「体育・保健体育」

《参考図書》

森昭三他「新保健の授業づくり入門」大修館書店 他
講義の際に適宜示します。

《授業の到達目標》

保健の授業計画の立案、指導案の作成ができる。学生を児童・生徒にみため、模擬授業ができる。模擬授業を批評し、そのよかつた点、改善すべき点に関する意見を述べるができる。多様な観点からの修正意見に基づき、模擬授業を改善できる。

《授業時間外学習》

受講者同士で協力して以下の事項を実践することを推奨します。
○学習指導要領の関連部分を読み込む。
○教材研究を多角的に行う。
○課題を明確にした自主的な模擬授業を数多く行う。
○多様な意見を取り入れて積極的に改善に取り組む。

《成績評価の方法》

- (1) 授業計画・指導案の作成 (50%)
- (2) カンファレンスの積極的参加 (30%)
- (3) レポート (20%)

《備考》

本講義は基本的に土曜日に隔週で実施されますが、行事等により変更が有り得るため、通知等には常に留意してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション テーマの決定	オリエンテーション（授業計画、評価の確認） 個別のテーマ及び単元計画の検討
2	模擬授業計画立案	教材研究、指導案の作成
3	模擬授業計画の精査	指導案の評価、改善策の検討、指導案の完成
4	模擬授業の実施とカンファレンス	第4週～第14週 模擬授業の実施とカンファレンス 毎回、評価観点を示し、受講者による相互評価を行う。
5	模擬授業の実施とカンファレンス	各自による模擬授業とカンファレンスは次の手順で行う予定。
6	模擬授業の実施とカンファレンス	①模擬授業の実施
7	模擬授業の実施とカンファレンス	②模擬授業の評価
8	模擬授業の実施とカンファレンス	③カンファレンス
9	模擬授業の実施とカンファレンス	④まとめ（1）
10	模擬授業の実施とカンファレンス	⑤修正案の作成
11	模擬授業の実施とカンファレンス	⑥修正案の検討
12	模擬授業の実施とカンファレンス	⑦修正後の模擬授業の実施
13	模擬授業の実施とカンファレンス	⑧修正後の模擬授業の実施
14	模擬授業の実施とカンファレンス	⑨まとめ（2）
15	まとめ	個別の力量の評価と課題の整理

《教職に関する科目》

科目名	保健体育科教育法Ⅱ（保健体育科教育法研究）				
担当者氏名	後藤 幸弘				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

「学習指導要領解説（保健体育編）」を理解するとともに、教科内容（体育分野）を理解する。特に、教育内容を押さえた「的確な判断に基づく行動力の育成」のできる先生になる力を習得する。換言すれば、高い専門性に基づき教育現場での教科指導法について創意工夫できる力を養う。

《テキスト》

後藤幸弘編著「内容学と架橋する保健体育科教育論」晃洋書房
 文部科学省「中学校学習指導要領解説（保健体育編）」
 文部科学省「高等学校学習指導要領解説（保健体育編）」

《参考図書》

宇土正彦（監修）「学校体育授業事典」大修館書店
 日本体育学会（監修）「最新スポーツ科学事典」平凡社

《授業の到達目標》

保健体育科教育法Ⅰに引き続き、保健体育科成立の文化基盤である「身体運動文化」への興味・関心、認識・理解を深め、専門知識の習得及び中・高等学校保健体育科の授業担当者として求められる資質や実践的能力を身に付ける。

《授業時間外学習》

・ノートをもとめ復習する。また、次時の講義内容に当たるテキストの章を読んでおく。

《成績評価の方法》

・授業における討議への積極的参加（20%）、レポート（20%）及び試験（持ち込み不可）（60%）を総合的に評価する。

《備考》

・質問・連絡等があればメールでも受け付けます
 (ygoto@gaia.eonet.ne.jp)

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	保健体育科について（体育授業の構造、目標、運動領域等）
2	教育内容	普遍的教育内容について（技術、戦術、ルール、マナー、学びとり方の能力、他）
3	技術	技術について（運動技能の捉え方）
4	技術・ルール	ルールの変遷、技術の変遷を通して
5	技術・ルール・戦術	技術・ルール・戦術の関係について
6	球技分類論	球技のゲーム形式に基づく分類論と教育内容について
7	球技の指導法①	球技（攻防相乱型）の学習指導法について（課題ゲームを通して）
8	球技の指導法②	球技（攻防分離型）の学習指導法について（課題ゲームを通して）
9	球技の指導法③	作成した課題ゲームの検討
10	スポーツと国際理解	オリンピック教育について
11	武道の指導	武道（相撲、柔道）の学習指導について
12	体づくり運動①	体力について、腕立て伏臥腕屈伸運動の負荷量を考える
13	体づくり運動②	ストレッチングについて
14	体づくり運動③	主観的運動強度を用いた持久力の授業
15	試験問題の検討・まとめ	作成した試験問題の検討を通して講義のまとめを行う

《教職に関する科目》

科目名	道徳教育論				
担当者氏名	古田 薫				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・1期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

道徳教育の目的と特質、意義と課題を理解し、教科指導をはじめとする学校教育のさまざまな活動とのかかわりを考察する。学習指導案の作成と模擬授業を通じて、道徳の時間の進め方を習得し実践的指導力を獲得する。

《テキスト》

御前 充司・宮崎 正康・藤井 英之『中学生に道徳力をつける一授業ですぐ使える新資料35選』明治図書出版、2007年。

《参考図書》

小寺 正一・藤永 芳純（編）『道徳教育を学ぶ人のために』世界思想社、2009年。
道徳教育をすすめる有識者の会『13歳からの道徳教科書』扶桑社、2012年。

《授業の到達目標》

- 道徳教育の意義と課題について理解している。
- 道徳性の発達について理解している。
- 年間指導計画と全体計画を作成できる。
- 適切な資料を選択し、資料を活かす指導案を作成できる。
- 指導案に基づいて授業を実施することができる。

《授業時間外学習》

配布した資料をよく読み、予習をしておくこと。
課題（指導案の作成、模擬授業の準備）をグループの全員で協力して行うこと。

《成績評価の方法》

- ①受講態度（ディスカッションやグループワークへの参加度、発表回数等） 30%
- ②課題の提出と完成度 35%
- ③模擬授業 35%

《備考》

教育実習における道徳の授業にも対応できるよう、指導案の作成と模擬授業に真摯に取り組むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス 道徳とは何か	・本講義の進め方について理解し、主体的に学習に取り組む意欲を持つ。 ・道徳とは何か
2	道徳教育の必要性	・道徳の必要性 ・道徳教育とは
3	道徳教育の歴史	・戦前の道徳教育 ・戦後の道徳教育
4	道徳性の発達	・道徳性とは ・道徳性の発達理論と道徳教育
5	学校教育における道徳教育の意義と位置づけ	・教育の目的・目標と道徳教育、学習指導要領における道徳教育 ・他の教育活動との関連、道徳的実践の指導
6	道徳教育の年間指導計画と全体計画	・年間指導計画と全体計画の意義 ・作成の手順と作成上の留意点
7	道徳教育の授業理論	・道徳教育の授業理論の概要 ・道徳の授業の典型例
8	道徳教育と新しい課題	・道徳教育が直面する新しい課題 ・市民性教育、多文化教育、デス・エデュケーション
9	指導案の作成	・適切な資料の選定 ・指導案の作成の手順とポイント
10	模擬授業と相互評価①	・グループごとに指導案を作成して模擬授業を行い、相互評価することにより、道徳の授業の基本を習得する。改善案を話し合い、よりよい授業を完成する。
11	模擬授業と相互評価②	・グループごとに指導案を作成して模擬授業を行い、相互評価することにより、道徳の授業の基本を習得する。改善案を話し合い、よりよい授業を完成する。
12	模擬授業と相互評価③	・グループごとに指導案を作成して模擬授業を行い、相互評価することにより、道徳の授業の基本を習得する。改善案を話し合い、よりよい授業を完成する。
13	模擬授業と相互評価④	・グループごとに指導案を作成して模擬授業を行い、相互評価することにより、道徳の授業の基本を習得する。改善案を話し合い、よりよい授業を完成する。
14	模擬授業と相互評価⑤	・グループごとに指導案を作成して模擬授業を行い、相互評価することにより、道徳の授業の基本を習得する。改善案を話し合い、よりよい授業を完成する。
15	学習のまとめと振り返り	全体を振り返り、学習のまとめをするとともに自身の課題を明らかにする。

《教職に関する科目》

科目名	中学校教育実習（事前事後指導を含む）				
担当者氏名	三宅 一郎、大平 曜子、木下 幸文				
授業方法	実習	単位・必選	5・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

教育実習は、大学で学んだ知識、理論あるいは技術を教育実践の場で具体的に展開させる能力を養うものである。実際の授業や生徒指導を行うことを通じて、今まで学んだ理論や知識を結びつけて、生き生きとした教育を展開することが期待される。教育現場実習およびその事前事後指導を通じて、今後の学校教育や教師の課題を認識するとともに、その後の学部における教育活動に十分役立つようにすることを目的としている。

《授業の到達目標》

教育現場実習における事前指導では、実習にできるだけ抵抗感なく臨めるようにするとともに、教育実習に際して求められる必要不可欠な基礎的な事柄を確実に身につけることが出来る。教育実習の事後指導では、教育実習を通して学んだことを、教育実習前の自己の教育観、学校観、生徒観等と対比させながら、適正な自己評価と反省を踏まえて、今後の学校教育や教師の課題を認識することが出来るようになる。

《成績評価の方法》

基本的に欠席は認めない。ただし止む得ない事情の時は必ず事前に連絡すること。教育現場実習校による評価(教育実習成績報告書)における「総合評価」(20%)教育実習記録(実習ノート)(40%)事前事後指導における発表・課題提出(40%)

《テキスト》

兵庫大学健康システム学科「教育実習の手引き」その他、適宜紹介する

《参考図書》

文部科学省『中学校学習指導要領』国立印刷局文部科学省『高等学校学習指導要領』国立印刷局文部科学省『(各教科等の)学習指導要領解説編』東山書房

《授業時間外学習》

<予習方法>兵庫大学健康システム学科「教育実習の手引き」を熟読し、内容の理解する。内容によってはその時の対応や対処方法を考えまとめておく。<復習方法>学んだ内容のみならずその意味を理解し実習に備える能力を付けることを望む。

《備考》

履修要件を満たさなければ受講出来ない(介護等体験は終了済のこと)。教職免許取得の意志を明確にして主体的に取り組み、教諭を目指す学生としての、覚と誇りをもって臨むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	教育実習の心得や注意事項について理解する
2	教育実習の意義と目的	教育実習の意義や教育実習で学習する内容について説明することが出来る
3	教育実習への取り組み方	教育実習校への挨拶、面接、実習上の諸注意などについて理解する
4	学習指導案の作成演習	実習課題の明確化とその方法について
5	授業の教材研究・学習指導案の作成等	模擬授業の実施とその評価、学習指導案の作成について理解する
6	教育実習校でのオリエンテーション	指導方針等の確認、指導教員との打ち合せ等
7	教育現場実習1	体育・保健学習の実施(指導案の作成、教材作成)
8	教育現場実習2	学校における教育活動全般の理解、学んだことの実践
9	教育現場実習3	実践的指導能力の基礎を築くとともに教師としての資質を養う
10	教育現場実習4	実習による理論と技術の再構築および適性の検証
11	事後指導	実習終了後の処理、礼状の作成
12	事後研究1	教育現場実習の自己評価と反省
13	事後研究2	教育現場実習の自己評価と課題の確認
14	実習成果報告	教育実習で得られた知見や学習したことを整理して説明することが出来る
15	教育実習のまとめと反省	これまでの教育実習や事前事後指導で得られた知見について再確認し、その具体的な成果について説明することが出来る

《教職に関する科目》

科目名	高等学校教育実習（事前事後指導を含む）				
担当者氏名	三宅 一郎、大平 曜子、木下 幸文				
授業方法	実習	単位・必選	3・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

教育実習は、大学で学んだ知識、理論あるいは技術を教育実践の場で具体的に展開させる能力を養うものである。実際の授業や生徒指導を行うことを通じて、今まで学んだ理論や知識を結びつけて、生き生きとした教育を展開することが期待される。教育現場実習およびその事前事後指導を通じて、今後の学校教育や教師の課題を認識するとともに、その後の学部における教育活動に十分役立つようにすることを目的としている。

《授業の到達目標》

教育現場実習における事前指導では、実習にできるだけ抵抗感なく臨めるようにするとともに、教育実習に際して求められる必要不可欠な基礎的な事柄を確実に身につけることが出来る。教育実習の事後指導では、教育実習を通して学んだことを、教育実習前の自己の教育観、学校観、生徒観等と対比させながら、適正な自己評価と反省を踏まえて、今後の学校教育や教師の課題を認識することが出来るようになる。

《成績評価の方法》

基本的に欠席は認めない。ただし止む得ない事情の時は必ず事前に連絡すること。教育現場実習校による評価(教育実習成績報告書)における「総合評価」(20%)教育実習記録(実習ノート)(40%)事前事後指導における発表・課題提出(40%)

《テキスト》

兵庫大学健康システム学科「教育実習の手引き」その他、適宜紹介する

《参考図書》

文部科学省『中学校学習指導要領』国立印刷局文部科学省『高等学校学習指導要領』国立印刷局文部科学省『(各教科等の)学習指導要領解説編』東山書房

《授業時間外学習》

<予習方法>兵庫大学健康システム学科「教育実習の手引き」を熟読し、内容の理解する。内容によってはその時の対応や対処方法を考えまとめておく。<復習方法>学んだ内容のみならずその意味を理解し実習に備える能力を付けることを望む。

《備考》

履修要件を満たさなければ受講出来ない(介護等体験は終了済のこと)。教職免許取得の意志を明確にして主体的に取り組み、教諭を目指す学生としての、覚と誇りをもって臨むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	教育実習の心得や注意事項について理解する
2	教育実習の意義と目的	教育実習の意義や教育実習で学習する内容について説明することが出来る
3	教育実習への取り組み方	教育実習校への挨拶、面接、実習上の諸注意などについて理解する
4	学習指導案の作成演習	実習課題の明確化とその方法について
5	授業の教材研究・学習指導案の作成等	模擬授業の実施とその評価、学習指導案の作成について理解する
6	教育実習校でのオリエンテーション	指導方針等の確認、指導教員との打ち、せ等
7	教育現場実習1	体育・保健学習の実施(指導案の作成、教材作成)
8	教育現場実習2	学校における教育活動全般の理解、学んだことの実践
9	教育現場実習3	実践的指導能力の基礎を築くとともに教師としての資質を養う
10	教育現場実習4	実習による理論と技術の再構築および適性の検証
11	事後指導	実習終了後の処理、礼状の作成
12	事後研究1	教育現場実習の、己評価と反省
13	事後研究2	教育現場実習の、己評価と課題の確認
14	実習成果報告	教育実習で得られた知見や学習したことを整理して説明することが出来る
15	教育実習のまとめと反省	これまでの教育実習や事前事後指導で得られた知見について再確認し、その具体的な成果について説明することが出来る

《教職に関する科目》

科目名	養護実習（事前事後指導を含む）				
担当者氏名	大平 曜子、加藤 和代、米野 吉則				
授業方法	実習	単位・必選	5・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

養護実習は、これまでの専門知識や理論、技術や感性を、実践の場で展開していく、教職免許取得において重要な実習です。養護教諭の専門とする職務内容と、教師として知っておくべき事柄を再確認し、実習目的および各自の目標を明確に定め、実習校に赴きます。本科目は、事前指導（本時）から事後指導まで、全過程を終了した後に評価します。事後には実習における学びと課題を明らかにして報告会を開催します。

《授業の到達目標》

- 養護実習の手引の目標を理解し、自らの目標に反映できる。
- 養護教諭にとって必要な知識技術がわかり、その修得状況が確認できる。
- 定めた実習目標を達成すべく実習全般を通して取り組み、自分で自己評価ができる。
- 実習ノートの記載、事後の報告会のレジュメの作成、そして口頭発表まで、正確に情報発信ができる。

《成績評価の方法》

やむを得ない場合を除き、欠席はいっさい認めません。実習校評価(20%)、養護実習日誌の記録(40%)、事前事後指導での発表・レポート(実習報告会を含む)(40%)、100点満点で60点以上を合格とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	養護実習に向けて、心構えと注意点、勉強の進む方、実習と採用試験
2	養護実習内容について	教育職員に関する事、学校教育に関する事、学校保健の考え方、進め方に関する事
3	養護教諭について	養護教諭とは、保健室とは、保健室経営の仕方、保健室における対応の仕方、記録の方法
4	学校環境衛生	日常学校環境衛生検査、測定の実際
5	健康診断	定期健康診断の考え方、進め方、測定・検査の実際
6	保健指導	保健学習と保健指導、保健指導の指導案作成（課題の提示）
7	保健だより	保健だよりの意味と役割、校種別保健だよりの作成
8	学校事故の対応	学校事故と対応の仕方、記録の仕方
9	模擬授業	保健指導の実際（6週目の課題報告）
10	実習要項の確認	実習の手引きと日誌の配布、実習要項の確認と実習日誌の記入方法
11	実習手続き	実習手続きの確認、関係文書の作成
12	実習準備	実習校のための保健指導の指導案作成と、そのための資料収集など
13	実習準備	職務の点検
14	実習準備	職務の点検
15	実習準備	職務の点検

《テキスト》

兵庫大学健康システム学科作成の「養護実習の手引き」

《参考図書》

『新養護概説』 采女 智津江編 少年写真新聞社
『児童・生徒の健康診断マニュアル』 日本学校保健会、第一法規
その他、適宜紹介する。

《授業時間外学習》

実習に向けて文献を参考に知識の確認と定着をはかる。基礎的技術の確認は、各自で実習室を有効に利用して行う。実習期間中の生活時間帯を想定して、規則正しい生活習慣を確立しておく。

《備考》

養護実習(5単位)の内の1単位分に相当することを認識し、また、実習本番に向けて、各自が出来る限りの準備を行う。主体的参加と、自主的学習を要する。

平成 24（2012）年度入学者

専門教育科目

カリキュラム年次配当表

健康システム学科 平成24年度（2012年度）入学者対象

()は兼担、[]は兼任講師

授業科目区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		健康運動指導士	運動実践指導者	教員免許関係			学年配当(数字は週当たり授業時間)								平成27年度の担当者	ページ										
			必修	選択			養護	保健体育	保健	1年		2年		3年		4年													
										I	II	I	II	I	II	I	II												
専門 に 関 連 す る 科 目	体育原理	講義		2				△			2																		
	運動の基礎	講義		2		◇		△			2																		
	運動生理学	講義		2	▽	◇		△	□			2																	
	運動生理学演習	演習		2									2																
	運動栄養学	講義		2	▽	◇		△				2																	
	子ども運動学	講義		2	▽			△				2																	
	子ども運動学演習	演習		2				▲				2																	
	スポーツ医学概論	講義		2	▽								2																
	スポーツ心理学	講義		2	▽				▲				2																
	障害者スポーツ論	講義		2	▽																			2		[増田]・樽本	187		
	スポーツ史(体育史を含む)	講義		2					△																				
	スポーツ科学Ⅰ	演習		2																				2					
	スポーツ科学Ⅱ	演習		2																					2				
	トレーニング科学Ⅰ	演習		2	▽	◇							2																
	トレーニング科学Ⅱ	演習		2	▽									2															
	体力測定と評価	講義		2	▽	◇			▲			2																	
	スポーツ実践Ⅰ	演習		3	▽	◇			△			3																	
	スポーツ実践Ⅱ	演習		3	▽	◇			△				3																
	健康・体力づくり実践Ⅰ	演習		3	▽	◇			△				3																
	健康・体力づくり実践Ⅱ	演習		3	▽	◇			▲					3															
	スポーツ指導法Ⅰ	演習		2					△															2					
	スポーツ指導法Ⅱ	演習		2					△																2				
	健康・体力づくり指導法Ⅰ	演習		2	▽	◇																		2					
	健康・体力づくり指導法Ⅱ	演習		2	▽	◇																			2				
	運動処方論	講義		2																				2					
	運動処方演習	演習		2	▽																			2					
	運動負荷試験実習	実習		1	▽																			2					
	レクリエーション(野外活動を含む)	実習		2					△															4					
科 目	Ⅱ群	病理学概論	講義		2								2																
		薬理学	講義		2			○																2					
		養護概説Ⅰ	講義		2			○				2																	
		養護概説Ⅱ	講義		2			●				2																	
		養護活動演習	演習		2			○																2					
		養護活動実習	実習		2			○																2					
		学校保健Ⅰ(小児保健・学校安全を含む)	講義		2			●	△	□		2																	
		学校保健Ⅱ	講義		2			○	△	□			2																
		学校保健Ⅲ	講義		2			○	△	□				2															
		精神保健	講義		2			○	△	□														2					
		健康行動論	講義		2				△	□				2															
		健康統計学	講義		2				●	■														2					
		健康相談活動の理論と実践	講義		2			○																2					
		基礎看護学	演習		2			○						2															
		看護学Ⅰ	演習		3			○						3															
	看護学Ⅱ	演習		3			○							3															
	臨床看護実習	実習		2			○																4						
	救急看護(救急処置を含む)	演習		2	▽		○	△	□														2						

カリキュラム年次配当表

健康システム学科 平成24年度（2012年度）入学者対象
 ()は兼担、[]は兼任講師

授業科目区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		健康運動指導士	運動実践指導者	教員免許関係			学年配当(数字は週当たり授業時間)								平成27年度の担当者	ページ			
			必修	選択			養護	保健体育	保健	1年		2年		3年		4年						
										I	II	I	II	I	II	I	II					
専門 教育 研究 科目	卒業研究 I	演習	3															3		三宅 一郎	189	
	卒業研究 I	演習	3															3		大平 曜子	190	
	卒業研究 I	演習	3															3		多田 章夫	191	
	卒業研究 I	演習	3															3		古田 薫	192	
	卒業研究 I	演習	3															3		木下 幸文	193	
	卒業研究 I	演習	3															3		徳田 泰伸	194	
	卒業研究 I	演習	3															3		加藤 和代	195	
	卒業研究 I	演習	3															3		河野 稔	196	
	卒業研究 II	演習	3																3		三宅 一郎	197
	卒業研究 II	演習	3																3		大平 曜子	198
	卒業研究 II	演習	3																3		多田 章夫	199
	卒業研究 II	演習	3																3		古田 薫	200
	卒業研究 II	演習	3																3		木下 幸文	201
	卒業研究 II	演習	3																3		徳田 泰伸	202
	卒業研究 II	演習	3																3		加藤 和代	203
卒業研究 II	演習	3																3		河野 稔	204	
教 職 に 関 す る 科 目	教職概論	講義	2				○	△	□	2												
	教育原理	講義	2				○	△	□	2												
	教育史	講義	2				●	▲	■						2							
	教育心理学	講義	2				○	△	□				2									
	教育制度論	講義	2				○	△	□	2												
	教育課程論	講義	2				○	△	□				2									
	保健・保健体育科教育法Ⅰ(保健教育内容研究)	講義	2						△	□			2									
	保健・保健体育科教育法Ⅱ(保健教育法研究)	講義	2						△	□				2								
	保健科教育法Ⅰ(保健科教育教材研究)	講義	2							□				2								
	保健科教育法Ⅱ(保健科教育法演習)	講義	2							□					2							
	保健体育科教育法Ⅰ(保健体育科教育研究)	講義	2							△				2								
	保健体育科教育法Ⅱ(保健体育科教育法研究)	講義	2							△					2							
	道徳教育論	講義	2				○	△	□				2									
	特別活動論	講義	2				○	△	□				2									
	教育方法・技術論	講義	2				○	△	□				2									
	教育方法論	講義	2				●								2							
	生徒指導論(進路指導を含む)	講義	2				○	△	□				2									
	教育相談(カウンセリングを含む)	講義	2				○	△	□				2									
	中学校教育実習(事前事後指導を含む)	実習	5																5		三宅・大平・木下	205・206
	高等学校教育実習(事前事後指導を含む)	実習	3						△	□									3		三宅・大平・木下	207・208
養護実習(事前事後指導を含む)	実習	5						○										5		大平・加藤・米野	209・210	
教職実践演習(中・高)	演習	2							△	□										2	樽本 つぐみ	211
教職実践演習(養護教諭)	演習	2						○												2	加藤 和代	212

▽は健康運動指導士養成科目

◇は健康運動実践指導者養成科目

○は養護教諭免許必修科目、●は養護教諭免許選択科目

△は保健体育免許必修科目、▲は保健体育免許選択科目

□は保健免許必修科目、■は保健免許選択科目

※ 教職に関する科目を修得しても、卒業要件単位には含まれない。

※ 教育職員免許状を取得するためには、上記科目のほか、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目として、日本国憲法(2単位)、体育(2単位)、外国語コミュニケーション(2単位)、情報機器の操作(2単位)について、指定の科目を修得すること。

《専門教育科目 専門基礎科目》

科目名	教育特論Ⅲ				
担当者氏名	木下 幸文、加藤 和代				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる (情報発信力) ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく (知識の統合) ◎ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する (総合的判断力・実践力) ○ 3-2 効果的な意思疎通ができる (コミュニケーション力) 				

《授業の概要》

キャリアステップの最終段階として、学生はこれまでの学習内容を丁寧に見直すと共に、目標に沿って主体的に学習を進めることを求められる。Ⅲでは、教職課程を履修する学生のための教職専門や教科専門の学習に特化し、将来に生きる学修となるよう進めていく。授業は、専門性に応じて、全員あるいはグループに分かれ、学習内容に適した方法でおこなう。

《テキスト》

適宜プリントを配布する。

《参考図書》

適宜参考となる文献や資料を紹介する。

《授業の到達目標》

- 実習校に即した指導案を作成し、また、その完成度を高める
- 教育観、教師観、教育課題などを自らのことばで説明できる
- 教採試験内容を理解し、正答率を上げる

《授業時間外学習》

自己の学習の進度に応じ、次年度に向けた学習を計画的に進める。学習の中心は、時間外学習(家庭学習)にある。

《成績評価の方法》

確認テスト(30%)、課題提出(20%)、最終試験[教採模試](50%)

《備考》

授業は主体的学びの場であり、実力確認の場である。教育実習・養護実習の期間及び教採試験日程の関係上、一部、土曜日開講を行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方や評価方法についての説明、担当者の紹介、内容の確認
2	学習計画の作成 専門演習	教員採用試験の日程確認と各自の学習計画の作成 専門科目の試験対策演習
3	専門演習	専門演習と解説 (体育系は体育の指導案作成指導) (養護系は保健指導案作成)
4	エントリーシートの作成	エントリーシートの記入の添削を受ける
5	専門演習	専門演習と解説 (体育系は体育の指導案作成の課題発表) (養護系は保健指導案提出)
6	確認テスト① 傾向と対策	確認テストの結果をもとに、対応策を練る
7	専門演習	専門演習と解説
8	専門演習	専門演習と解説
9	専門演習	専門演習と解説
10	県別一次試験対策	面接等の有無に伴う個別対応
11	確認とテスト② 弱点補強	確認テストの結果をもとに、弱点強化の対策を講じる
12	専門演習	専門演習と解説
13	専門演習	専門演習と解説
14	専門演習	専門演習と解説
15	授業のまとめ[模擬試験]	最終確認を行う

科目名	地域活動演習Ⅱ				
担当者氏名	徳田 泰伸、河野 稔				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） ○ 3-2 効果的な意思疎通ができる（コミュニケーション力）				

《授業の概要》

地域社会における運動指導現場やボランティア現場等に参加し、実際の活動を通して、社会人としての行動を身につけ、指導者・教育者としての心構え、指導法、および、現場における課題等を体験的に学習する。実習先は、公共・民間のフィットネス施設、各種スポーツクラブおよびチーム、学校や教育施設、地方公共団体や非営利目的の諸団体等、その他、担当者が認めた施設・各種団体である。

《授業の到達目標》

- 地域の活動現場において、現場にいる人々と協同して行動できる。
- 大学での学修成果を、現場での指導や教育などの活動に生かせる。
- 現場での諸問題を理解し、その解決に向けて主体的に取り組める。

《成績評価の方法》

実習の記録（40%）、実習後の報告（40%）、平常点（20%）とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	15週の内容について話し合う。特に実習先の検討。学生の実習先の希望等について打ち、わせる
2	実習のシミュレーション(1)	実習先でのシミュレーションを行い、実習場面で発生する問題等について議論する：スポーツ組織の運営等
3	実習のシミュレーション(2)	各施設先（実習先）を想定し、2週目で発生した諸問題について検討し、指導力を養うための講義とするスポーツ組織の運営等
4	学外実習	実習先での授業（第1回目 挨拶、打ち合わせ、仕事の内容等について現場指導者との協議に入る）：スポーツ事業の計画、運営、実施等
5	学外実習	実習先での授業（第2回目 仕事の内容について具体的な指示を受ける）：スポーツ事業の計画、運営、実施等
6	学外実習	実習先での授業（第3回目 仕事の実践を通して客と対応していく）対応した内容について反省と明日への対応を検討する。広域スポーツセンターについて考える
7	学外実習	実習先での授業（第4回目 第3回目と同じく仕事の内容に対して反省と自分らしさの指導力を発揮していく）あわせて広域スポーツセンターの機能と役割についても学ぶ
8	学外実習	実習先での授業（第5回目 第4回目の内容をふまえ、自分の指導力への客の反応を反省し、明日への計画に生かしていく）地域におけるスポーツ振興について考える
9	学外実習	実習先での授業（第6回目 第5回目と同じく指導力を発揮し、その内容をふまえ、何が足りないか常に客との繋がりを重視する）地域におけるスポーツ振興について考える
10	学外実習	実習先での授業（第7回目 第6回目の内容をふまえ、実習後半の指導力を反省し、理論と実践を身につけていく）
11	学外実習	実習先での授業（第8回目 第7回目をふまえ、理論と実践が片寄りのない指導になっているかを検討する）
12	学外実習	実習先での授業（第9回目 第8回目をふまえ、各自の指導力が客に対して、評価がどのようなものかを確認する）
13	実習の反省	本学での授業の中で実習先での諸問題等について報告し反省会を開く
14	実習記録の作成	実習先での実習録を作成し、全員でまとめる（各施設ごと）
15	実習報告	各自の報告を発表形式で行う

《テキスト》

授業中に資料を配布する。

《参考図書》

ヘルス&フィットネス実務マニュアル「フィットネスクラブ内
○秘実務業務の手引書」（現場マニュアル）

《授業時間外学習》

予習としては、配布資料をよく読み、実習に備えておくこと。
復習としては、実習中の記録を適宜まとめておくこと。

《備考》

原則として、実習先の施設・各種団体へは自らの意思で参加すること。また、実習までに、これまでに学習した専門教育科目の内容を十分に復習しておくこと。

《専門教育科目 I群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	障害者スポーツ論				
担当者氏名	増田 和茂、樽本 つぐみ				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ◎ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） 				

《授業の概要》

スポーツは健常者だけが楽しみ豊かな生活と健康維持増進のために行うものではなく、障害がある者も同等に必要であり、権利として認められるものである。障害者が安心・安全にスポーツに取り組み、また、健康維持と社会参加への推進のために、障害を理解し、理論と実技の知識と実践指導力を身につける。

《テキスト》

障害者スポーツ指導教本（初級・中級）（株）ぎょうせい
全国障害者スポーツ大会競技規則集
（公財）日本障害者スポーツ協会

《参考図書》

アダプテッド・スポーツの科学ー障害者・高齢医者のスポーツ実践のための理論ー 市村出版

《授業の到達目標》

スポーツの指導は年齢、性別、体力、技能と障害の有無など個々の対象に適応した運動の方法や運動量を指導することである。個人に応じた競技スポーツから健康維持増進のためのスポーツに対し、アダプテッドスポーツ（適応させる）の考え方で、幼児から高齢者、そして障害者への創意工夫の理論と実技指導ができる指導者を養成する。

《授業時間外学習》

別日程で障害者スポーツセンターで車いすバスケットボールや視覚障害者の卓球などを体験学習（実技）する。

《成績評価の方法》

1. 障害者スポーツに関するテーマをレポート提示し、その視点、内容を評価（30%）
2. 基本的知識を1回のテスト（持込不可）で評価（70%）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	障害者福祉施策と障害者スポーツ	障害者の福祉施策と障害者のスポーツの基本的な知識を学び、現状と課題に触れる。
2	ボランティア論	障害者のスポーツ推進には、ボランティアの支援は欠かせない人財であり、その具体的な事例を学ぶ。
3	障害者スポーツの意義と理念	障害者がスポーツを行うことの意味と心身及び社会的な効果、具体的な事例から実際に対応できる知識を学ぶ。
4	日本障害者スポーツ協会資格認定制度	障害者スポーツの制度とその役割を知り、資格取得後の活動行動へ連動させる知識と情報を得る。
5	障害の理解とスポーツ（身体障害）	身体障害（肢体不自由、視覚障害、聴覚言語障害、内部障害）の基本的な知識を学び、指導、支援するために役立てる。
6	II-5-③障害者に応じたスポーツの工夫（身体障害）	身体障害（肢体不自由、視覚障害、聴覚言語障害、内部障害）のスポーツの基本的な知識を学び、指導、支援するために役立てる実技学習。
7	障害の理解の理解とスポーツ（知的障害）	知的障害の基本的な知識を学び、指導、支援するために役立てる。
8	障害者に応じたスポーツの工夫（知的障害）	知的障害のスポーツの基本的な知識を学び、指導、支援するために役立てる実技学習。
9	障害の理解の理解とスポーツ（精神障害）	精神障害の基本的な知識を学び、指導、支援するために役立てる。
10	障害者に応じたスポーツの工夫（精神障害）	精神障害のスポーツの基本的な知識を学び、指導、支援するために役立てる実技学習。
11	全国障害者スポーツ大会の概要	全国障害者スポーツ大会の概要、競技と種目、各競技規則を学び、予選ブロック大会やその選考大会となる各種大会を学ぶことで指導現場での情報を知る。
12	指導上の留意点と事例	障害、残存機能、性別、年齢、個人のスポーツ経験や目的に対応した指導上の留意点を学び事例報告から実践的な知識を身につける。
13	障害者との交流	障害のある方から具体的な生活、地域とのかかわりやスポーツに取り組むための現状と課題を聴き、社会や個人ができることを考究する。
14	安全管理と事例	スポーツの実施には、障害の有無に関わらず安全で効果的な運動が原則である。その中で障害者スポーツの事故事例などを学び、安全管理能力を習得する。
15	障害に応じた新たなスポーツの企画	障害者スポーツの指導や事業を計画するテーマから、プラン、実施、評価を踏まえてのシミュレーションをチームで企画する。

《専門教育科目 II 群（養護・保健に関連する科目）》

科目名	養護活動実習				
担当者氏名	大平 曜子、加藤 和代				
授業方法	実習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） ◎ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） ○ 3-3 人とつながり、責任をもって仕事を成し遂げる（リーダーシップ） 				

《授業の概要》

これまでに修得した保健室の機能と養護教諭の教育的役割を基盤に、実践的な養護教諭の活動の理解を学内実習をとおして深める。

《テキスト》

指定テキストなし

《参考図書》

授業の中で、適宜紹介する

《授業の到達目標》

- 養護教諭の行う保健管理、保健教育の活動の実際を学内実習をとおして体得する。
- 児童生徒一人ひとりを大切にしたい支援について理解し、校内体制、家庭や専門機関と連携について、養護教諭の活動を説明できる。

《授業時間外学習》

これまでに得た知識技術を確認・整理し、主体的にその研鑽に励むとともに、配布資料を確認し、授業内容の予習と復習を欠かさず行う。

《成績評価の方法》

小テスト(50%)、レポート(50%)で評価する。

《備考》

通年科目であり、評価は今期修了後に行う。実習科目であるため、出席はもちろんのこと、主体的に取り組む姿勢を重視する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	養護教諭の教育活動
2	疾病管理（1）	心臓疾患、腎臓疾患、糖尿病、アレルギー疾患
3	疾病管理（2）	感染症の予防管理、学校で予防すべき感染症、
4	疾病管理（3）	出席停止、臨時休業、予防接種
5	特別支援教育（1）	特別支援教育システムと役割
6	特別支援教育（2）	児童・生徒の障がいの理解と支援
7	組織活動の実際（1）	学校における保健組織と養護教諭の役割
8	組織活動の実際（2）	学校保健委員会における養護教諭の役割、委員会開催の実際
9	学校保健統計（1）	ソフトによる統計の実際（健康診断、欠席、保健室来室記録等）
10	学校保健統計（2）	災害報告、個人情報管理、データによる統計資料作成等の実際
11	学校行事と養護活動（1）	遠足、運動会、修学旅行、自然体験学習、保護者会等での養護活動
12	学校行事と養護活動（2）	養護活動の実際
13	学校医・学校歯科医・学校薬剤師の職務（1）	職務の実際と執務記録
14	学校医・学校歯科医・学校薬剤師の職務（2）	子どもの健康課題と学校医・学校歯科医と養護教諭とのかかわり
15	まとめ	養護教諭の教育活動と今後の課題、

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究 I				
担当者氏名	三宅 一郎				
授業方法	演習	単位・必修	3・必修	開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） ○ 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）				

《授業の概要》

(1)卒業研究は毎週、パソコンを使用して統計資料の入力と統計分析をおこなう。(2)インターネットを利用し、統計資料の収集をおこなう。(3)個別指導をおこなう。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料を配付する。

《授業の到達目標》

自分で考える力を養う。電算機を使う仕事に自信を持てる技術を身につける。統計分析の基礎が身につく。

《参考図書》

「健康・スポーツ科学のための研究方法」出村慎一（杏林書院）「手ぎわよい科学論文の仕上げ方」田中 潔（共立出版株式会社）「Excelによる健康・スポーツ科学のためのデータ解析入門」（出村慎一他）

《授業時間外学習》

<予習方法> 与えられたテーマを文献研究等を通してまとめる能力を付けて欲しい。<復習方法> 学んだ内容のみならずその意味を理解し今後の研究活動を実践する能力を付けて欲しい。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。研究態度・分析力等（60%）中間発表・中間報告書（40%）

《備考》

各自の研究は時間割に組まれている時間だけでなく、積極的に研究室に出向き電算機を使い研究を進めてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション、卒業研究の進め方	今後の卒業研究の進め方についてオリエンテーション。
2	テーマと研究計画について話し合う。	各自で興味を持ったテーマと研究計画を考える。
3	各自が決めた研究テーマについて	指導教官と具体的な計画を含めて考える。
4	各自で研究を進める	各自テーマに応じた文献を集めまとめる。
5	各自で研究を進める	各自テーマに応じた文献を集めまとめる。
6	各自で研究を進める	各自テーマに応じた文献を集めまとめる。
7	各自で研究を進める	各自文献研究を参考に具体的に研究計画をまとめる。
8	研究の途中経過発表(1)	各自の研究計画についてまとめ発表する。
9	各自で研究を進める	研究計画をより具体的に作る為、資料集めや予備実験をする。
10	各自で研究を進める	研究計画をより具体的に作る為、資料集めや予備実験をする。
11	各自で研究を進める	研究計画をより具体的に作る為、資料集めや予備実験をする。
12	各自で研究を進める	研究計画をより具体的に作る為、資料集めや予備実験をする。
13	各自で研究を進める	資料や予備実験を参考にし、研究計画を具体的にまとめる。
14	各自で研究を進める	各自の研究計画についてプレゼンテーションを行なう。
15	研究の途中経過発表(2)	各自の研究計画についてまとめ提出する。

科目名	卒業研究 I				
担当者氏名	大平 曜子				
授業方法	演習	単位・必選	3・必修	開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する (情報収集力) ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく (知識の統合) ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる (専門的知識) ○ 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する (統合的技術力)				

《授業の概要》

健康科学の基礎理論をもとに、日常見過ごしている事柄を研究の視点で見直し、明らかにしたいことを考えます。主に、人間を対象とする実証的研究を行うこととなりますが、基本的な方法や取り組み方は心理学の研究手法を参考にします。必須科目としてまた、健康科学の集大成と位置づけ、これまでの学習内容を丁寧に見直すと共に、研究テーマや課題への接近方法には独自性も加え、自主的に研究に取り組むことが求められます。

《授業の到達目標》

- 研究テーマにそって、研究計画をたてることができる。
- 研究方法を学び、科学的な調査・実験等の実施と結果の分析ができる。
- 研究の目的や研究方法を説明できる。
- 中間報告のレジュメを作成できる。
- 研究内容を口頭で説明することができる。(中間報告)

《成績評価の方法》

研究状況をレポートにして報告 (60%) し、終了時には研究の中間発表 (40%) を行う。100点満点で60点以上を合格とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	研究の進め方、研究室の使い方などの説明と確認。研究テーマの決定方法と手順について理解する
2	問題意識と研究方法	研究のための基本的知識とスキルの確認。文献、先行研究検索の方法
3	研究テーマを見つける	先行研究検索
4	データ収集の方法	図書館において、文献検索、論文検索、入手方法などの研修
5	統計処理の方法 (1)	統計手法の種類
6	統計処理の方法 (2)	統計手法を用いて実際の統計処理を体験的に実習
7	結果の出力	グラフの書き方 グラフの種類
8	出力結果を読み取る	既存のデータを参考に、結果の読み方を学ぶ
9	研究計画の再考	各自の研究計画書の作成と提出
10	実験・調査の方法	各自の研究計画書に基づいて、実験や調査の計画作成、内容の決定及び作成
11	実験・調査の実際	実験や調査の依頼にあたり、文書作成
12	レジュメの作成方法	レジュメの作成例をもとに中間報告のための各自のレジュメを作成する
13	実験・調査の結果	実験や調査の途中経過、結果の入力状況の確認、報告内容の決定
14	発表	現在までの結果から分かったこと今後の進め方等について発表する
15	授業のまとめ	これまでの学習と得られた知見を再確認し、具体的な成果を説明することができる

《テキスト》

研究進度に応じて、適宜授業の中で指定する。

《参考図書》

適宜参考となる文献や資料を紹介する。

《授業時間外学習》

自分の興味関心の対象を明確にするため、関連の文献を検索し、読んでおく。研究内容をノートに整理し、研究状況の報告書を作成する。

《備考》

研究室を有効に活用し、主体的にできるだけ早く課題に取り組む。主体的に取り組むことの中には、積極的に相談することも含まれる。欠席等の連絡は必須。

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究 I				
担当者氏名	多田 章夫				
授業方法	演習	単位・必選	3・必修	開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） ○ 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）				

《授業の概要》

研究とはいかなるものか、どのように進めていくかを理解するとともに、実践していく力を養う。研究テーマを決定し、研究目的を明らかにし、研究の円滑な推進に必要な準備を行っていく。

《テキスト》

指定しない。

《参考図書》

必要に応じて紹介する。

《授業の到達目標》

- 1 疫学概念を理解する
- 2 研究の手法を理解し実践できるようになる
- 3 研究に必要な文献を渉猟し、その内容を理解する

《授業時間外学習》

- 1 研究に必要な文献、資料等を積極的に渉猟する
- 2 常に、自分の研究の論理、仮説等を考える

《成績評価の方法》

- 1 平常点（研究意欲、進捗状況）50%
- 2 中間報告50%

《備考》

卒業研究は講義と異なり、所要時間が決まっておらず、その週における目標が達成されるまでは終了しないため、少なくとも毎週講義2時間分（90分×2）は必要とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション・研究の進め方の説明	疫学的研究とはどのように行うものなのか、今後、卒業研究で何を行っていくのかを理解する。
2	研究テーマの決定	今年度行っていく卒業研究のテーマを決定し、研究の方向性の概略を示す。
3	研究目的の決定・研究の設計	研究の目的を明確にし、目的達成のために必要な研究手法を理解する。
4	研究の設計（対象者・分析内容の決定）	疫学的なデータを入手するにあたり、対象者をどのような集団に設定するか、主な調査項目は何かを考える。
5	研究の設計・資料収集	調査項目を具体的に検討するとともに、研究に関連する文献や先行研究を入手する。
6	研究の設計・資料収集	調査項目を具体的に検討するとともに、研究に関連する文献や先行研究を入手する。
7	研究の設計・資料収集	調査項目を具体的に検討するとともに、研究に関連する文献や先行研究を入手する。
8	研究の設計・資料収集	調査項目を具体的に検討するとともに、研究に関連する文献や先行研究を入手する。
9	研究の設計・資料収集	調査項目を具体的に検討するとともに、研究に関連する文献や先行研究を入手する。
10	研究の設計・資料収集	調査項目を具体的に検討するとともに、研究に関連する文献や先行研究を入手する。
11	研究の設計・資料収集	調査項目を具体的に検討するとともに、研究に関連する文献や先行研究を入手する。
12	研究の設計・資料収集	調査項目を具体的に検討するとともに、研究に関連する文献や先行研究を入手する。
13	研究の設計・資料収集	調査項目を具体的に検討するとともに、研究に関連する文献や先行研究を入手する。
14	研究の設計・資料収集	調査項目を具体的に検討するとともに、研究に関連する文献や先行研究を入手する。
15	中間報告レポートのまとめ	第1-14週にかけて行ってきたこと（目的、対象、方法、参考文献）を中間報告としてまとめる。

科目名	卒業研究 I				
担当者氏名	古田 薫				
授業方法	演習	単位・必選	3・必修	開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） ○ 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）				

《授業の概要》

各自の興味関心や問題意識に沿った課題を設定し、必要な情報を収集・分析し、客観的根拠に基づいた考察を行い、結論を導き、論文という形態で表現し、プレゼンテーションで情報発信するという一連の過程を通じて、4年間の学習成果をまとめることを目的とする。ゼミでの交流により、相互の学習内容の深化と、学習方法のブラッシュアップを図る。

《授業の到達目標》

- 必要に応じた情報の検索、収集、選択ができる。
- 目的に応じた適切な方法で情報を分析することができる。
- 論理的思考に基づいた、客観的な考察を行うことができる。
- 論文の作成方法を理解し、正しい形式の論文をまとめることができる。
- 他の人の意見に耳を傾け、自分の意見を発表できる。
- 効果的なプレゼンテーションを行うことができる。

《成績評価の方法》

研究姿勢、進捗状況	30%
ゼミへの貢献度	10%
論文の完成度	50%
プレゼンテーション	10%

《テキスト》

必要に応じて資料を配布する。

《参考図書》

白井 利明・高橋 一郎『よくわかる卒論の書き方（やわらかアカデミズム・わかるシリーズ）』ミネルヴァ書房、2013年。
 酒井 隆『図解 アンケート調査と統計解析がわかる本』日本能率協会マネジメントセンター、2012年。

《授業時間外学習》

各自で研究を推進し、ゼミでの発表に向けてレジュメにまとめること

《備考》

時間割に設定された時間以外にもゼミを行う場合がある。予定の確認を怠らないこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	論文完成までのステップ、情報の整理、アイデアの管理、研究の進め方、ゼミの運営について
2	卒論構想の発表 1	テーマ（仮題）と研究計画（目的、方法、予定）について発表する。
3	卒論構想の発表 2	テーマ（仮題）と研究計画（目的、方法、予定）について発表する。
4	論文の枠組み設定 1	仮の目次を作成し、必要な情報を整理する。
5	論文の枠組み設定 2	仮の目次を作成し、必要な情報を整理する。
6	研究の目的と先行研究 1	先行研究の論文の到達地点と課題を整理し、研究の目的を明確にして発表する。
7	研究の目的と先行研究 2	先行研究の論文の到達地点と課題を整理し、研究の目的を明確にして発表する。
8	研究方法 1	どのような研究方法を用いるのかを検討し、具体的な手立てを考えて発表する。
9	研究方法 2	どのような研究方法を用いるのかを検討し、具体的な手立てを考えて発表する。
10	研究発表 1	研究の進捗状況を報告する。
11	研究発表 2	研究の進捗状況を報告する。
12	研究発表 3	研究の進捗状況を報告する。
13	研究発表 4	研究の進捗状況を報告する。
14	中間発表会	I期で得られた成果をレポートにまとめ、プレゼンテーションを行う。
15	まとめ	I期の成果を振り返り、II期に向けて研究計画を見直す。

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究 I				
担当者氏名	木下 幸文				
授業方法	演習	単位・必選	3・必修	開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） ○ 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）				

《授業の概要》

研究実施計画・方法等の立案
 研究実施準備（課題に関連する分野の文献調査・予備研究等）
 関連する研究論文の輪読
 予備実験の実施研究の中間報告

《テキスト》

特に指定しない

《参考図書》

その都度、適宜紹介する

《授業の到達目標》

卒業研究では、これまで学んできた知識をもとに、運動やスポーツに関する研究活動を通じて、より専門的な知識を深める。また、自ら問題を発見してその解決法を思考し、実際にその効果を確認するために実験を行いながら基本的な研究能力と問題解決能力を培うことが出来る。

《授業時間外学習》

研究内容について日々精査すること。

《成績評価の方法》

日々の研究に望む姿勢(40%)と中間報告会（発表・抄録）の内容(60%)から総合的に判断する。

《備考》

研究の内容や進捗状況によっては時間割外に勉強会を行う。時間割に設定された時間だけ行うのではなく、日常的に研究を遂行していくこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	研究仮説の設定	研究の進め方について
2	研究仮説の設定	研究テーマの設定
3	研究仮説の設定	研究テーマの設定
4	研究仮説の設定	研究テーマの設定
5	研究仮説の設定	研究テーマの設定
6	研究仮説の設定	研究テーマの設定
7	研究のデザインを策定	研究内容（研究プログラム）の構築
8	研究のデザインを策定	研究内容（研究プログラム）の構築
9	研究のデザインを策定	研究内容（研究プログラム）の構築
10	研究のデザインを策定	研究内容（研究プログラム）の構築
11	研究のデザインを策定	研究内容（研究プログラム）の構築
12	研究のデザインを策定	研究内容（研究プログラム）の構築
13	実験（研究）の実行	各自で研究を進める（予備実験の実施）
14	実験（研究）の実行	各自で研究を進める（予備実験の実施）
15	研究成果報告	研究報告会（中間報告会）の実施

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究 I				
担当者氏名	徳田 泰伸				
授業方法	演習	単位・必選	3・必修	開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） ○ 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）				

《授業の概要》

(1) 卒業研究は毎週、パソコンを使用して統計資料の入力と統計分析をおこなう。(2) インターネットを利用し、統計資料の収集をおこなう。(3) 個別指導をおこなう。

《テキスト》

その都度指示する

《参考図書》

授業で紹介する

《授業の到達目標》

自分で考える力を養う。電算機を使う仕事に自信を持てる技術を身につける。統計分析の基礎が身につく

《授業時間外学習》

話し合った課題・問題等について文献資料等十分に収集し読み分析し次回までにまとめておく

《成績評価の方法》

研究態度・分析力等（60%）、中間発表・中間報告書（40%）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	イントロダクション、卒業研究の進め方
2	研究計画	テーマと研究計画について話し合う
3	研究テーマ	各自が決めた研究テーマについて、指導教官と具体的な計画を話し合う
4	研究	各自で研究を進める
5	研究	各自で研究を進める
6	研究	各自で研究を進める
7	研究	各自で研究を進める
8	研究の途中経過発表（1）	研究の途中経過発表（1）
9	研究	各自で研究を進める
10	研究	各自で研究を進める
11	研究	各自で研究を進める
12	研究	各自で研究を進める
13	研究	各自で研究を進める
14	研究	各自で研究を進める
15	研究の途中経過発表（2）	研究の途中経過発表（2）

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究 I				
担当者氏名	加藤 和代				
授業方法	演習	単位・必選	3・必修	開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） ○ 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）				

《授業の概要》

これまでに学んだ心とからだの健康科学の基礎理論をもとに、自分が関心を持つ社会や教育の事象に目を向け、研究テーマや研究課題を設定する。テーマに沿った研究方法を学び、先行研究などの必要な文献や資料を収集し、計画的に自ら探求していく態度を養う。

《テキスト》

適宜指示する

《参考図書》

適宜指示する

《授業の到達目標》

- 研究に関する資料を作成し、研究計画を立てることができる
- 問題意識にもとづいて、明らかにしたいことを明確に表現できる
- テーマに関する参考文献、先行研究、統計資料などから意味や問題を読み取ることができる

《授業時間外学習》

研究の進捗状況を作成し、毎授業日に提出すること

《成績評価の方法》

研究姿勢、進捗状況（50%） 中間発表（50%）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	研究の進め方
2	研究の理解	研究の基本的知識、研究方法等の理解
3	データ収集の方法	先行論文、文献等検索、
4	研究テーマの検討	研究テーマ、研究方法の検討
5	研究テーマの決定	研究テーマ、研究方法の決定
6	研究計画の作成	経過報告、検討
7	研究計画の作成	経過報告、検討
8	データ収集の方法	質問紙作成の実際
9	データ収集の方法	質問紙の検討、経過報告
10	データ収集の方法	質問紙の検討、経過報告、決定
11	データ処理方法	データ処理の理解
12	データ処理方法	データ処理の理解
13	中間報告書の作成	研究目的、研究概要、研究計画、先行研究論文等の経過報告、検討
14	中間報告書の作成	研究目的、研究概要、研究計画、先行研究論文等の経過報告、決定
15	中間報告	中間報告会の実施

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究 I				
担当者氏名	河野 稔				
授業方法	演習	単位・必選	3・必修	開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） ○ 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）				

《授業の概要》

これまでの学修の集大成となる卒業研究において、先行研究や文献・資料の収集、資料の作成、調査・実験などの研究活動を行う上で基盤となる、研究手法の基礎について学ぶ。具体的には、各自のテーマに沿って、ICT（情報通信技術）を活用した研究活動、さまざまなデータの統計的分析の基礎を実践的に習得する。

《授業の到達目標》

- 研究テーマに沿って、先行研究や各種資料を収集できる。
- 統計的手法を用いて、各種の調査・実験を実施し、結果を分析できる。
- ICTを活用して、資料や調査・実験結果をまとめ、効果的に説明できる。

《成績評価の方法》

文献・資料の調査結果の提出物（50%）と中間報告書（50%）で評価する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	進め方の説明
2	文献・資料の調査(1)	アイデアの発散・収束・整理、テーマの絞り込み
3	文献・資料の調査(2)	図書館を活用した文献・資料の調査
4	文献・資料の調査(3)	学術情報データベースを活用した文献や資料の調査
5	文献・資料の調査(4)	調査した文献や資料の整理とその活用
6	統計的手法の利用(1)	記述統計（代表値と分散値）
7	統計的手法の利用(2)	記述統計（相関と回帰）
8	統計的手法の利用(3)	推測統計（区間推定、仮説検定の基礎）
9	統計的手法の利用(4)	推測統計（パラメトリックな検定手法）
10	統計的手法の利用(5)	推測統計（ノンパラメトリックな検定手法）
11	レジュメの作成(1)	レジュメ（中間報告書）作成上の注意事項、レジュメに必要な情報の整理
12	レジュメの作成(2)	レジュメの作成
13	レジュメの作成(3)	レジュメの作成と自己添削
14	レジュメの作成(4)	レジュメの完成
15	まとめ	全体の学習のふり返り

《テキスト》

使用しない。

《参考図書》

- 白井利明・高橋一郎(2013)『よくわかる卒論の書き方 [第2版]』ミネルヴァ書房
- 浦上昌則・脇田貴文『心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方』東京図書
- その他、参考となる文献や資料は適宜紹介する。

《授業時間外学習》

各自のテーマについて、先行・関連研究を読み込み、その研究内容や手法について理解し、疑問点などを整理しておくこと。学習内容をノートなどに記録し、自らのテーマに活用できるように、実践的を通して習得しておくこと。

《備考》

テーマの分野に関係なく、卒業研究に取り組む上で共通して必要となる知識や技能の習得を目指す。主体的な取り組みを期待する。

科目名	卒業研究Ⅱ				
担当者氏名	三宅 一郎				
授業方法	演習	単位・必選	3・必修	開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる (情報発信力) ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく (知識の統合) ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度 (生涯学習力) ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる (専門的知識)				

《授業の概要》

- (1) 卒業研究は毎週、パソコンを使用して統計資料の入力と統計分析をおこなう。
- (2) インターネットを利用し、統計資料の収集をおこなう。
- (3) 個別指導をおこなう。

《授業の到達目標》

自分で考える力を養う。電算機を使う仕事に自信を持てる技術を身につける。
 統計分析の基礎が身につく。発表能力を身につける。報告書作成方法を習得する。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。
 研究態度・分析力等 (60%)
 論文作成・プレゼンテーション能力 (40%)

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料を配付する。

《参考図書》

- 「健康・スポーツ科学のための研究方法」 出村慎一 (杏林書院)
- 「手ぎわよい科学論文の仕上げ方」 田中 潔 (共立出版株式会社)
- 「Excelによる健康・スポーツ科学のためのデータ解析入門」 (出村慎一他)

《授業時間外学習》

- <予習方法>
与えられたテーマを文献研究等を通してまとめる能力を付けて欲しい。
- <復習方法>
学んだ内容のみならずその意味を理解し今後の研究活動を実践する能力を付けて欲しい。

《備考》

各自の研究は時間割に組まれている時間だけでなく、積極的に研究室に出向き電算機を使い研究を進めてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	卒業研究の問題点について話し合い	卒業研究Ⅰでまとめた研究計画を実施する。
2	各自で研究を進める	卒業研究Ⅰでまとめた研究計画を実施する。
3	各自で研究を進める	指導教官と具体的な研究計画を最終確認する。
4	各自で研究を進める	各自が研究計画を基に調査、実験、集計、分析を実施。
5	各自で研究を進める	各自が研究計画を基に調査、実験、集計、分析を実施。
6	各自で研究を進める	各自が研究計画を基に調査、実験、集計、分析を実施。
7	各自で研究を進める	各自が研究計画を基に調査、実験、集計、分析を実施。
8	中間発表(1)、各自で研究を進める	これまでの調査、実験、集計、分析、結果を報告する。
9	中間発表(2)、各自で卒論の作成をおこなう	卒業論文を具体的にまとめる。
10	卒論の作成	卒業論文を具体的にまとめる。
11	卒論の作成	卒業論文を具体的にまとめる。
12	卒論の作成	卒業論文を具体的にまとめる。
13	卒論の作成	卒業論文を具体的にまとめる。
14	卒業研究発表会の準備と事前発表会	卒業論文発表資料作成。
15	卒業研究の発表会	卒業論文を発表する。

科目名	卒業研究Ⅱ				
担当者氏名	大平 曜子				
授業方法	演習	単位・必選	3・必修	開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる (情報発信力) ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく (知識の統合) ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度 (生涯学習力) ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる (専門的知識)				

《授業の概要》

これまで収集した文献や資料を有効に利用し、仮説・分析・考察といった、知的活動を通じて、研究の流れを学びます。ゼミ内での意見交換は研究を客観的にみるうえで有効です。手続きとして実験や調査などの実証的方法を用いますが、統計的データ分析の手法を理解し、科学性、公共性、倫理性など研究として成立するための諸条件についても理解したうえで、論文を完成させていきます。

《授業の到達目標》

- 研究計画にそって、研究を進めることができる。
- 科学的な研究方法をとり、調査・実験等の結果を有効に利用できる。
- 研究の目的や研究方法を説明できる。
- 最終報告のレジュメを作成する。
- 研究の概要をプレゼンテーションできる。

《成績評価の方法》

研究状況を毎回レポートにして報告 (20%)、論文の提出 (40%)、最終の卒業研究発表会で発表する (40%)
100点満点で60点以上を合格とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	卒業研究Ⅰの内容のまとめ 夏季休暇中の進捗状況の確認と今後の計画の修正
2	データの入力	データ集約
3	結果の出力	論文掲載のための結果出力
4	データの分析	論文完成までの間、データ分析を継続
5	論文作成 1章	論文の構成を考え、執筆に取り掛かる
6	論文作成 2章	論文の構成を考え、執筆に取り掛かる
7	論文作成 3章	論文の構成を考え、執筆に取り掛かる
8	論文作成 4章 まとめ	論文の構成を考え、執筆に取り掛かる
9	論文の構成の見直し	論文の全体構成を確認し、修正を加える
10	草稿提出	目次、参考文献、資料等を整理し、添付して体裁を整える
11	校正 レジュメ作成	レジュメを作成し、同時には発表原稿を作成する
12	発表用のスライド作成	パワーポイントの操作に習熟する
13	発表①	プレゼンテーションの実際を体験し、また、発表者相互に学び合う
14	発表②	プレゼンテーションの実際を体験し、また、発表者相互に学び合う
15	授業のまとめ	これまでの学習と得られた知見を再確認し、自己の成果を具体的に説明する

《テキスト》

研究進度に応じて、適宜授業の中で指示する。

《参考図書》

適宜参考となる文献や資料を紹介する。

《授業時間外学習》

文献検索や調査・実験など各自の研究方法に基づく研究の推進。
研究内容をノートに整理し、論文にまとめていく。

《備考》

研究室を有効に活用し、主体的にできるだけ早く課題に取り掛かる。主体的に取り組むことの中には、積極的に相談することも含まれる。欠席等の連絡は必須。

科目名	卒業研究Ⅱ				
担当者氏名	多田 章夫				
授業方法	演習	単位・必選	3・必修	開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる (情報発信力) ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく (知識の統合) ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度 (生涯学習力) ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる (専門的知識)				

《授業の概要》

研究を行う上で必須である基本的な手技を身につける。研究により得られたデータを分析し、その内容からどのような所見が導き出せるか、先行研究等と比較してどのような状況にあるかを考察し結論を導き出す。

《テキスト》

指定しない。

《参考図書》

必要に応じて紹介する。

《授業の到達目標》

- 1 研究データを正確に分析する能力を身につける
- 2 分析データと先行研究との比較を行う能力を身につける
- 3 分析データから正しい結論を導き出す能力を身につける

《授業時間外学習》

- 1 研究に必要な文献、資料等を積極的に渉猟する
- 2 常に、自分の研究の論理、仮説等を考える

《成績評価の方法》

- 1 平常点 (研究意欲、進捗状況) 40%
- 2 作成論文60%

《備考》

卒業研究は講義と異なり、所要時間が決まっておらず、その週における目標が達成されるまでは終了しないため、少なくとも毎週講義2時間分 (90分×2) は必要とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	研究結果の解析	アンケート調査等により得られたデータをコンピューター (excelシート) に入力する。
2	研究結果の解析	ピボットテーブルを用いてクロス集計を行う。
3	研究結果の解析	クロス集計を基に解析した結果を示すグラフを作成する。
4	研究結果の解析	クロス集計を基に解析した結果を示すグラフを作成する。
5	研究結果の解析	SPSSを用いてカテゴリー間の頻度の差に関する有意差検定を行う。
6	研究論文作成	研究を行うに当たり、その背景となった事項や研究目的を記載する。必要な参考文献を検索する。
7	研究論文作成	研究を行うに当たり、その背景となった事項や研究目的を記載する。必要な参考文献を検索する。
8	研究論文作成	どのような対象者を用いたか、どのようにしてデータを入手し解析したかを記載する。
9	研究論文作成	研究結果を客観的に記載する。結果に対応する図表に番号を付けて、本文にも記入する。
10	研究論文作成	研究結果から明らかにされたことについて、先行研究との比較などをしながら考察を行う。
11	研究論文作成	研究結果から明らかにされたことについて、先行研究との比較などをしながら考察を行う。
12	研究論文作成	研究結果から明らかにされたことについて、先行研究との比較などをしながら考察を行う。
13	卒業論文提出	卒業論文を完成させて提出する。
14	卒業研究発表の準備	卒業論文発表用の要旨を完成させるとともに、発表媒体 (パワーポイント等) を完成させる。
15	卒業研究の発表	卒業論文発表用の原稿を完成させ、その内容の概要を把握する。

科目名	卒業研究Ⅱ				
担当者氏名	古田 薫				
授業方法	演習	単位・必選	3・必修	開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） ○ 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）				

《授業の概要》

各自の興味関心や問題意識に沿った課題を設定し、必要な情報を収集・分析し、客観的根拠に基づいた考察を行い、結論を導き、論文という形態で表現し、プレゼンテーションで情報発信するという一連の過程を通じて、4年間の学習成果をまとめることを目的とする。ゼミでの交流により、相互の学習内容の深化と、学習方法のブラッシュアップを図る。

《授業の到達目標》

- 必要に応じた情報の検索、収集、選択ができる。
- 目的に応じた適切な方法で情報を分析することができる。
- 論理的思考に基づいた、客観的な考察を行うことができる。
- 論文の作成方法を理解し、正しい形式の論文をまとめることができる。
- 他の人の意見に耳を傾け、自分の意見を発表できる。
- 効果的なプレゼンテーションを行うことができる。

《成績評価の方法》

研究姿勢、進捗状況	30%
ゼミへの貢献度	10%
論文の完成度	50%
プレゼンテーション	10%

《テキスト》

必要に応じて資料を配布する。

《参考図書》

白井 利明・高橋 一郎『よくわかる卒論の書き方（やわらかアカデミズム・わかるシリーズ）』ミネルヴァ書房、2013年。
 酒井 隆『図解 アンケート調査と統計解析がわかる本』日本能率協会マネジメントセンター、2012年。

《授業時間外学習》

各自で研究を推進し、ゼミでの発表に向けてレジュメにまとめること

《備考》

時間割に設定された時間以外にもゼミを行う場合がある。予定の確認を怠らないこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	研究発表1	夏休み中の進捗状況とⅡ期の研究計画について報告する。
2	研究発表2	データや情報の分析結果について発表する。
3	研究発表3	データや情報の分析結果について発表する。
4	研究発表4	考察と結論について発表する。
5	研究発表5	考察と結論について発表する。
6	卒業論文の作成と相互批評1	卒業論文を執筆し、進捗状況を報告する。相互批評を行い、修正する。
7	卒業論文の作成と相互批評2	卒業論文を執筆し、進捗状況を報告する。相互批評を行い、修正する。
8	卒業論文の作成と相互批評3	卒業論文を執筆し、進捗状況を報告する。相互批評を行い、修正する。
9	卒業論文の作成と相互批評4	卒業論文を執筆し、進捗状況を報告する。相互批評を行い、修正する。
10	論文の草稿提出	草稿を提出し、相互批評および添削を行う。
11	論文の完成と提出	論文の最終チェックを行い、完成させる。論文を提出する。
12	プレゼンテーション準備	卒業研究発表会に向けて、資料とスライドを作成する。
13	卒業研究発表会準備1	プレゼンテーションの予行とブラッシュアップを行い、発表会に備える。
14	卒業研究発表会準備2	プレゼンテーションの予行とブラッシュアップを行い、発表会に備える。
15	卒業研究発表会	卒業研究で得られた成果のプレゼンテーションを行う。

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究Ⅱ				
担当者氏名	木下 幸文				
授業方法	演習	単位・必選	3・必修	開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）				

《授業の概要》

各自のテーマに沿った実験の実施および各指標の測定とその分析
卒業研究論文の作成
最終成果報告として卒業論文発表会の実施

《テキスト》

特に指定しない

《参考図書》

その都度、適宜紹介する

《授業の到達目標》

卒業研究では、これまで学んできた知識をもとにして、運動やスポーツに関する研究活動を通じ、より専門的な知識を深める。また、自ら問題を発見してその解決法を思考し、実際にその効果を確認するための実験を行いながら基本的な研究能力と問題解決能力を培うことができる。

《授業時間外学習》

研究内容について日々精査すること。
日常的に研究に関する資料を収集して精読し、卒業研究活動が効率よく行えるようにしておくこと。

《成績評価の方法》

「授業の到達目標」を踏まえた上で、卒業論文と卒業研究発表会（80%）、日々の研究に臨む姿勢（20%）

《備考》

研究の内容や進捗状況によって時間割外に勉強会を実施する。時間割に設定された時間だけで行うのではなく、日常的に研究を遂行していくこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	実験（研究）の実行	各自で実験（研究）を進める
2	実験（研究）の実行	各自で実験（研究）を進める
3	実験（研究）の実行	各自で実験（研究）を進める
4	実験（研究）の実行	各自で実験（研究）を進める
5	実験（研究）の実行	各自で実験（研究）を進める
6	実験の検証	各自の実験結果に対する検証と考察 卒業研究論文の作成
7	実験の検証	各自の実験結果に対する検証と考察 卒業研究論文の作成
8	実験の検証	各自の実験結果に対する検証と考察 卒業研究論文の作成
9	実験の検証	各自の実験結果に対する検証と考察 卒業研究論文の作成
10	実験の検証	各自の実験結果に対する検証と考察 卒業研究論文の作成
11	実験の検証	各自の実験結果に対する検証と考察 卒業研究論文の作成
12	実験の検証	各自の実験結果に対する検証と考察 卒業研究論文の作成
13	実験の検証	各自の実験結果に対する検証と考察 卒業研究論文の作成（研究報告会の抄録および資料の作成）
14	実験の検証	各自の実験結果に対する検証と考察 卒業研究論文の作成（研究報告会の抄録および資料の作成）
15	卒業研究報告会	研究プレゼンテーションによる情報の発信と卒業研究論文の再考

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究Ⅱ				
担当者氏名	徳田 泰伸				
授業方法	演習	単位・必選	3・必修	開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） ○ 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）				

《授業の概要》

(1) 卒業研究は毎週、パソコンを使用して統計資料の入力と統計分析をおこなう。(2) インターネットを利用し、統計資料の収集をおこなう。(3) 個別指導をおこなう。

《テキスト》

その都度指示する

《参考図書》

授業で紹介する

《授業の到達目標》

自分で考える力を養う。電算機を使う仕事に自信を持てる技術を身につける。統計分析の基礎が身につく

《授業時間外学習》

話し合った課題・問題等について文献資料等十分に収集し読み分析し次回までにまとめておく

《成績評価の方法》

研究態度・分析力等（60%）、中間発表・中間報告書（40%）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	イントロダクション、卒業研究の進め方
2	研究計画	テーマと研究計画について話し合う
3	研究テーマ	各自が決めた研究テーマについて、指導教官と具体的な計画を話し合う
4	研究	各自で研究を進める
5	研究	各自で研究を進める
6	研究	各自で研究を進める
7	研究	各自で研究を進める
8	研究の途中経過発表（1）	研究の途中経過発表（1）
9	研究	各自で研究を進める
10	研究	各自で研究を進める
11	研究	各自で研究を進める
12	研究	各自で研究を進める
13	研究	各自で研究を進める
14	研究	各自で研究を進める
15	研究の途中経過発表（2）	研究の途中経過発表（2）

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究Ⅱ				
担当者氏名	加藤 和代				
授業方法	演習	単位・必選	3・必修	開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる (情報発信力) ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく (知識の統合) ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度 (生涯学習力) ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる (専門的知識)				

《授業の概要》

研究テーマに沿って、取り組み方を見出し検証していくなどの研究過程は、柔軟な発想と積極性があれば面白みも見いだせる。研究論文を書き上げ、発表を行うことは、大学4年間の学びの集大成であり、最も自分を成長させる場となる。併せて卒業後社会に貢献できる多面的な応用能力の養成も目指す。

《テキスト》

使用しない

《参考図書》

各自の研究テーマに合わせて、必要な文献等をその都度紹介する。

《授業の到達目標》

- データを統計的に分析し、先行研究と比較して論理的に考察することができる
- 研究成果を研究論文としてまとめることができる
- 研究発表会で、研究の概要をわかりやすく適切に伝えることができる

《授業時間外学習》

研究の進捗状況を毎授業日に提出すること

《成績評価の方法》

研究姿勢、進捗状況 (30%)、研究論文 (40%)、研究発表 (30%)

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	研究計画確認、進捗状況の確認、研究のまとめ方
2	統計処理	質問紙等調査実施、データ入力
3	統計処理	質問紙等調査実施、データ入力
4	統計分析	記述統計、検定、解析、グラフ作成
5	統計分析	記述統計、検定、解析、グラフ作成
6	卒業論文の作成	研究のまとめ方、研究論文の構成、章立て及びその内容
7	卒業論文の作成	論文の作成と添削
8	卒業論文の作成	論文の作成と添削
9	卒業論文の作成	論文の作成と添削
10	卒業論文の作成	論文の作成と添削
11	卒業論文の提出	論文の仕上げ
12	研究発表会の準備	研究要約の作成、パワーポイントのスライド作成
13	研究発表会準備	研究要約の作成、パワーポイントのスライド作成、プレゼンテーションリハーサル
14	研究発表会	発表の振り返り、論文修正
15	まとめ	発表の振り返り、論文修正

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究Ⅱ				
担当者氏名	河野 稔				
授業方法	演習	単位・必選	3・必修	開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる (情報発信力) ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく (知識の統合) ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度 (生涯学習力) ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる (専門的知識)				

《授業の概要》

これまでの学修の集大成となる卒業研究において、先行研究や文献・資料の収集、資料の作成、調査・実験などの研究活動を行う上で必要となる、研究手法の活用について学ぶ。
 具体的には、各自のテーマに沿って、さまざまな統計的手法とICT（情報通信技術）を適切に活用し、卒業論文をまとめ上げるための知識や技能を、実践を通じて習得する。

《授業の到達目標》

- 研究テーマに沿って、必要な文献や各種資料を収集できる。
- 統計的手法とICTを用いて、調査・実験を計画・実施し、適切に分析できる。
- ICTを活用して、論文や口頭発表の資料をまとめることができる。

《成績評価の方法》

ゼミ時間での提出物（20%）と卒業論文（40%）と口頭発表の内容（40%）で評価する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	進め方の説明、研究経過の報告
2	調査・実験結果の活用(1)	表計算ソフトを利用した結果データの整理
3	調査・実験結果の活用(2)	表計算ソフトや統計分析ソフトを利用した結果データの分析
4	調査・実験結果の活用(3)	表計算ソフトや統計分析ソフトを利用した結果データの分析
5	調査・実験結果の活用(4)	分析結果のワープロやプレゼンテーションソフトでの利用
6	卒業論文の作成(1)	ワープロを利用した論文作成
7	卒業論文の作成(2)	卒業論文の作成
8	卒業論文の作成(3)	卒業論文の作成と添削
9	卒業論文の作成(4)	卒業論文の作成と添削
10	卒業論文の作成(5)	卒業論文の仕上げ、卒業論文の提出
11	研究成果の発表の準備(1)	抄録（レジюме）の作成と添削
12	研究成果の発表の準備(2)	口頭発表用資料（スライド）の作成と添削
13	研究成果の発表の準備(3)	口頭発表用資料（スライド）の作成と添削
14	卒業研究の発表会	卒業研究の口頭発表
15	まとめ	全体のふり返り

《テキスト》

使用しない。

《参考図書》

○松井豊（2010）『改訂版 心理学論文の書き方-卒業論文や修士論文を書くために』河出書房新社
 その他、参考となる文献や資料は、適宜紹介する。

《授業時間外学習》

先行・関連研究で用いられた情報や手法などへの理解を進め、自らの研究にどのように適用するかを検討しておくこと。
 研究計画に基づいて、研究活動を自主的に進め、その状況や調査・実験の結果を逐一を記録し整理しておくこと。

《備考》

テーマの分野に関係なく、卒業研究に取り組む上で共通して必要となる知識や技能の習得を目指す。主体的な取り組みを期待する。

《教職に関する科目》

科目名	中学校教育実習（事前事後指導を含む）				
担当者氏名	三宅 一郎、大平 曜子、木下 幸文				
授業方法	実習	単位・必選	5・選択	開講年次・開講期	4年・通年（I期）
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

教育実習は、大学で学んだ知識、理論あるいは技術を教育実践の場で具体的に展開させる能力を養うものである。実際の授業や生徒指導を行うことを通じて、今まで学んだ理論や知識を結びつけて、生き生きとした教育を展開することが期待される。教育現場実習およびその事前事後指導を通じて、今後の学校教育や教師の課題を認識するとともに、その後の学部における教育活動に十分役立つようにすることを目的としている。

《授業の到達目標》

教育現場実習における事前指導では、実習にできるだけ抵抗感なく臨めるようにするとともに、教育実習に際して求められる必要不可欠な基礎的な事柄を確実に身につけることが出来る。教育実習の事後指導では、教育実習を通して学んだことを、教育実習前の自己の教育観、学校観、生徒観等と対比させながら、適正な自己評価と反省を踏まえて、今後の学校教育や教師の課題を認識することが出来るようになる。

《成績評価の方法》

基本的に欠席は認めない。ただし止む得ない事情の時は必ず事前に連絡すること。教育現場実習校による評価（教育実習成績報告書）における「総合評価」（20％）教育実習記録（実習ノート）（40％）事前事後指導での活動（40％）

《テキスト》

兵庫大学健康システム学科「教育実習の手引き」その他、適宜紹介する

《参考図書》

文部科学省『中学校学習指導要領』国立印刷局文部科学省『高等学校学習指導要領』国立印刷局文部科学省『(各教科等の)学習指導要領解説編』東山書房

《授業時間外学習》

<予習方法>兵庫大学健康システム学科「教育実習の手引き」を熟読し、内容の理解する。内容によってはその時の対応や対処方法を考えまとめておく。<復習方法>学んだ内容のみならずその意味を理解し実習に備える能力を付けることを望む。

《備考》

履修要件を満たさなければ受講出来ない（介護等体験は終了済のこと）。教職免許取得の意志を明確にして主体的に取り組み、教諭を目指す学生としての自覚と誇りをもって臨むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	教育実習の心得や注意事項について理解する
2	教育実習の意義と目的	教育実習の意義や教育実習で学習する内容について説明することが出来る
3	教育実習への取り組み方	教育実習校への挨拶、面接、実習上の諸注意などについて理解する
4	学習指導案の作成演習	実習課題の明確化とその方法について
5	授業の教材研究・学習指導案の作成等	模擬授業の実施とその評価、学習指導案の作成について理解する
6	教育実習校でのオリエンテーション	指導方針等の確認、指導教員との打ち合せ等
7	教育現場実習1	体育・保健学習の実施（指導案の作成、教材作成）
8	教育現場実習2	学校における教育活動全般の理解、学んだことの実践
9	教育現場実習3	実践的指導能力の基礎を築くとともに教師としての資質を養う
10	教育現場実習4	実習による理論と技術の再構築および適性の検証
11	事後指導	実習終了後の処理、礼状の作成
12	事後研究1	教育現場実習の自己評価と反省
13	事後研究2	教育現場実習の自己評価と課題の確認
14	実習成果報告	教育実習で得られた知見や学習したことを整理して説明することが出来る
15	教育実習のまとめと反省	これまでの教育実習や事前事後指導で得られた知見について再確認し、その具体的な成果について説明することが出来る

《教職に関する科目》

科目名	中学校教育実習（事前事後指導を含む）				
担当者氏名	三宅 一郎、大平 曜子、木下 幸文				
授業方法	実習	単位・必選	5・選択	開講年次・開講期	4年・通年(Ⅱ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

教育実習は、大学で学んだ知識、理論あるいは技術を教育実践の場で具体的に展開させる能力を養うものである。実際の授業や生徒指導を行うことを通じて、今まで学んだ理論や知識を結びつけて、生き生きとした教育を展開することが期待される。教育現場実習およびその事前事後指導を通じて、今後の学校教育や教師の課題を認識するとともに、その後の学部における教育活動に十分役立つようにすることを目的としている。

《授業の到達目標》

教育現場実習における事前指導では、実習にできるだけ抵抗感なく臨めるようにするとともに、教育実習に際して求められる必要不可欠な基礎的な事柄を確実に身につけることが出来る。教育実習の事後指導では、教育実習を通して学んだことを、教育実習前の自己の教育観、学校観、生徒観等と対比させながら、適正な自己評価と反省を踏まえて、今後の学校教育や教師の課題を認識することが出来るようになる。

《成績評価の方法》

基本的に欠席は認めない。ただし止む得ない事情の時は必ず事前に連絡すること。教育現場実習校による評価(教育実習成績報告書)における「総合評価」(20%)教育実習記録(実習ノート)(40%)事前事後指導での活動(40%)

《テキスト》

兵庫大学健康システム学科「教育実習の手引き」その他、適宜紹介する

《参考図書》

文部科学省『中学校学習指導要領』国立印刷局文部科学省『高等学校学習指導要領』国立印刷局文部科学省『(各教科等の)学習指導要領解説編』東山書房

《授業時間外学習》

<予習方法>兵庫大学健康システム学科「教育実習の手引き」を熟読し、内容の理解する。内容によってはその時の対応や対処方法を考えまとめておく。<復習方法>学んだ内容のみならずその意味を理解し実習に備える能力を付けることを望む。

《備考》

履修要件を満たさなければ受講出来ない(介護等体験は終了済のこと)。教職免許取得の意志を明確にして主体的に取り組み、教諭を目指す学生としての自覚と誇りをもって臨むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	教育実習の心得や注意事項について理解する
2	教育実習の意義と目的	教育実習の意義や教育実習で学習する内容について説明することが出来る
3	教育実習への取り組み方	教育実習校への挨拶、面接、実習上の諸注意などについて理解する
4	学習指導案の作成演習	実習課題の明確化とその方法について
5	授業の教材研究・学習指導案の作成等	模擬授業の実施とその評価、学習指導案の作成について理解する
6	教育実習校でのオリエンテーション	指導方針等の確認、指導教員との打ち合せ等
7	教育現場実習1	体育・保健学習の実施(指導案の作成、教材作成)
8	教育現場実習2	学校における教育活動全般の理解、学んだことの実践
9	教育現場実習3	実践的指導能力の基礎を築くとともに教師としての資質を養う
10	教育現場実習4	実習による理論と技術の再構築および適性の検証
11	事後指導	実習終了後の処理、礼状の作成
12	事後研究1	教育現場実習の自己評価と反省
13	事後研究2	教育現場実習の自己評価と課題の確認
14	実習成果報告	教育実習で得られた知見や学習したことを整理して説明することが出来る
15	教育実習のまとめと反省	これまでの教育実習や事前事後指導で得られた知見について再確認し、その具体的な成果について説明することが出来る

《教職に関する科目》

科目名	高等学校教育実習（事前事後指導を含む）				
担当者氏名	三宅 一郎、大平 曜子、木下 幸文				
授業方法	実習	単位・必選	3・選択	開講年次・開講期	4年・通年（I期）
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

教育実習は、大学で学んだ知識、理論あるいは技術を教育実践の場で具体的に展開させる能力を養うものである。実際の授業や生徒指導を行うことを通じて、今まで学んだ理論や知識を結びつけて、生き生きとした教育を展開することが期待される。教育現場実習およびその事前事後指導を通じて、今後の学校教育や教師の課題を認識するとともに、その後の学部における教育活動に十分役立つようにすることを目的としている。

《授業の到達目標》

教育現場実習における事前指導では、実習にできるだけ抵抗感なく臨めるようにするとともに、教育実習に際して求められる必要不可欠な基礎的な事柄を確実に身につけることが出来る。教育実習の事後指導では、教育実習を通して学んだことを、教育実習前の自己の教育観、学校観、生徒観等と対比させながら、適正な自己評価と反省を踏まえて、今後の学校教育や教師の課題を認識することが出来るようになる。

《成績評価の方法》

基本的に欠席は認めない。ただし止む得ない事情の時は必ず事前に連絡すること。教育現場実習校による評価(教育実習成績報告書)における「総合評価」(20%) 教育実習記録(実習ノート)(40%) 事前事後指導での活動(40%)

《テキスト》

兵庫大学健康システム学科「教育実習の手引き」その他、適宜紹介する

《参考図書》

文部科学省『中学校学習指導要領』国立印刷局文部科学省『高等学校学習指導要領』国立印刷局文部科学省『(各教科等の)学習指導要領解説編』東山書房

《授業時間外学習》

<予習方法> 兵庫大学健康システム学科「教育実習の手引き」を熟読し、内容の理解する。内容によってはその時の対応や対処方法を考えまとめておく。<復習方法> 学んだ内容のみならずその意味を理解し実習に備える能力を付けることを望む。

《備考》

履修要件を満たさなければ受講出来ない(介護等体験は終了済のこと)。教職免許取得の意志を明確にして主体的に取り組み、教諭を目指す学生としての自覚と誇りをもって臨むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	教育実習の心得や注意事項について理解する
2	教育実習の意義と目的	教育実習の意義や教育実習で学習する内容について説明することが出来る
3	教育実習への取り組み方	教育実習校への挨拶、面接、実習上の諸注意などについて理解する
4	学習指導案の作成演習	実習課題の明確化とその方法について
5	授業の教材研究・学習指導案の作成等	模擬授業の実施とその評価、学習指導案の作成について理解する
6	教育実習校でのオリエンテーション	指導方針等の確認、指導教員との打ち合せ等
7	教育現場実習1	体育・保健学習の実施(指導案の作成、教材作成)
8	教育現場実習2	学校における教育活動全般の理解、学んだことの実践
9	教育現場実習3	実践的指導能力の基礎を築くとともに教師としての資質を養う
10	教育現場実習4	実習による理論と技術の再構築および適性の検証
11	事後指導	実習終了後の処理、礼状の作成
12	事後研究1	教育現場実習の自己評価と反省
13	事後研究2	教育現場実習の自己評価と課題の確認
14	実習成果報告	教育実習で得られた知見や学習したことを整理して説明することが出来る
15	教育実習のまとめと反省	これまでの教育実習や事前事後指導で得られた知見について再確認し、その具体的な成果について説明することが出来る

《教職に関する科目》

科目名	高等学校教育実習（事前事後指導を含む）				
担当者氏名	三宅 一郎、大平 曜子、木下 幸文				
授業方法	実習	単位・必選	3・選択	開講年次・開講期	4年・通年(Ⅱ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

教育実習は、大学で学んだ知識、理論あるいは技術を教育実践の場で具体的に展開させる能力を養うものである。実際の授業や生徒指導を行うことを通じて、今まで学んだ理論や知識を結びつけて、生き生きとした教育を展開することが期待される。教育現場実習およびその事前事後指導を通じて、今後の学校教育や教師の課題を認識するとともに、その後の学部における教育活動に十分役立つようにすることを目的としている。

《授業の到達目標》

教育現場実習における事前指導では、実習にできるだけ抵抗感なく臨めるようにするとともに、教育実習に際して求められる必要不可欠な基礎的な事柄を確実に身につけることが出来る。教育実習の事後指導では、教育実習を通して学んだことを、教育実習前の自己の教育観、学校観、生徒観等と対比させながら、適正な自己評価と反省を踏まえて、今後の学校教育や教師の課題を認識することが出来るようになる。

《成績評価の方法》

基本的に欠席は認めない。ただし止む得ない事情の時は必ず事前に連絡すること。教育現場実習校による評価(教育実習成績報告書)における「総合評価」(20%) 教育実習記録(実習ノート)(40%) 事前事後指導での活動(40%)

《テキスト》

兵庫大学健康システム学科「教育実習の手引き」その他、適宜紹介する

《参考図書》

文部科学省『中学校学習指導要領』国立印刷局文部科学省『高等学校学習指導要領』国立印刷局文部科学省『(各教科等の)学習指導要領解説編』東山書房

《授業時間外学習》

<予習方法> 兵庫大学健康システム学科「教育実習の手引き」を熟読し、内容の理解する。内容によってはその時の対応や対処方法を考えまとめておく。<復習方法> 学んだ内容のみならずその意味を理解し実習に備える能力を付けることを望む。

《備考》

履修要件を満たさなければ受講出来ない(介護等体験は終了済のこと)。教職免許取得の意志を明確にして主体的に取り組み、教諭を目指す学生としての自覚と誇りをもって臨むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	教育実習の心得や注意事項について理解する
2	教育実習の意義と目的	教育実習の意義や教育実習で学習する内容について説明することが出来る
3	教育実習への取り組み方	教育実習校への挨拶、面接、実習上の諸注意などについて理解する
4	学習指導案の作成演習	実習課題の明確化とその方法について
5	授業の教材研究・学習指導案の作成等	模擬授業の実施とその評価、学習指導案の作成について理解する
6	教育実習校でのオリエンテーション	指導方針等の確認、指導教員との打ち合せ等
7	教育現場実習1	体育・保健学習の実施(指導案の作成、教材作成)
8	教育現場実習2	学校における教育活動全般の理解、学んだことの実践
9	教育現場実習3	実践的指導能力の基礎を築くとともに教師としての資質を養う
10	教育現場実習4	実習による理論と技術の再構築および適性の検証
11	事後指導	実習終了後の処理、礼状の作成
12	事後研究1	教育現場実習の自己評価と反省
13	事後研究2	教育現場実習の自己評価と課題の確認
14	実習成果報告	教育実習で得られた知見や学習したことを整理して説明することが出来る
15	教育実習のまとめと反省	これまでの教育実習や事前事後指導で得られた知見について再確認し、その具体的な成果について説明することが出来る

《教職に関する科目》

科目名	養護実習（事前事後指導を含む）				
担当者氏名	大平 曜子、加藤 和代、米野 吉則				
授業方法	実習	単位・必選	5・選択	開講年次・開講期	4年・通年（I期）
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

養護実習は、これまでの専門知識や理論、技術や感性を、実践の場で展開していく、教職免許取得において重要な実習です。養護教諭の専門とする職務内容と、教師として知っておくべき事柄を再確認し、実習目的および各自の目標を明確に定め、実習校に赴きます。本科目は、事前指導（本時）から事後指導まで、全過程を終了時に評価します。事後には実習における学びと課題を明らかにして報告会を開催します。

《授業の到達目標》

- 養護実習の手引の目標を理解し、自らの目標に反映できる。
- 養護教諭にとって必要な知識技術がわかり、その修得状況が確認できる。
- 定めた実習目標を達成すべく実習全般を通して取り組み、自分で自己評価ができる。
- 実習ノートの記載、事後の報告会のレジュメの作成、そして口頭発表まで、正確に情報発信ができる。

《成績評価の方法》

やむを得ない場合を除き、欠席は、いっさい認めません。実習校評価(20%)、養護実習日誌の記録(40%)、事前事後指導での活動(実習報告会を含む) (40%)、100点満点で60点以上を合格とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	養護実習直前指導
2	保健指導の模擬授業	各自の行う模擬授業を相互に評価する
3	保健室での実習	養護教諭の仕事内容
4	定期健康診断	進め方
5	目標に沿った事前準備	各自の目標の確認、実習校との打ち合わせ内容の確認
6	各学校の事前指導	保健指導、保健行事、担当クラス、保健室業務内容など
7	養護実習（1週目）	実習校の指導計画に則った実習 詳細は実習要項参照
8	養護実習（2週目）	実習校の指導計画に則った実習 詳細は実習要項参照
9	養護実習（3週目）	実習校の指導計画に則った実習 詳細は実習要項参照
10	養護実習（4週目）	実習校の指導計画に則った実習 詳細は実習要項参照
11	実習終了後の処理	礼状作成、実習内容の整理、異なる校種間での報告
12	実習終了後の処理	実習報告会に向けて内容の確認
13	実習成果のまとめ	法的根拠の確認
14	実習成果のまとめ	(グループ討議)
15	実習成果のまとめ	(グループ討議)

《テキスト》

兵庫大学健康システム学科作成の「養護実習の手引き」

《参考図書》

『新養護概説』 采女智津江編 少年写真新聞社
『児童・生徒の健康診断マニュアル』 日本学校保健会、第一法規
その他、適宜紹介する。

《授業時間外学習》

実習に向けて文献を参考に知識の確認と定着をはかる。基礎的技術の確認は、各自で実習室を有効に利用して行う。実習期間中の生活時間帯を想定して、規則正しい生活習慣を確立しておく。

《備考》

養護実習(5単位)の4単位分に相当する本実習を含む。免許取得の意志を明確にし、主体的に参加する。学生気分を退け、児童生徒の範となる言動をこころがける。

《教職に関する科目》

科目名	養護実習（事前事後指導を含む）				
担当者氏名	大平 曜子、加藤 和代、米野 吉則				
授業方法	実習	単位・必選	5・選択	開講年次・開講期	4年・通年(Ⅱ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

養護実習は、これまでの専門知識や理論、技術や感性を、実践の場で展開していく、教職免許取得において重要な実習です。養護教諭の専門とする職務内容と、教師として知っておくべき事柄を再確認し、実習目的および各自の目標を明確に定め、実習校に赴きます。本科目は、事前指導(本時)から事後指導まで、全過程を終了時に評価します。事後には実習における学びと課題を明らかにして報告会を開催します。

《授業の到達目標》

○養護実習の手引の目標を理解し、自らの目標に反映できる。
○養護教諭にとって必要な知識技術がわかり、その修得状況が確認できる。○定めた実習目標を達成すべく実習全般を通して取り組み、自分で自己評価ができる。○実習ノートの記載、事後の報告会のレジュメの作成、そして口頭発表まで、正確に情報発信ができる。

《成績評価の方法》

やむを得ない場合を除き、欠席は、いっさい認めません。実習校評価(20%)、養護実習日誌の記録(40%)、事前事後指導での活動(実習報告会を含む)(40%)、100点満点で60点以上を合格とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	実習終了の処理	成果の共有のため、グループで報告
2	実習成果のまとめ	実習内容の共有化と専門知識の確認
3	実習成果のまとめ	実習内容の共有化と専門知識の確認
4	実習報告会の準備	スライドの作成、レジュメの作成、報告会の運営についての話し合い
5	実習報告会の準備	各自の発表原稿の作成
6	実習報告会の準備	発表のリハーサル、原稿の修正
7	実習報告会での発表	報告会の運営、各自の発表、質疑応答
8	実習の総括	成果のまとめ
9	予備日	予備日
10	予備日	予備日
11	予備日	予備日
12	予備日	予備日
13	予備日	予備日
14	予備日	予備日
15	予備日	予備日

《テキスト》

兵庫大学健康システム学科作成の「養護実習の手引き」

《参考図書》

『新養護概説』 采女智津江編 少年写真新聞社
『児童・生徒の健康診断マニュアル』日本学校保健会、第一法規
その他、適宜紹介する。

《授業時間外学習》

実習に向けて文献を参考に知識の確認と定着をはかる。基礎的技術の確認は、各自で実習室を有効に利用して行う。実習期間中の生活時間帯を想定して、規則正しい生活習慣を確立しておく。

《備考》

養護実習(5単位)の事後指導1単位分に相当する。実習報告会に向けて4週間の内容を整理し、学校勤務の今後に備える。

《教職に関する科目》

科目名	教職実践演習（中・高）				
担当者氏名	樽本 つぐみ				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

生徒の発達段階を考慮し、栄養・運動・心の観察や指導方法を含んだ模擬授業やグループ討議を行う。また学校の見学や教員勤務経験のある方を講師として招き、学校現場に即した授業内容を展開していく。

《テキスト》

適宜紹介、オリジナルプリント

《参考図書》

適宜紹介

《授業の到達目標》

学生の現状の知識や技能を把握させ、教員としての自覚を持ち家庭や地域の実態を把握し、それに即した学級経営や教科指導、生徒指導を実践するために能力を身に付け、その能力を学校で発揮できる応用力を体得することが目標である。

《授業時間外学習》

自己課題をもとに予習復習を行うこと。

《成績評価の方法》

演習等への積極的参加(50%)、課題レポート・発表(50%)で評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	目的及び内容の概略について、授業の進め方・評価について
2	構成的グループ・エンカウンター実践1	学校における活用法と指導者の心構えと指導技術
3	構成的グループ・エンカウンター実践2	エクササイズの実践
4	スクールカウンセラーとの連携	制度と職務内容の理解
5	不登校対策	対策について学ぶ
6	特別支援教育1	事例に学ぶ
7	教育方法技術1	導入編：視聴覚メディアの種類と特徴について、映像素材の収集
8	教育方法技術2	応用編：視聴覚メディアの編集と記録方法について、映像素材の編集と記録
9	特別支援教育2	エクササイズの実践
10	学級経営論1	地域、家庭との連携
11	学級経営論2	生徒指導の視点を生かした学級経営
12	学級経営論3	特別支援教育の視点を生かした学級経営
13	グループ討議1	集団行動および学校行事での保健体育教諭の役割について
14	グループ討議2	保健体育教諭の使命について
15	まとめ	振り返りと再確認

《教職に関する科目》

科目名	教職実践演習（養護教諭）				
担当者氏名	加藤 和代				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

教員（養護教諭）として求められる資質である①生命を守り育てる使命感や責任感、②確かで実践的な管理能力、指導力、③心と体を見つめた児童生徒理解、④保護者を含めた校内校外組織の中で連携するコーディネーター的能力の4つの視点から外部講師による演習、討論等を通して体験的に学ぶ。

《テキスト》

適宜紹介、オリジナルプリント。

《参考図書》

適宜紹介。

《授業の到達目標》

○これまでに履修した理論や実践をもとに、自己の課題を明確にし、課題解決を目指して具体的、実践的な学びを通して体験的に学ぶ。

《授業時間外学習》

自己課題をもとに予習復習を行うこと。

《成績評価の方法》

演習等への積極的参加（50%）、課題レポート・発表（50%）で評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	目的及び内容の概略について、授業の進め方・評価について
2	構成的グループエンカウンター実践（1）	学校における活用法、指導者の心構えと指導技術
3	構成的グループエンカウンター実践（2）	エクササイズの実践、ファシリテーターの体験
4	不登校の子どもの理解とその対応	加古川市の不登校対策に学ぶ
5	特別支援教育の実際（1）	特別支援教育のシステム、発達障害の子どもへの対応
6	特別支援教育の実際（2）	教育的ニーズの理解、事例から学ぶ
7	スクールカウンセラーとの連携	制度と職務内容の理解、事例から学ぶ
8	教育方法技術（1）	導入編：視聴覚メディアの種類と特徴について、映像素材の収集
9	教育方法技術（2）	応用編：視聴覚メディアの編集と記録方法について、映像素材の編集と記録
10	保健室経営（1）	児童生徒の健康課題の把握、保健室経営案の作成、
11	保健室経営（2）	学級担任、保健主事、学校医等との連携を生かした保健室経営
12	保健室経営（3）	実践から学ぶ
13	グループ討議（1）	学校保健組織づくりについて
14	グループ討議（2）	養護教諭の使命について
15	まとめ	振り返りと再確認

授業科目索引一覧 (50音順)

授業科目の名称	ページ
<イ> 医学概論	14
<ウ> 運動栄養学	115
運動処方演習	162
運動処方論	161
運動生理学	113
運動生理学演習	114
運動の基礎	81
運動負荷試験実習	163
<エ> 英語	27・28
衛生学	79
栄養学	77
栄養指導論	109
<カ> 外書購読Ⅰ	148
外書購読Ⅱ	149
解剖学	75
化学	49
化学基礎	30
学校保健Ⅰ (小児保健・学校安全を含む)	94
学校保健Ⅱ	124
学校保健Ⅲ	125
看護学Ⅰ	128
看護学Ⅱ	129
<キ> 韓国語 (初級)	56
韓国語 (中級)	57
基礎看護学	95
基礎ゼミⅠ	67
基礎ゼミⅡ	68~73
球技Ⅰ	88
球技Ⅱ	90
救急看護 (救急処置を含む)	171
教育課程論	132
教育原理	97
教育史	172
教育心理学	131
教育制度論	98
教育相談 (カウンセリングを含む)	99
教育特論Ⅰ	112・150
教育特論Ⅱ	151
教育特論Ⅲ	185
教育方法・技術論	137
教職概論	96
教職実践演習 (中・高)	211
教職実践演習 (養護教諭)	212
<ケ> 経済学	48
芸術	36・37
健康・スポーツ科学Ⅰ (講義)	58・59
健康・スポーツ科学Ⅱ (演習)	60
健康・スポーツ科学Ⅲ (演習)	61
健康・体力づくり実践Ⅰ	121
健康・体力づくり実践Ⅱ	122
健康・体力づくり指導法Ⅰ	159
健康・体力づくり指導法Ⅱ	160
健康科学	105
健康科学序論	74
健康行動論	126
健康心理学	111
健康相談活動の理論と実践	170
健康統計学	127・169
健康統計の基礎	106

授業科目の名称	ページ
<コ> 公衆衛生学	110
高等学校教育実習 (事前事後指導を含む)	178・207・208
国際理解と宗教Ⅰ (キリスト教)	40
国際理解と宗教Ⅱ (イスラム教)	41
コンピュータ演習	29
<シ> 色彩とデザイン	42
実用英語 (初級)	52
実用英語 (中級)	53
社会学	47
宗教と人生	32
ジュニアスポーツⅠ	116
ジュニアスポーツⅡ	117
障害者スポーツ論	154・187
生涯発達心理学	145
食と健康	51
食品学	78
人権の歴史	45
心理学	38
<ス> スポーツ医学概論	153
スポーツ科学Ⅰ	155
スポーツ科学Ⅱ	156
スポーツ史 (体育史を含む)	83
スポーツ実践演習Ⅰ	85
スポーツ実践演習Ⅱ	86
スポーツ指導法Ⅰ	157
スポーツ指導法Ⅱ	158
スポーツ心理学	118
<セ> 生化学	108
生活習慣病 (成人病)	144
政治学	46
精神保健	168
生徒指導論 (進路指導を含む)	138
生物学	50
生物基礎	31
生命倫理学	33
生理学	76
<ソ> 卒業研究Ⅰ	189~196
卒業研究Ⅱ	197~204
<タ> 体育原理	80
体力測定と評価	84
<チ> 地域活動演習Ⅰ	152
地域活動演習Ⅱ	186
中学校教育実習 (事前事後指導を含む)	177・205・206
中国語 (初級)	54
中国語 (中級)	55
<テ> 哲学	34
<ト> 道徳教育論	176
特別活動論	136
トレーニング科学Ⅰ	119
トレーニング科学Ⅱ	120

授業科目の名称	ページ
<ニ> 日本語 (読解と表現)	26
日本国憲法	44
人間関係論	147
<ヒ> 微生物学	107
病理学概論	123
<フ> 仏教と現代社会	39
武道Ⅰ	91
文学	35
<ホ> 法と社会	43
保健・保健体育科教育法Ⅰ (保健教育内容研究)	133
保健・保健体育科教育法Ⅱ (保健教育法研究)	173
保健科教育法Ⅰ (保健科教育教材研究)	134
保健科教育法Ⅱ (保健科教育法演習)	174
保健体育科教育法Ⅰ (保健体育科教育研究)	135
保健体育科教育法Ⅱ (保健体育科教育法研究)	175
<ヤ> 薬理学	165
<ヨ> 養護概説Ⅰ	92
養護概説Ⅱ	93
養護活動演習	166
養護活動実習	167・188
養護実習 (事前事後指導を含む)	179・209・210
幼児運動実践演習	82
<リ> 陸上競技Ⅰ	87
陸上競技Ⅱ	89
臨床看護実習	130
臨床心理学	146
<レ> レクリエーション (野外活動を含む)	164
<ワ> 私のためのキャリア設計	62

